

令和 6 年度 業務実績報告書

(第 4 期中期計画・第 1 事業年度)

令和 7 年 6 月



地方独立行政法人 静岡県立病院機構

I 機構の概要（令和6年4月1日 時点）

1	名 称	1
2	所 在 地	1
3	法人の設立年月日	1
4	設 立 団 体	1
5	目 的	1
6	業 務	1
7	資本金の額	1
8	代表者の役職氏名	1
9	役 員	2
10	組 織 図	2
11	法人が運営する病院の概要	3

II 当該事業年度における業務実績報告

1	対 象 期 間	5
2	業務実績全般	5
	（1）機 構 全 体	5
	（2）総 合 病 院	15
	（3）こころの医療センター	16
	（4）こども病院	17
3	県民に対して提供する医療サービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するため にとるべき措置	18
	（1）医療の提供	18
	（2）医療従事者の確保及び質の向上	25
	（3）医療に関する調査及び研究	26
	（4）医療に関する地域への支援	29
	（5）災害等における医療救護	31
4	業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置	31
	（1）効率的な業務運営体制の強化	31
	（2）事務部門の専門性の向上	32
	（3）収益の確保と費用の節減	33
	（4）予算、収支計画及び資金計画	33
5	項目別実績	34
	（参考）用語解説	73

【数値の表記方法について】

この報告書内の数値は表示単位未満を四捨五入のため、各項目の和と総計が一致しない場合がある。



地方独立行政法人 静岡県立病院機構

静岡県立総合病院

Shizuoka Prefectural Hospital Organization

ともにつくる 信頼と安心の医療

静岡県における保健医療施策として求められる高度又は特殊な医療の提供、地域医療の支援等を行うことにより、県内医療水準の向上を図り、もって県民の健康の確保及び増進に寄与することを目的とする

静岡県立こころの医療センター

静岡県立こども病院

I 機構の概要（令和6年4月1日時点）

1 名 称

地方独立行政法人静岡県立病院機構

2 所 在 地

静岡市葵区北安東四丁目 27 番 1 号

3 法人の設立年月日

平成 21 年 4 月 1 日

4 設立団体

静岡県

5 目 的

静岡県における保健医療施策として求められる高度又は特殊な医療の提供、地域医療の支援等を行うことにより、県内医療水準の向上を図り、もって県民の健康の確保及び増進に寄与する。

6 業 務

（1）病院の名称及び所在地

名 称	所 在 地
静岡県立総合病院	静岡市葵区北安東
静岡県立こころの医療センター	静岡市葵区与一
静岡県立こども病院	静岡市葵区漆山

（2）業務の範囲

- ・医療を提供すること。
- ・医療に関する調査及び研究を行うこと。
- ・医療に関する技術者の研修を行うこと。
- ・医療に関する地域への支援を行うこと。
- ・災害等における医療救護を行うこと。
- ・及び上記の附帯業務。

7 資本金の額

6, 8 2 2, 7 3 3, 4 6 9 円

8 代表者の役職氏名

理事長 田 中 一 成

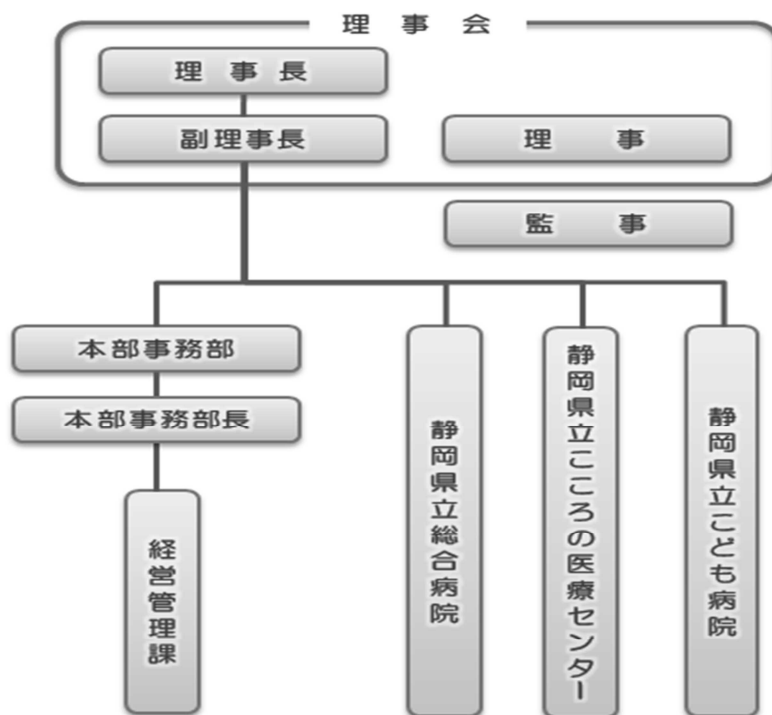
9 役 員

(令和6年4月1日現在)

役 員 名	区 分	氏 名
理 事 長	常 勤	田 中 一 成
副 理 事 長	常 勤	山 口 重 則
理 事	常 勤	井 上 達 秀
理 事	常 勤	大 橋 裕
理 事	常 勤	坂 本 喜三郎
理 事	非 常 勤	渡 邊 裕 司
理 事	非 常 勤	溝 口 康 博
理 事	非 常 勤	松 本 志保子
理 事	非 常 勤	星 野 希代絵
監 事	非 常 勤	伊 藤 みさ子
監 事	非 常 勤	高 橋 純 子

(定款に定めた定数 理事長1名・副理事長1名・理事7名以内・監事2名)

10 組 織 図



○ 全職員数 (令和6年4月1日現在、現員)

医 師 ※	508名
看 護 師	1,413名
医 療 技 術	377名
事 務 ほ か	140名
計	2,438名

※ 職員数には、アソシエイトを含む。また、医師には歯科医師7名、自治医大初期研修医2名、へき地指定公立病院派遣医6名、有期職員医師160名を含む。

11 法人が運営する病院の概要

(1) 病院の名称・所在地等

(令和6年4月1日現在)

区 分	地方独立行政法人 静岡県立病院機構		
病院名	総 合 病 院	こ こ ろ の 医 療 セ ン タ ー	こ ど も 病 院
所在地	静岡市葵区北安東 4丁目27-1	静岡市葵区与一 4丁目1-1	静岡市葵区漆山860番地
開 設 年月日	昭和58年2月1日	昭和31年11月1日	昭和52年4月1日
診療科 (医療法)	内科、救急科、心療内科、精神科、循環器内科、心臓血管外科、腎臓内科、泌尿器科、糖尿病・内分泌内科、脳神経内科、脳神経外科、消化器内科、消化器外科、呼吸器内科、呼吸器外科、産婦人科、乳腺外科、小児科、整形外科、リハビリテーション科、心臓リハビリテーション科、眼科、頭頸部・耳鼻いんこう科、血液内科、皮膚科、形成外科、歯科口腔外科、麻酔科、放射線科、病理診断科、腫瘍内科	精神科、内科、外科、歯科	小児科、小児救急科、新生児小児科、血液・腫瘍内科、内分泌・代謝内科、腎臓内科、アレルギー科、神経内科、循環器内科、皮膚科、小児外科、消化器外科、呼吸器外科、心臓血管外科、脳神経外科、整形外科、形成外科、耳鼻いんこう科、泌尿器科、眼科、歯科、麻酔科、放射線科、産科、精神科、児童精神科、臨床検査科、病理診断科、リハビリテーション科
	31科	4科	29科
許 可 病床数 (6年度)	一 般 662床 (稼働662床) 結 核 50床 精 神 6床	精 神 274床 (稼働172床)	一 般 243床 (稼働213床) 精 神 36床
年間延 患者数 (6年度計画)	入 院 227,083人 外 来 464,645人	入 院 55,551人 外 来 43,165人	入 院 69,143人 外 来 102,926人
理 念	信頼し安心できる質の高い 全人的医療を行います	安全・良質・優しいこころの 医療を、いつでもどこでも 誰にでも	私たちは、すべての子ども と家族のために、安心と信 頼の医療を行います
備 考	昭和23年6月 中央病院 昭和33年3月 富士見病院	「養心荘」 平成9年4月1日名称変更	

※昭和39年4月1日 中央病院、富士見病院、養心荘の3病院で病院事業会計開始。

(2) 施設状況

(令和6年4月1日現在)

区分	病棟		許可病床数	内 容
総 合	本館	3 A	40	産婦人科、小児科（新生児）、消化器外科
		3 B	36	小児科、耳鼻咽喉科、整形外科、救命救急科
		3 C	26	血液内科、病院管理ベッド
		3 D	7	新型コロナウイルス感染症
		4 A	45	腎臓内科、泌尿器科、眼科、整形外科
		4 B	48	消化器外科、泌尿器科、整形外科、腎臓内科、病院管理ベッド
		4 D	6	精神科
		5 A	47	消化器内科、消化器外科、脳神経内科、総合内科
		5 B	47	整形外科、消化器内科、消化器外科、病院管理ベッド
		6 A	31	病院管理ベッド
		6 B	50	結核
		6 C	48	呼吸器内科、糖尿病・内分泌内科、皮膚科、病院管理ベッド
		6 D	39	呼吸器内科、呼吸器外科、歯科口腔外科、放射線科
	北館	1 E	16	救命救急科
		3 E	41	整形外科、救命救急科、救急ベッド
		4 E	34	消化器外科、乳腺外科、形成外科、総合内科、循環器内科
		5 E	28	消化器内科、消化器外科、腫瘍内科、病院管理ベッド
	循環器病 センター	3 G	14	集中治療室（ICU）、冠疾患集中治療室（CCU）
		4 G	47	循環器内科、心臓血管外科
		5 G	48	脳神経内科、脳神経外科
	先端医学棟	4 M	20	高度治療室（HCU）
	計		718	（稼働718床）
こ こ ろ	北1		42	医療観察法12床、慢性重症30床
	北2		45	救急
	北3		51	（休棟）
	南1		42	回復期
	南2		43	救急
	南3		51	（休棟）
	計		274	（稼働172床）
こ ど も	北2		36	新生児集中治療室（NICU）、回復治療室（GCU）
	北3		30	休床
	北4		28	感染観察
	北5		28	内科系幼児学童
	西2		24	産科
	西3		37	循環器
	西5		12	小児集中治療室（PICU）
	西6		48	外科系
	東2		36	こころの診療科
	計		279	（稼働249床）

Ⅱ 当該事業年度における業務実績報告

1 対象期間

令和6年4月1日から令和7年3月31日までの1年間

(中期計画の期間 令和6年4月1日から令和11年3月31日までの5年間)

2 業務実績全般

(1) 機構全体

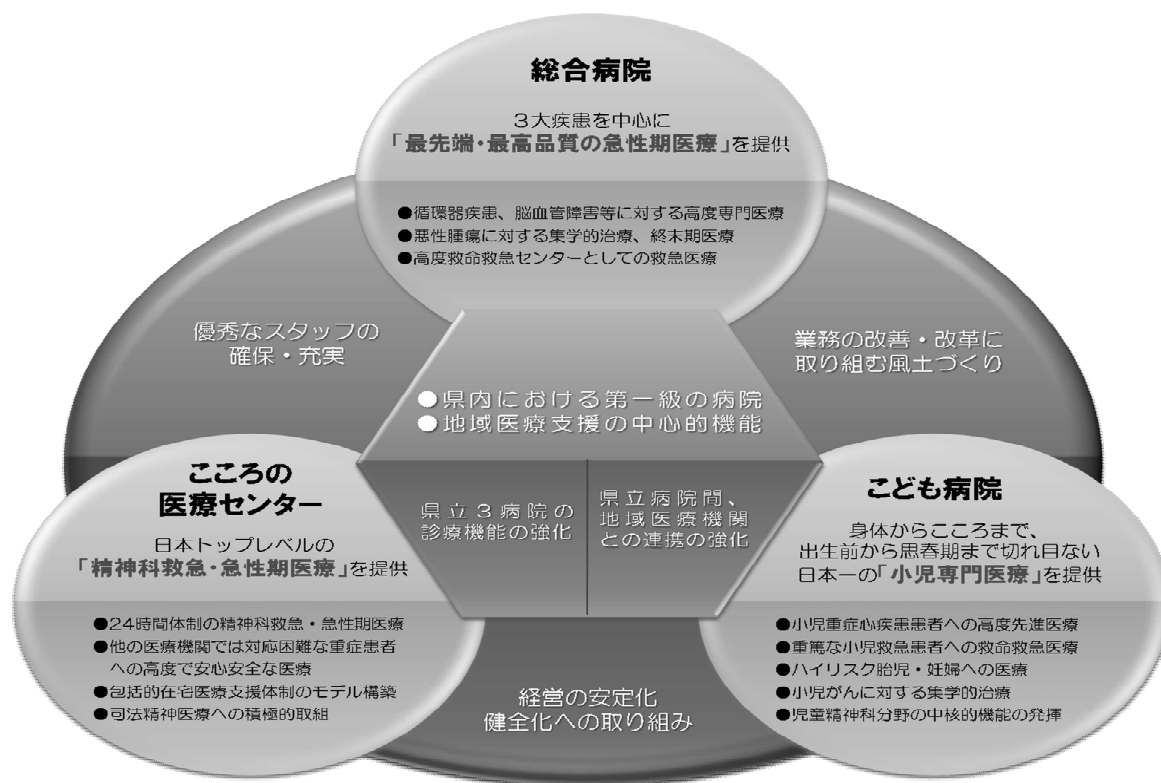
ア 総 括

静岡県立病院機構は、高度・専門・特殊医療や救急・急性期医療等の分野において第一級の病院であること及び地域医療を確保するための支援の中心的機能を果たすため、地方独立行政法人の特徴である機動性や効率性等を発揮した病院経営に取り組んでいる。

令和6年度の経営状況（3病院計）は、物価高騰に伴う材料費や経費の増加などの影響により、経常損失は1,971百万円（修正医業収支比率82.0%、経常収支比率96.5%）、当期純損失は2,110百万円となった。

引き続き、本機構は、医療の質を高め、高度・専門・特殊医療や救急・急性期医療等に積極的に取り組むため、医療面では充実した質の高い医療を提供し、経営面では機能的で効率的な病院経営を推進することにより、本県の医療の確保と向上に貢献していく。

県立病院機構が目指す病院像



イ 業務実績

(ア) 入院診療

- ・ 総合病院は、年度計画（以下「計画」）を下回る入院延患者数(▲8,812 人)となり、患者1人1日当たり入院単価（以下、入院単価：入院収益÷年延入院患者数）も計画を下回った(▲541 円)。
- ・ こころの医療センターは、計画を下回る入院延患者数(▲1,977 人)となり、入院単価は計画を上回った（+881 円）。
- ・ こども病院は、計画を上回る入院延患者数（+2,465 人）となり、入院単価は計画を下回った（▲2,980 円）。

(イ) 外来診療

- ・ 総合病院は、計画を下回る外来延患者数（▲754 人）となり、患者1人1日当たり外来単価（以下、外来単価：外来収益÷年延外来患者数）も計画を下回った（▲502 円）。
- ・ こころの医療センターは、計画を上回る外来延患者数（+3,423 人）となり、外来単価は計画を下回った（▲80 円）。
- ・ こども病院は、計画を上回る外来延患者数（+2,950 人）となり、外来単価は計画を下回った（▲2,077 円）。

○ 令和6年度 業務量及び単価等年間実績（税込）

区 分		総 合	こころ	こども	合計
入 院	入院延患者数(人)	218,271 (227,083)	54,525 (56,502)	69,143 (66,678)	341,939 (350,263)
	病床稼働率(%)	一般88.2 (一般91.6)	86.9 (85.0)	77.3 (75.0)	85.5 (83.1)
	入院患者1人 1日当たり単価(円)	95,745 (96,286)	26,025 (25,144)	104,295 (107,275)	86,356 (86,902)
外 来	外来延患者数(人)	463,891 (464,645)	39,607 (36,184)	102,926 (99,976)	606,424 (600,805)
	外来患者1人 1日当たり単価(円)	25,942 (26,444)	6,401 (6,481)	23,723 (25,800)	24,289 (25,135)

※ （ ）書きは、当初計画数値を示す。

※ 患者1人1日当たり単価は税込金額（調定額ベースで算定）。

※ 病床稼働率は、稼働病床（総合病院は結核病床及び精神病床を除く）で算定。

<参考資料>

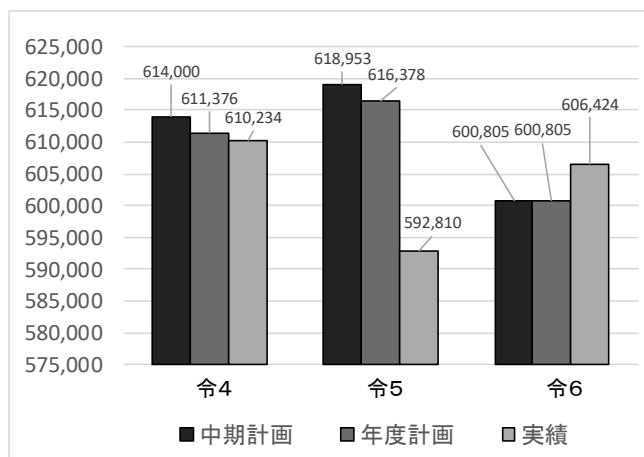
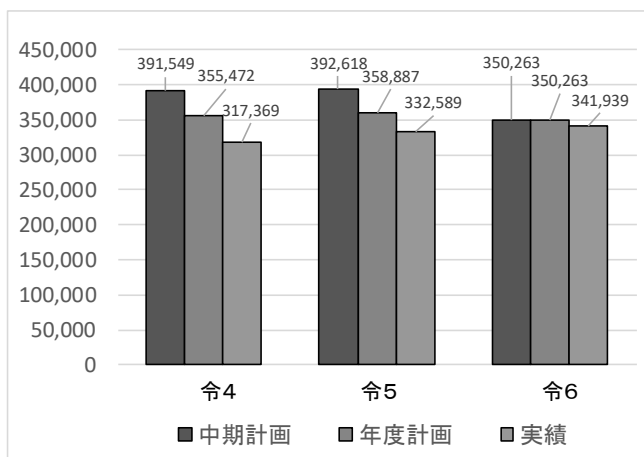
○患者数の推移（令和4年度実績～令和6年度実績）

入院延患者数（3病院計）

（単位：人）

外来延患者数（3病院計）

（単位：人）



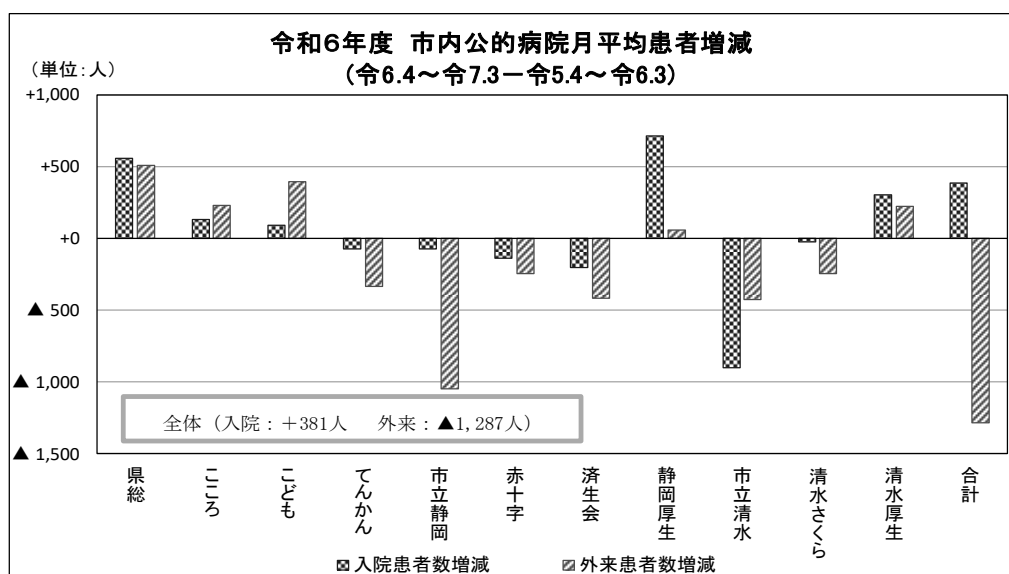
- ・ 令和6年度の入院延患者数は中期計画、年度計画を下回り、令和4年度・5年度実績を上回った。
- ・ 令和6年度の外来延患者数は中期計画、年度計画を下回り、令和4年度・5年度実績を上回った。

○市内公的病院患者動向（月平均延患者数：令6ー令5比較）

<参考資料> 市内公的病院患者動向（月平均患者数：令6.4～令7.3ー令5.4～令6.3比較）

（単位：人）

区 分		県総	こころ	こども	てんかん	市立静岡	赤十字	済生会	静岡厚生	市立清水	清水さくら	清水厚生	合計
入院	令6	18,189	4,544	5,762	8,055	12,333	11,909	12,357	6,112	8,941	3,969	4,060	96,230
	令5	17,634	4,408	5,674	8,126	12,410	12,047	12,564	5,403	9,836	3,992	3,755	95,849
	差	+556	+136	+88	▲ 71	▲ 77	▲ 138	▲ 208	+709	▲ 895	▲ 23	+305	+381
	率	+3.2(%)	+3.1(%)	+1.5(%)	▲ 0.9(%)	▲ 0.6(%)	▲ 1.1(%)	▲ 1.7(%)	+13.1(%)	▲ 9.1(%)	▲ 0.6(%)	+8.1(%)	+0.4(%)
外来	令6	38,658	3,301	8,577	2,382	20,124	15,906	20,679	6,363	13,279	4,739	7,223	141,231
	令5	38,148	3,072	8,181	2,715	21,173	16,147	21,094	6,301	13,704	4,983	7,001	142,519
	差	+509	+229	+397	▲ 333	▲ 1,049	▲ 241	▲ 415	+62	▲ 424	▲ 244	+223	▲ 1,287
	率	+1.3(%)	+7.4(%)	+4.8(%)	▲ 12.3(%)	▲ 5.0(%)	▲ 1.5(%)	▲ 2.0(%)	+1.0(%)	▲ 3.1(%)	▲ 4.9(%)	+3.2(%)	▲ 0.9(%)



- ・ 市内公的病院の入院延患者数は全体で1.0%の増加、外来延患者数は全体で1.4%の減少となった。

(ウ) 令和6年度収支(税込)

① 収益的収支(税込)

(単位: 千円)

区分	款	項	当初予算額 (計画)	決算額 (実績)	増減額 (達成度)	決算額 (前年度)	増減額 (前年比)
収益	営業 収益	医業収益	48,366,953	44,752,100	▲ 3,614,853	42,776,172	1,975,928
		運営費負担金収益	7,175,900	7,170,323	▲ 5,577	6,871,751	298,572
		その他営業収益	961,490	1,143,092	181,602	1,170,493	▲ 27,400
		小計	56,504,343	53,065,515	▲ 3,438,828	50,818,416	2,247,100
	営業外 収益	運営費負担金収益	124,100	129,677	5,577	128,249	1,428
		その他営業外収益	559,459	462,366	▲ 97,093	508,529	▲ 46,163
		小計	683,559	592,043	▲ 91,516	636,778	▲ 44,735
	臨時利益	臨時利益	0	49,052	49,052	479,749	▲ 430,697
	計		57,187,902	53,706,610	▲ 3,481,292	51,934,943	1,771,667
	費用	営業 費用	医業費用	56,903,002	54,606,880	▲ 2,296,122	52,002,310
一般管理費			412,161	361,607	▲ 50,554	353,733	7,874
小計			57,315,163	54,968,488	▲ 2,346,675	52,356,043	2,612,445
営業外 費用		財務費用	266,096	249,225	▲ 16,871	238,506	10,719
		その他営業外費用	478,463	411,035	▲ 67,428	390,425	20,610
		小計	744,559	660,260	▲ 84,299	628,931	31,329
臨時損失		臨時損失	241,412	187,634	▲ 53,778	377,028	▲ 189,394
計		58,301,134	55,816,382	▲ 2,484,752	53,362,002	2,454,380	
経常損益		▲ 871,820	▲ 1,971,190	▲ 1,099,370	▲ 1,529,781	▲ 441,409	
当期純損益		▲ 1,113,232	▲ 2,109,772	▲ 996,540	▲ 1,427,060	▲ 682,712	

※単位未満四捨五入のため各項目の和と総計が一致しない場合がある(以下同様)。

- ・ 医業収益は計画を 3,614,853 千円下回った。
- ・ 営業費用は計画を 2,296,122 千円下回った。
- ・ 経常損失は計画を 1,099,370 千円下回る 1,971,190 千円となった。

② 資本的収支年間(税込)

(単位: 千円)

区分	款	項	当初予算額 (計画)	決算額 (実績)	増減額 (達成度)	決算額 (前年度)	増減額 (前年比)
収入	資本 収入	長 期 借 入 金	4,656,000	2,094,000	▲2,562,000	5,344,000	▲3,250,000
		長期貸付金回収額	-	27,010	27,010	23,416	3,594
		補助金・寄附金等	13,709	66,281	52,572	48,216	18,065
		計	4,669,709	2,187,291	▲2,482,418	5,415,632	▲3,228,341
支出	資本 支出	建 設 改 良 費	4,705,877	2,213,654	▲2,492,223	7,639,405	▲5,425,751
		償 還 金	3,127,000	3,123,156	▲3,844	3,515,871	▲392,715
		長 期 貸 付 金	108,741	96,716	▲12,025	89,901	6,815
		計	7,941,618	5,433,525	▲2,508,093	11,245,176	▲5,811,651
総 収 支			▲3,271,909	▲3,246,234	25,675	▲5,829,544	2,583,310

- ・ 建設改良費は施設整備の実施時期及び医療機器の更新時期の先送り等により、計画を 2,492,223 千円下回った。

(エ) 病院別収支

① 収益的収支（税込）

（単位：千円）

款	項	総 合	こころ	こども	法人計
営業 収益	医 業 収 益	33,351,054	1,683,232	9,717,814	44,752,100
	運営費負担金収益	2,854,343	1,079,169	3,236,811	7,170,323
	そ の 他 営 業 収 益	717,128	47,683	378,282	1,143,092
	小 計	36,922,525	2,810,084	13,332,907	53,065,515
営業外 収益	運営費負担金収益	85,657	831	43,189	129,677
	そ の 他 営 業 外 収 益	414,725	6,955	40,686	462,366
	小 計	500,382	7,786	83,875	592,043
臨時利益	臨 時 利 益	48,979	63	9	49,052
収 益 計 （ 予 算 額 ※ < 計 画 > ）		37,471,886	2,817,933	13,416,791	53,706,610
（ 増 減 額 ）		(40,274,767)	(2,933,042)	(13,980,093)	(57,187,902)
		(▲ 2,802,881)	(▲ 115,109)	(▲ 563,302)	(▲ 3,481,292)
営費 費用	医 業 費 用	37,788,743	2,799,964	14,018,173	54,606,880
	一 般 管 理 費	120,536	120,536	120,536	361,607
	小 計	37,909,279	2,920,500	14,138,709	54,968,488
営業外 費用	財 務 費 用	167,101	1,689	80,435	249,225
	そ の 他 営 業 外 費 用	290,091	15,378	105,567	411,035
	小 計	457,192	17,067	186,002	660,260
臨時損失	臨 時 損 失	164,965	3,796	18,874	187,634
費 用 計 （ 予 算 額 ※ < 計 画 > ）		38,531,435	2,941,363	14,343,584	55,816,382
（ 増 減 額 ）		(40,454,714)	(2,951,727)	(14,894,693)	(58,301,134)
		(▲ 1,923,279)	(▲ 10,364)	(▲ 551,109)	(▲ 2,484,752)
経 常 損 益 （ 予 算 額 ※ < 計 画 > ）		▲ 943,564	▲ 119,697	▲ 907,928	▲ 1,971,190
（ 増 減 額 ）		(▲ 65,239)	(▲ 1,552)	(▲ 805,029)	(▲ 871,820)
		(▲ 878,325)	(▲ 118,145)	(▲ 102,899)	(▲ 1,099,370)
当 期 純 損 益 （ 予 算 額 ※ < 計 画 > ）		▲ 1,059,549	▲ 123,430	▲ 926,793	▲ 2,109,772
（ 増 減 額 ）		(▲ 179,947)	(▲ 18,685)	(▲ 914,600)	(▲ 1,113,232)
		(▲ 879,602)	(▲ 104,745)	(▲ 12,193)	(▲ 996,540)

- ・ 総合病院の経常損益は▲943,564千円で、計画を878,325千円下回った
- ・ こころの医療センターの経常損益は▲119,697千円で、計画を118,145千円下回った。
- ・ こども病院の経常損益は▲907,928千円で、計画を102,899千円下回った。

② 資本的収支（税込）

（単位：千円）

款	項	総 合	こころ	こども	法人計
資本収入	長 期 借 入 金	1,490,667	48,667	554,667	2,094,001
	長期貸付金回収額	18,502	1,377	7,131	27,010
	そ の 他 収 入	59,073	329	6,879	66,281
	計	1,568,242	50,373	568,677	2,187,292
資本支出	建 設 改 良 費	476,737	25,434	188,057	690,228
	資 産 購 入 費	1,105,276	28,975	389,175	1,523,426
	償 還 金	1,979,605	138,595	1,004,956	3,123,156
	長 期 貸 付 金	66,250	4,933	25,533	96,716
	計	3,627,868	197,937	1,607,721	5,433,526
総 収 支		▲ 2,059,626	▲ 147,564	▲ 1,039,044	▲ 3,246,234

- 令和6年度の建設改良費は690,228千円となった。主な施設整備は、総合病院における本館非常用発電機更新工事、こども病院における手術室空調設備更新工事である。また、主な医療機器購入は、総合病院における線形加速器システム（高精度放射線治療システム）、こども病院における人工心肺装置である。
- また、長期貸付金96,716千円は、看護師確保対策として当機構に就職を希望する看護学生に対する修学資金貸付のほか、職員の育成及び資質向上等を目的に職員に対する資格等の取得に必要な資金の貸付を行うものである。

（オ）決算指標年間＜3病院計＞（税込）

区 分	項 目	当初計画	実績	増減
収 支 構 造	経常収支比率（％）	98.5	96.5	▲2.0
	修正医業収支比率（％）	85.0	82.0	▲3.0
収 入 構 造	入院患者1人1日当たり単価（円）	86,902	86,356	▲546
	外来患者1人1日当たり単価（円）	25,135	24,289	▲846
費 用 構 造	職員給与費比率（％）	53.0	56.0	+3.0
	材料費比率（％）	37.2	38.1	+0.9

※ 患者1人1日当たり単価は、調定額ベースで算定。

- 収支構造の各指標は、経常収支比率が計画を2.0ポイント下回る96.5%となった。また、修正医業収支比率は計画を3.0ポイント下回る82.0%となった。
- 収入構造では、入院単価は計画を546円下回り、外来単価は計画を846円下回った。
- 費用構造では、職員給与費比率は計画を3.0ポイント上回り、材料費比率は計画を0.9ポイント上回った。

【収支構造】

- ・ 経常収支比率 $\text{経常収益} \div \text{経常費用} \times 100$
病院が安定した経営を行うための財政基盤を確保するための指標で、適正な区分負担を前提として100%以上が望ましい。
- ・ 修正医業収支比率 $\text{医業収益} \div \text{医業費用} \times 100$
医業費用が医業収益によってどの程度賄われているかを示す指標で、100%以上が望ましい。

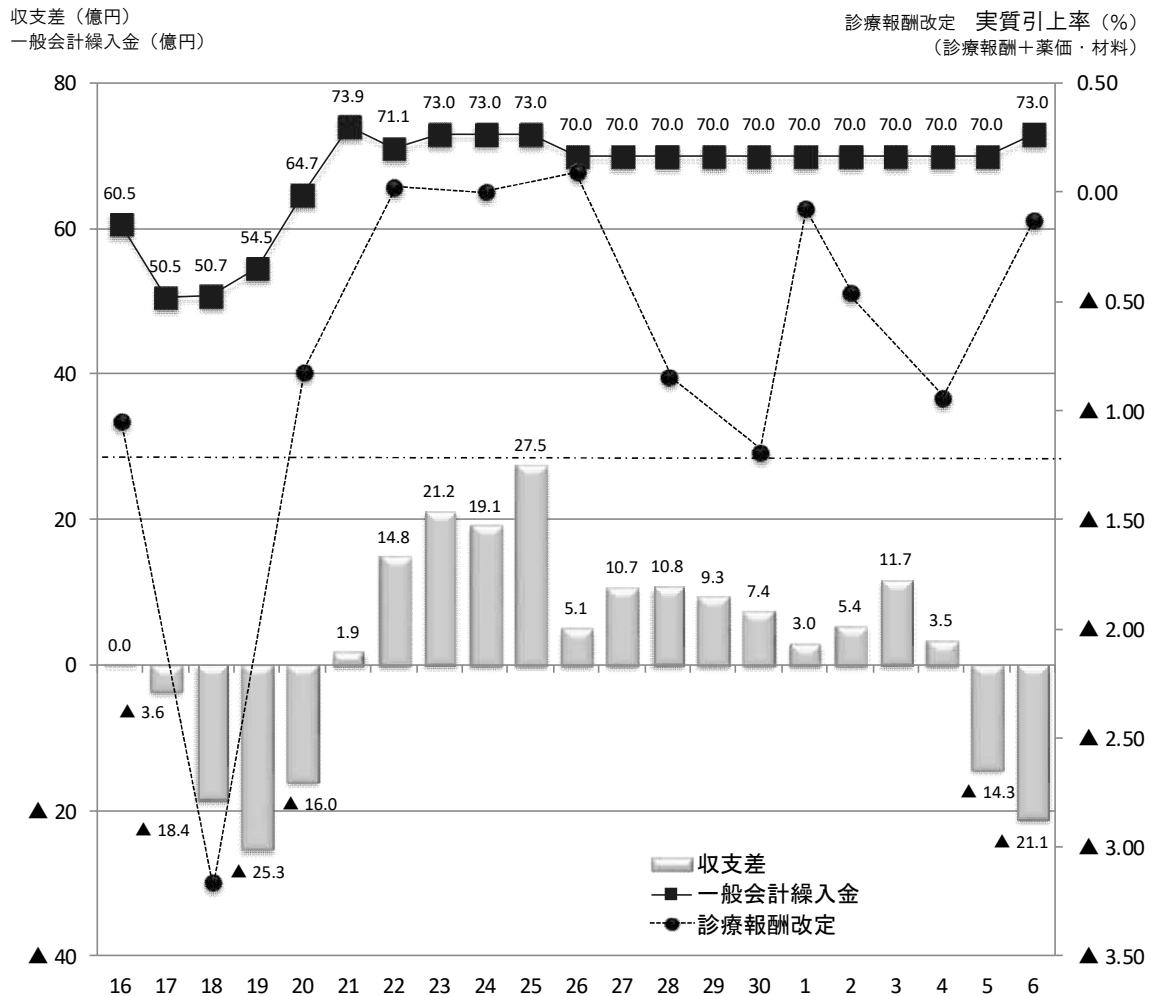
【収入構造】

- ・ 入院患者 1 人 1 日当たり単価 $\text{入院収益} \div \text{年延入院患者数}$
 - ・ 外来患者 1 人 1 日当たり単価 $\text{外来収益} \div \text{年延外来患者数}$
- 病院の収入分析をするうえで基本的な指標。収入を増加させるため、患者数(量的要素)と1人当たりの収入(質的要素)が重要となる。

【費用構造】

- ・ 職員給与比率(職員給与費対医業収益比率) $\text{職員給与費} \div \text{医業収益} \times 100$
病院の職員数等が適正であるか判断する指標。職員給与費をいかに適切なものとするかが病院経営の重要なポイントである。
- ・ 材料費比率(材料費対医業収益比率) $\text{材料費} \div \text{医業収益} \times 100$
この比率が高い場合、材料費の購入価格(方法)を見直し、材料費の削減を図る必要がある。(薬品・診療材料・その他)

(力) 決算状況の推移（収支と繰入金（県負担金）・診療報酬の改定）（3病院計）



- ※ 平成17年度から平成19年度までは繰入金10億円を抑制（県財政事情を勘案）。
- ※ 平成21年度から地方独立行政法人へ移行したため、一般会計繰入金は運営費負担金に名称変更。
- ※ 平成24年度の診療報酬改定率は薬価部分を市場価格の下落を反映して1.375%引き下げる一方、医師の診療行為や入院料などの本体部分は1.379%引き上げた結果、実質的な改定率は+0.004%となった。
- ※ 平成26年度の診療報酬改定率は、薬価及び材料価格の改定を0.63%引き下げる一方、本体部分を0.73%引き上げた結果、全体改定率は+0.10%となった。（消費税率引上げ対応分を除いた実質改定率は▲1.26%）
- ※ 平成28年度の診療報酬改定率は、薬価及び材料価格の改定をそれぞれ1.22%、0.11%引き下げる一方、本体部分を0.49%引き上げた結果、全体改定率は▲0.84%となった。
- ※ 平成30年度の診療報酬改定率は、薬価及び材料価格の改定をそれぞれ1.65%、0.09%引き下げる一方、本体部分を0.55%引き上げた結果、全体改定率は▲1.19%となった。
- ※ 令和元年10月の診療報酬改定率は、薬価の改定を0.51%引き下げ、材料価格の改定を0.03%引上げ、本体部分を0.41%引き上げた結果、全体改定率は▲0.07%となった。
- ※ 令和2年度の診療報酬改定率は、薬価及び材料価格の改定をそれぞれ0.99%、0.02%引き下げる一方、本体部分を0.55%引き上げた結果、全体改定率は▲0.46%となった。
- ※ 令和4年度の診療報酬改定率は、薬価及び材料価格の改定をそれぞれ1.35%、0.02%引き下げる一方、本体部分を0.43%引き上げた結果、全体改定率は▲0.94%となった。
- ※ 令和6年度の診療報酬改定率は、薬価及び材料価格の改定を1.00%引き下げる一方、本体部分を0.88%引き上げた結果、全体改定率は▲0.12%となった。

(キ) 職員の状況（各年度4月1日現在）

① 正規職員

（単位：人）

区分	総 合		こころ		こども		本 部		計	
	令 6	令 7	令 6	令 7	令 6	令 7	令 6	令 7	令 6	令 7
医師	206	205	15	13	119	115	1	－	341	333
歯科医師	5	3	－	－	2	2	－	－	7	5
看護師	859	869	130	128	423	398	1	1	1,413	1,396
看護師	858	868	130	128	423	398	1	1	1,412	1,395
准看護師	1	1	－	－	－	－	－	－	1	1
医療技術	261	284	28	29	86	91	2	1	377	405
研究員	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
事務	69	70	14	14	27	26	30	32	140	142
計	1,400	1,431	187	184	657	632	34	34	2,278	2,281

※ アソシエイトを含む。

② 有期職員

（単位：人）

区分	総 合		こころ		こども		本 部		計	
	令 6	令 7	令 6	令 7	令 6	令 7	令 6	令 7	令 6	令 7
医師	111	111	10	5	38	35	－	－	159	151
歯科医師	1	2	－	－	1	－	－	－	2	2
看護師	74	81	7	9	17	17	1	1	99	108
看護師	73	80	7	9	16	16	1	1	97	106
准看護師	1	1	－	－	1	1	－	－	2	2
医療技術	31	28	5	3	18	22	－	－	54	53
研究員	2	2	－	－	－	－	－	－	2	2
事務	155	151	14	12	56	53	4	3	229	219
補助職員	85	92	12	13	29	29	1	1	127	135
計	459	467	48	42	159	156	6	5	672	670

※ 補助職員：看護助手、薬剤助手、放射線助手、検査助手等

(ク) 令和7年度職員の採用状況（令和6年度採用試験実施状況）

- ・ 看護師の採用については、定期募集を年3回、経験者募集を年12回計画し、募集を行っている。
きめ細かな対策を迅速に実施することができ、看護師採用数の確保を図っている。
- ・ 人材確保のため、県内の養成校への訪問や修学資金の貸与、養成校への看護師募集ポスター掲示を実施し、必要な看護師を採用している。（平28 136人、平29 113人、平30 113人、令元 123人、令2 102人、令3 113人、令4 116人、令5 116人、令6 115人）
- ・ また、看護学生向けに就職情報を提供する民間事業者が開催する合同就職説明会への参加や就職情報サイトへの情報掲載等を積極的に行うと伴に、看護師就職説明会において、看護学生を集めるために説明会出展の周知メールの送信、当日は、看板等の設置やノベルティの配布を行った。
- ・ 令和5年度からは各病院で実施している病院見学会を1日で体験できる3病院見学ツアーを企画・実施している。
- ・ 医療技術については41人（薬剤師8人（一般7、経験者1）、栄養士6人（一般）、診療放射線技師8人（一般）、臨床検査技師6人（一般3、経験3）、臨床工学技士3人（一般3）、理学療法士5人（一般）、作業療法士2人（一般）、言語聴覚士2人（一般1、経験1）、医療ソーシャルワーカー1人（一般1））を確保した。
- ・ 事務については、正規職員7人を確保した。

令和6年度採用試験実施状況

(単位：人)

区 分	令6試験実施（3月末） 【令7採用】	令5試験実施 【令6採用】	差 引
看 護 師	115	116	-1
事 務	7	5	+2
医 療 技 術	41	27	+14
計	163	148	+15

※前倒し採用は試験実施年度に集計。

令和6～7年度職員数の推移

(単位：人)

区 分		令6.4.1 現員数 a	6年度中 採用者数 b	6年度中退職者数 c	うち令7.3.31 退職者数 d	令7.3.31 現員数 e=a+b-c+d	令7.4.1 採用者数 f	令7.4.1 現員数 g=e-d+f
医 師	正 規	348	4	54	38	336	40	338
	有 期	161	25	186	157	157	153	153
	計	509	29	240	195	493	193	491
看 護 師		1,413	3	130	66	1,352	110	1,396
医 療 技 術		377	6	19	14	378	41	405
研 究 員		-	-	-	-	-	-	-
事 務		140	2	24	21	139	24	142
	うちプロパー	87	2	4	1	86	7	92
計		2,439	40	413	296	2,362	368	2,434

※アソシエイトを含む

※正規医師には、歯科医師、自治医初期研修医、へき地地診医師を含む

※短期間特別研修医は除き、有期医師の契約は1年更新

(ケ) 補助職員（医療秘書、助手等）の配置状況（各年度4月1日現在）

(単位：人)

区分		令元	令2	令3	令4	令6	令7
総合	医師事務補助	70	76	72	72	82	79
	看護助手	61	58	56	58	52	57
	コメディカル助手	20	23	26	28	29	29
	小計	151	157	154	158	163	165
こころ	医師事務補助	2	1	2	1	1	-
	看護助手	9	9	9	9	8	8
	コメディカル助手	2	2	2	2	2	2
	小計	13	12	12	12	11	10
こども	医師事務補助	20	19	20	18	23	20
	看護助手	22	21	21	21	24	24
	コメディカル助手	6	8	6	6	2	2
	小計	48	48	47	45	49	46
合計	医師事務補助	92	96	94	91	106	99
	看護助手	92	88	86	88	84	89
	コメディカル助手	28	33	34	36	33	33
	合計	212	217	214	215	223	221

(2) 総合病院

<理 念>

「信頼し安心できる質の高い全人的医療を行います」

全人的医療：身体、精神、心理、生活様式などを含めた総合的な視点から、患者さん自身の
全体的な健康回復を目指す医療

<基本方針>

- 1 医療を受ける人々の立場に立ち、説明に基づく心のこもった医療を行います。
- 2 県内の中核病院として高度医療や先進的医療に取り組み、地域医療を支援します。
- 3 救急医療、災害医療、へき地医療、結核医療などの政策医療を積極的に担います。
- 4 将来の医療を担う質の高い人材を育成します。
- 5 快適な職場環境の整備と透明性の高い健全な病院運営に努めます。

<総 括>

総合病院は、県内医療機関の中核的病院として、各疾患の総合的な医療をはじめ、3大疾患（循環器疾患、脳疾患、がん疾患）に対する高度・専門医療や救急・急性期医療を提供している。

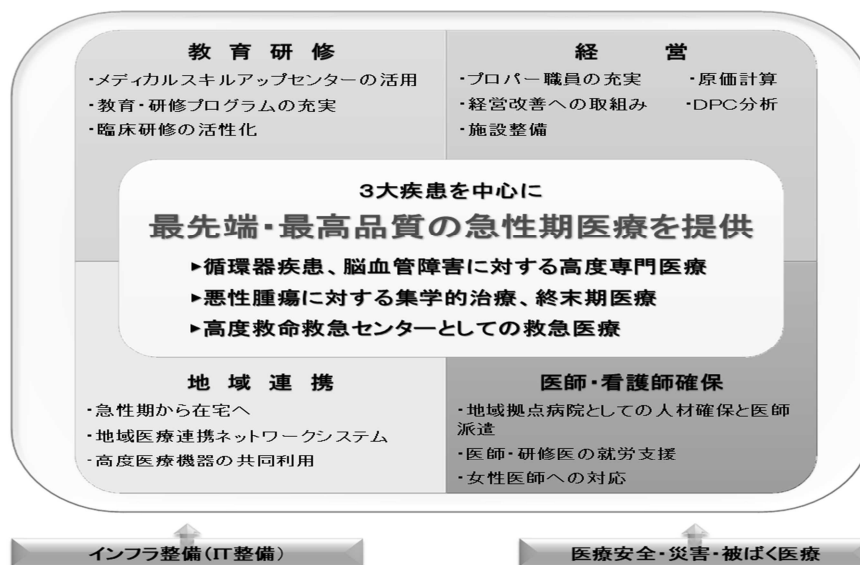
先端医学棟、循環器病センター等における最新の設備と医療機器を最大限に活用し、循環器疾患、脳疾患に対する高度・専門医療、がん疾患に対する集学的治療及び終末期医療、高度救命救急センターとしての救急医療を主要事業の三本柱として取り組んでいる。

また、県内の中核的病院として、高度・専門・特殊医療を提供するため、紹介・逆紹介の推進による地域の医療機関との機能分化及び連携強化に努めている。

経営面においては、医療の高度化、手術件数増加に伴う診療材料費の増加や、化学療法実施件数増加に伴う薬品費の増加（がん治療薬：オプジーボ、キイトルーダ、テセントリク等）に対応するため、施設基準の積極的な取得の他、平均在院日数の短縮、集中治療系病棟（ERHCU、ICU、HCU）の稼働率向上や入院料加算算定件数の増加、各診療科の稼働状況にあわせた病床再編等の経営改善に取り組んでいる。

今後も県立総合病院が目指す病院像（図1）参照）のとおり、県立病院としての役割を果たすべく、各種機能の強化に努める。

県立総合病院が目指す病院像（図1）



(3) こころの医療センター

<理 念>

安全・良質・優しいこころの医療を、いつでもどこでも誰にでも

<基本方針>

- 1 患者さんの人権と尊厳を守ります。
- 2 24時間365日、精神科救急医療を提供します。
- 3 最新の知識と技術を取り入れた高度専門医療を提供します。
- 4 手厚いチーム医療によって早期退院を目指します。
- 5 在宅医療とリハビリテーション、社会参加を支援します。
- 6 社会資源を開拓し、連携を強化します。
- 7 司法精神医療、災害医療などの公益医療に主体的に参加します。
- 8 社会人・組織人・医療人としての人材育成に努めます。
- 9 広い視野に立って研鑽を重ね、積極的に社会へ情報発信します。
- 10 健全で透明性の高い病院経営を目指します。

<総 括>

こころの医療センターでは、県内精神医療の中核病院として、「救急・急性期医療の充実」、「在宅医療の拡充」、「高度な医療技術の導入」、「司法精神医療の充実」及び「多様な精神疾患への対応」を重点的に推進し、目標とする精神科医療の体制整備（図2参照）に取り組んでいる。

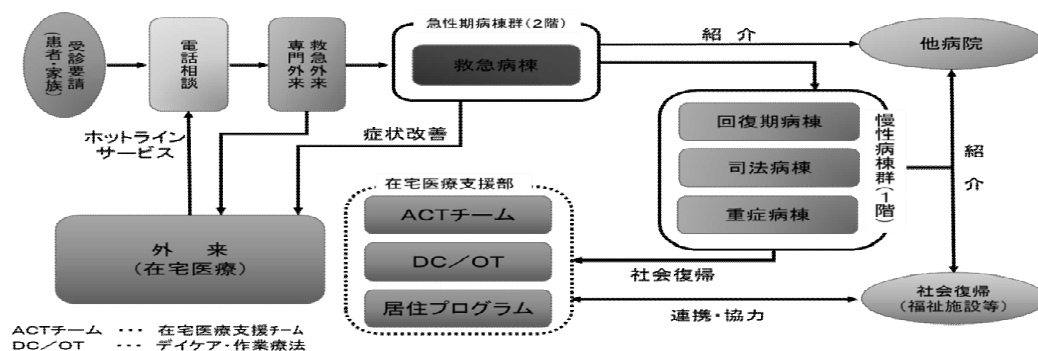
救急医療については、平成22年度より急性期病棟（救急及び急性期病棟）を中心に救急・急性期患者の受け入れを行い、それを後方的に支援する慢性病棟（回復期及び慢性重症病棟）との機能分化を進め、平成25年度には急性期病棟を救急病棟に移行する等、診療体制を強化した。平成28年度及び平成30年度に南1病棟の一部個室化を進め、救急病棟、回復期病棟における病棟間の連携強化を図り、効率的な病棟運営に努めている。令和5年4月からは常時対応型の精神科救急医療体制施設として、県から指定を受けている。

一方、精神科における医療は、「入院医療中心から地域生活中心へ」という方針が世界的趨勢であることから、在宅医療支援部門を強化し、多職種チームによる地域生活での支援体制の整備と長期入院者の退院促進に取り組んでいる。あわせて、退院後の安定的な生活を維持し、再入院を防止することを目的に、患者に対する心理・社会的治療に積極的に取り組んでいる。

また、先端薬物療法（クロザピン）や修正型電気けいれん療法（m-ECT）など、高度な医療の導入に積極的に取り組むとともに、医療観察法指定入院医療機関として安定した運営を継続している。

令和6年度から「大人の発達障害外来」等の専門外来を開設し、多様な精神疾患に対応した医療を提供している。

こころの医療センター診療体制（図2）



(4) こども病院

<理 念>

「私たちは、すべての子どもと家族のために、安心と信頼の医療を行います。」

<基本方針>

1. 子どもと家族の人権を尊重、保護します。
 - ・患者と家族の人権、自己決定権を尊重します。
 - ・個人情報、プライバシーの保護を徹底します。
 - ・十分に理解できる説明と情報提供に心掛け、患者が納得できる医療を提供します。
 - ・保育や教育の環境を整備し、子ども達が安心して過ごせる診療とケアに努めます。
2. 質の高い医療を展開し、地域に貢献します。
 - ・高度先進医療を実践し、質の高い充実したチーム医療を展開します。
 - ・医療機関、行政機関との密接な連携を推進し、地域医療支援病院の役割を果たします。
 - ・情報発信やボランティア、研修者の受入れを通じて、地域に開かれた病院にします。
 - ・グローバルな視点に立ち、活発な国際交流を展開します。
3. 人材育成に努め、健全な職場環境を維持します。
 - ・職員の研修、研究活動を奨励し、医療レベル向上の努力を継続します。
 - ・人材育成を重視し、適切な教育投資を行います。
 - ・職員は互いに尊重し助け合い、働きやすい職場づくりに努めます。
 - ・良質な医療を継続するために、健全な運営と経営を行います。

<総 括>

こども病院は、昭和52年度の開院以来、静岡県の地域医療、小児医療に貢献するという設立趣旨に則り、高度かつ先進的な医療を実践している。

現在では、県内小児医療の中核病院として、循環器疾患医療、小児救急医療、周産期医療、小児がん医療、児童精神科医療を中心に、すべての小児の健康問題に対応可能な小児専門総合医療施設として、質の高い医療を県民に提供している。(こども病院が目指す方向は図3参照)

小児救命救急センターとして、小児重症・救急患者を常時受入可能な体制を維持している。また、総合周産期母子医療センターとして、ハイリスク母体、胎児及び新生児に高度かつ一貫した医療を提供している。

心臓血管外科、循環器科を中心とした循環器センターでは、県内だけでなく全国やアジアから小児患者を受入れ、ハイブリッド手術等の最先端技術を導入し、高難度・集約的な先天性心疾患治療を提供している。

平成31年4月に厚生労働省から全国15施設のみ的小児がん拠点病院に初めて指定され、令和4年度に再度指定を受けた。令和5年4月から2期目の活動を開始し、高度な集学的治療に積極的に取り組んでいる。

こころの診療科は外来に加えて入院治療も行い、多様化・深刻化する子どもの心の問題に対応している。社会課題である「移行期医療支援」や「児童虐待早期発見医療体制整備」にも積極的に取り組んでいる。

こども病院が目指す方向(図3) *平成24年4月改定

- | | | |
|---|---------------|--------------------|
| 1 | 専 門 病 院 | 安全を重視した質の高い医療 |
| 2 | 教 育 | 教育内容の充実が最大目標の一つ |
| 3 | 地 域 連 携 | 相互支援に基づいた地域医療連携 |
| 4 | 効率的な病院経営 | 独善に陥らない標準的な経営と改善努力 |
| 5 | 働 き や す い 病 院 | スタッフの満足度が高い労働環境 |



3 県民に対して提供する医療サービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

(1) 医療の提供

ア 総合病院

○ 業務実績を示す各種指標

- ・ 入院延患者数、病床稼働率、患者1人1日当たり単価は計画を下回った。
- ・ 外来延患者数、患者1人1日当たり単価も計画を下回った。

令和6年度 業務量及び単価等年間実績

区分				年度計画	年間実績	増減	達成率(%)
入院	一般病床	入院延患者数	(人)	221,429	213,212	▲8,217	96.3
		病床稼働率	(%)	91.6	88.2	▲3.4	96.3
		平均在院日数	(日)		11.3		
	結核病床	入院延患者数	(人)	4,932	3,417	▲1,515	69.3
		病床稼働率	(%)	27.0	18.7	▲8.3	69.3
		平均在院日数	(日)		55.0		
	精神病床	入院延患者数	(人)	722	1,642	920	227.4
		病床稼働率	(%)	33.0	75.0	42.0	227.3
		平均在院日数	(日)		33.3		
	患者1人1日当たり単価		(円)	96,286	95,745	▲541	99.4
外来	外来延患者数		(人)	464,645	463,891	▲754	99.8
	患者1人1日当たり単価		(円)	26,444	25,642	▲802	96.7

※患者1人1日当たり単価は、税込金額(調定額ベースで算定)。病床稼働率は入院延患者数÷稼働病床数で算定。

- ・ 紹介割合及び逆紹介割合は計画を上回った。今後も病診・病病連携の推進に努める。

令和6年度 紹介割合・逆紹介割合年間実績

(単位：％，％)

区 分	年度計画	年間実績	増 減
紹 介 割 合	80 以上	94. 2	14. 2
逆 紹 介 割 合	70 以上	92. 2	22. 2

※紹介割合・逆紹介割合の算定方法は、用語解説を参照。

- 医療の提供については、循環器疾患及び、脳疾患に対する高度・専門医療、がん疾患に対する集学的治療及び終末期医療、高度救命救急センターとしての救急医療を主要事業の三本柱として重点的に取り組んでおり、令和6年3月の厚生労働省告示により、全国1,786のDPC病院の中で、引き続きDPC特定病院群（全国178病院が指定）を維持し、大学病院本院群と同等の高度医療及び医師研修を実施する病院として認められた。（県内では総合病院を含め6病院）
- 循環器疾患、脳疾患に対する医療については、先端医学棟3階に設置したCT・MRI・血管造影の3種類のハイブリッド手術室を活用し、最新の治療器材と鮮明な画像診断により、経カテーテル大動脈弁置換術（TAVI）、ステントグラフト内挿術、経皮的僧帽弁接合不全修復術（MitraClip）等の低侵襲で高度な手術を実施している。特に、心臓血管外科では、認定機関としてダ・ヴィンチ使用手術（僧帽弁形成術）を実施している。
- がん疾患に対する医療については、手術、化学療法、放射線治療等を効果的に組み合わせた高度な集学的治療を実施しており、静岡医療圏における地域がん診療連携拠点病院である当院に対して症例が集約化されている。

手術は、先端医学棟3階、4階に設置したハイブリッド手術室、内視鏡手術室、ロボット支援手術室を含む23室の手術室を効率的に運用し、手術件数を着実に伸ばしている。放射線治療は、先端医学棟1階に設置したリニアック3台を稼働し、強度変調回転放射線治療（VMAT）や脳定位放射線治療、体幹部定位放射線治療等の高精度な放射線治療を実施している。化学療法は、外来化学療法センターにおいて、がん専門資格を有する腫瘍内科を始めとする医師、看護師、薬剤師等が連携し、安全かつ適切な治療を行っている。

また、緩和ケアセンター（緩和ケアチーム）では、がん患者に対して適切な緩和医療を提供する他、地域の医療機関等との定期的なカンファレンスを通じて連携強化に取り組んでいる。

- 救急医療については、高度救命救急センターとして重症熱傷、重症外傷、急性中毒等の重篤な救急患者の受入を行っている。また、ドクターカーを活用し、救命救急センターのスタッフが災害や事故の現場に急行又は搬送途中の救急車とドッキングして治療を開始することにより、救命率の向上に繋がっている。
- 結核病棟については、新型コロナウイルス感染症の5類移行後も継続して50床を維持し、県内の結核患者を受入可能な体制を整えている。
- 令和5年4月から精神科病棟の運用を開始し、精神疾患患者および身体疾患への専門治療を同時に提供することが可能となった。また、静岡県精神科救急身体合併症対応事業を受託し、県内の身体合併症治療における地域偏在の改善を図っている。令和6年4月には静岡県と精神障害者地域移行支援者連携事業業務委託契約を締結し、措置入院患者を含め延べ1,457名の受け入れを行っている。
- 施設整備については、主に本館は40年以上が経過し、設備配管やエアコン等空調機器等の設備機器などは、老朽化により故障などのトラブルが発生している。そのため、劣化度が高いものについて実施設計を行い、令和6年度は外壁防水改修、医療ガス施設更新、空調改修及び、排水メイン配管改修及び病棟ナースコール設置工事に着手しており、令和7年度に完成予定。

【劣化改修工事】

本館非常用発電機更新工事



イ こころの医療センター

○ 業務実績を示す各種指標

- ・ 入院については、患者1人1日あたり単価、病床稼働率は計画を上回り、延患者数は計画を下回った。
- ・ 外来については、延患者数は計画を上回ったが、患者1人1日あたり単価は計画を下回った。

令和6年度 業務量及び単価等年間実績

区 分		年度計画	年間実績	増減	達成率(%)
入 院	入 院 延 患 者 数 (人)	56,502	54,525	▲1,977	96.5
	入院患者1人1日当たり単価 (円)	25,144	26,025	+881	103.5
	平 均 在 院 日 数 (日)		101.1		
	病 床 稼 働 率 (%)	85.0	86.9	+1.9	102.2
外 来	外 来 延 患 者 数 (人)	36,184	39,607	+3,423	109.5
	外来患者1人1日当たり単価 (円)	6,481	6,401	▲80	98.8

※ 患者1人1日当たり単価は、税込金額(調定額ベースで算定)。平均在院日数は、医療観察法病床を除いて算定。病床稼働率は入院延患者数÷稼働病床数で算定。

- ・ 紹介率は計画を上回り、逆紹介率は計画を下回った。地域の医療機関や行政機関と協働し、紹介率や逆紹介率の向上に努める。

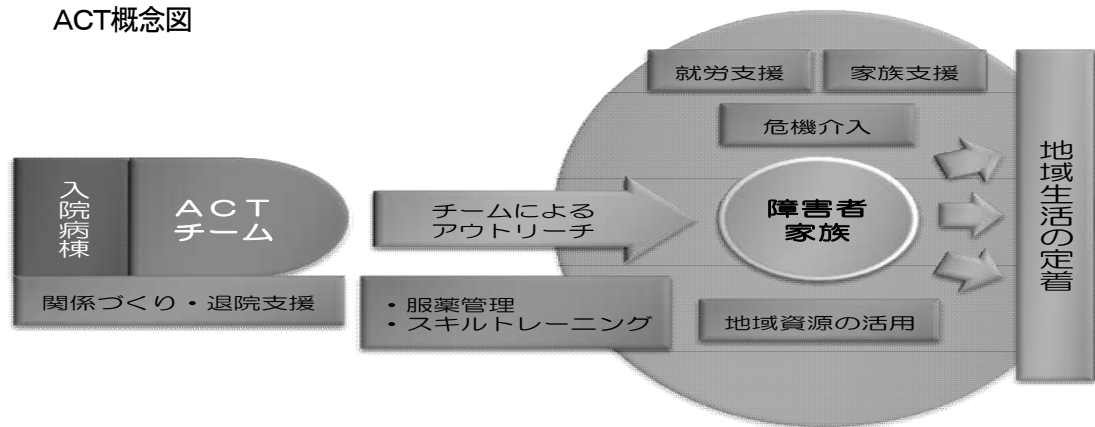
令和6年度 紹介率・逆紹介率年間実績

(単位：%)

区 分	年度計画	年間実績	増 減
紹 介 率	50.0	55.1	+5.1
逆 紹 介 率	30.0	27.0	▲3.0

- ・ 救急・急性期を中心とした診療体制の整備を図るとともに、包括的在宅医療支援体制モデルの構築や精神科救急相談体制の整備など、退院後の在宅支援を行うシステムを構築することで、「早期に集中的治療を行い、早期に社会復帰する」という体制づくりを進めている。
- ・ 県内全域を対象とした「精神科救急ダイヤル」を24時間体制で運用し、患者、家族だけではなく、医療機関や関係施設等からの救急医療相談に対応している。
- ・ 令和5年4月からは、従来の志太榛原圏域の病院群輪番型に加え、後方支援体制における全県域常時対応型の精神科救急医療施設として、県から指定を受けた。
- ・ 先端薬物療法（クロザピン）や高度な治療法である修正型電気けいれん療法（m-ECT）の実施など、医療水準の向上と重症患者の病状改善に積極的に取り組んだ。
- ・ 退院後の安定した地域生活の維持、再入院の防止に向け、心理・社会的治療の一環として、患者に対する心理教育・家族教室に積極的に取り組んだ。
- ・ 包括的在宅ケア（ACT）チームによる退院支援と手厚い24時間365日サポート体制による退院後の地域生活支援モデルの構築を進めた。

ACT概念図



- ・ 県内唯一の医療観察法指定入院医療機関として本県及び他県関係の入院処遇対象者を受け入れており、機能の充実を図り、地域完結型の医療環境の形成を進めている。
- ・ 多様な精神疾患へ対応するため、令和6年10月に「大人の発達障害外来」、令和7年1月に「クロザピン相談外来」を開設した。
- ・ 地域住民を対象とした開院以来初となるオープンホスピタルを開催し、医師による講演も実施した。

ウ こども病院

○ 業務実績を示す各種指標

- ・ 入院については、延患者数、病床稼働率はいずれも計画を上回ったが、患者1人1日当たり単価は計画を下回った。
- ・ 外来については、延患者数は計画を上回ったが、患者1人1日当たり単価は計画を下回った。

令和6年度 業務量及び単価等年間実績

区 分		年度計画	年間実績	増減	達成率(%)
入 院	入 院 延 患 者 数 (人)	66,678	69,143	+2,465	103.7
	入院患者1人1日当たり単価 (円)	107,275	104,295	▲2,980	97.2
	平 均 在 院 日 数 (日)		一般7.7		
	病 床 稼 働 率 (%)	75.0	77.3	+2.3	101.5
外 来	外 来 延 患 者 数 (人)	99,976	102,926	+2,950	103.0
	外来患者1人1日当たり単価 (円)	25,800	23,723	▲2,077	91.9

- ・ 紹介割合・逆紹介割合ともに計画を上回った。今後とも病診連携や病病連携を推進していく。

令和6年度 紹介割合・逆紹介割合年間実績

(単位: %, ‰)

区 分	年度計画	年間実績	増減
紹 介 割 合	90.0	97.7	+7.7
逆 紹 介 割 合	30.0	36.2	+6.2

- ・ 小児循環器センターでは県内だけでなく全国やアジアから小児患者を受入れ、心臓血管外科、循環器科を中心とした連携による診療、ハイブリッド手術、カテーテル治療、遠隔エコー診断等の先進的診療により、高難度・集約的な先天性心疾患治療を提供している。
- ・ 総合周産期母子医療センターの指定を受けており、静岡県全域の周産期医療の中核を担い、ハイリスク胎児・妊婦、超・極低出生体重児をはじめとした新生児に高度かつ一貫した先進的治療を提供している。
- ・ 平成31年4月1日付けで厚生労働省から全国15施設の小児がん拠点病院の1つとして初めて指定され、令和4年度に再度指定を受け、令和5年4月1日から2期目の拠点病院としての活動を推進している。小児がん拠点病院として、造血幹細胞移植等の高度な集学的治療を推進するとともに、静岡がんセンターとの共同カンファレンス、地域医療機関との連携、研修会や公開講座の開催等に積極的に取り組んでいる。また、医師主導治験や国際共同治験・特定臨床研究など、治験・臨床研究にも積極的に取り組んでいる。
- ・ 令和元年12月にがんゲノム医療連携病院となり、がん診療におけるゲノム検査を実施している。
- ・ 小児救命救急センターの指定を受け、小児専門の集中治療室（PICU）を備えた小児集中治療センターと、小児救急センター（ER）を中心に、24時間365日体制で、他院で対応困難と紹介された小児重症患者、小児救急患者を断ること無く受け入れている。
- ・ 地域・小児夜間救急における地域病院群オンライン連携による365日対応を試行する「小児救急リモート指導医相談支援事業」について、関係者会議での報告・協議を行いつつ、実証試験を進めている。先行病院については令和5年12月に運用を開始し、後発病院については令和6年2月に運用を開始した。当院を含め6病院で運用し、累計26件のリモート指導を実施した。
- ・ こころの診療科では、外来診療に加えて、小児総合医療施設としては全国的にも数少ない重症患者への入院治療を、病棟内の開放・閉鎖の2つのエリアを用いて実施している。また、厚生労働省の「子どもの心の診療ネットワーク事業」に静岡県の拠点病院として参画しており、医療のみならず、福祉、教育、保健など様々な領域との連携強化に努める等、県内の児童精神科医療における中核的な機能を発揮している。また、こころの診療科と共にこころの診療部を構成する発達小児科では、発達障害の診療を行う一方で、患児の保護者を対象としたペアレントトレーニングの新プログラムを開発し、定期的の実施している。
- ・ 日本における新型コロナウイルス感染パンデミックの経験を踏まえ、小児感染症領域においても役割を果たすべく、県と感染症に係る医療措置協定を締結し、第一種及び第二種協定指定医療機関の指定を受けた。また、感染症指定医療機関の指定に向け、県と調整を行っている。
- ・ 県から移行期医療支援センター運営事業を受託し、県と連携して移行期医療支援体制の推進に取り組んでいる。令和6年度は、小児科から成人医療施設への紹介実績調査の結果を元に移行期医療医療機関連携マップの制作を進めるとともに、自立支援外来、静岡市静岡医師会と重症心身障がい児の移行のためのカンファレンス、同医師会との連携による成人先天性心疾患の移行期医療に係る検討会等を行っている。
- ・ 在宅移行の推進や在宅移行後の医療的ケア児への対応について、他院では対応困難な小児重症患者へのリハビリの拠点でもあることから、理学療法士がPICU入院患者のほぼ全例に早期離床の介入をするなどの対応により、令和6年度のリハビリ実施件数は令和5年度を上回った。また、令和2年度に医療型短期入所（空床型）に係る障害福祉サービス事業者の指定を受け、サービスを提供している。
- ・ 令和6年3月にドクターカー（高規格救急車）を新車両に更新し、新車両ではECMOを装着している重症患者等の多様な症例患者の搬送が可能になり、感染対策機能も向上している。施設及び設備の計画的整備を進め、小児患者の治療負担の軽減を図りつつ、高度かつ先進的な質の高い小児医療を提供していく。
- ・ 早期発見・早期治療の効果が非常に高い疾患（診断技術と治療法の進歩により新たに対象となった疾患を含む）の新生児期における発見を目的に、静岡県において「拡大新生児スクリーニング検査」を令和5年10月に開始した。実施主体の当院、検査施設の県予防医学協会、分娩施設の3者契約により検査を実施し、令和6年度末で53医療機関（分娩施設）が参加している。また、陽性者に迅速に対応し、正確な診断、適切な治療に遅滞なくつなげるため、当院、浜松医科大学小児科、聖隷浜松病院小児科の専門医で静岡希少疾患ネットワークを組織し、本事業を県全域に広げることに取り組んでいる。
- ・ 良好な療養環境を提供するため、小児がん患者の入院する北5病棟についてクリーンエリアを拡大する等の改築を令和3年度に行い、活用している。平成21年度に全国で初めてファシリティドッグを導入し、臨床経験を持つ医療者であるハンドラーとともに医療チームの一員として、個々の患者さんのニーズに応

じて積極的に治療に介入している。院内には、県内大学生による壁面装飾アート、寄贈されたディズニー壁紙等のホスピタルアートを配置し、図書室、病棟及び外来には「わくわく文庫」を設置している。また、長期入院する子ども達の学習支援も重要であり、県立中央特別支援学校の病院内学級にて学習継続を支援している。その一方で、退院後の元在籍校への復学を見据えて、オンラインを活用しながら、患児家族、医療者、教育関係者が連携して患児を支援している。令和4年度に県教育委員会と連携して高校生のがん患者への学習支援体制の整備を推進した結果、オンラインでの授業参加が履修として現在認められている。さらに、「いのりの木」を院内（冬期には静岡市内イベント会場）に設置し、療養中の子ども達や家族、病院職員の想いの拠り所として、子ども達が社会との繋がりを感じられるものとして、運用している。

救急の体制



ドクターヘリの受入



ドクターカー（高規格救急車）



小児救急センター

北5病棟



AYAラウンジ



クリーン病室



クリーンエリア

医療の高度化に対応した器械整備



リニアック装置



アンギオ装置



CT装置



ガンマカメラ装置

良好な療養環境整備



ファシリティドッグ



いのりの木

(2) 医療従事者の確保及び質の向上

ア 総合病院

- ・ 医療技術者の研修については、研修医の海外研修への派遣や看護師の認定看護師研修への派遣、県立大学との共同研究等により、県立病院に相応しい医療技術者の育成に努めている。

また、先端医学棟稼働に伴い、循環器病センター6階から先端医学棟2階へ拡張移転したメディカルスキルアップセンターにおいては、模擬病室の設置や各種高度なシミュレーターの導入により、院内外の多くの医療従事者に利用されており、医療の質の向上に寄与している。

- ・ 国際交流では、友好協力協定及び覚書を締結している中国浙江省の7医院からこれまでに研修生延べ91名（うち医師65名）を受け入れている。
- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響により、派遣研修及び相互訪問は中止していたが、令和4年度から徐々に再開し、令和5年6月には浙江省衛生健康委員会の副主任をはじめとする6名が来訪し、令和6年4月、12月には、静岡県立病院機構職員が5年ぶりに浙江省を訪問するなどの交流を行っている。
- ・ 令和5年9月1日付けで、静岡県から特定及び連携型特定地域医療提供機関の指定を受けたため、許可された医師の労働時間短縮計画等に基づき、医師の労働時間短縮の取組等を推進する。

また、チーム制・複数主治医制の導入を推進し、患者・家族等への時間外の説明などを原則禁止し、休暇の取得も推進した。

現在継続している医師から看護・メディカルスタッフ・事務等への業務のタスクシフト（看護師特定行為の推進、持続皮下グルコース検査の推進他）を推進し、併せて、タスクシフトを行う、看護・メディカルスタッフ・事務等の勤務環境の改善を推進した。

医師の労働時間短縮計画に基づき、水準指定医師で勤務間インターバルが取得できなかった医師を毎月検証し、当該医師及び当該上司（診療科部長）に対し、代償休息の取得を依頼し、その実績について毎月検証している。

イ こころの医療センター

- ・ 医療技術者の研修については、認定看護師研修への派遣等、精神医療の向上に資する人材の育成に努めている。特に認定看護師については、5名の精神科認定看護師等が在籍し、医療の質の向上に貢献している。
- ・ こころの医療センターでは令和6年度から研究部を設置し、研究体制の整備を行い、臨床研究を開始した。

ウ こども病院

- ・ セミナーや研修会を定期的に開催するとともに、認定看護師研修等に職員を積極的に派遣するなど、院内外の研修会等を通じて病院全体の医療技術の向上に努めている。
- ・ 国際交流においては、マレーシア国立循環器病センター、浙江大学医学院附属儿童医院、深セン市小児病院との間で友好協力協定を締結しており、オンラインでの診療支援等を実施している。令和6年6月には重症心臓疾患を持つネパール国籍の患者を受け入れ、経皮的肺動脈弁置換術（TPVI）を行い成功している。
- ・ 令和6年3月に静岡県から特定及び連携型特定地域医療提供機関の指定を受けたため、許可された医師の労働時間短縮計画等に基づき、医師の労働時間短縮の取組等を推進している。
- ・ 院内保育所では二重保育等の保育サービスに対応し、夜間保育を週3日対応出来るように整備した。
- ・ 始業、終業時にBGM（癒やしの音楽）を放送し、職員のストレス軽減を図っている。
- ・ 職員研修にeラーニングツールを活用し、効率的な受講を可能にしている。
- ・ 令和5年度にラーニングセンターに係る整備及び改修を実施し、会議室の改修を行うことで、研修内容や受講人数に応じて大会議室や周辺会議室を研修会場として使い分けことが可能となった。また、会議室の1つにポータブル医ガス装置を整備し、実技研修を常時実施可能な環境としている。
- ・ 安全で質の高い医療を提供していることを背景に、ニューズウィーク誌による「世界の優れた専門病院ランキング」の小児科部門に3年連続でランクインしており、国際的にも高く評価されている。

(3) 医療に関する調査及び研究

- リサーチサポートセンターを活用した研究に取り組んでおり、文部科学省科学研究費についてはすべての診療部門が申請対象となっている。令和6年度における文部科学省科学研究費の応募・採択状況は、応募件数5件、総合病院採択分の過年度からの研究継続件数は4件、他施設分担研究の継続件数は3件と、合計7件の研究を取り扱っている。
- きこえとことばのセンター（静岡県乳幼児聴覚支援センター）では、乳幼児期の難聴や人工内耳の装用による脳の発達メカニズムに関する研究をNTTコミュニケーション科学基礎研究所と共同で実施している。また、並行して新生児聴覚スクリーニング検査をオンサイト入力することで、関係機関との情報共有を可能にし、難聴の早期発見、早期介入、その後の支援につなげるための一元化された情報管理システムを開発し、県下での導入を進めるなど、きこえとことばのセンターの事業について積極的に取り組んでいる。また、令和6年度から本格的に開始された聴覚障害児療育体制整備においては、令和6年11月に静岡県、病院機構、そして聴覚障害児の音声言語獲得に高い実績を持つシェパードセンターの3者で、令和9年度まで、お互いに協力して聴覚障害児療育施設を病院機構内に整備することを目的とした協定書を締結した。オーストラリア政府からの支援も受けつつ、シェパードセンターの持つ聴覚障害児療育プログラムを病院機構内の施設で実施するために、言語聴覚士への研修、施設整備等をオーストラリアの現地スタッフと協力して進めている。
- 効率的な病院運営のため、診療情報（DPCデータ）に基づく症例分析を行い、医局会においてDPC入院期間Ⅱ以内での退院状況や副傷病名の付与率向上等に係る説明と協力依頼により、平均在院日数の短縮やDPCコーディングの適正化に取り組んでいる。

【医学研究奨励の内訳】令和6年度

病 院	研 究 課 題	部 署	構成人数
総 合	早期膵癌疑い症例に対する膵液連続細胞診の診断精度および施行後の臨床経過に関する多施設共同後ろ向き研究	消化器内科	2
	Risk factors for biliary tract events during electivecholecystectomy waiting time after endoscopic retrograde cholangiopancreatography for choledocholithiasis	消化器内科	2
	血清シスタチンCと血清クレアチニンから推算される糸球体濾過量の解離の検討	腎臓内科	12
	喫煙開始年齢がニコチン依存症並びに心血管イベントに及ぼす影響	臨床研究部	4
	性腺機能低下症例における末梢血キスペプチンとオキシトシン濃度の生理的意義の検討	糖尿病・内分泌内科	10
	Claudin-low 乳癌の CD44 抑制による TGF-β receptor 阻害剤の効果	乳腺外科	1
	難聴に関する特異的・特異的 QOL 尺度（SSQ）の日本語版の信頼性・妥当性の検討	耳鼻咽喉科	2
	尿路上皮癌における adipophilin 発現意義の検討 —尿中腫瘍細胞における新規バイオマーカーの探索—	検査技術室	8
	No-touch SVG の遠隔期成績と創部合併症予防	心臓血管外科	2
	慢性硬膜下血腫患者における頸部脊柱管狭窄症合併頻度に関する研究	脳神経外科	8
	80 歳以上高齢食道癌症例に対する治療の検討	消化器外科	3

病 院	研 究 課 題	部 署	構成人数
総 合	呼吸筋力が食道癌手術後患者の生命予後に及ぼす影響 単施設レトロスペクティブコホート研究	リハビリテーション科	6
	両側人工内耳装用児の音声言語発達と聴覚パラメーターの検討	耳鼻咽喉科	3
	膵癌早期診断のためのチーム医療 ―限局性膵萎縮所見に着目した膵上皮内癌診断体系の構築―	肝胆膵内科	4
	甲状腺低分化癌に合併した小細胞癌に関する検討	耳鼻咽喉科	1
	脳卒中患者における社会的課題と脳卒中相談窓口の役割に関する実態	看護部	3
	CDK4/6 阻害薬による重篤な有害事象発現のリスク因子解析および有害事象発現と生存期間との関連の検討	薬剤部	4
	機械学習による消化器外科周術期菌血症の在院死亡予測モデルの構築	消化器外科	1
	妊娠糖尿病の周産期母子合併症の実態調査	糖尿病・内分泌内科	3
	糖尿病患者における食事パターンと病態の関連に関する研究	栄養管理室	5
	SAP 使用患者の機器アップデートによるデータの推移と有用性の検討	検査技術室	3
	静岡県立総合病院データとバイオバンクジャパンデータの統合による複雑形質解析	免疫研究部	2
	日本人データと UK バイオバンクデータの統合による複雑形質解析	免疫研究部	2
	肥満症患者における悪性腫瘍スクリーニングプロトコル策定のための基礎的検討	糖尿病内科	2
	肺動脈閉鎖兼心室中隔欠損、主要体肺動脈側副血行路に対する治療成績の検討	肺循環動態研究部	2
	大腸癌に対するロボット支援手術の教育効果と安全性	消化器外科	8
	質改善プロジェクトに基づく多角的せん妄ケアが ICU の重症患者のせん妄に及ぼす効果	看護部	4
	クリティカルケア領域における終末期医療の方針決定に関わる代理意思決定支援の実態と関連する要因	看護部	2
	がん生殖医療としての卵巣組織凍結における微小残存がん検出方法の樹立	産婦人科	2
	災害教育を担う DMAT 看護師の実践能力が明らかになっていない	看護部	2
	当院における大腸癌穿孔・穿通症例に対しての検討	消化器外科	7
	内分泌代謝疾患を対象とした生殖細胞系遺伝子および体細胞変異の解析	内分泌内科	2
計		32	122

病 院	研 究 課 題	部 署	構成人数
こころ	読字障害に関与する垂直性視覚的認知障害を検出する認知課題の開発	研究部	7
	WAIS 検査中に見られる注意機能の評価に関する研究	医療部	2
	計	2	9
こども	悪性腫瘍を含む高難度手術に対する内視鏡手術の有用性	小児外科	7
	静岡県新生児拡大スクリーニング検査陽性例の後方視的予後調査研究	免疫アレルギー科	3
	性分化疾患発症メカニズムの分子遺伝学的探索と未分化性腺の解析	糖尿病・代謝内科	2
	小児領域における体成分分析装置による評価の有用性・活用法に関する研究	リハビリテーション科	5
	非発症/未発症血縁者の遺伝学的検査において費用負担が受検へ与える影響の検討	遺伝染色体科	6
	乳児期頭部外傷後急性脳症の病態や予後についての研究	脳神経外科	2
	早期かつ安全な退院を目指すためのアプリなどの開発に関する研究	心臓血管外科	7
	神経発達症児の養育者に対する新規ペアレントトレーニング・プログラムの開発	成育支援室	8
	新生児集中治療室の患児の療養ゾーンの可視化とメチシリン耐性黄色ブドウ球菌検出に関する研究	看護部	1
	フローサイトメトリーによるT細胞機能解析の確立—原発性免疫不全症の早期診断につなげる二次スクリーニング体制構築—	検査技術室	9
	複雑心奇形を合併した小児外科疾患の治療指針についてのSystematic Review	小児外科	8
	薬剤溶出性ステント留置後の免疫抑制剤の体内動態	循環器科	17
	尿中ポドサイトの検出意義及び腎糸球体病態の比較検討	検査技術室	11
	先天性上部消化管閉鎖における羊水中の膵酵素、胆汁酸濃度と臍帯潰瘍との関連についての検討	産科	4
	子宮頸管粘液を用いての絨毛膜下血腫の予後判定に関する研究	産科	3
	計	15	93

(4) 医療に関する地域への支援

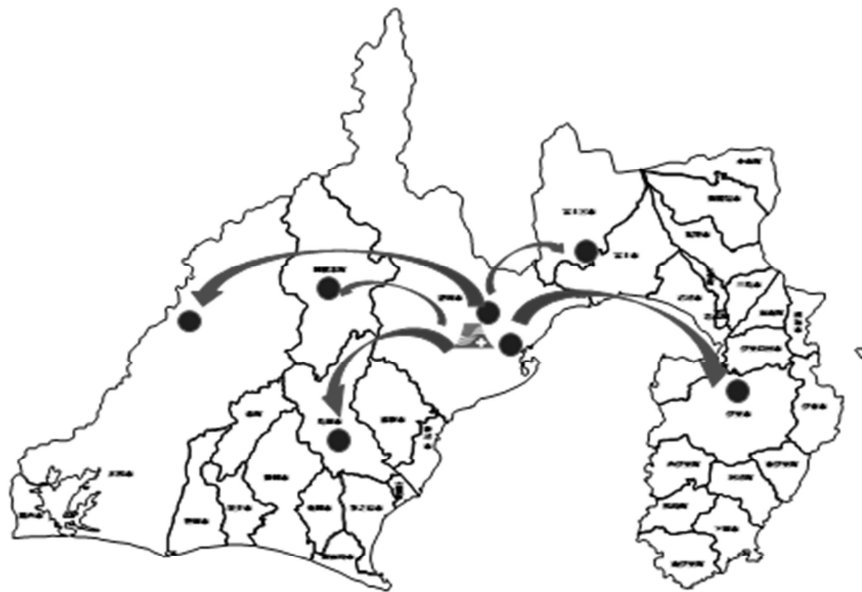
ア 機構全体

- ・ 県内初の地域医療連携推進法人「ふじのくに社会健康医療連合」は、令和7年3月末現在、静岡県立病院機構3病院、地域医療機能推進機構清水さくら病院、静岡社会健康医学大学院大学、国立病院機構静岡医療センターの4法人、5病院と1大学院大学の6施設が参画している。
- ・ 令和6年度は、昨年度から引き続き、総合病院から清水さくら病院に対して医師派遣を行ったほか、地域医療に貢献する志を持った医師の確保・育成を推進するため、静岡県、静岡社会健康医学大学院大学と連携し、県医学修学資金貸与医師の配置調整業務を実施した。

イ 総合病院

- ・ 地域医療の支援については、平成19年に地域医療支援病院として承認されており、医師会・歯科医師会とも連携し、紹介患者への医療の提供、救急患者の受入等の取組を通して地域医療の確保に努めた。
- ・ 県立病院医師交流制度等に基づき7医療機関等に対して延610名の医師派遣を行うとともに、CT・MRIの高度医療機器の共同利用を推進した。
- ・ また、平成22年度総務省委託事業である地域ICT利活用広域連携事業により開始した「ふじのくにバーチャル・メガ・ホスピタル」は順調に拡大しており、令和7年3月末現在、開示施設は20病院、参照施設は116施設となった。今後も各地域の医師会と協働し、ネットワークの更なる推進に努める。

令和6年度 県立総合病院の医師派遣



ウ こころの医療センター

- ・ 地域医療の支援については、医師、看護師の講演会等への講師派遣等に取り組んだほか、医療観察法における鑑定の要請に協力する等、県内精神医療の中核病院としての役割を果たしている。

エ こども病院

- ・ 小児科の基幹研修施設として、新専門医制度に対応した研修を行い適切に対応している。
- ・ 紹介患者への医療や救急医療の提供などを行い、地域医療支援病院としての役割を果たしている。
- ・ 県立病院としての役割を果たすため、医師不足が顕著な公的病院や急病センター等計10の医療機関等に対して、令和6年度は延529人の医師を派遣した。
- ・ 映像通信システムを通じて、浜松医科大学やマレーシア国立循環器病センター等と定期的に症例検討会を実施している。また、県内4病院と連携して心エコー画像の遠隔診断を行う等、映像情報を活用した地域医療機関等との連携及び支援を行っている。
- ・ 児童精神科医療におけるネットワーク構築等のため、小中学校教諭を対象とした精神保健講座や児童養護施設の巡回相談を実施するなど、教育や福祉といった領域との連携強化に努めている。
- ・ 周産期医療、小児がん医療等、様々な領域で、県内の医師、看護師をはじめとした地域の医療従事者に対する研修会や症例検討会を開催し、医療の質向上と他医療機関との連携強化を図っている。
- ・ 地域の医療・消防機関で構成されるメディカルコントロール協議会（関係部会を含む）に、集中治療科、小児救急科等の医師が参加し、小児救急医療体制の整備に協力している。
- ・ 令和4年度から受託している、静岡県「児童虐待早期発見医療体制整備事業」について、院内の児童虐待対応体制を整備・運用するとともに、地域の医療機関等からの相談に適切に対応している。また、子ども虐待対応研修として、県内総合病院を訪問しての医療従事者向けの研修等を実施している。
- ・ 地域・小児夜間救急における地域病院群オンライン連携による365日対応を試行する「小児救急リモート指導医相談支援事業」を静岡県から受託しており、実証試験を進めている。令和5年12月を皮切りに運用を開始しており、当院を含めた6病院で累計26件のリモート指導を実施した。

(5) 災害等における医療救護

- ・ 災害拠点病院は、災害時に多発する重篤救急患者を受け入れ、自己完結型の医療救護チームを被災地に派遣し、地域医療機関への応急用資器材の貸し出し機能を有する病院であり、県下 23 病院が指定されている。
- ・ 総合病院は、基幹災害拠点病院に指定されており、災害拠点病院の機能をさらに強化した要員の訓練や研修機能を有し、災害医療に関して県の中心的役割を果たす病院であることが求められている。
- ・ 総合病院とこども病院は、「静岡県医療救護計画」に基づき、静岡市の救護病院（重症患者及び中等症患者の処置及び収容を行う病院）に指定されているほか、総合病院における被ばく医療については、原子力発電所の重大事故に備えた原子力災害拠点病院に指定されている。
- ・ 防災計画等の取組については、東日本大震災以降の国の施策の見直しなどに対応した改訂を行うとともに、総合病院では、災害発生時の断水に備えるため、地下水を上水として活用できる装置を導入している。
- ・ 総合病院では、令和 6 年度は、総合防災訓練や各ブロック訓練が通常開催され、DMAT 隊員が参加している。富士山静岡空港の訓練や緊急消防援助隊の合同訓練にも参加した。

また、県総合防災訓練では、能登半島地震の課題を踏まえて、静岡医療圏活動拠点本部を静岡県立総合病院に設置して訓練を行った。

首都圏で実施された大規模地震時医療活動訓練（政府訓練）では、6 名の DMAT 隊員が参加した。

厚生労働省と米国保健省との申合せに基づく「日米 DMAT 大規模地震時医療活動連携訓練」が全国で初めて静岡県で実施され、令和 7 年 2 月 26 日、27 日の 2 日間、富士山静岡空港において米国 DMAT との連携訓練に参加した。

- ・ こころの医療センターは、災害発生直後に精神科医療における支援が可能な DPAT（災害派遣精神科医療チーム）を保有し、災害発生時に被災地への DPAT の派遣や県の要請に基づく支援等を実施する体制を整備しており、令和 3 年 2 月には、診療機能、一時的避難所及び DPAT 派遣機能を有した災害拠点精神科病院として、県内では初となる指定を受けた。
- ・ 令和 6 年度は、総合防災訓練や内閣府による大規模地震時医療活動訓練等に参加し、発災時においてスムーズな支援活動が実施できるよう、県や市町等との連携を確認した。
- ・ また、能登半島地震の経験を踏まえ、ロジスティック要因を充実させるため事務職員 2 名を DPAT 隊員養成研修に参加させ、先遣隊だけでなく病院全体で災害医療に対応できる体制の強化を図っている。
- ・ 全国各地で大雨による被害が相次いでいるため、防災訓練・洪水避難訓練を実施した。
- ・ こども病院では、新採職員向け消火避難訓練を令和 6 年 8 月に実施し、初期消火訓練に加えて、病棟患者を想定した模擬患者の避難誘導及び避難訓練をエアーストレッチャーを用いて行った。また、初動チェック、ベッドコントロール等について訓練する総合防災訓練に向けた準備を進めた。
- ・ 夜間想定防火避難訓練として、火災発生から避難完了までの一連の訓練を実施し、その後、避難方法の課題や今後の対応案を検討した。
- ・ 様々な災害への対応をするため、「感染症に係る第一種及び第二種協定指定医療機関の訓練」を実施した。

4 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

(1) 効率的な業務運営体制の強化

ア 機構全体

- ・ 理事会、運営会議、総務・経営担当課長会議を、8 月を除く原則毎月開催し、意思決定の迅速化に努めた。
- ・ 地方独立行政法人制度のメリットを活かして契約の複数病院一括化及び複数年契約化を進める一方で、契約によっては分割して発注することによって競争性を高めるなど、柔軟に契約方法を変更することで経営改善を推進した。
- ・ 経費の節減のみならず、モニタリング制度（インセンティブ（契約期間の延長）の付与や業務内容が適

切ではない場合の減額等が課せられている。)の適用などにより、業務の質の向上も図った。

- ・ 業務改善の推進として、機構の業務改善運動推進制度を設置しており、業務改善に積極的に取り組む組織風土の醸成に努めている。各病院及び本部事務部において取組みを実施しており、優れた取組みについては広く周知を図っている。

イ 総合病院

- ・ 平均在院日数の短縮に向け、各診療科においてD P C入院期間Ⅱ以内での退院を促進し、効率的な病棟運営に努めている。
- ・ 先端医学棟3階、4階に新設した22室を含む23室の手術室（ハイブリッド手術室、内視鏡手術室、ロボット支援手術室等）とH C U20床の一体的かつ効果的な運用に努めている。
- ・ 患者サポートセンターによる入院前から退院後までの一貫した支援（入院前問診・オリエンテーション等）により、患者満足度向上と病棟看護師の業務量軽減を図っている。令和6年度も、耐震補強を含む病棟改修工事等の状況を踏まえながら、空床情報の一元管理と適切なベッドコントロールを行った。
- ・ 重症系病棟の稼働率向上に向けて、医師が中心となり効率的な病棟運営に努めている。
自治体共済会MR Pベンチマークシステムの活用及び共同購入組織「一般社団法人日本ホスピタルアライアンス（略称：NHA）」への加盟により、薬品、診療材料に係る価格交渉や品目の切り替えを推進し、薬品費、診療材料費の削減に努めている。

ウ こころの医療センター

- ・ カンファレンス等により多職種間での積極的な情報共有を行い、患者の早期退院・早期社会復帰を促進し、ベッド調整会議により病床利用の効率化に努めている。
- ・ 毎月の経営戦略委員会や管理会議において病院の経営状況を報告するなど、院内で経営に関する情報を共有することにより、職員全体の経営意識の向上を図っている。

エ こども病院

- ・ 医事委託業者と共同で定期的に勉強会等を実施し、各診療科との連携を密にして確実に診療報酬請求を行うなど、診療収益の増加に努めている。
- ・ 診療材料の単価、品目、業者等の見直し、消耗品の節約、委託契約の業務内容の見直し、職員の時間外勤務の適正化等により、経費削減に努めた。また、令和元年10月から共同購入の取組を開始し、汎用材料の価格削減を図っており、採用品の増加を進め、令和4年度に参加分野の拡大を検討し、令和5年度からは手術分野が参加している。
- ・ 令和5年10月に発令した経営危機宣言を令和6年度も継続している。幹部会議や管理会議において、病院の経営状況を共有して職員全体の経営意識の向上を図るとともに、経営改善に向けた取組、特に病棟体制加算の取得を見据えた病棟再編など、業務効率を上げるための取組を積極的に推進している。

(2) 事務部門の専門性の向上

- ・ 事務職員基礎研修、会計研修等を実施し、業務関連知識の向上を図った。
- ・ 働き方改革関連法に対応するため、令和2年度以降は労務管理者研修を実施している。
- ・ 診療情報管理士等の資格については、貸付制度といった取得支援制度を活用し、資格者の増員を図った。
- ・ 事務部門に係る業務マニュアルを毎年度更新し、グループウェア上に公開している。機構内で情報の共有を図ることで、業務の標準化を図り、業務マニュアルの活用に努めた。

(3) 収益の確保と費用の節減

- ・ 令和6年度は、前年度に引き続き、薬品費については、競合する薬剤を引き合いに出した交渉により薬品費の値引きに努めている。
- ・ 診療材料費については診療材料の共同購入による価格交渉など経費の節減に取り組んでいる。また、SPDが期限を確認し、期限切迫品を表示し、使用頻度の高い部署への移管するなど、ロスを防ぐ取り組みを実施している。
- ・ 令和6年度は燃料費の高騰を受け、電気料金が上昇していることから、3病院に空調・照明をはじめとした更なる節電対策への呼びかけを行った。
- ・ 総合病院においては令和3年度の管理一体型ESCO事業の導入により、本館及び北館の老朽化した熱源機器等をエネルギー効率の高い省エネ機器に更新した。蛍光灯照明についてもLED照明器具に交換するなど、省エネ改修を行い、電気料金の削減につながっている。

(4) 予算、収支計画及び資金計画

- ・ 第4期中期計画(令和6年度～令和10年度)の初年度となる令和6年度は、令和5年度に引き続き、物価高騰に伴う材料費や経費の増加などの影響により、修正医業収支比率は82.0%、経常収支比率は96.5%、経常損失は19億7,200万円となった。
- ・ 各病院においては、新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行後の患者数の回復や経営改善による効果が現れてきたものの、経費の大幅な増加分を診療報酬改定で賄うことができず、厳しい経営状況が続いている。

中期計画		第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置						
中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(令6)		令和6年度実績 自己評価	
							本評価	説明
前文 地方独立行政法人静岡県立病院機構(以下「県立病院機構」という。)は、平成21年度の法人設立以降、県立3病院(県立総合病院、県立こころの医療センター、県立こども病院)を運営し、他の医療機関では対応困難な高度・専門医療等の提供をはじめ、救急医療や災害時医療の提供、公的医療機関への医師派遣など、本県の政策医療を担う重要な役割を果たし、地域医療の確保に貢献してきました。 平成26年度から平成30年度までの第2期中期目標期間においては、県立総合病院において先端医学棟を開棟するなど、医療の質の向上とその提供体制づくりに取り組むとともに、令和元年度から令和5年度までの第3期中期目標期間においては、新型コロナウイルスの感染拡大に対応するため、各病院ともに専用病床を確保するなど、県内の医療提供体制の確保に貢献してきました。 また、経営面においても、設立以降毎年度経常収支黒字を達成しており、健全な病院運営が続いております。 今後も人口減少・少子高齢化の進行や患者の受療行動が変化する中、地域における将来の医療需要を見据えつつ、新興感染症等や大規模災害などの緊急事態が発生した際にも機動的・弾力的に対応できるよう、質が高く効率的で持続可能な医療提供体制を整備するため、地域医療構想や地域包括ケアシステム、医師の働き方改革等の各種施策を一体的に推進していく必要があります。 このような中で、令和6年度から始まる第4期中期目標期間においては、本県の医療政策の方針を定めた静岡県保健医療計画や総務省が策定した公立病院経営強化ガイドラインを踏まえ、県立病院として、継続して本県の政策医療を担う重要な役割を果たし、地域医療の確保に貢献することとし、その機能を強化して、県民のニーズに応え、安全で質の高い医療の提供を図っていく必要があります。また、PDCAサイクルが適切に機能するために、県立病院機構が自主的に定量的目標を策定し、業務運営に取り組む必要があります。 この中期目標は、第4期中期目標期間における県立病院機構の業務運営の目標や方向性を示すものであり、本県の医療の確保や向上のため、県立病院機構が以下の項目に真摯に取り組む、目標が実現されることを強く求めるものであります。	前文 地方独立行政法人静岡県立病院機構(以下「県立病院機構」という。)は、平成21年度の法人設立以降、県立総合病院、県立こころの医療センター、県立こども病院(以下「県立病院」という。)を運営し、高度・専門・特殊医療や救急・急性期医療等の分野において第一級の病院であること、地域医療を確保するための支援の中心的機能を果たすことを使命とし、本県の政策医療を担い、効率的、効果的な病院運営に取り組んできました。 平成26年度から平成30年度までの第2期中期計画期間には、県立総合病院の先端医学棟を開棟するなど、県立病院では先進的な医療の提供や医療の更なる質の向上に取り組みました。また、令和元年度から令和5年度までの第3期中期計画期間においては、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、県と連携し専用病床を確保し医療提供体制を確保するなど県立病院としての使命を果たしてきました。 経営面では、経費の削減努力等により、県から示された中期目標期間を累計した損益計算において経常収支黒字を設立以降の各期間で達成しています。 令和6年度から始まる第4期中期計画期間においては、今後の更なる少子化による人口減少の進行や患者の受療行動の変化に伴う医療需要の変化に対応していくため、国における医療提供体制の改革をはじめ、静岡県保健医療計画や公立病院経営強化ガイドラインを踏まえ、県立病院が求められる役割を果たせるよう取り組みます。 具体的な取組としては、引き続き「がん医療」、「循環器医療」、「救急医療」等の高度で専門的な医療の提供や地域医療の支援に重点を置いて、医療技術の進歩を的確に取り入れ、県民の医療に対する期待に応えるべく、安全で質の高い先進的な医療の提供に積極的に努めます。 県立病院機構は、下記の基本方針に従って中期計画を策定し、県から示された中期目標の達成に向けて全職員が協力して取り組み、県民の信頼と安心を得る病院であり 続け、本県の医療の確保と向上に貢献していきます。	県立病院機構は、第4期中期計画期間の初年度を迎えるにあたり、引き続き「第一級の病院」、「地域医療支援の中心的機能」など、中期目標において求められている役割を果たしていくことを最優先課題として取り組んでいく。 このため、積極的な人材確保、環境改善及び医療の質の向上、地域医療機関との更なる連携、業務量に基づく収支計画、法人の特色を活かした経営の効率化、将来を見据えた資本整備、第4期中期計画期間を累計した経常収支比率 100%の達成を念頭に、令和6年度重点事業、予算・収支計画・資金計画等を以下のとおり定める。	—	—				
1 「信頼と根拠に基づく最適な医療を安全に提供する」ことを診療の基本姿勢に据え、本県医療の規範となるべく医療の提供に努めること。 2 本県の地域医療を支える最後の砦たることを目指し、他の医療機関では対応困難な高度又は特殊な医療などの政策医療や不採算医療の提供に一層取り組むこと。 3 医師の確保及び育成に努めるとともに、地域医療を担う公的医療機関への医師派遣を行うこと。また、県との協働により、本県の医師確保対策に取り組むこと。	1 科学的根拠に基づく最適な医療を安全に提供し、県民に信頼される「第一級の病院」として、本県医療の規範となる役割を果たす。 2 「地域医療支援の中心的機能」を果たすため、高度・専門・特殊医療、救急・急性期医療等、他の医療機関では対応困難な医療や不採算医療など、県の医療政策に対し積極的に取り組む。 3 教育研修をはじめ、臨床研究機能の充実強化、勤務環境を向上することにより魅力ある病院づくりに努め、優秀な人材の確保と育成及び県との協働による本県の医師確保対策に取り組む。							

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(令6)	令和6年度実績 自己評価																																											
						本評価	説明																																										
4 様々な領域において医療の質の向上を目指した先駆的な取組に挑戦し、成果を上げること。これらの成果を情報発信し、県民や他の医療機関と共有すること。	4 職員一人一人が医療の質の向上を目指し、先駆的な取組や業務の改革と改善に努め、その成果を情報発信し、県民や他の医療機関との共有を図る。また、全ての職員が職務について高い満足度を持って取り組むことのできる勤務環境の構築に努める。																																																
5 研究環境の充実により、臨床技術・研究能力の高い医師の確保・育成に努め、地域医療水準の向上に取り組むこと。また、静岡社会健康医学大学院大学との連携や県立総合病院のリサーチサポートセンターの活用などにより、臨床医学や県が推進する社会健康医学などの研究を推進し、新しい医療を創出する研究中核拠点を目指すこと。	5 県立総合病院のリサーチサポートセンターを活用し、県立病院機構において臨床研究に取り組み、県内医療水準の向上と医療人材の確保・育成に努める。併せて静岡社会健康医学大学院大学との連携などにより、臨床医学や県が推進する社会健康医学などの研究を推進し、新しい医療を創出する研究中核拠点の構築に取り組む。																																																
第1 中期目標の期間 令和6年4月1日から令和11年3月31日までの5年間とする。	第1 中期計画の期間 令和6年4月1日から令和11年3月31日までの5年間とする。	- -		- -	- -																																												
第2 県民に対して提供する医療サービスその他の業務の質の向上に関する事項	第2 県民に対して提供する医療サービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置	第1 県民に対して提供する医療サービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置																																															
県立病院機構は、定款で定める業務について、質の向上に取り組み、多様化する県民の医療ニーズへの対応に努めること。また、その成果を県民や他の医療機関と共有できるよう、県民視点での情報発信に努めるほか、患者や家族が安心して治療できる環境を整備し、その満足度が高められるよう、創意工夫に取り組むこと。	県立病院では、県民の医療需要に的確に対応し、安全で質の高い医療の提供を図る。このためには、医療の品質管理が必要である。この医療の質を向上させるため、定量的目標を定め、適切な医療の提供を行い、県立病院にふさわしい優秀な人材の確保と育成、医療に関する調査及び研究、地域への支援、県民の安心、安全を守るための災害等における医療救護体制の整備に努める。																																																
1 医療の提供 医療機関として求められる基本的な診療理念や県立病院が担う役割を明確にし、他の医療機関との機能分担や連携のもと、医療の質の向上に努め、患者や家族、地域から信頼される医療を提供すること。	1 医療の提供 県立病院機構の職員は、県立病院が担う役割と責任を認識するとともに、医療機関に求められる基本的な診療理念を理解し、医療の提供に当たってはそれを実践する。	1 医療の提供																																															
(1) 基本的な診療理念 診療に当たっては、患者が最良の治療効果を得られるよう、患者との信頼関係の構築に努め、科学的根拠に基づく最適な医療を患者への十分な説明と同意のもとに安全に提供すること。	(1) 基本的な診療理念 診療に当たっては、患者自らが選択し納得できるよう、患者への十分な説明など、患者との信頼関係の構築に努め、科学的根拠に基づく医療を安全に提供するため、医療技術の向上、チーム医療の推進、医療安全対策の充実などに取り組む。	(1) 基本的な診療理念 各県立病院は、患者が選択し納得できる最良の医療を提供するため、次の事項等に取り組む。 ①・患者への十分な説明と同意の徹底 ②・医療技術の向上 ③・チーム医療の推進 ④・医療安全対策の充実 ⑤・患者満足度(入院・外来)の向上	- 1	- 各病院	- セカンドオピニオン数 (単位：件) <table><tr><td>区 分</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>6年度</td></tr><tr><td>総 合</td><td>112</td><td>114</td><td>114</td><td>82</td><td>110</td><td>101</td></tr><tr><td>こころ</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td></tr><tr><td>こども</td><td>48</td><td>74</td><td>48</td><td>45</td><td>30</td><td>26</td></tr></table> セカンドオピニオン情報提供料算定件数(総合) (単位：件) <table><tr><td>区 分</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>6年度</td></tr><tr><td>診療情報提供料(Ⅱ)</td><td>116</td><td>116</td><td>111</td><td>116</td><td>135</td><td>120</td></tr></table>	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	総 合	112	114	114	82	110	101	こころ	-	-	-	-	-	-	こども	48	74	48	45	30	26	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	診療情報提供料(Ⅱ)	116	116	111	116	135	120	A	令和6年度についても、患者の適切な医療が受けられる権利を尊重し、セカンドオピニオンを実施した。
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																											
総 合	112	114	114	82	110	101																																											
こころ	-	-	-	-	-	-																																											
こども	48	74	48	45	30	26																																											
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																											
診療情報提供料(Ⅱ)	116	116	111	116	135	120																																											
		①②③運用実績などのエビデンスに基づくクリニカルパスの新規作成や見直しを行う。	2	総合	クリニカルパス管理委員会において、新規作成及び修正に係る審議、承認を行った。 クリニカルパスの新規作成、適用率等実績 <table><tr><td>区 分</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>6年度</td></tr><tr><td>新規作成(件)</td><td>9</td><td>23</td><td>17</td><td>4</td><td>26</td><td>16</td></tr><tr><td>修正(件)</td><td>103</td><td>225</td><td>66</td><td>70</td><td>65</td><td>※ 63</td></tr><tr><td>適用率(%)</td><td>63.9</td><td>68.3</td><td>68.8</td><td>68.2</td><td>※ 74.2</td><td>※ 74.1</td></tr></table> ※電子カルテ更新等に伴う計算方法の見直しを実施。	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	新規作成(件)	9	23	17	4	26	16	修正(件)	103	225	66	70	65	※ 63	適用率(%)	63.9	68.3	68.8	68.2	※ 74.2	※ 74.1	A	クリニカルパスに関する運用・管理について、医療の質の向上や業務の効率化に繋がるよう、医療従事者が定期的に議論を行った。														
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																											
新規作成(件)	9	23	17	4	26	16																																											
修正(件)	103	225	66	70	65	※ 63																																											
適用率(%)	63.9	68.3	68.8	68.2	※ 74.2	※ 74.1																																											
		①②③入院における患者の負担軽減及び計画的でわかりやすい医療を提供するため、精神科に適したクリニカルパスを作成し導入する。	3	こころ	令和6年度末現在 稼働クリニカルパス4件(m-ECT、転倒転落、鑑定入院、クロザピン) 稼働クリニカルパス件数 (単位：件) <table><tr><td>区 分</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>6年度</td></tr><tr><td>稼働クリニカルパス</td><td>4</td><td>4</td><td>4</td><td>4</td><td>4</td><td>4</td></tr></table>	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	稼働クリニカルパス	4	4	4	4	4	4	A	医療の質の向上や業務の効率化に繋がるよう医療従事者が定期的に議論を行った。																												
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																											
稼働クリニカルパス	4	4	4	4	4	4																																											

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(令6)	令和6年度実績 自己評価	
						本評価	説明
			4	こども	稼働クリニカルパス件数 (単位：件) 区 分 元年度 2年度 3年度※1 4年度 5年度※2 6年度 稼働クリニカルパス 51 52 61 54 62 67 ※1 令和3年度は病棟工事に伴い、一時的に稼働させたクリニカルパスがあり件数が増加した。 ※2 令和5年度は電子カルテ更新に伴い、新規で稼働させたパスがあり件数が増加した。	A	入院における患者の負担軽減及び計画的でわかりやすい医療を提供するため、小児科に適したクリニカルパスを作成し導入している。 令和6年度は67件のクリニカルパスが稼働し、前年度に比べ件数が増加した。
			5		各病院	チーム医療の推進（カンファレンスの開催） 6年度末 区 分 チーム名 開催頻度 主要メンバー 総 合 栄養サポートチーム 2回/週 医師、看護師、薬剤師、栄養士、臨床検査技師 感染制御チーム 院内52回 院外4回/年 医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師 抗菌薬適正使用支援チーム 毎日 医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師 褥瘡対策チーム 1回/月 医師、看護師、栄養士 呼吸ケアチーム 1回/週 医師、看護師、臨床工学技師、理学療法士 認知症ケアチーム 1回/週 医師、看護師、薬剤師、社会福祉士、公認心理師 精神科リエゾンチーム 1回/週 医師、看護師、薬剤師 緩和ケアチーム 1回/週 医師、看護師、薬剤師、公認心理師、栄養士 糖尿病透析予防診療チーム 1回/週 医師、看護師、栄養士 排尿ケアチーム 1回/週 医師、看護師 FLS(骨折リエゾンサービス)チーム 1回/3ヶ月 医師、看護師、理学療法士、放射線技師、臨床検査技師、薬剤師、社会福祉士、栄養士 嚥下対策チーム 1回/週 医師、看護師、言語聴覚士、栄養士 要介護患者支援管理チーム 第1・3火木曜日 医師、看護師、理学療法士、社会福祉士 慢性腎臓病透析予防診療チーム 随時 医師、看護師、栄養士、薬剤師、理学療法士 こころ 栄養サポートチーム 週1回 医師・看護師・薬剤師・栄養士 感染防止対策チーム 院内週1回 院外5回/年 医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師 褥瘡対策チーム 1回/月 医師・看護師、薬剤師、栄養士 A C T（包括型地域生活支援? 9? 34） 随時 医師・看護師・精神保健福祉士等 こども 栄養サポートチーム 週1回 医師・看護師・栄養士等 感染防止対策チーム 院内52回 院外4回/年 医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師 緩和ケアチーム 1回/週 医師、看護師、薬剤師、臨床心理士、栄養士 褥瘡対策チーム 1回/月 医師・看護師 リハビリテーション 適宜（週1回程度） 医師・看護師・理学療法士等 チーム医療に対する診療報酬上の評価加算の状況 (単位：千円) 病院 項目 元年度 2年度 3年度 4年度 5年度 6年度 総 合 栄養サポートチーム 904 1,246 1,092 879 1,040 828 感染制御チーム 92,879 86,309 86,701 123,703 132,299 140,094 抗菌薬適正使用支援チーム 19,122 17,563 17,643 - - - 褥瘡対策チーム 2,085 755 1,630 2,545 1,160 1,715 呼吸ケアチーム 92 143 224 159 134 158 認知症ケアチーム 4,456 4,445 4,287 4,313 4,514 4,877 精神科リエゾンチーム 580 772 4,164 3,852 3,483 2,052 緩和ケアチーム 20,389 17,965 20,600 18,704 16,206 15,295 糖尿病透析予防診療チーム 998 431 235 168 294 182 排尿ケアチーム 212 388 536 350 500 422 FLS(骨折リエゾンサービス)チーム - - - - 1,360 1,970 嚥下対策チーム - - - - 517 633 要介護患者支援管理チーム - - - - 84 103 慢性腎臓病透析予防診療チーム - - - - - 348 計 141,717 130,017 137,112 154,673 161,591 168,675 こころ 感染防止対策チーム 368 290 347 344 515 637 計 368 290 347 344 515 637 こども 栄養サポートチーム 8 40 20 34 176 136 感染防止対策チーム 27,460 25,090 23,660 29,540 2,741 724 褥瘡対策チーム 2,535 2,550 2,470 1,280 1,575 105 緩和ケアチーム 136 590 310 340 728 949 リハビリテーション 58,836 59,137 72,397 71,689 75,490 86,681 計 88,975 87,407 98,857 102,883 80,710 88,595	A

中期目標		中期計画		年度計画		No		行動計画		業務の実績(令6)		令和6年度実績 自己評価				
												本評価	説明			
				6	④医療安全室及び感染対策委員会等を中心に、マニュアルの見直しや研修会を通じて院内感染防止対策・医療安全対策を実施する。	各病院（企画）	3病院で、以下のとおり研修等を実施し安全・安心な医療の提供に対する職員への意識づけと、体制整備を行っている。	医療安全対策、院内感染対策研修等				A	各病院では、感染対策委員会や医療安全委員会を行う他、研修についても法定回数を上回る実績を積んでいる等、継続的な対策研修の実施体制が確立している。 令和6年度も、新型コロナウイルス感染症の院内感染対策として、感染対策室を中心としたチームが感染防止に関する取組や情報収集などを行い、県との調整のうえ患者の受入を適切に行っている。 総合病院の医療安全研修においては、年2回以上の出席率100％を目標に取り組みを強化・継続し、結果R3年度以降出席率100％を達成した。			
					区分			集団感染数（件）		院内感染対策研修				医療安全対策研修		
					6年度			6年度		6年度				6年度		

中期目標		中期計画		年度計画		No	行動計画		業務の実績(令6)							令和6年度実績 自己評価																																																																																																										
																本評価	説明																																																																																																									
						12	②心疾患、脳卒中、がん、慢性腎臓病、大腿骨頸部骨折等の地域連携クリニカルパスを活用し、かかりつけ医やリハビリテーション病院との機能分担を推進する。	総合	<table><tr><td colspan="7">地域連携クリニカルパス(単位:件)</td></tr><tr><td>区 分</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>6年度</td></tr><tr><td>脳 卒 中</td><td>83</td><td>102</td><td>92</td><td>49</td><td>8</td><td>13</td></tr><tr><td>大 腿 骨 頸 部 骨 折</td><td>82</td><td>104</td><td>90</td><td>85</td><td>82</td><td>112</td></tr><tr><td>胃 が ん</td><td>55</td><td>51</td><td>55</td><td>54</td><td>40</td><td>46</td></tr><tr><td>大 腸 が ん</td><td>122</td><td>102</td><td>135</td><td>138</td><td>127</td><td>125</td></tr><tr><td>乳 が ん</td><td>128</td><td>102</td><td>116</td><td>103</td><td>108</td><td>110</td></tr><tr><td>前 立 腺 が ん</td><td>16</td><td>20</td><td>35</td><td>43</td><td>45</td><td>31</td></tr><tr><td>虚 血 性 心 疾 患</td><td>73</td><td>67</td><td>33</td><td>32</td><td>27</td><td>32</td></tr><tr><td>心 房 細 動</td><td>4</td><td>1</td><td>2</td><td>1</td><td>0</td><td>3</td></tr><tr><td>慢 性 腎 臓 病</td><td>40</td><td>29</td><td>25</td><td>31</td><td>30</td><td>16</td></tr><tr><td>肺 が ん</td><td>2</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>肝 が ん</td><td>-</td><td>-</td><td>2</td><td>0</td><td>1</td><td>0</td></tr><tr><td>潰 瘍 性 大 腸 炎</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>1</td><td>0</td><td>1</td></tr><tr><td>計</td><td>605</td><td>578</td><td>585</td><td>537</td><td>468</td><td>489</td></tr></table>							地域連携クリニカルパス(単位:件)							区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	脳 卒 中	83	102	92	49	8	13	大 腿 骨 頸 部 骨 折	82	104	90	85	82	112	胃 が ん	55	51	55	54	40	46	大 腸 が ん	122	102	135	138	127	125	乳 が ん	128	102	116	103	108	110	前 立 腺 が ん	16	20	35	43	45	31	虚 血 性 心 疾 患	73	67	33	32	27	32	心 房 細 動	4	1	2	1	0	3	慢 性 腎 臓 病	40	29	25	31	30	16	肺 が ん	2	0	0	0	0	0	肝 が ん	-	-	2	0	1	0	潰 瘍 性 大 腸 炎	-	-	-	1	0	1	計	605	578	585	537	468	489	A	令和6年度も、地域の医療機関等との連携により、地域連携クリニカルパスの適用を推進し、円滑な運用に努めた。
地域連携クリニカルパス(単位:件)																																																																																																																										
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																																																				
脳 卒 中	83	102	92	49	8	13																																																																																																																				
大 腿 骨 頸 部 骨 折	82	104	90	85	82	112																																																																																																																				
胃 が ん	55	51	55	54	40	46																																																																																																																				
大 腸 が ん	122	102	135	138	127	125																																																																																																																				
乳 が ん	128	102	116	103	108	110																																																																																																																				
前 立 腺 が ん	16	20	35	43	45	31																																																																																																																				
虚 血 性 心 疾 患	73	67	33	32	27	32																																																																																																																				
心 房 細 動	4	1	2	1	0	3																																																																																																																				
慢 性 腎 臓 病	40	29	25	31	30	16																																																																																																																				
肺 が ん	2	0	0	0	0	0																																																																																																																				
肝 が ん	-	-	2	0	1	0																																																																																																																				
潰 瘍 性 大 腸 炎	-	-	-	1	0	1																																																																																																																				
計	605	578	585	537	468	489																																																																																																																				
						13	③④地域医療ネットワークシステムを整備・活用する。	各病院	<table><tr><td colspan="7">ネットワーク実績(単位:件)</td></tr><tr><td>区分</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>6年度</td></tr><tr><td>開示施設数</td><td>16</td><td>19</td><td>19</td><td>20</td><td>20</td><td>20</td></tr><tr><td>開示件数(累計)</td><td>33,400</td><td>38,366</td><td>44,142</td><td>51,645</td><td>59,871</td><td>67,764</td></tr><tr><td>開示件数(新規)</td><td>4,668</td><td>4,966</td><td>5,776</td><td>7,503</td><td>8,226</td><td>7,893</td></tr><tr><td>参照施設数</td><td>118</td><td>123</td><td>129</td><td>129</td><td>123</td><td>116</td></tr><tr><td>病院</td><td>13</td><td>15</td><td>16</td><td>16</td><td>16</td><td>17</td></tr><tr><td>診療所</td><td>72</td><td>73</td><td>77</td><td>78</td><td>76</td><td>72</td></tr><tr><td>保険薬局</td><td>25</td><td>29</td><td>31</td><td>31</td><td>27</td><td>24</td></tr><tr><td>訪問看護ステーション</td><td>7</td><td>5</td><td>4</td><td>3</td><td>3</td><td>2</td></tr><tr><td>介護福祉施設</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr></table> 「ふじのくにバーチャル・メガ・ホスピタル」について、情報の開示施設である各地域の中核病院、自治体病院、診療所・医師会とともに「ふじのくにバーチャル・メガ・ホスピタル協議会」を運営し、複数医療機関相互の診療情報共有のため広域ネットワーク基盤を構築して運用している。							ネットワーク実績(単位:件)							区分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	開示施設数	16	19	19	20	20	20	開示件数(累計)	33,400	38,366	44,142	51,645	59,871	67,764	開示件数(新規)	4,668	4,966	5,776	7,503	8,226	7,893	参照施設数	118	123	129	129	123	116	病院	13	15	16	16	16	17	診療所	72	73	77	78	76	72	保険薬局	25	29	31	31	27	24	訪問看護ステーション	7	5	4	3	3	2	介護福祉施設	1	1	1	1	1	1	A	医療機関を標的としたサイバー攻撃が発生していることから、開示施設と協力して、よりセキュリティが強化された新しいVPNサービスへの移行を行うなど、ふじのくにねっとのセキュリティ対策に努めた。																												
ネットワーク実績(単位:件)																																																																																																																										
区分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																																																				
開示施設数	16	19	19	20	20	20																																																																																																																				
開示件数(累計)	33,400	38,366	44,142	51,645	59,871	67,764																																																																																																																				
開示件数(新規)	4,668	4,966	5,776	7,503	8,226	7,893																																																																																																																				
参照施設数	118	123	129	129	123	116																																																																																																																				
病院	13	15	16	16	16	17																																																																																																																				
診療所	72	73	77	78	76	72																																																																																																																				
保険薬局	25	29	31	31	27	24																																																																																																																				
訪問看護ステーション	7	5	4	3	3	2																																																																																																																				
介護福祉施設	1	1	1	1	1	1																																																																																																																				
(3) 県立病院が重点的に取り組む医療		(3) 県立病院が重点的に取り組む医療		(3) 県立病院が重点的に取り組む医療	-	-	-	-	-							-	-																																																																																																									
県立総合病院においては、中核的医療を行う基幹病院として、先端医学棟の設備・機能を最大限に活用し、3大疾患(がん、脳血管疾患、心疾患)を中心に高度・専門医療や急性期医療等を提供すること。また、高度救命救急センターの運用による広範囲熱傷等の特殊疾病患者の受入れ等、高度救急医療を継続して提供するほか、広域的な救急医療の提供への対応を図ること。 なお、中期目標期間の各事業年度において、病床稼働率 90%以上、入院患者満足度 90%以上、外来患者満足度 85%以上の達成を目指すこと。 県立こころの医療センターにおいては、精神科救急・急性期医療の提供や他の医療機関では対応困難な治療の実施及び司法精神医療の充実を図るほか、近年増加している認知症や依存症など多様な精神疾患への対応、より良い療養環境の整備や早期入院・早期社会復帰を支援する医療提供体制の充実・強化に努めること。 なお、中期目標期間の各事業年度において、病床稼働率 85%以上、外来患者満足度 85%以上の達成を目指すこと。 県立こども病院においては、小児分野の中核的医療を行う基幹病院として、小児重症心疾患患者やハイリスク胎児・妊婦、新生児に対する高度・先進医療を提供すること。また、小児がん拠点病院としての機能強化、高度な小児救急医療の充実及び児童精神分野の医療の充実を図るほか、患者の円滑な退院・在宅移行を支援する体制整備に努めること。		県が掲げる6疾病6事業を念頭に、各県立病院が専門性を活かしつつ、県立病院間や地域の医療機関との連携を強化して、病態に即した的確な医療を提供する。特に、全国的な課題とされている救急医療や急性期医療の充実に重点的に取り組む。		各県立病院は、県が求める政策医療を念頭に、それぞれの特性を生かし、以下の医療に重点的に取り組む。	-	-	-	-	-							-	-																																																																																																									
ア 循環器疾患・がんについては、小児は県立こども病院が、成人は県立総合病院がそれぞれ県内の中核病院の機能を果たしていく。		ア 循環器疾患・がん疾患については、小児は県立こども病院が、成人は県立総合病院がそれぞれ県内の中核病院の機能を果たしていく。		-	-	-	-	-	-							-	-																																																																																																									
イ 周産期医療における産科合併症、脳卒中中等産科以外の疾患による合併症及び小児から成人まで精神疾患を持つ患者に対する継続的治療、精神科患者の身体合併症や依存症など多様な精神疾患については、各県立病院が連携して取り組む。		イ 周産期医療における産科合併症、脳卒中中等産科以外の疾患による合併症及び小児から成人まで精神疾患を持つ患者に対する継続的治療、精神科患者の身体合併症や依存症など多様な精神疾患については、各県立病院が連携して取り組む。		14	周産期医療、精神科患者の身体合併症、認知症に対して、機構内3病院が連携し、より適切な医療の提供を行う。	各病院	児童の措置入院等、こども病院での受入れが困難な場合はこころの医療センターにて受入れている。 <table><tr><td colspan="7">周産期医療における搬送実績(単位:件)</td></tr><tr><td>区 分</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>6年度</td></tr><tr><td>こども→総合</td><td>7</td><td>3</td><td>3</td><td>2</td><td>2</td><td>1</td></tr><tr><td>総合→こども</td><td>13</td><td>13</td><td>9</td><td>9</td><td>6</td><td>8</td></tr></table> <table><tr><td colspan="7">こころの医療センターから総合病院への身体合併症による搬送件数(単位:人)</td></tr><tr><td>区 分</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>6年度</td></tr><tr><td>こころ→総合</td><td>6</td><td>4</td><td>8</td><td>8</td><td>12</td><td>22</td></tr></table>							周産期医療における搬送実績(単位:件)							区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	こども→総合	7	3	3	2	2	1	総合→こども	13	13	9	9	6	8	こころの医療センターから総合病院への身体合併症による搬送件数(単位:人)							区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	こころ→総合	6	4	8	8	12	22	A	3病院1法人のメリットを活かし、患者の搬送、医師の応援体制等病院間の連携協力体制を構築している。 総合病院に常勤の精神科医師を4名配置し、精神科医療体制の構築に向けた連携を実施しており、精神科患者の身体合併症に対応した病棟を運用している。 こころの医療センターの入院患者で身体合併症のある持つ患者の総合病院への搬送は22件行われており、同一機構内の病院同士の連携が図られた。 こども病院から総合病院に母体搬送が行われるなど、同一法人のメリットを活かし、搬送時のスムーズな医師の応援派遣や設備の有効活用を図った。																																																										
周産期医療における搬送実績(単位:件)																																																																																																																										
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																																																				
こども→総合	7	3	3	2	2	1																																																																																																																				
総合→こども	13	13	9	9	6	8																																																																																																																				
こころの医療センターから総合病院への身体合併症による搬送件数(単位:人)																																																																																																																										
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																																																				
こころ→総合	6	4	8	8	12	22																																																																																																																				

										令和6年度実績 自己評価																																																																																																																																								
中期目標		中期計画		年度計画		No		行動計画		業務の実績（令6）		本評価	説明																																																																																																																																					
	なお、中期目標期間の各事業年度において、病床稼働率 75％以上、入院患者満足度 90％以上、外来患者満足度 90％以上の達成を目指すこと。 さらに、県立3病院は、新型コロナウイルス感染症等の新興感染症に備え、平時から感染拡大時を想定した体制の確保を進めるとともに、結核、エイズ等のその他の感染症医療や難病医療、移植医療、アレルギー疾患医療等を提供すること。また、認知症をはじめとした精神科患者の身体合併症、依存症など多様な精神疾患、周産期医療における産科合併症以外の合併症及び二次的障害を含む発達障害など、一病院では対応が困難な分野においては、県立3病院のそれぞれの特性を活かし、相互に連携を取り、適切な対応を図ること。 その他、移行期医療や医療的ケア児への対応など新たな課題に取り組み、今後の疾病構造や県民の医療ニーズの変化等に対応し、県が求める政策医療に協力すること。また、医療施設や機器の整備については計画的に実施するとともに、県民の医療ニーズの変化や医療技術の進展に応じ、機動的な対応を行うこと。	ウ 結核指定医療機関、エイズ拠点病院及び難病医療協力病院等として感染症医療や難病医療、移植医療、アレルギー疾患医療に着実に取り組む。	ウ 結核指定医療機関、エイズ拠点病院及び難病医療協力病院等として感染症医療や難病医療、移植医療、アレルギー疾患医療に着実に取り組む。	15	【総】・結核病床を維持するとともに、モデル病床設置に向けた整備を進める。また各種感染症や難病、アレルギー疾患医療は県内医療機関との連携・協力関係を進める。 【総・子】・腎臓移植、造血幹細胞移植、強角膜片作成（総合病院のみ）等への取組みを継続する。 【子】・アレルギー疾患拠点病院として、講習会の実施等の取組みを継続する。	(総合) 結核病棟は50床で運用している。 エイズ拠点病院としてエイズ患者の受入体制を整えている。 入院患者数 (単位：人) <table><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2 年度</th><th>3 年度</th><th>4年度</th><th>5 年度</th><th>6 年度</th></tr><tr><td>エイズ</td><td colspan="6">非公開</td></tr><tr><td>結 核</td><td>92</td><td>95</td><td>85</td><td>48</td><td>54</td><td>59</td></tr></table> 移植実績 (単位：件) <table><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2 年度</th><th>3 年度</th><th>4年度</th><th>5 年度</th><th>6 年度</th></tr><tr><td>腎移植</td><td>17</td><td>12</td><td>10</td><td>13</td><td>12</td><td>10</td></tr><tr><td>造血幹細胞移植</td><td>14</td><td>13</td><td>12</td><td>14</td><td>16</td><td>15</td></tr><tr><td>強角膜片作成</td><td>3</td><td>1</td><td>0</td><td>2</td><td>1</td><td>0</td></tr><tr><td>計</td><td>34</td><td>26</td><td>22</td><td>29</td><td>29</td><td>25</td></tr></table> 総合・こども (こども) 造血幹細胞移植実績 (単位：件) <table><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2 年度</th><th>3 年度</th><th>4 年度</th><th>5 年度</th><th>6 年度</th></tr><tr><td>骨髄移植</td><td>2</td><td>8</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td><td>5</td></tr><tr><td>臍帯血</td><td>3</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>4</td></tr><tr><td>自家末梢血</td><td>4</td><td>1</td><td>1</td><td>4</td><td>2</td><td>6</td></tr><tr><td>同種末梢血</td><td>1</td><td>1</td><td>0</td><td>1</td><td>2</td><td>0</td></tr><tr><td>計</td><td>10</td><td>12</td><td>6</td><td>10</td><td>9</td><td>15</td></tr></table> ・腎臓移植は、令和2年度以降は行われていない。 アレルギー疾患に関する研修会・講演会開催件数 (単位：件) <table><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2 年度</th><th>3 年度</th><th>4 年度</th><th>5 年度</th><th>6 年度</th></tr><tr><td>総 合</td><td>1</td><td>0</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><td>こども</td><td>3</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>3</td><td>6</td></tr></table> アレルギー教室開催実績 (単位：件) <table><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2 年度</th><th>3 年度</th><th>4 年度</th><th>5 年度</th><th>6 年度</th></tr><tr><td>件数</td><td>3</td><td>1</td><td>2</td><td>2</td><td>3</td><td>3</td></tr></table>						区 分	元年度	2 年度	3 年度	4年度	5 年度	6 年度	エイズ	非公開						結 核	92	95	85	48	54	59	区 分	元年度	2 年度	3 年度	4年度	5 年度	6 年度	腎移植	17	12	10	13	12	10	造血幹細胞移植	14	13	12	14	16	15	強角膜片作成	3	1	0	2	1	0	計	34	26	22	29	29	25	区 分	元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	骨髄移植	2	8	3	3	3	5	臍帯血	3	2	2	2	2	4	自家末梢血	4	1	1	4	2	6	同種末梢血	1	1	0	1	2	0	計	10	12	6	10	9	15	区 分	元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	総 合	1	0	1	1	1	1	こども	3	2	2	2	3	6	区 分	元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	件数	3	1	2	2	3	3	A	(総合) 結核病棟については、新型コロナウイルス感染症の5類移行後も継続して50床を維持し、県内の結核患者を受入可能な体制を整えている。 移植については、生体移植を含めた腎移植、造血幹細胞移植、強角膜片作成を実施している。令和6年度も、前年度に引き続き同水準で移植をしている。 新型コロナウイルス感染症患者の受入について、令和5年5月8日より5類に移行後は、国の方針に基づき、一般病棟での対応を行い、地域の新型コロナウイルス感染症患者の受入を行っている。 (こども) 移植医療に関しては、先進的医療である造血幹細胞移植に継続的に取り組み、前年度実績を上回る15件を実施した。 また、アレルギー疾患に関する県民向け・医療者向けの講習会を3回実施しており、アレルギー疾患医療拠点病院としての役割を着実に果たしている。
						区 分	元年度	2 年度	3 年度	4年度	5 年度	6 年度																																																																																																																																						
エイズ	非公開																																																																																																																																																	
結 核	92	95	85	48	54	59																																																																																																																																												
区 分	元年度	2 年度	3 年度	4年度	5 年度	6 年度																																																																																																																																												
腎移植	17	12	10	13	12	10																																																																																																																																												
造血幹細胞移植	14	13	12	14	16	15																																																																																																																																												
強角膜片作成	3	1	0	2	1	0																																																																																																																																												
計	34	26	22	29	29	25																																																																																																																																												
区 分	元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度																																																																																																																																												
骨髄移植	2	8	3	3	3	5																																																																																																																																												
臍帯血	3	2	2	2	2	4																																																																																																																																												
自家末梢血	4	1	1	4	2	6																																																																																																																																												
同種末梢血	1	1	0	1	2	0																																																																																																																																												
計	10	12	6	10	9	15																																																																																																																																												
区 分	元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度																																																																																																																																												
総 合	1	0	1	1	1	1																																																																																																																																												
こども	3	2	2	2	3	6																																																																																																																																												
区 分	元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度																																																																																																																																												
件数	3	1	2	2	3	3																																																																																																																																												
エ 新型コロナウイルス感染症等の新興感染症や再興感染症の感染拡大に備え、平時から、各県立病院が連携し、患者等の受入体制の確保に取り組む。	エ SARS-CoV-2（新型コロナウイルス）感染症等の新興感染症や再興感染症の感染拡大に備え、平時から、県及び各県立病院の連携により、患者等の受入体制の確保に取り組む。	16	SARS-CoV-2（新型コロナウイルス）などの新興感染症について、県との連携・協力体制を整備し、診療機能の強化に努めるほか病床を確保するなど拡大防止に対応できる体制を充実し、県の中核病院としての役割を果たす。	各病院 ・具体的体制の確立と進捗状況 「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」に基づき、令和6年5月、静岡県と3病院の間で医療提供の分担・確保に係る協定（医療措置協定）を締結し、協定指定医療機関に指定された。また、こども病院では、県と感染症指定医療機関の指定に向けた調整を行っている。	A	新興感染症の発生・蔓延時には、県からの要請を受け、病床の確保による入院医療の提供や自宅療養者等への医療の提供が可能な体制を整えている。 こども病院では、感染症においても県内小児医療の最後の砦としての役割を果たすべく、県と感染症指定医療機関の指定に向けた調整を行っている。																																																																																																																																												

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(令6)	令和6年度実績 自己評価																																																																		
						本評価	説明																																																																	
	オ リハビリテーションや相談援助の体制を充実し、患者の社会復帰、生活支援、就学・就労につながる支援等に取り組む。	オ リハビリテーションや相談援助の体制を充実し、患者の社会復帰、生活支援、就学・就労につながる支援等に取り組む。	17～19	【総】・リハビリテーション、相談援助・支援を強化し、退院調整を積極的に行う。 【心】・患者の社会復帰に向け、リハビリテーション活動を充実させる。 【心】・患者の地域での生活を支援するため、訪問看護を充実させる。 【子】・言語聴覚業務における学校現場との連携、理学療法における退院後のフォロー、作業療法における急性期作業療法他の充実を図る。	総合 <table><tr><td colspan="7">患者サポートセンター退院調整件数 (単位：件)</td></tr><tr><td>区 分</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>6年度</td></tr><tr><td>件数</td><td>5,217</td><td>6,007</td><td>6,517</td><td>6,661</td><td>6,618</td><td>7,097</td></tr></table> <table><tr><td colspan="7">退院支援関係診療報酬算定件数実績 (単位：件)</td></tr><tr><td>区 分</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>6年度</td></tr><tr><td>入退院支援加算1</td><td>3,987</td><td>5,403</td><td>6,008</td><td>5,890</td><td>6,004</td><td>6,352</td></tr><tr><td>退院時リハビリテーション指導料</td><td>1,113</td><td>3,529</td><td>2,957</td><td>2,839</td><td>2,979</td><td>2,948</td></tr><tr><td>計</td><td>5,100</td><td>8,932</td><td>8,965</td><td>8,729</td><td>8,983</td><td>9,300</td></tr></table>	患者サポートセンター退院調整件数 (単位：件)							区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	件数	5,217	6,007	6,517	6,661	6,618	7,097	退院支援関係診療報酬算定件数実績 (単位：件)							区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	入退院支援加算1	3,987	5,403	6,008	5,890	6,004	6,352	退院時リハビリテーション指導料	1,113	3,529	2,957	2,839	2,979	2,948	計	5,100	8,932	8,965	8,729	8,983	9,300	A	患者サポートセンターの看護師、MSWや理学療法士等が中心となり、入院早期から退院調整を積極的に支援している。									
					患者サポートセンター退院調整件数 (単位：件)																																																																			
					区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																													
件数	5,217	6,007	6,517	6,661	6,618	7,097																																																																		
退院支援関係診療報酬算定件数実績 (単位：件)																																																																								
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																		
入退院支援加算1	3,987	5,403	6,008	5,890	6,004	6,352																																																																		
退院時リハビリテーション指導料	1,113	3,529	2,957	2,839	2,979	2,948																																																																		
計	5,100	8,932	8,965	8,729	8,983	9,300																																																																		
個別 <table><tr><td colspan="7">精神科作業療法及び訪問看護を通じて、患者の社会復帰を支援している。また、在宅においてよりの確な支援を行うため、訪問看護の充実を図り、看護師に加えて精神保健福祉士や作業療法士などを含めた複数訪問の積極的な実施に努めている。</td></tr><tr><td colspan="7">訪問看護実施件数 (単位：件)</td></tr><tr><td>区 分</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>6年度</td></tr><tr><td>訪問看護実施件数</td><td>3,704</td><td>3,841</td><td>3,643</td><td>3,726</td><td>4,121</td><td>4,852</td></tr><tr><td>(うち複数職種訪問)</td><td>38</td><td>46</td><td>37</td><td>71</td><td>57</td><td>34</td></tr></table> <table><tr><td colspan="7">精神科作業療法実施実績 (単位：件)</td></tr><tr><td>区 分</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>6年度</td></tr><tr><td>精神科作業療法</td><td>4,483</td><td>5,427</td><td>4,552</td><td>4,010</td><td>3,969</td><td>4,168</td></tr><tr><td>デイケア</td><td>4,462</td><td>2,653</td><td>1,388</td><td>1,875</td><td>2,595</td><td>3,575</td></tr><tr><td>計</td><td>8,945</td><td>8,080</td><td>5,940</td><td>5,885</td><td>6,564</td><td>7,743</td></tr></table>	精神科作業療法及び訪問看護を通じて、患者の社会復帰を支援している。また、在宅においてよりの確な支援を行うため、訪問看護の充実を図り、看護師に加えて精神保健福祉士や作業療法士などを含めた複数訪問の積極的な実施に努めている。							訪問看護実施件数 (単位：件)							区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	訪問看護実施件数	3,704	3,841	3,643	3,726	4,121	4,852	(うち複数職種訪問)	38	46	37	71	57	34	精神科作業療法実施実績 (単位：件)							区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	精神科作業療法	4,483	5,427	4,552	4,010	3,969	4,168	デイケア	4,462	2,653	1,388	1,875	2,595	3,575	計	8,945	8,080	5,940	5,885	6,564	7,743	A	令和6年度から発達障害など利用者の新たな需要に対応するプログラムを作成したことに加え、従来から行っているポスター掲示やパンフレットの配架等の広報活動を行い、利用の増加に努めている。 入院患者、外来患者ともに必要とされる支援が多様化してきているが、患者それぞれの状態に応じたプログラムを積極的に実施した。 また、国が示す精神疾患を有する者の地域移行・地域定着に向けた重点的な支援を実施するため、在宅においてよりの確な支援を行うべく、訪問看護の積極的な実施にも努めている。
精神科作業療法及び訪問看護を通じて、患者の社会復帰を支援している。また、在宅においてよりの確な支援を行うため、訪問看護の充実を図り、看護師に加えて精神保健福祉士や作業療法士などを含めた複数訪問の積極的な実施に努めている。																																																																								
訪問看護実施件数 (単位：件)																																																																								
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																		
訪問看護実施件数	3,704	3,841	3,643	3,726	4,121	4,852																																																																		
(うち複数職種訪問)	38	46	37	71	57	34																																																																		
精神科作業療法実施実績 (単位：件)																																																																								
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																		
精神科作業療法	4,483	5,427	4,552	4,010	3,969	4,168																																																																		
デイケア	4,462	2,653	1,388	1,875	2,595	3,575																																																																		
計	8,945	8,080	5,940	5,885	6,564	7,743																																																																		
				個別 <table><tr><td colspan="7">リハビリ実施実績 (単位：件)</td></tr><tr><td>区 分</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>6年度</td><td>毎年度目標</td></tr><tr><td>理学療法</td><td>22,829</td><td>22,985</td><td>24,683</td><td>25,770</td><td>26,886</td><td>34,097</td><td>20,000</td></tr><tr><td>作業療法</td><td>4,546</td><td>3,813</td><td>7,794</td><td>11,495</td><td>11,333</td><td>10,566</td><td>—</td></tr><tr><td>言語聴覚療法</td><td>9,744</td><td>10,162</td><td>10,045</td><td>9,555</td><td>10,332</td><td>11,053</td><td>—</td></tr><tr><td>計</td><td>37,119</td><td>36,960</td><td>42,522</td><td>46,820</td><td>48,551</td><td>55,716</td><td>—</td></tr></table>	リハビリ実施実績 (単位：件)							区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	毎年度目標	理学療法	22,829	22,985	24,683	25,770	26,886	34,097	20,000	作業療法	4,546	3,813	7,794	11,495	11,333	10,566	—	言語聴覚療法	9,744	10,162	10,045	9,555	10,332	11,053	—	計	37,119	36,960	42,522	46,820	48,551	55,716	—	S	令和6年度リハビリ実施件数は、過去最大件数であった令和5年度の数値を大幅に上回る結果となった。作業療法及び言語聴覚療法は令和5年度並の件数で推移しており、理学療法は前年度比127%となった。 理学療法に関しては、令和6年度に療法士2名が増員され件数の増加につながっている。また、令和4年度から算定可能となったPICUでの早期離床・リハビリテーション加算(入室後14日間に500点/人/日)について、令和6年度もPICU入室患者のほぼ全例に早期離床の介入ができている。結果、早期離床への意識も高まりPICU退室後もシームレスな機能回復の継続を目的に各主治医からのリハビリの処方が増加している。 今後もリハビリの質の向上に向けて、全療法士対象の研修をより一層充実させていく。																			
リハビリ実施実績 (単位：件)																																																																								
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	毎年度目標																																																																	
理学療法	22,829	22,985	24,683	25,770	26,886	34,097	20,000																																																																	
作業療法	4,546	3,813	7,794	11,495	11,333	10,566	—																																																																	
言語聴覚療法	9,744	10,162	10,045	9,555	10,332	11,053	—																																																																	
計	37,119	36,960	42,522	46,820	48,551	55,716	—																																																																	
	カ 遺伝子解析・診断を活用した疾患の予防、治療及び相談支援に取り組む。	カ 遺伝子解析・診断を活用した疾患の予防、治療及び相談支援に取り組む。	20	・遺伝子診療に関して、体制の整備・充実を図る。	総合 <table><tr><td colspan="7">遺伝診療科受診者数 (単位：人)</td></tr><tr><td>区 分</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>6年度</td></tr><tr><td>受診者数</td><td>146</td><td>227</td><td>233</td><td>270</td><td>266</td><td>336</td></tr></table> <table><tr><td colspan="6">【参考】エキスパートパネル実施件数 (単位：人)</td></tr><tr><td>区 分</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>6年度</td></tr><tr><td>受診者数</td><td>38</td><td>46</td><td>46</td><td>94</td><td>111</td></tr></table> <table><tr><td colspan="6">【参考】遺伝カウンセリング件数 (単位：人)</td></tr><tr><td>区 分</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>6年度</td></tr><tr><td>受診者数</td><td>227</td><td>233</td><td>270</td><td>266</td><td>336</td></tr></table>	遺伝診療科受診者数 (単位：人)							区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	受診者数	146	227	233	270	266	336	【参考】エキスパートパネル実施件数 (単位：人)						区 分	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	受診者数	38	46	46	94	111	【参考】遺伝カウンセリング件数 (単位：人)						区 分	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	受診者数	227	233	270	266	336	A	保険適応となる遺伝学的検査項目の増加に伴い、各診療科と遺伝診療科、検査部門が連携し、遺伝学的検査の出検体制が整備されたことで、スムーズな運用が可能になったことから、令和6年度の患者数・カウンセリング件数は増加した。また、遺伝カウンセラーの人数が、令和5年度から2名増加の5名となり、各診療科からの依頼に、よりタイムリーに対応できるようになった。								
遺伝診療科受診者数 (単位：人)																																																																								
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																		
受診者数	146	227	233	270	266	336																																																																		
【参考】エキスパートパネル実施件数 (単位：人)																																																																								
区 分	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																			
受診者数	38	46	46	94	111																																																																			
【参考】遺伝カウンセリング件数 (単位：人)																																																																								
区 分	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																			
受診者数	227	233	270	266	336																																																																			

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(令6)	令和6年度実績 自己評価																																																																																
						本評価	説明																																																																															
		キ 認知症については、鑑別診断や周辺症状と身体合併に対する急性期治療、専門医療相談等の実施に取り組む。発達障害については、早期療育につながる鑑別診断や治療を実施する。また、地域の保健福祉関係者への助言等の医学的支援や、医療従事者や教育関係者に対する研修の実施に取り組む。	キ 認知症については、鑑別診断や周辺症状と身体合併に対する急性期治療、専門医療相談等の実施に取り組む。発達障害については、早期療育につながる鑑別診断や治療を実施する。これらを含む多様な精神疾患や身体合併症など精神科医療に対する要望等を受け、総合的に必要な医療を受けられる体制の整備を進める。また、地域の保健福祉関係者への助言等の医学的支援や、医療従事者や教育関係者に対する研修の実施に取り組む。	21～23	【総】・アミロイドPETの検査施設として、適切に検査を実施する。 ・精神科身体合併症病棟においては、総合的な医療機能を活かし、精神障害者のあらゆる身体合併症への高度医療を提供する。 ・鑑別診断や周辺症状と身体合併に対する急性期治療、認知症ケアチームの介入、専門医療相談等を推進する。 ・精神科リエゾンチームの運営を拡充し、精神科身体合併症病棟の業務を充実する。 【心】・症状が重篤な認知症患者を受入れるための、精神科救急・急性期医療体制を確保する。 【心】・老年期特有の専門外来(老年期こころと物忘れ外来)により専門的な医療相談を実施する。 【子】・発達障害については、従来からの新生児退院診察や、新生児包括外来における低体重出生児の発達フォローを継続し、保護者向けのペアレントトレーニングについても継続して取り組む。	総合	<table><tr><td colspan="7">脳FDG-PET (単位：件)</td></tr><tr><td>区 分</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>6年度</td></tr><tr><td>実施件数</td><td>160</td><td>128</td><td>142</td><td>149</td><td>162</td><td>171</td></tr></table> <table><tr><td colspan="7">アミロイドPET件数 (単位：件)</td></tr><tr><td>区 分</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>6年度</td></tr><tr><td>実施件数</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>1</td><td>51</td></tr></table> <table><tr><td colspan="7">認知症ケア及び精神科リエゾンチームに係る加算 (単位：件)</td></tr><tr><td>区 分</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>6年度</td></tr><tr><td>認知症ケア</td><td>7,163</td><td>6,202</td><td>5,246</td><td>5,194</td><td>6,433</td><td>6,182</td></tr><tr><td>精神科リエゾンチーム</td><td>1,740</td><td>2,316</td><td>1,671</td><td>1,284</td><td>1,161</td><td>683</td></tr><tr><td></td><td>8,903</td><td>8,518</td><td>6,917</td><td>6,478</td><td>7,594</td><td>6,865</td></tr></table>	脳FDG-PET (単位：件)							区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	実施件数	160	128	142	149	162	171	アミロイドPET件数 (単位：件)							区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	実施件数	0	0	0	0	1	51	認知症ケア及び精神科リエゾンチームに係る加算 (単位：件)							区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	認知症ケア	7,163	6,202	5,246	5,194	6,433	6,182	精神科リエゾンチーム	1,740	2,316	1,671	1,284	1,161	683		8,903	8,518	6,917	6,478	7,594	6,865	A	脳疾患(てんかん、認知症)及び脳腫瘍の診断等に用いる脳FDG-PETの実施件数は順調に件数は増加している。認知症に対するアミロイドPETの保険適用に併せて当院でも検査を開始した。他病院と協定締結の上検査を行っており、順調に件数を増やしている。認知症ケア加算、精神科リエゾンチーム加算は昨年度と比較し減少した。
					脳FDG-PET (単位：件)																																																																																	
					区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																											
実施件数	160	128	142	149	162	171																																																																																
アミロイドPET件数 (単位：件)																																																																																						
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																
実施件数	0	0	0	0	1	51																																																																																
認知症ケア及び精神科リエゾンチームに係る加算 (単位：件)																																																																																						
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																
認知症ケア	7,163	6,202	5,246	5,194	6,433	6,182																																																																																
精神科リエゾンチーム	1,740	2,316	1,671	1,284	1,161	683																																																																																
	8,903	8,518	6,917	6,478	7,594	6,865																																																																																
こころ					<table><tr><td colspan="7">老年期こころと物忘れ外来実施件数 (単位：件)</td></tr><tr><td>区 分</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>6年度</td></tr><tr><td>老年期こころと物忘れ外来実施件数</td><td>387</td><td>330</td><td>340</td><td>361</td><td>288</td><td>293</td></tr></table> <table><tr><td colspan="7">認知症入院患者件数 (単位：件)</td></tr><tr><td>区 分</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>6年度</td></tr><tr><td>認知症入院患者</td><td>6</td><td>6</td><td>12</td><td>17</td><td>12</td><td>8</td></tr></table>	老年期こころと物忘れ外来実施件数 (単位：件)							区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	老年期こころと物忘れ外来実施件数	387	330	340	361	288	293	認知症入院患者件数 (単位：件)							区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	認知症入院患者	6	6	12	17	12	8	A	重度の認知症患者の受入や専門外来による専門的な医療相談体制を確保しており、令和6年度は入院患者が増加しており、外来患者数は概ね前年度並みとなった。大人の発達障害外来を10月から開設し、28人の新規患者に対して専門医療相談、治療を行った。																																					
老年期こころと物忘れ外来実施件数 (単位：件)																																																																																						
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																
老年期こころと物忘れ外来実施件数	387	330	340	361	288	293																																																																																
認知症入院患者件数 (単位：件)																																																																																						
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																
認知症入院患者	6	6	12	17	12	8																																																																																
子ども					発達障害児を持つ保護者を対象にした、医師や保育士によるペアレント・トレーニングについて、令和5年度に新プログラムを開発して再開し、令和6年度も定期的に実施している。中期計画期間中、新生児退院診察を実施した。また、新生児包括外来における低出生体重児の発達フォローを隔週1回実施した。 <table><tr><td colspan="7">発達小児科外来患者数等 (単位：人、件数)</td></tr><tr><td>区 分</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>6年度</td></tr><tr><td>発達小児科外来延患者数</td><td>3,373</td><td>3,373</td><td>3,448</td><td>3,064</td><td>2,986</td><td>3,254</td></tr><tr><td>ペアレントトレーニング等件数</td><td>10</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>3</td><td>10</td></tr></table> <table><tr><td colspan="7">新生児包括外来実績 (単位：件)</td></tr><tr><td>区 分</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>6年度</td></tr><tr><td>低出生体重児への発達フォロー件数</td><td>207</td><td>175</td><td>184</td><td>166</td><td>164</td><td>172</td></tr></table>	発達小児科外来患者数等 (単位：人、件数)							区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	発達小児科外来延患者数	3,373	3,373	3,448	3,064	2,986	3,254	ペアレントトレーニング等件数	10	0	0	0	3	10	新生児包括外来実績 (単位：件)							区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	低出生体重児への発達フォロー件数	207	175	184	166	164	172	A	令和6年度の発達小児科の外来延患者数は前年度を上回る数値となった。また、発達小児科医師や保育士による患者家族へのペアレントトレーニングは、新型コロナウイルス感染症の影響により開催できていなかったが、養育者が参加しやすく、かつ継続的な支援を可能にする新プログラムの開発を進め、令和5年11月に再開した。令和5年度中に3回開催し、令和6年度は新型コロナウイルス感染症の影響を受けていない令和元年と同数の10回実施できた。なお、新生児科では、新生児包括外来における低出生体重児への発達フォローを実施しており、令和6年度は前年度を上回る件数となった。																														
発達小児科外来患者数等 (単位：人、件数)																																																																																						
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																
発達小児科外来延患者数	3,373	3,373	3,448	3,064	2,986	3,254																																																																																
ペアレントトレーニング等件数	10	0	0	0	3	10																																																																																
新生児包括外来実績 (単位：件)																																																																																						
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																
低出生体重児への発達フォロー件数	207	175	184	166	164	172																																																																																

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績（令6）	令和6年度実績 自己評価																																																																																																																
						本評価	説明																																																																																																															
	ク 移行期医療や医療的ケア児への対応など新たな課題については、県と連携して取り組む。	ク 移行期医療支援センターの運用などによる移行期医療や医療的ケア児への対応など新たな課題については、県と連携して取り組む。	24	・SARS-CoV-2(新型コロナウイルス)などの感染症について、県と連携、協力して拡大防止に対応できる体制を整備する。(No.15再掲) ・機構内各病院や他医療機関、県などと連携して移行期医療及び成人期医療を提供する。 ・【こころ】総合病院、こども病院と連携した県立3病院の精神科医療体制構築を進める。 ・【子】県担当課と協議しつつ、受託した移行期医療支援センターの運営を行い、業務内容の充実を図る ・【子】No.59	移行期医療件数 (単位：件) <table><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th></tr><tr><td>こども→総合</td><td>666</td><td>995</td><td>1,367</td><td>1,100</td><td>918</td><td>950</td></tr><tr><td>こども→こころ</td><td>19</td><td>18</td><td>15</td><td>28</td><td>31</td><td>32</td></tr></table> 関連するカンファレンス等の開催実績 (単位：回) <table><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th></tr><tr><td>こころ・こども精神科医師合同カンファレンスの開催実績</td><td>5</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>4</td></tr><tr><td>移行期医療センターに関する県との打合せ実施回数</td><td>6</td><td>4</td><td>3</td><td>2</td><td>2</td><td>1</td></tr><tr><td>医療的ケア児のレスパイト対応に関する打合せ実施回数</td><td>3</td><td>6</td><td>6</td><td>3</td><td>4</td><td>4</td></tr></table> ※令和2年度に短期入所事業者の指定を受け、令和4年度から入所している。 移行期医療推進協議会の開催 (単位：件) <table><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th></tr><tr><td>移行期医療推進協議会の開催</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>1</td><td>0</td><td>1</td></tr></table> 移行期医療センターに関する委員会等の実施回数 (単位：件) <table><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th></tr><tr><td>移行期医療センターに関する委員会等の実施回数</td><td>－</td><td>11</td><td>18</td><td>9</td><td>7</td><td>19</td></tr></table>	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	こども→総合	666	995	1,367	1,100	918	950	こども→こころ	19	18	15	28	31	32	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	こころ・こども精神科医師合同カンファレンスの開催実績	5	0	0	0	0	4	移行期医療センターに関する県との打合せ実施回数	6	4	3	2	2	1	医療的ケア児のレスパイト対応に関する打合せ実施回数	3	6	6	3	4	4	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	移行期医療推進協議会の開催	－	－	－	1	0	1	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	移行期医療センターに関する委員会等の実施回数	－	11	18	9	7	19	A	新型コロナウイルス感染症への対応については、総合病院及びこども病院が県から重点医療機関に指定されており、各病院において患者受入体制を整備し、県と調整のうえ患者の受入を行ってきた。 移行期医療への対応については、機構内における医療情報システム(電子カルデシステム)の統合を進め、令和5年5月に稼働を開始した。これにより、今後患者情報の病院間の相互参照が可能となり、医療サービスの向上が期待される。 (総合) 令和6年度の受診者数は、令和5年度実績とほぼ横這いとなっており、スムーズな移行医療が行えている。 (こころ) 当院とこども病院間での医師による合同カンファレンスを実施し、相互で連携し、重篤な精神疾患症例の児童を受け入れた。 (こども) 県から移行期医療支援センター運営事業を受託し、県と連携して移行期医療支援体制の推進に取り組んだ。 令和6年度は全国移行期医療支援センター連絡会の幹事を務めたほか、小児科から成人医療施設への紹介実績調査の結果を元に移行期医療医療機関連携マップの制作を進めている。 患者の自立を促すための自立支援外来の実施、静岡市静岡医師会と重症心身障がい児の移行のためのカンファレンスを行った。 更に静岡市静岡医師会との連携で成人先天性心疾患(ACHD)の移行期医療の現状について医師が講演を行い、ACHDの移行期医療における、病診連携・病病診連携の今後の方向性についてディスカッションを行なった。																																		
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																																																
こども→総合	666	995	1,367	1,100	918	950																																																																																																																
こども→こころ	19	18	15	28	31	32																																																																																																																
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																																																
こころ・こども精神科医師合同カンファレンスの開催実績	5	0	0	0	0	4																																																																																																																
移行期医療センターに関する県との打合せ実施回数	6	4	3	2	2	1																																																																																																																
医療的ケア児のレスパイト対応に関する打合せ実施回数	3	6	6	3	4	4																																																																																																																
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																																																
移行期医療推進協議会の開催	－	－	－	1	0	1																																																																																																																
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																																																
移行期医療センターに関する委員会等の実施回数	－	11	18	9	7	19																																																																																																																
ケ 高度・専門・特殊医療を県民に提供する第一級の病院であり続けるために、ハイブリッド手術室の活用、ロボット支援手術・放射線治療等の拡充など、高度な治療への対応の強化や適切な治療の提供に取り組む。また、医療を取り巻く環境変化に応じて、先進的な施設や設備等の充実に努める。	ケ 高度・専門・特殊医療を県民に提供する第一級の病院であり続けるために、ハイブリッド手術室の活用、ロボット支援手術・放射線治療等の拡充など、高度な治療への対応の強化や適切な治療に取り組む。質の高い医療の提供と効率的な病院運営を目指すため、医療DXの推進などに取組む。 また、医療を取り巻く環境変化に応じて、先進的な施設や設備等の充実に努める。	25	・中期計画に記載した施設及び機器等の整備を計画的に実施する。 ・3病院の医療情報システムを活用し、地域医療連携などICTを利用したサービスの向上など医療DXの推進に取り組む。	各病院・本部（経営）	施設及び機器等の整備状況 (単位：百万円) <table><tr><th rowspan="2">区 分</th><th colspan="7">施設整備</th></tr><tr><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>第3期累計</th><th>6年度</th></tr><tr><td>総合</td><td>1,091</td><td>1,472</td><td>1,866</td><td>383</td><td>685</td><td>5,498</td><td>470</td></tr><tr><td>こころ</td><td>139</td><td>246</td><td>5</td><td>0</td><td>0</td><td>390</td><td>19</td></tr><tr><td>こども</td><td>148</td><td>829</td><td>190</td><td>136</td><td>282</td><td>1,585</td><td>181</td></tr><tr><td>本部</td><td>0</td><td>78</td><td>395</td><td>358</td><td>3,304</td><td>4,135</td><td>20</td></tr><tr><td>合計</td><td>1,379</td><td>2,626</td><td>2,456</td><td>877</td><td>4,271</td><td>11,609</td><td>690</td></tr></table> (単位：百万円) <table><tr><th colspan="8">器械備品等</th></tr><tr><th></th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>第3期累計</th><th>6年度</th></tr><tr><td>総合</td><td>706</td><td>894</td><td>708</td><td>1,049</td><td>1,724</td><td>5,080</td><td>1,105</td></tr><tr><td>こころ</td><td>31</td><td>31</td><td>8</td><td>14</td><td>24</td><td>108</td><td>29</td></tr><tr><td>こども</td><td>308</td><td>747</td><td>567</td><td>717</td><td>454</td><td>2,793</td><td>389</td></tr><tr><td>本部</td><td>0</td><td>44</td><td>0</td><td>1</td><td>1,166</td><td>1,211</td><td>0</td></tr><tr><td>合計</td><td>1,045</td><td>1,716</td><td>1,283</td><td>1,780</td><td>3,368</td><td>9,192</td><td>1,523</td></tr></table> ・医療DX進捗状況(医療情報システム統合の実施状況) 質の高い医療の提供と効率的な病院運営を目指すため、3病院の医療情報システムを統合、令和5年5月から稼働を開始した。	区 分	施設整備							元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	第3期累計	6年度	総合	1,091	1,472	1,866	383	685	5,498	470	こころ	139	246	5	0	0	390	19	こども	148	829	190	136	282	1,585	181	本部	0	78	395	358	3,304	4,135	20	合計	1,379	2,626	2,456	877	4,271	11,609	690	器械備品等									元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	第3期累計	6年度	総合	706	894	708	1,049	1,724	5,080	1,105	こころ	31	31	8	14	24	108	29	こども	308	747	567	717	454	2,793	389	本部	0	44	0	1	1,166	1,211	0	合計	1,045	1,716	1,283	1,780	3,368	9,192	1,523	A	(3病院) 施設整備に関しては、建物長寿命化等の必要最低限のものから実施する方針であり、優先度の低いものは計画的に後年度へ先送りすることとしている。引き続き、経営状況を考慮しながら、適切な施設整備等を進める。 (総合) 施設整備に関しては、前年度に引き続き、本館非常用発電機更新工事及び劣化改修工事を実施している。 器械備品に関しては、術中神経モニタリングシステムやリニアックの更新を行った。 (こころ) 施設整備に関しては、北3病棟改修工事や厨房改修、劣化改修等に関する検討を進めた。 器械備品に関しては、スポットエアコンの購入や監視カメラを増設した。 (こども) 施設整備に関して、西館手術室空調更新工事が完了した。 器械備品に関して、細径ファイバースコープの更新や半導体レーザーの整備等を行った。また、人工心肺装置2台の更新を行った。
区 分	施設整備																																																																																																																					
	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	第3期累計	6年度																																																																																																															
総合	1,091	1,472	1,866	383	685	5,498	470																																																																																																															
こころ	139	246	5	0	0	390	19																																																																																																															
こども	148	829	190	136	282	1,585	181																																																																																																															
本部	0	78	395	358	3,304	4,135	20																																																																																																															
合計	1,379	2,626	2,456	877	4,271	11,609	690																																																																																																															
器械備品等																																																																																																																						
	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	第3期累計	6年度																																																																																																															
総合	706	894	708	1,049	1,724	5,080	1,105																																																																																																															
こころ	31	31	8	14	24	108	29																																																																																																															
こども	308	747	567	717	454	2,793	389																																																																																																															
本部	0	44	0	1	1,166	1,211	0																																																																																																															
合計	1,045	1,716	1,283	1,780	3,368	9,192	1,523																																																																																																															
コ 各県立病院は、質の高い医療を継続的に提供するため、次のとおり重点的に取り組む。	コ 各県立病院は医療の提供に当たり、次のとおり重点的に取り組む。	－	－	－	－	－																																																																																																																

中期目標		中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(令6)	令和6年度実績 自己評価																																														
							本評価	説明																																													
		県立総合病院	(ア) 県立総合病院診療事業 地域における中核的医療を行う基幹病院として、各疾患に対する総合的な医療をはじめ、3大疾患(心疾患、脳血管疾患、がん疾患)に対する高度・専門医療や救急・急性期医療等を提供する。各診療事業を推進するため、医師・看護師確保に取り組む。 県民に提供する医療＜業務予定量＞ 病床数 718床 一般病床 662床 結核病床 50床 精神病床 6床 外来患者 464,645人 入院患者 227,083人	26	総合	<table><tr><td colspan="8">入院・外来患者数 (単位：人)</td></tr><tr><td>区 分</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>6年度</td><td>6年度目標</td></tr><tr><td>入院患者数</td><td>225,595</td><td>203,298</td><td>207,398</td><td>199,210</td><td>211,603</td><td>218,271</td><td>277,083</td></tr><tr><td>(うち結核病床)</td><td>4,967</td><td>5,223</td><td>4,918</td><td>3,260</td><td>3,977</td><td>3,417</td><td>－</td></tr><tr><td>外来患者数</td><td>448,945</td><td>425,092</td><td>455,056</td><td>455,776</td><td>457,778</td><td>463,891</td><td>464,645</td></tr></table>	入院・外来患者数 (単位：人)								区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	6年度目標	入院患者数	225,595	203,298	207,398	199,210	211,603	218,271	277,083	(うち結核病床)	4,967	5,223	4,918	3,260	3,977	3,417	－	外来患者数	448,945	425,092	455,056	455,776	457,778	463,891	464,645	A	入院患者数については、新型コロナウイルス感染症の対応を継続しながら、令和2年度以前の数字まで戻りつつあり、順調に増加している。 一方、外来患者数については、令和6年度は新型コロナウイルス感染症の影響のない令和元年度実績を超え過去最高を更新した。					
入院・外来患者数 (単位：人)																																																					
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	6年度目標																																														
入院患者数	225,595	203,298	207,398	199,210	211,603	218,271	277,083																																														
(うち結核病床)	4,967	5,223	4,918	3,260	3,977	3,417	－																																														
外来患者数	448,945	425,092	455,056	455,776	457,778	463,891	464,645																																														
			○先端医学棟に整備した各種ハイブリッド手術室や放射線治療室の運用による適切な治療の提供 ①ハイブリッド手術室を活用した高度専門医療の推進 ②高度放射線治療の推進	27	総合	<table><tr><td colspan="8">手術件数 (単位：件)</td></tr><tr><td>区 分</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>6年度</td><td>毎年度目標</td></tr><tr><td>手術件数</td><td>9,814</td><td>9,126</td><td>9,395</td><td>9,160</td><td>9,459</td><td>9,528</td><td>9,600以上</td></tr></table> <table><tr><td colspan="7">HCU延患者数 (単位：人)</td></tr><tr><td>区 分</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>6年度</td></tr><tr><td>人数</td><td>6,426</td><td>5,569</td><td>5,759</td><td>5,669</td><td>6,537</td><td>6,468</td></tr></table>	手術件数 (単位：件)								区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	毎年度目標	手術件数	9,814	9,126	9,395	9,160	9,459	9,528	9,600以上	HCU延患者数 (単位：人)							区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	人数	6,426	5,569	5,759	5,669	6,537	6,468	B	先端医学棟では、最新の設備と医療機器を最大限に活用した高度・先進医療を実施している。特に、3階、4階に設置したハイブリッド手術室、内視鏡手術室、ロボット支援手術室を含む23室の手術室と術後管理を行うHCU20床の一体的かつ効率的な運用に努めている。令和6年度の手術件数についても、順調に推移している。
手術件数 (単位：件)																																																					
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	毎年度目標																																														
手術件数	9,814	9,126	9,395	9,160	9,459	9,528	9,600以上																																														
HCU延患者数 (単位：人)																																																					
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																															
人数	6,426	5,569	5,759	5,669	6,537	6,468																																															
		・地域における中核的医療を行う基幹病院として、先端医学棟に整備した各種ハイブリッド手術室や放射線治療室の運用などにより、高度・専門医療を提供していく。	○循環器疾患患者に対して循環器病センター機能を活かした常時高度な専門的治療を提供する体制の充実 ①重症心不全疾患の患者に対して冠状動脈疾患集中治療室(CCU/ICU)機能を最大限に活かした高度な専門的治療の提供 ②急性心筋梗塞、脳卒中発症患者に対応する常時救急受入体制の強化 ③循環器関連診療科の有機的な連携によるチーム医療の推進 ④ハイブリッド手術室の使用による経カテーテル大動脈弁置換術(TAVI)、ステントグラフト内挿術、経皮的僧帽弁接合不全修復術(MitraClip)等の低侵襲かつ高度な手術の実施	28	総合	CCU/ICUは平成30年9月より14床で運用している。 <table><tr><td colspan="7">CCU／ICU稼働率 (単位：％)</td></tr><tr><td>区 分</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>6年度</td></tr><tr><td>稼働率(％)</td><td>100.3</td><td>88.6</td><td>95.7</td><td>87.4</td><td>96.3</td><td>107.9</td></tr><tr><td>入室患者数(人)</td><td>866</td><td>802</td><td>925</td><td>795</td><td>853</td><td>906</td></tr><tr><td>1日平均(人)</td><td>14.0</td><td>12.4</td><td>13.4</td><td>12.2</td><td>13.5</td><td>15.1</td></tr></table>	CCU／ICU稼働率 (単位：％)							区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	稼働率(％)	100.3	88.6	95.7	87.4	96.3	107.9	入室患者数(人)	866	802	925	795	853	906	1日平均(人)	14.0	12.4	13.4	12.2	13.5	15.1	A	CCU/ICUの稼働率及び1日平均入室患者数は、近年で最も高いものとなった。										
CCU／ICU稼働率 (単位：％)																																																					
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																															
稼働率(％)	100.3	88.6	95.7	87.4	96.3	107.9																																															
入室患者数(人)	866	802	925	795	853	906																																															
1日平均(人)	14.0	12.4	13.4	12.2	13.5	15.1																																															
			②脳卒中発症患者に対する急性期医療の提供体制を整備するとともに、在宅医療への情報提供等、在宅復帰に向けた取り組みを推進する。	29	総合	<table><tr><td colspan="7">脳卒中地域連携クリニカルパス適用患者数 (単位：件)</td></tr><tr><td>区 分</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>6年度</td></tr><tr><td>算定件数</td><td>83</td><td>102</td><td>92</td><td>49</td><td>8</td><td>13</td></tr></table> <table><tr><td colspan="7">超急性期脳卒中加算 (単位：件)</td></tr><tr><td>区 分</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>6年度</td></tr><tr><td>算定件数</td><td>35</td><td>28</td><td>32</td><td>20</td><td>28</td><td>24</td></tr></table>	脳卒中地域連携クリニカルパス適用患者数 (単位：件)							区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	算定件数	83	102	92	49	8	13	超急性期脳卒中加算 (単位：件)							区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	算定件数	35	28	32	20	28	24	A	脳卒中地域連携クリニカルパス適用患者数について、令和6年度は前年度と比較して微増となったものの、以前ほどの水準には達していない。院内においても引き続き周知した上で、パスの適用を推進し、地域の医療機関との円滑な運用に努める。 また、今後も、MRI、CT、血管造影の3種類のハイブリッド手術室を最大限に活用し、脳卒中発症患者に対して高度な専門的治療を提供する。			
脳卒中地域連携クリニカルパス適用患者数 (単位：件)																																																					
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																															
算定件数	83	102	92	49	8	13																																															
超急性期脳卒中加算 (単位：件)																																																					
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																															
算定件数	35	28	32	20	28	24																																															
			③生活習慣病を心血管疾患の発症危険因子としてとらえ、循環器内科、神経内科、腎臓内科、心臓血管外科等有機的に連携して、チーム医療の推進を図る。	30	総合	<table><tr><td colspan="7">糖尿病透析予防指導管理料 (単位：件)</td></tr><tr><td>区 分</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>6年度</td></tr><tr><td>算定件数</td><td>285</td><td>123</td><td>67</td><td>48</td><td>91</td><td>52</td></tr></table> ※糖尿病性腎症の透析移行を予防するため、糖尿病患者に対して医師と看護師、管理栄養士が連携して行う治療と指導に対して支払われる診療報酬である。 <table><tr><td>区 分</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>6年度</td></tr><tr><td>腎代替療法指導管理料</td><td>211</td><td>164</td><td>177</td><td>149</td></tr></table>	糖尿病透析予防指導管理料 (単位：件)							区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	算定件数	285	123	67	48	91	52	区 分	3年度	4年度	5年度	6年度	腎代替療法指導管理料	211	164	177	149	A	総合病院では、様々な専門医、理学療法士、栄養士や薬剤師、検査技師が連携し、横断的に診療にあたっている。 糖尿病透析予防指導管理料は糖尿病・内分泌内科外来、そらまめ外来、透析室における指導により算定する。専門看護師の退職に伴い、双方の件数が減少している。また、糖尿病透析予防指導管理料と腎代替療法指導管理料の対象患者は重複しているため、腎代替療法患者の増加に伴い、糖尿病透析予防管理料の患者数は減少している。														
糖尿病透析予防指導管理料 (単位：件)																																																					
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																															
算定件数	285	123	67	48	91	52																																															
区 分	3年度	4年度	5年度	6年度																																																	
腎代替療法指導管理料	211	164	177	149																																																	

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(令6)	令和6年度実績 自己評価																																																																																																																																								
						本評価	説明																																																																																																																																							
			31	④ハイブリッド手術室を運用する体制を整備し、高度専門医療を提供する。	総合 ハイブリッド手術室稼動状況 (単位：件)<table><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th><th>6年度目標</th></tr><tr><td>ハイブリッド手術室使用件数</td><td>486</td><td>484</td><td>512</td><td>525</td><td>563</td><td>634</td><td>500以上</td></tr><tr><td>TAVI 実施件数 ※上記の内数</td><td>67</td><td>65</td><td>105</td><td>81</td><td>84</td><td>102</td><td>—</td></tr><tr><td>ステントグラフト挿入術 ※上記の内数</td><td>125</td><td>76</td><td>99</td><td>120</td><td>108</td><td>123</td><td>—</td></tr><tr><td>Mitra Clip件数 ※上記の内数</td><td>24</td><td>14</td><td>21</td><td>11</td><td>14</td><td>18</td><td>—</td></tr></table> 参考 (単位：件)<table><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th></tr><tr><td>P C I</td><td>368</td><td>363</td><td>349</td><td>333</td><td>274</td><td>356</td></tr><tr><td>アブレーション</td><td>284</td><td>267</td><td>305</td><td>262</td><td>282</td><td>280</td></tr></table>	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	6年度目標	ハイブリッド手術室使用件数	486	484	512	525	563	634	500以上	TAVI 実施件数 ※上記の内数	67	65	105	81	84	102	—	ステントグラフト挿入術 ※上記の内数	125	76	99	120	108	123	—	Mitra Clip件数 ※上記の内数	24	14	21	11	14	18	—	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	P C I	368	363	349	333	274	356	アブレーション	284	267	305	262	282	280	A	MRIハイブリッド手術室は、手術室にMRI検査室を併設しており、主に脳神経外科の脳腫瘍切除術に使用される。CTハイブリッド手術室は、手術室にCT検査装置を併設しており、主に脳神経外科の脳血管障害や脳腫瘍の手術に使用される。血管造影ハイブリッド手術室は、手術室にX線血管撮影装置を併設しており、主に心臓血管外科、循環器内科のTAVI、ステントグラフト内挿術、MitraClip等の手術に使用される。 ハイブリッド手術室の稼動状況は、毎年下半期における循環器疾患及び脳疾患症例数の増加に比例して稼働率が上昇し、今年度は過去最高件数となった。 TAVI、ステントグラフト挿入術、MitraClipの実施件数は令和5年度実績から増加している。																																																																										
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	6年度目標																																																																																																																																							
ハイブリッド手術室使用件数	486	484	512	525	563	634	500以上																																																																																																																																							
TAVI 実施件数 ※上記の内数	67	65	105	81	84	102	—																																																																																																																																							
ステントグラフト挿入術 ※上記の内数	125	76	99	120	108	123	—																																																																																																																																							
Mitra Clip件数 ※上記の内数	24	14	21	11	14	18	—																																																																																																																																							
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																																																																								
P C I	368	363	349	333	274	356																																																																																																																																								
アブレーション	284	267	305	262	282	280																																																																																																																																								
	・急性心筋梗塞、脳卒中等の循環器疾患において、常時高度な専門的治療を提供する。加えて、生活習慣病としての危険因子を管理するため、地域の医療機関との連携を強化する。	○がん疾患患者に対して地域がん診療連携拠点病院としての高度な集学的治療を提供する体制の充実及び地域の医療機関等と連携した緩和ケアや終末期医療の提供 ①先端医学棟の設備・機能を最大限に活用し、手術、放射線治療、化学療法に係るがん診療体制の充実 ②地域の医療機関等との連携による緩和ケアや終末期ケアの推進 ③がん相談及び情報提供機能の強化 ④ロボット支援手術の活用	32	①がん患者が速やかに検査や治療を受けられる体制を構築し、手術件数の増加に努める。	総合 がん手術件数 (単位：件、％)<table><tr><th>区分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th></tr><tr><td>胃がん</td><td>366</td><td>351</td><td>351</td><td>392</td><td>347</td><td>392</td></tr><tr><td>大腸がん</td><td>696</td><td>759</td><td>776</td><td>732</td><td>787</td><td>794</td></tr><tr><td>肝がん</td><td>260</td><td>328</td><td>255</td><td>232</td><td>264</td><td>296</td></tr><tr><td>肺がん</td><td>194</td><td>213</td><td>180</td><td>184</td><td>169</td><td>149</td></tr><tr><td>乳がん</td><td>511</td><td>440</td><td>454</td><td>441</td><td>448</td><td>399</td></tr><tr><td>その他</td><td>1,549</td><td>1,355</td><td>1,630</td><td>1,600</td><td>1,509</td><td>1,544</td></tr><tr><td>がん手術合計</td><td>3,576</td><td>3,446</td><td>3,646</td><td>3,581</td><td>3,524</td><td>3,574</td></tr><tr><td>手術全体</td><td>9,225</td><td>8,513</td><td>8,798</td><td>8,525</td><td>8,931</td><td>9,018</td></tr><tr><td>がん手術割合</td><td>38.8</td><td>40.5</td><td>41.4</td><td>42.0</td><td>39.5</td><td>39.6</td></tr></table>※年度別各種がん手術は1患者が複数手術をした場合は、それぞれ計上 ※がん手術合計、手術全体は複数手術をした場合は、主たる手術に計上 内視鏡検査・処置 (単位：件)<table><tr><th>年度</th><th>上部消化管検査</th><th>下部消化管検査</th><th>ERCP検査</th><th>気管支鏡検査</th><th>その他</th><th>合計</th></tr><tr><td>元年度</td><td>10,489</td><td>2,813</td><td>445</td><td>389</td><td>56</td><td>14,192</td></tr><tr><td>2年度</td><td>9,817</td><td>2,771</td><td>404</td><td>291</td><td>38</td><td>13,321</td></tr><tr><td>3年度</td><td>10,540</td><td>2,749</td><td>420</td><td>350</td><td>54</td><td>14,113</td></tr><tr><td>4年度</td><td>10,058</td><td>2,727</td><td>445</td><td>306</td><td>47</td><td>13,583</td></tr><tr><td>5年度</td><td>9,903</td><td>2,767</td><td>410</td><td>281</td><td>54</td><td>13,415</td></tr><tr><td>6年度</td><td>10,469</td><td>3,016</td><td>517</td><td>227</td><td>99</td><td>14,328</td></tr></table> 放射線治療 (単位：件)<table><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th><th>6年度目標</th></tr><tr><td>件数</td><td>1,100</td><td>1,104</td><td>1,257</td><td>980</td><td>978</td><td>898</td><td>1,000</td></tr></table>※令和元年度より放射線治療管理料算定件数とする。	区分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	胃がん	366	351	351	392	347	392	大腸がん	696	759	776	732	787	794	肝がん	260	328	255	232	264	296	肺がん	194	213	180	184	169	149	乳がん	511	440	454	441	448	399	その他	1,549	1,355	1,630	1,600	1,509	1,544	がん手術合計	3,576	3,446	3,646	3,581	3,524	3,574	手術全体	9,225	8,513	8,798	8,525	8,931	9,018	がん手術割合	38.8	40.5	41.4	42.0	39.5	39.6	年度	上部消化管検査	下部消化管検査	ERCP検査	気管支鏡検査	その他	合計	元年度	10,489	2,813	445	389	56	14,192	2年度	9,817	2,771	404	291	38	13,321	3年度	10,540	2,749	420	350	54	14,113	4年度	10,058	2,727	445	306	47	13,583	5年度	9,903	2,767	410	281	54	13,415	6年度	10,469	3,016	517	227	99	14,328	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	6年度目標	件数	1,100	1,104	1,257	980	978	898	1,000	A	がん手術件数は順調に推移しており、昨年度の水準と同等となった。 放射線治療件数は、高精度放射線治療に比重を置いていることで件数自体は抑えられているが、その中でも件数は順調に推移している。
区分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																																																																								
胃がん	366	351	351	392	347	392																																																																																																																																								
大腸がん	696	759	776	732	787	794																																																																																																																																								
肝がん	260	328	255	232	264	296																																																																																																																																								
肺がん	194	213	180	184	169	149																																																																																																																																								
乳がん	511	440	454	441	448	399																																																																																																																																								
その他	1,549	1,355	1,630	1,600	1,509	1,544																																																																																																																																								
がん手術合計	3,576	3,446	3,646	3,581	3,524	3,574																																																																																																																																								
手術全体	9,225	8,513	8,798	8,525	8,931	9,018																																																																																																																																								
がん手術割合	38.8	40.5	41.4	42.0	39.5	39.6																																																																																																																																								
年度	上部消化管検査	下部消化管検査	ERCP検査	気管支鏡検査	その他	合計																																																																																																																																								
元年度	10,489	2,813	445	389	56	14,192																																																																																																																																								
2年度	9,817	2,771	404	291	38	13,321																																																																																																																																								
3年度	10,540	2,749	420	350	54	14,113																																																																																																																																								
4年度	10,058	2,727	445	306	47	13,583																																																																																																																																								
5年度	9,903	2,767	410	281	54	13,415																																																																																																																																								
6年度	10,469	3,016	517	227	99	14,328																																																																																																																																								
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	6年度目標																																																																																																																																							
件数	1,100	1,104	1,257	980	978	898	1,000																																																																																																																																							
			33	①外来化学療法センターの環境整備を行い、化学療法の充実を図る。	総合 外来化学療法加算 (単位：件)<table><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th><th>6年度目標</th></tr><tr><td>件数</td><td>12,707</td><td>12,660</td><td>12,812</td><td>13,634</td><td>13,385</td><td>12,481</td><td>12,000以上</td></tr></table>	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	6年度目標	件数	12,707	12,660	12,812	13,634	13,385	12,481	12,000以上	S	令和6年度の外来化学療法加算算定件数は前年度を下回ったものの、目標値の12,000件を上回った。 一方で、がん薬物療法(抗がん剤治療)による脱毛抑制のための頭部冷却装置(PAXMAN)を導入し乳がん患者を対象に治療を実施しており、乳がんを含む固形癌に対する薬物療法を受ける患者の、治療中及び治療後の脱毛抑制が期待できる。さらに、令和6年2月より一部診療(皮下注射)の運用変更に伴い、患者への負担がより小さい形で高度医療を提供している。 外来化学療法加算の件数は前年度を下回ったものの、患者サービスの向上、及び患者のQOLの向上が図られている。																																																																																																																							
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	6年度目標																																																																																																																																							
件数	12,707	12,660	12,812	13,634	13,385	12,481	12,000以上																																																																																																																																							

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(令6)	令和6年度実績 自己評価																																																																																											
						本評価	説明																																																																																										
			34	②地域の医療機関等と連携し、緩和ケアや終末期ケアを推進する。	総合 <table><tr><td colspan="7">緩和ケアチーム介入症例数</td><td>(単位：件)</td></tr><tr><td>区分</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>6年度</td><td></td></tr><tr><td>症例数</td><td>527</td><td>482</td><td>548</td><td>396</td><td>383</td><td>353</td><td></td></tr><tr><td colspan="7">緩和ケア診療加算算定件数</td><td>(単位：件)</td></tr><tr><td>区分</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>6年度</td><td></td></tr><tr><td>件数</td><td>5249</td><td>4,417</td><td>5,308</td><td>4,796</td><td>4,372</td><td>3,872</td><td></td></tr></table>	緩和ケアチーム介入症例数							(単位：件)	区分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度		症例数	527	482	548	396	383	353		緩和ケア診療加算算定件数							(単位：件)	区分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度		件数	5249	4,417	5,308	4,796	4,372	3,872		A	緩和ケアチームは、緩和医療科医師、精神科医師、がんに関連する専門・認定看護師等で構成され、院内のがん患者に対して適切な緩和医療を提供する他、地域の医療機関等との定期的なカンファレンスを通じて連携強化に取り組んでいる。 また、がん患者等の社会復帰を支援するため、院内にハローワーク、産業保健総合支援センターとの連携による就労支援出張相談窓口を設置し、通院中又は入院中の患者に対して専門スタッフによる無料の就労相談を行っている。																																										
			緩和ケアチーム介入症例数							(単位：件)																																																																																							
			区分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																								
症例数	527	482	548	396	383	353																																																																																											
緩和ケア診療加算算定件数							(単位：件)																																																																																										
区分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																											
件数	5249	4,417	5,308	4,796	4,372	3,872																																																																																											
			35	③がん相談支援センターの機能を増強し、がんに関する相談支援、情報の提供に努める。	総合 <table><tr><td colspan="7">がん相談件数</td><td>(単位：件)</td></tr><tr><td>区 分</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>6年度</td><td></td></tr><tr><td>がん相談</td><td>4,742</td><td>4,458</td><td>3,493</td><td>2,456</td><td>2,241</td><td>2,725</td><td></td></tr></table>	がん相談件数							(単位：件)	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度		がん相談	4,742	4,458	3,493	2,456	2,241	2,725		A	がん相談支援センターにおいて、がんに関連する専門・認定看護師を中心に対面及び電話による相談を実施している。 がん相談件数については、令和6年度は前年度を上回った。																																																																		
			がん相談件数							(単位：件)																																																																																							
			区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																								
がん相談	4,742	4,458	3,493	2,456	2,241	2,725																																																																																											
			36	④手術支援ロボットを増設するなど、高度・先進医療に対応できる手術体制の充実を図り、質の高い医療の提供を行う。	総合 <table><tr><td colspan="8">ロボット支援手術件数</td><td>(単位：件)</td></tr><tr><td>診療科</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>6年度</td><td>6年度目標</td><td></td></tr><tr><td>泌尿器科</td><td>104</td><td>135</td><td>132</td><td>132</td><td>136</td><td>120</td><td>—</td><td></td></tr><tr><td>婦人科</td><td>25</td><td>23</td><td>25</td><td>18</td><td>31</td><td>40</td><td>—</td><td></td></tr><tr><td>消化器外科</td><td>70</td><td>82</td><td>92</td><td>163</td><td>222</td><td>282</td><td>—</td><td></td></tr><tr><td>心臓血管外科</td><td>—</td><td>3</td><td>12</td><td>15</td><td>18</td><td>27</td><td>—</td><td></td></tr><tr><td>計</td><td>199</td><td>243</td><td>261</td><td>328</td><td>407</td><td>469</td><td>340以上</td><td></td></tr><tr><td colspan="8">ロボット支援手術者数</td><td>(単位：人)</td></tr><tr><td>区 分</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>6年度</td><td></td><td></td></tr><tr><td>人数</td><td>12</td><td>16</td><td>23</td><td>21</td><td>38</td><td>37</td><td></td><td></td></tr></table>	ロボット支援手術件数								(単位：件)	診療科	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	6年度目標		泌尿器科	104	135	132	132	136	120	—		婦人科	25	23	25	18	31	40	—		消化器外科	70	82	92	163	222	282	—		心臓血管外科	—	3	12	15	18	27	—		計	199	243	261	328	407	469	340以上		ロボット支援手術者数								(単位：人)	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度			人数	12	16	23	21	38	37			S	ロボット支援手術は、患者にとっては低侵襲というメリットがあるが、経営面においては消耗品や機器の保守費用等を現在の診療報酬では賄うことができないという問題点があるため、手術部において適用症例を見極めたうえで実施している。 手術件数については、目標値及び令和5年度実績を大きく上回る結果となった。 運用に当たっては、手術講師を東京大学医学部、東京医科大学等から招聘し、術者の指導に充て、常に高度医療技術の習得に努めている。 令和4年度からはロボット手術運営部会を立ち上げ、より良いロボット支援手術の運営に努めているほか、総合病院の婦人科医師がロボット手術学会の学会会長を務めるなど、婦人科のロボット支援施術の普及、発展、技術の向上に貢献している。
			ロボット支援手術件数								(単位：件)																																																																																						
			診療科	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	6年度目標																																																																																							
泌尿器科	104	135	132	132	136	120	—																																																																																										
婦人科	25	23	25	18	31	40	—																																																																																										
消化器外科	70	82	92	163	222	282	—																																																																																										
心臓血管外科	—	3	12	15	18	27	—																																																																																										
計	199	243	261	328	407	469	340以上																																																																																										
ロボット支援手術者数								(単位：人)																																																																																									
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																											
人数	12	16	23	21	38	37																																																																																											

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(令6)	令和6年度実績 自己評価																																																																													
						本評価	説明																																																																												
		・がん患者に対し、地域がん診療連携拠点病院として、最新・最良の診断、ロボット支援手術などの先進的手術及び化学療法、放射線治療を組み合わせた高度な集学的治療や予防医療を提供する体制を整備し、地域の医療機関等と連携した緩和ケアや終末期医療を提供していく。	○認知症や精神科患者の身体合併症などに対応できる体制の充実 ・認知症や精神科患者の身体合併症に対応する病棟の運営(精神科身体合併症病棟)など医療提供体制の充実	No.21	総合	こころの医療センターとの連携による常勤の精神科医師5名の着任により、精神科患者の身体合併症に対応する精神科リエゾンチームと認知症ケアチームが協働しながら治療を行っている。 また、精神疾患と身体疾患を併せ持つ精神・身体合併症に対する医療ニーズを踏まえ、令和5年4月から精神科病棟(精神科身体合併症病棟)を開棟した。加えて令和5年4月から精神科病棟の運用を開始し、静岡県精神科救急身体合併症対応事業を受託した。 精神保健福祉法改正に伴い精神科虐待防止部会を設置し、精神科病棟における相談体制の整備、対応フローの制定を行った。令和6年4月に静岡県と精神障害者地域移行支援者連携事業業務委託契約を締結。令和6年度は措置入院患者を含め延べ1,457名の受け入れを行った。病棟稼働率は令和5年度35%から令和6年度75%へ上昇。また精神科リエゾンチームの新規介入患者数も令和5年度502名から令和6年度644名と増加した。	A	令和5年4月から精神科病棟の運用を開始し、静岡県精神科救急身体合併症対応事業を受託している。 精神科病棟運用開始により、主に県内中部・東部の身体合併を有する精神科患者の受け入れを行い、他施設での対応が困難な症例について入院管理を行っている。、病棟稼働率、リエゾン介入数も増加し、精神疾患及び身体疾患への専門治療を同時に提供できる体制の充実度を高めた。 県主催の虐待防止研修への参加、CVPPPトレーナー資格取得、訪問支援員認定等により、精神科病棟における医療体制の充実を図った。																																																																											
		・認知症や精神科患者の身体合併症などに対応できる体制を充実する。																																																																																	
		・高度救命救急センターとして一層の充実を図り、広範囲熱傷等の特殊疾病患者に対応していく。	○重篤な救急患者に対応する高度救命救急センターの運営 ①救急搬送患者の受入体制の充実	医師の増員を図るとともに、働きやすさに配慮した変則勤務が可能な体制を維持する。	総合	医師の変則勤務試行状況 (単位：％) <table><tr><td>区 分</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>6年度</td></tr><tr><td>該当者 (人)</td><td>1,784</td><td>1,893</td><td>1,838</td><td>1,864</td><td>1,909</td><td>1,878</td></tr><tr><td>利用者 (人)</td><td>1,047</td><td>1,224</td><td>1,139</td><td>1,176</td><td>1,197</td><td>1,167</td></tr><tr><td>利用率 (％)</td><td>58.7</td><td>64.7</td><td>61.9</td><td>63.1</td><td>62.7</td><td>62.1</td></tr></table> ※該当者：変則勤務を行うことが可能な延べ医師数 ※利用者：変則勤務を行った延べ医師数 高度救命救急センター医師数 (単位：人数) <table><tr><td>区 分</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>6年度</td></tr><tr><td>人数</td><td>9</td><td>8</td><td>8</td><td>9</td><td>10</td><td>15</td></tr></table>	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	該当者 (人)	1,784	1,893	1,838	1,864	1,909	1,878	利用者 (人)	1,047	1,224	1,139	1,176	1,197	1,167	利用率 (％)	58.7	64.7	61.9	63.1	62.7	62.1	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	人数	9	8	8	9	10	15	A	救急患者の円滑な受入体制を維持するため、各診療科の協力のもと、医師の変則勤務を進めている。令和6年度の利用者数は前年度と同程度となった。																																	
		区 分	元年度	2年度		3年度	4年度	5年度	6年度																																																																										
該当者 (人)	1,784	1,893	1,838	1,864	1,909	1,878																																																																													
利用者 (人)	1,047	1,224	1,139	1,176	1,197	1,167																																																																													
利用率 (％)	58.7	64.7	61.9	63.1	62.7	62.1																																																																													
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																													
人数	9	8	8	9	10	15																																																																													
		・救急車の受入を確実にできる診療体制を維持する。 ・ドクターカーの運用に関して、出動可能な市町の拡大に努める。		救急科医師15名体制で稼働 救急車受入率 (単位：％) <table><tr><td>区 分</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>6年度</td></tr><tr><td>当番日</td><td>90.9</td><td>87.7</td><td>94.4</td><td>93.3</td><td>92.0</td><td>92.5</td></tr><tr><td>全 日</td><td>92.3</td><td>92.5</td><td>94.4</td><td>93.4</td><td>93.3</td><td>94.5</td></tr></table> 特殊疾病患者受入数 (単位：件) <table><tr><td>疾病名</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>6年度</td></tr><tr><td>重症熱傷</td><td>11</td><td>9</td><td>4</td><td>14</td><td>21</td><td>28</td></tr><tr><td>重症外傷</td><td>380</td><td>431</td><td>335</td><td>410</td><td>480</td><td>688</td></tr><tr><td>急性中毒</td><td>46</td><td>26</td><td>39</td><td>60</td><td>64</td><td>82</td></tr><tr><td>病院外心停止</td><td>174</td><td>201</td><td>182</td><td>236</td><td>236</td><td>288</td></tr><tr><td>計</td><td>611</td><td>667</td><td>560</td><td>720</td><td>801</td><td>1,086</td></tr></table> ドクターカー出動状況 (単位：件) <table><tr><td>区 分</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>6年度</td></tr><tr><td>件数</td><td>12</td><td>8</td><td>11</td><td>9</td><td>13</td><td>24</td></tr></table> 【参考】 救急患者数 令5： 11,813人、令6： 12,546人 【参考】 救急車受入件数 令5： 6,443件、 令6： 7,147件	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	当番日	90.9	87.7	94.4	93.3	92.0	92.5	全 日	92.3	92.5	94.4	93.4	93.3	94.5	疾病名	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	重症熱傷	11	9	4	14	21	28	重症外傷	380	431	335	410	480	688	急性中毒	46	26	39	60	64	82	病院外心停止	174	201	182	236	236	288	計	611	667	560	720	801	1,086	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	件数	12	8	11	9	13	24	A	救急当直体制の見直しを行っているが、現在も医師数が充足しているとは言えない状況である。 令和6年度の救急患者数及び救急車受入件数は、令和5年度を上回る水準で推移した。特殊疾患患者も積極的に受け入れ、高度救命救急センターとしての機能を果たしている。 ドクターカーは事故による重症外傷や胸痛等の循環器疾患が疑われる病態に対して出動している。令和6年度の出動件数は24件と、令和5年度に比べ大きく増加した。
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																													
当番日	90.9	87.7	94.4	93.3	92.0	92.5																																																																													
全 日	92.3	92.5	94.4	93.4	93.3	94.5																																																																													
疾病名	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																													
重症熱傷	11	9	4	14	21	28																																																																													
重症外傷	380	431	335	410	480	688																																																																													
急性中毒	46	26	39	60	64	82																																																																													
病院外心停止	174	201	182	236	236	288																																																																													
計	611	667	560	720	801	1,086																																																																													
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																													
件数	12	8	11	9	13	24																																																																													
	・効率的な病院運営を図り、また、県民に安全で質の高い医療の提供を行うため、病床稼働率及び入院・外来患者満足度について各事業年度で高い水準を目指す。	○効率的な病院運営による県民に安全で質の高い医療を提供 ①手術件数の増加 ②病床稼働率 90%以上の維持 ③患者満足度(入院・外来)の向上	①No.27 ②効率的な病院運営を行い、高い病床稼働率を維持する ③No.8	総合	病床稼働率 (単位：％) <table><tr><td>区 分</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>6年度</td><td>毎年度目標</td></tr><tr><td>一般病棟</td><td>91.1</td><td>84.8</td><td>88.2</td><td>82.6</td><td>85.4</td><td>88.2</td><td>90以上</td></tr><tr><td>全体</td><td>86.6</td><td>80.7</td><td>83.7</td><td>78.0</td><td>80.5</td><td>83.3</td><td>-</td></tr></table>	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	毎年度目標	一般病棟	91.1	84.8	88.2	82.6	85.4	88.2	90以上	全体	86.6	80.7	83.7	78.0	80.5	83.3	-	B	令和5年5月以降、一般病床にて新型コロナウイルス感染症患者を受け入れている。入院中に発生した患者も含め新型コロナウイルス発症入院患者数は487名となる。 令和6年度は、目標値を下回るが、昨年度よりも高い水準で推移している。新規入院患者数も増加しており、地域医療の維持に大きく貢献している。																																																				
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	毎年度目標																																																																												
一般病棟	91.1	84.8	88.2	82.6	85.4	88.2	90以上																																																																												
全体	86.6	80.7	83.7	78.0	80.5	83.3	-																																																																												

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(令6)	令和6年度実績 自己評価																																																																	
						本評価	説明																																																																
		【目標値】 ・手術件数(総合) ・病床稼働率(総合) ・患者満足度[入院・外来](総合)																																																																					
	県立こころの医療センター	【目標値】県立総合病院 ・手術件数(総合) ・病床稼働率(総合) ・患者満足度[入院・外来](総合) ・ハイブリッド手術件数(総合) ・放射線治療症例件数(総合) ・外来化学療法件数(総合) ・ロボット支援手術件数 (ダヴィンチ等使用手術件数)	—	—	—																																																																		
		(イ) 県立こころの医療センター診療事業 県内精神医療の中核病院として、総合的・専門的な精神科医療を提供するとともに、精神科救急・急性期医療や、他の医療機関では対応困難な治療の実施及び司法精神医療の充実を図る。 県民に提供する医療＜業務予定量＞ 病床数 274床 精神病床 274床 外来患者 36,184人 入院患者 56,502人	41	—	こころ <table><caption>入院・外来患者数 (単位：人)</caption><thead><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th><th>6年度目標</th></tr></thead><tbody><tr><td>入院患者数</td><td>54,037</td><td>53,246</td><td>49,296</td><td>50,282</td><td>52,898</td><td>54,525</td><td>56,502</td></tr><tr><td>外来患者数</td><td>39,647</td><td>37,285</td><td>36,692</td><td>36,761</td><td>36,865</td><td>39,607</td><td>36,184</td></tr></tbody></table>	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	6年度目標	入院患者数	54,037	53,246	49,296	50,282	52,898	54,525	56,502	外来患者数	39,647	37,285	36,692	36,761	36,865	39,607	36,184	B	入院患者数、外来患者数ともに前年度を大きく上回ったが、入院患者数は目標値に達しなかった。 引き続き、他の医療機関では対応困難な重症患者などを積極的に受け入れ、県内精神医療の中核病院としての役割を果たしていく。																																								
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	6年度目標																																																																
入院患者数	54,037	53,246	49,296	50,282	52,898	54,525	56,502																																																																
外来患者数	39,647	37,285	36,692	36,761	36,865	39,607	36,184																																																																
	・常時精神科救急医療相談に応じ、患者の支援体制の充実を図る。 ・救急患者を受け入れ、新たな入院患者が早期に退院し社会復帰できるよう支援する精神科救急・急性期医療の提供体制の充実を図る。	○精神科救急・急性期医療の提供体制の充実 ①常時精神科救急医療相談に対応可能な体制の整備 ②救急患者を常時受入可能な体制の整備及び新たな入院患者の早期退院を支援する精神科救急・急性期医療の提供体制の整備	42	①②24時間体制で精神科救急医療相談に応じ患者を受入れるとともに、新たな入院患者が90日以内に退院し社会復帰できるよう支援する精神科救急・急性期医療の提供体制の整備を図る。	平成15年4月より、県の委託事業として県内全域を対象とする「精神科救急ダイヤル」を敷設し、24時間体制で救急医療相談に対応している。 関係機関、公的機関及び就労支援施設等に配布する当センター広報誌「ぬくもり」を年4回発行し、当センターホームページへ「精神科救急ダイヤル」に関する情報を掲載し、周知を図っている。 <table><caption>精神科救急ダイヤル件数 (単位：件)</caption><thead><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th></tr></thead><tbody><tr><td>全相談件数</td><td>3,957</td><td>3,649</td><td>1,857</td><td>2,111</td><td>2,063</td><td>1,941</td></tr><tr><td>うち時間外</td><td>2,153</td><td>2,678</td><td>1,288</td><td>1,530</td><td>1,517</td><td>1,368</td></tr></tbody></table> <table><caption>時間外における救急診療件数 (単位：件)</caption><thead><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th><th>毎年度目標</th></tr></thead><tbody><tr><td>件 数</td><td>390</td><td>335</td><td>313</td><td>252</td><td>249</td><td>221</td><td>250以上</td></tr></tbody></table>	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	全相談件数	3,957	3,649	1,857	2,111	2,063	1,941	うち時間外	2,153	2,678	1,288	1,530	1,517	1,368	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	毎年度目標	件 数	390	335	313	252	249	221	250以上	B	24時間365日対応可能な相談・診療体制を整え、県との委託契約により全県の精神科救急の窓口となる「精神科救急ダイヤル」を運営しており、必要時に必要な相談を受け、必要な診療を実施出来る体制を整えた。 令和5年4月からは、県の精神科救急医療対策事業において、従来の志太榛原圏域の病院群輪番型に加え、全県域常時対応型の後方支援施設としての指定を受けており、よりスピード感を持った対応と、断らない精神科救急を実施した。 時間外における救急診療件数が減少しているものの、全時間帯における救急診療件数は468件→677件に増加した。																											
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																	
全相談件数	3,957	3,649	1,857	2,111	2,063	1,941																																																																	
うち時間外	2,153	2,678	1,288	1,530	1,517	1,368																																																																	
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	毎年度目標																																																																
件 数	390	335	313	252	249	221	250以上																																																																
			43	①新たな入院患者が90日以内に退院できるよう促進し、精神科救急入院料の施設基準を維持する。	早期治療、早期退院の実践により、救急病棟（南2・北2）における「新規患者率」、「新規患者3ヶ月以内在宅移行率」はそれぞれの施設基準を満たすことができた。 <table><caption>新規患者率 (単位：％)</caption><thead><tr><th>区 分</th><th>施設基準</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th></tr></thead><tbody><tr><td>救 急</td><td>南2</td><td>40%以上</td><td>73.4</td><td>61.7</td><td>68.7</td><td>69.0</td><td>72.0</td></tr><tr><td>救 急</td><td>北2</td><td>40%以上</td><td>64.8</td><td>60.8</td><td>67.4</td><td>67.0</td><td>59.0</td></tr></tbody></table> <table><caption>新規患者3ヶ月以内在宅移行率 (単位：％)</caption><thead><tr><th>区 分</th><th>施設基準</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th></tr></thead><tbody><tr><td>救 急</td><td>南2</td><td>60%以上</td><td>78.7</td><td>89.4</td><td>82.9</td><td>86.0</td><td>86.9</td></tr><tr><td>救 急</td><td>北2</td><td>60%以上</td><td>79.7</td><td>86.7</td><td>86.3</td><td>77.4</td><td>77.9</td></tr></tbody></table>	区 分	施設基準	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	救 急	南2	40%以上	73.4	61.7	68.7	69.0	72.0	救 急	北2	40%以上	64.8	60.8	67.4	67.0	59.0	区 分	施設基準	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	救 急	南2	60%以上	78.7	89.4	82.9	86.0	86.9	救 急	北2	60%以上	79.7	86.7	86.3	77.4	77.9	A	新規患者率及び新規患者3か月以内在宅移行率ともに病棟ごとに差はあるものの基準を満たすことが出来た。 救急・急性期治療病棟の役割を適切に果たすとともに、精神科救急入院料の施設基準を維持することができた。																
区 分	施設基準	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																
救 急	南2	40%以上	73.4	61.7	68.7	69.0	72.0																																																																
救 急	北2	40%以上	64.8	60.8	67.4	67.0	59.0																																																																
区 分	施設基準	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																
救 急	南2	60%以上	78.7	89.4	82.9	86.0	86.9																																																																
救 急	北2	60%以上	79.7	86.7	86.3	77.4	77.9																																																																
	・他の医療機関では対応困難な精神疾患患者への先進的治療に積極的に取り組む。	○他の医療機関では対応困難な精神疾患患者に対する高度医療への積極的な取組 ①高度専門医療(クロザピン、m－ECT(修正型電気けいれん療法)、心理・社会的治療(心理教育、家族教室等))への取組	44	①薬物療法による治療効果が低い重症患者に対する治療法として、m－ECT(修正型電気けいれん療法)を積極的に実施する。 高度・専門医療の積極的な実施。	治療が必要とされる重症患者に対し、m－ECTの治療を実施している。 <table><caption>m－ECT実施件数 (単位：人)</caption><thead><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th><th>毎年度目標</th></tr></thead><tbody><tr><td>延件数(件)</td><td>870</td><td>737</td><td>827</td><td>665</td><td>715</td><td>427</td><td>700以上</td></tr><tr><td>実患者数</td><td>70</td><td>59</td><td>56</td><td>54</td><td>62</td><td>42</td><td>—</td></tr><tr><td>中部地区</td><td>62</td><td>55</td><td>53</td><td>51</td><td>56</td><td>40</td><td>—</td></tr><tr><td>(静岡市)</td><td>50</td><td>45</td><td>43</td><td>43</td><td>48</td><td>7</td><td>—</td></tr><tr><td>東部地区</td><td>5</td><td>3</td><td>1</td><td>2</td><td>5</td><td>2</td><td>—</td></tr><tr><td>西部地区</td><td>2</td><td>1</td><td>2</td><td>1</td><td>1</td><td>0</td><td>—</td></tr><tr><td>その他</td><td>1</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>—</td></tr></tbody></table>	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	毎年度目標	延件数(件)	870	737	827	665	715	427	700以上	実患者数	70	59	56	54	62	42	—	中部地区	62	55	53	51	56	40	—	(静岡市)	50	45	43	43	48	7	—	東部地区	5	3	1	2	5	2	—	西部地区	2	1	2	1	1	0	—	その他	1	0	0	0	0	0	—	B	m-ECT治療について、令和6年度は427件の治療を実施した。 令和5年度と比較して、実患者数が20名減少したことにより、延件数が減少した。 m-ECT治療は最終手段かつ侵襲的な治療法であるため、今まで以上に治療効果とリスクを検討した上で実施している。
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	毎年度目標																																																																
延件数(件)	870	737	827	665	715	427	700以上																																																																
実患者数	70	59	56	54	62	42	—																																																																
中部地区	62	55	53	51	56	40	—																																																																
(静岡市)	50	45	43	43	48	7	—																																																																
東部地区	5	3	1	2	5	2	—																																																																
西部地区	2	1	2	1	1	0	—																																																																
その他	1	0	0	0	0	0	—																																																																

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(令6)	令和6年度実績 自己評価																																																	
						本評価	説明																																																
			45	①先端薬物療法(クロザピンなど)を積極的に実施する。	令和6年度末時点で117名に対して継続投与中である。 静岡県内においては、現在10件の登録機関があるが、当院は3番目に承認を受けている。 <table><tr><td colspan="7">クロザピン投与患者数</td><td>(単位:人)</td></tr><tr><td>項目</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>6年度</td><td></td></tr><tr><td>患者数</td><td>60</td><td>65</td><td>73</td><td>83</td><td>91</td><td>117</td><td></td></tr></table> <table><tr><td colspan="7">クロザピン新規導入患者数</td><td>(単位:人)</td></tr><tr><td>項目</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>6年度</td><td>6年度目標</td></tr><tr><td>患者数</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>7</td><td>12</td><td>20</td><td>12人以上</td></tr></table>	クロザピン投与患者数							(単位:人)	項目	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度		患者数	60	65	73	83	91	117		クロザピン新規導入患者数							(単位:人)	項目	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	6年度目標	患者数	-	-	-	7	12	20	12人以上	A	令和6年度は投与患者数は117名となった。 クロザピン新規導入患者数は全体で20名、そのうち精神科救急に係る施設基準におけるクロザピンの新規導入患者数は18名となっている。
			クロザピン投与患者数							(単位:人)																																													
			項目	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																														
患者数	60	65	73	83	91	117																																																	
クロザピン新規導入患者数							(単位:人)																																																
項目	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	6年度目標																																																
患者数	-	-	-	7	12	20	12人以上																																																
46	①心理・社会的治療についての取組を積極的に実施する。	平成22年度から取組を始めた認知行動療法プロジェクトを、心理・社会的治療プロジェクトに発展し、認知行動療法に加え、新たに心理教育・家族教室への取り組みを実施している。また、心理教育に関する院内外研修会を開催し、スタッフのレベルアップに努めている。 <table><tr><td colspan="7">心理教育参加者数</td><td>(単位:人)</td></tr><tr><td>項目</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>6年度</td><td></td></tr><tr><td>参加者数</td><td>154</td><td>86</td><td>93</td><td>83</td><td>142</td><td>143</td><td></td></tr></table> <table><tr><td colspan="7">心理教育研修会参加者数</td><td>(単位:人)</td></tr><tr><td>項目</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>6年度</td><td></td></tr><tr><td>参加者数</td><td>66</td><td>35</td><td>29</td><td>0</td><td>26</td><td>23</td><td></td></tr></table>	心理教育参加者数							(単位:人)	項目	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度		参加者数	154	86	93	83	142	143		心理教育研修会参加者数							(単位:人)	項目	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度		参加者数	66	35	29	0	26	23		A	心理教育参加者数、院内の心理教育研修会については、前年度並みとなった。			
心理教育参加者数							(単位:人)																																																
項目	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																	
参加者数	154	86	93	83	142	143																																																	
心理教育研修会参加者数							(単位:人)																																																
項目	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																	
参加者数	66	35	29	0	26	23																																																	
	・入院患者が早期に退院し、地域で安心して生活できるように、多職種チームによる包括的在宅医療支援体制を構築する。	○多職種チームによる包括的在宅医療支援体制の構築 ①入院患者が早期に退院し、地域で安心して生活できるようになるための、多職種チームによる包括的在宅医療支援体制の構築	47	①在宅医療支援部を中心とした包括的在宅ケア(ACT)チームによる退院支援と手厚い24時間365日サポート体制による退院後の地域生活を支援する。	平成21年度に作成したガイドラインに沿って、ACTによる支援を実施している。平成22年2月の支援開始以来延べ31名の支援活動を実施した。 <table><tr><td colspan="7">ACT実施状況</td></tr><tr><td rowspan="2">対象者</td><td>外来</td><td>4</td><td>4</td><td>4</td><td>4</td><td>3</td><td>5</td></tr><tr><td>入院</td><td>2</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>3</td><td>2</td></tr><tr><td rowspan="2">活動状況</td><td>外来</td><td colspan="5">多職種による定期訪問、ケースカンファレンス</td><td></td></tr><tr><td>入院</td><td colspan="5"></td><td></td></tr></table>	ACT実施状況							対象者	外来	4	4	4	4	3	5	入院	2	1	1	1	3	2	活動状況	外来	多職種による定期訪問、ケースカンファレンス						入院							A	令和6年度末時点では外来患者5名及び入院患者2名に対して支援活動を実施している。											
ACT実施状況																																																							
対象者	外来	4	4	4	4	3	5																																																
	入院	2	1	1	1	3	2																																																
活動状況	外来	多職種による定期訪問、ケースカンファレンス																																																					
	入院																																																						
	・「心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律」の司法精神医療について、指定医療機関としての役割を積極的に果たす。	○医療観察法等の司法精神医療への積極的な関与 ①「心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律」の司法精神医療への指定医療機関としての積極的な関与	48	①医療観察法による入院処遇対象者を受け入れ、指定医療機関としての機能を最大限に発揮する。	令和6年度は4名の退院、3名の新規入院があった。 <table><tr><td colspan="7">医療観察法病棟の稼働状況</td><td>(単位:床・%)</td></tr><tr><td colspan="2">区 分</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>6年度</td></tr><tr><td colspan="2">病床数(床)</td><td>12</td><td>12</td><td>12</td><td>12</td><td>12</td><td>12</td></tr><tr><td colspan="2">病床利用率(%)</td><td>84.1</td><td>98.2</td><td>102.4</td><td>110.3</td><td>100.1</td><td>98.3</td></tr></table>	医療観察法病棟の稼働状況							(単位:床・%)	区 分		元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	病床数(床)		12	12	12	12	12	12	病床利用率(%)		84.1	98.2	102.4	110.3	100.1	98.3	A	令和6年度は特定病床の使用はなかったが、入院処遇対象患者の受入を円滑に行い、指定医療機関としての機能を発揮した。																
医療観察法病棟の稼働状況							(単位:床・%)																																																
区 分		元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																
病床数(床)		12	12	12	12	12	12																																																
病床利用率(%)		84.1	98.2	102.4	110.3	100.1	98.3																																																

中期目標		中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(令6)	令和6年度実績 自己評価																																																																																																																																																																							
							本評価	説明																																																																																																																																																																						
		・認知症・依存症・摂食障害など多様な精神疾患に対応できる体制を構築し、発達障害や思春期及び小児から成人への移行期における精神疾患への対応を図る。	○認知症・依存症・摂食障害など多様な精神疾患に対応できる体制を構築し、発達障害や思春期及び小児から成人への移行期における精神疾患への対応 ①多様な精神疾患及び小児から成人への移行期における精神疾患等に対応するための体制の構築に向けた取組	49	①総合病院における身体合併症患者への精神科医療の提供体制を整備する。 ・公立病院経営強化プラン等の精神医療の方針を踏まえ、県内精神医療の中核病院としての役割を担う体制を整備する。 また、病棟整備計画の策定や県民要望に対応した新たな体制を構築し、休床病床の解消を行う。 ・総合病院、こども病院などと連携し、児童精神分野における精神科医療の提供体制の整備を図る。 ・多様な精神疾患などに対する研究体制を整備する。	・公立病院経営強化プランや県立病院機構精神科あり方検討ワーキンググループを踏まえ、多様な精神疾患対応するため、「大人の発達障害の専門外来」、「クロザピン相談外来」を開設した。 また、各種依存症治療に対応するため、治療指導者養成研修の受講を行い、令和7年度の「依存症サポート外来」の開設に備えている。 ・休床解消については、北3病棟の改修に向けて基本・実施設計を実施中。 ・令和6年度から研究部を設置し臨床研究を実施した。	A	多様な精神疾患に対応するため、10月に「大人の発達障害外来」を1月には「クロザピン相談外来」を開設した。 施設整備については、県内精神医療の中核としての役割を果たすよう体制の整備を進めていく。 令和6年度から研究部を設置し、研究体制の整備を行っている。																																																																																																																																																																						
		・良好な療養環境の整備と効率的な病院運営を図り、また、県民に安全で質の高い医療の提供を行うため、病床稼働率及び外来患者満足度について各事業年度で高い水準を目指す。	○良好な療養環境の整備と効率的な病院運営による県民に安全で質の高い医療を提供 ①国の公立病院経営強化政策指針や県、病院機構における精神科のあり方検討を踏まえた医療体制及び病棟の整備 ②施設基準に対応したクロザピン新規導入患者数の確保 ③病床稼働率85%以上の維持 ④患者満足度(外来)の向上	50	①No.49 ②No.45 ③常時、救急患者を受け入れる体制の維持と、他職種連携による早期退院促進による効率的な病院運営に努める。 ④No.8	<table><tr><td colspan="8">病床稼働率</td><td>(単位：%)</td></tr><tr><td>区 分</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>6年度</td><td>毎年度目標</td><td></td></tr><tr><td>稼働率</td><td>85.8</td><td>84.8</td><td>78.5</td><td>80.1</td><td>84.0</td><td>86.9</td><td>85以上</td><td></td></tr></table> ・個室化の整備状況 個室化の整備については、北3病棟改修工事において3階部分の個室化を行い、その後既存各病棟の個室化を実施する予定。	病床稼働率								(単位：%)	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	毎年度目標		稼働率	85.8	84.8	78.5	80.1	84.0	86.9	85以上		A	積極的に患者を受け入れ、ベッド調整会議において効率的な病床運営を行ったことにより、令和6年度の病棟稼働率はコロナ前と比較しても高い値となった。																																																																																																																																											
病床稼働率								(単位：%)																																																																																																																																																																						
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	毎年度目標																																																																																																																																																																							
稼働率	85.8	84.8	78.5	80.1	84.0	86.9	85以上																																																																																																																																																																							
		【目標値】 ・クロザピン投与患者数(こころ) ・病床稼働率(こころ) ・患者満足度[外来](こころ)	【目標値】県立こころの医療センター ・クロザピン投与患者数(こころ) ・病床稼働率(こころ) ・患者満足度[外来](こころ) ・時間外診療件数(こころ) ・m－ECT実施件数(こころ)	—	—	—	—	—																																																																																																																																																																						
		県立こども病院	(9) 県立こども病院診療事業 小児分野の中核的医療を行う基幹病院として、一般医療機関では対応困難な小児患者に対する高度・専門医療やハイリスク妊婦に対する周産期医療を提供する。また、小児期から成人期への移行期医療に取組む。 県民に提供する医療＜業予定量＞ 病床数 279床 一般病床 243床 精神病床 36床 外来患者 99,976人 入院患者 66,678人	51	—	<table><tr><td colspan="8">入院・外来患者数</td><td>(単位：人)</td></tr><tr><td>区 分</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>6年度</td><td>6年度目標</td><td></td></tr><tr><td>入院患者数</td><td>75,736</td><td>65,681</td><td>66,476</td><td>67,877</td><td>68,088</td><td>69,143</td><td>66,678</td><td></td></tr><tr><td>外来患者数</td><td>100,672</td><td>93,078</td><td>104,999</td><td>103,277</td><td>98,167</td><td>102,926</td><td>99,976</td><td></td></tr></table>	入院・外来患者数								(単位：人)	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	6年度目標		入院患者数	75,736	65,681	66,476	67,877	68,088	69,143	66,678		外来患者数	100,672	93,078	104,999	103,277	98,167	102,926	99,976		A	小児分野の中核的医療を行う基幹病院として、一般医療機関では対応困難な小児患者に対する高度・専門医療やハイリスク妊婦に対する周産期医療の提供に努めた。 令和5年10月末に発令した経営危機宣言を令和6年度も継続し、院長ヒアリングにおいて各診療科ごとの目標設定を明確にするなど、患者数が増加するよう取り組んだ。結果、令和6年度の入院患者数及び外来患者数は、前年度実績を上回り令和6年度目標を達成した。																																																																																																																																		
入院・外来患者数								(単位：人)																																																																																																																																																																						
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	6年度目標																																																																																																																																																																							
入院患者数	75,736	65,681	66,476	67,877	68,088	69,143	66,678																																																																																																																																																																							
外来患者数	100,672	93,078	104,999	103,277	98,167	102,926	99,976																																																																																																																																																																							
		・小児分野の中核的医療を行う基幹病院として、ハイブリッド手術室等の先進設備を活用し、小児重症心疾患患者などに対して常時高度な先進的治療を提供する。小児心疾患治療の先導的施設として、専門医等の育成に努める。	○小児重症心疾患患者に対し、常時高度な専門的治療を提供する体制の充実及び小児心疾患治療の先進的な施設としての専門医等の育成 ①小児重症心疾患患者へ常時対応による専門的治療の提供体制の充実 ②小児循環器疾患治療スタッフに対する教育体制の充実や小児集中治療室(PICU)及び新生児集中治療室(NICU)の相互研修の実施を通じた治療レベルの向上による循環器センターの機能を強化 ③小児用補助人工心臓装置の活用に向けた体制整備 ④心エコー画像のリアルタイム遠隔診断の実施 ⑤血管撮影装置の2台化による循環器治療の提供体制の整備	52	①心臓血管外科、循環器科の連携による専門治療と、術後管理を行う小児集中治療室(PICU)を加えた循環器センターの体制を維持・充実させる。 ②新生児集中治療室(NICU)・小児集中治療室(PICU)と共同でカンファレンスを実施し、より研修効果をあげ、治療レベルの向上を図る。 ③小児用補助人工心臓装置の施設認定と機器の活用を図る。 ④心エコー画像の遠隔診断を継続実施する。 ⑤血管撮影装置の増設も視野に入れた循環器治療提供体制の整備を図る。	<table><tr><td colspan="8">心臓カテーテル治療実績</td><td>(単位：件)</td></tr><tr><td>区 分</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>6年度</td><td>6年度目標</td><td></td></tr><tr><td>実施件数</td><td>206</td><td>192</td><td>204</td><td>187</td><td>245</td><td>202</td><td>200件以上</td><td></td></tr></table> <table><tr><td colspan="7">ハイブリッド手術実績</td><td>(単位：件)</td></tr><tr><td>区 分</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>6年度</td><td></td><td></td></tr><tr><td>件数</td><td>5</td><td>8</td><td>6</td><td>4</td><td>8</td><td>6</td><td></td><td></td></tr></table> <table><tr><td colspan="7">循環器センターにおける入院患者数</td><td>(単位：人)</td></tr><tr><td>区 分</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>6年度</td><td></td><td></td></tr><tr><td>循環器科</td><td>5,759</td><td>4,777</td><td>4,795</td><td>5,577</td><td>5,546</td><td>5,945</td><td></td><td></td></tr><tr><td>心臓血管外科</td><td>6,952</td><td>6,195</td><td>3,700</td><td>2,640</td><td>2,262</td><td>2,414</td><td></td><td></td></tr></table> <table><tr><td colspan="7">循環器センターにおける研修医の人数</td><td>(単位：人)</td></tr><tr><td>区 分</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>6年度</td><td></td><td></td></tr><tr><td>人数</td><td>9</td><td>7</td><td>9</td><td>8</td><td>12</td><td>7</td><td></td><td></td></tr></table> <table><tr><td colspan="7">小児用補助人工心臓装置の使用状況</td><td>(単位：件)</td></tr><tr><td>区 分</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>6年度</td><td></td><td></td></tr><tr><td>件数</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>1</td><td></td><td></td></tr></table> <table><tr><td colspan="7">心エコー画像遠隔診断実績</td><td>(単位：件)</td></tr><tr><td>区 分</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>6年度</td><td></td><td></td></tr><tr><td>症例数</td><td>3</td><td>0</td><td>2</td><td>5</td><td>7</td><td>4</td><td></td><td></td></tr></table>	心臓カテーテル治療実績								(単位：件)	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	6年度目標		実施件数	206	192	204	187	245	202	200件以上		ハイブリッド手術実績							(単位：件)	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度			件数	5	8	6	4	8	6			循環器センターにおける入院患者数							(単位：人)	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度			循環器科	5,759	4,777	4,795	5,577	5,546	5,945			心臓血管外科	6,952	6,195	3,700	2,640	2,262	2,414			循環器センターにおける研修医の人数							(単位：人)	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度			人数	9	7	9	8	12	7			小児用補助人工心臓装置の使用状況							(単位：件)	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度			件数	0	0	0	0	0	1			心エコー画像遠隔診断実績							(単位：件)	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度			症例数	3	0	2	5	7	4			こども	心臓血管外科、循環器科を中心とした連携により、循環器センターにおいて多くの小児重症心疾患患者を受け入れた。 令和6年度の心臓カテーテル治療件数は、202件であり、目標値である200件を上回った。また、ハイブリッド手術室におけるハイブリッド手術実績も、高水準であった前年度並で推移している。 令和4年度に県内初の治療を行った経皮的肺動脈弁置換術(TPVI)も継続的に実施しており、令和6年6月には重症心臓疾患を持つネパール人の患者を受入れTPVIを行い成功している。 ハイブリッド手術室について、当院の小児心臓カテーテル治療件数は全国トップレベルであり、更なる件数の増加を見込めることから、部屋の増設及び血管撮影装置の設置についても検討していく。 小児用補助人工心臓装置活用の再開に向けた取組として、令和6年7月1日付けで小児用補助人工心臓実施施設として再度認定を受け、1名患者を受入れた。 さらに、心エコー画像の遠隔診断実績は4件と例年並みで推移している。 なお、循環器センターにおいて、7名の研修医を受け入れた。
心臓カテーテル治療実績								(単位：件)																																																																																																																																																																						
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	6年度目標																																																																																																																																																																							
実施件数	206	192	204	187	245	202	200件以上																																																																																																																																																																							
ハイブリッド手術実績							(単位：件)																																																																																																																																																																							
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																																																																																																								
件数	5	8	6	4	8	6																																																																																																																																																																								
循環器センターにおける入院患者数							(単位：人)																																																																																																																																																																							
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																																																																																																								
循環器科	5,759	4,777	4,795	5,577	5,546	5,945																																																																																																																																																																								
心臓血管外科	6,952	6,195	3,700	2,640	2,262	2,414																																																																																																																																																																								
循環器センターにおける研修医の人数							(単位：人)																																																																																																																																																																							
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																																																																																																								
人数	9	7	9	8	12	7																																																																																																																																																																								
小児用補助人工心臓装置の使用状況							(単位：件)																																																																																																																																																																							
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																																																																																																								
件数	0	0	0	0	0	1																																																																																																																																																																								
心エコー画像遠隔診断実績							(単位：件)																																																																																																																																																																							
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																																																																																																								
症例数	3	0	2	5	7	4																																																																																																																																																																								

中期目標		中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績（令6）	令和6年度実績 自己評価																																																																																																																																																					
							本評価	説明																																																																																																																																																				
		・地域の医療機関と連携して、ハイリスク胎児・妊婦を早期に把握、治療するための一貫した医療システムの構築に努めるほか、新生児に対して、高度な先進的治療を提供するとともに、社会の要求に応じ、県内一般小児医療水準の向上に取り組む。	○地域の医療機関と連携したハイリスク胎児・妊婦を早期に把握、治療するための一貫した医療システムの維持・充実と新生児に対しての高度な専門的治療を提供する体制の拡充 ①先天異常の出生前診断や、出生後の管理・処置のための体制整備 ②新生児への低侵襲手術の実施 ③社会の要求に応じた県内一般小児医療水準の向上	53	①最新式の超音波診断装置を導入する。 ②必要に応じ院内での低侵襲手術を継続実施する。 ③小児救急リモート指導医相談支援事業を活用したオンラインによる診療体制を構築する。	産科診療実績（単位：人） <table><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th></tr><tr><td>入院延患者数</td><td>5,810</td><td>4,461</td><td>4,823</td><td>3,642</td><td>4,003</td><td>4,347</td></tr><tr><td>MFICU入院延患者数※</td><td>1,907</td><td>1,517</td><td>1,433</td><td>1,240</td><td>1,273</td><td>1,520</td></tr></table> ※令和6年6月からは、MFICU入院相当患者であるハイリスク妊娠管理加算又はハイリスク分娩等管理加算を算定した患者を記載している。 周産期医療に係る地域医療機関向け研修会等開催実績（単位：回、人） <table><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th></tr><tr><td>研修会等回数</td><td>9</td><td>8</td><td>2</td><td>1</td><td>2</td><td>4</td></tr><tr><td>参加者数</td><td>377</td><td>255</td><td>155</td><td>45</td><td>55</td><td>80</td></tr></table> NICU診療実績（単位：人、％） <table><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th></tr><tr><td>入院延患者数</td><td>5,250</td><td>5,029</td><td>5,094</td><td>5,121</td><td>5,293</td><td>5,053</td></tr><tr><td>病床稼働率</td><td>79.7</td><td>76.5</td><td>77.5</td><td>77.9</td><td>80.3</td><td>76.9</td></tr></table> GCU診療実績（単位：人、％） <table><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th></tr><tr><td>入院延患者数</td><td>4,723</td><td>4,685</td><td>4,978</td><td>5,001</td><td>5,161</td><td>5,044</td></tr><tr><td>病床稼働率</td><td>71.7</td><td>71.3</td><td>75.8</td><td>76.1</td><td>78.3</td><td>76.8</td></tr></table> 新生児出生体重再入院患者実績（単位：人） <table><tr><th>体重(g)</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th></tr><tr><td>500未満</td><td>8</td><td>4</td><td>6</td><td>2</td><td>1</td><td>4</td></tr><tr><td>500・1,000</td><td>41</td><td>19</td><td>22</td><td>23</td><td>13</td><td>19</td></tr><tr><td>1,000・1,500</td><td>25</td><td>28</td><td>15</td><td>24</td><td>18</td><td>15</td></tr><tr><td>1,500以上</td><td>139</td><td>168</td><td>248</td><td>180</td><td>212</td><td>213</td></tr><tr><td>合計</td><td>213</td><td>219</td><td>291</td><td>229</td><td>244</td><td>251</td></tr></table> 遠隔外来患者数（単位：人） <table><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th></tr><tr><td>患者数</td><td>—</td><td>117</td><td>217</td><td>181</td><td>204</td><td>178</td></tr><tr><td>相談件数</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>8</td><td>26</td></tr></table>	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	入院延患者数	5,810	4,461	4,823	3,642	4,003	4,347	MFICU入院延患者数※	1,907	1,517	1,433	1,240	1,273	1,520	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	研修会等回数	9	8	2	1	2	4	参加者数	377	255	155	45	55	80	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	入院延患者数	5,250	5,029	5,094	5,121	5,293	5,053	病床稼働率	79.7	76.5	77.5	77.9	80.3	76.9	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	入院延患者数	4,723	4,685	4,978	5,001	5,161	5,044	病床稼働率	71.7	71.3	75.8	76.1	78.3	76.8	体重(g)	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	500未満	8	4	6	2	1	4	500・1,000	41	19	22	23	13	19	1,000・1,500	25	28	15	24	18	15	1,500以上	139	168	248	180	212	213	合計	213	219	291	229	244	251	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	患者数	—	117	217	181	204	178	相談件数	—	—	—	—	8	26	こども	A	令和6年度の産科入院患者数は、前年度を上回る数値で推移している。最新式の超音波診断装置など最先端の医療機器を整備し、先天異常の出生前超音波診断や、出生後の管理・処置等を適切に行っている。 こども病院では他の医療機関では対応が困難な超低出生体重児、極低出生体重児を受け入れており、特に令和6年度は500g未満で出生した新生児4名を診療している。より低体重で出生した患児に対しては、診療に多くの時間と人員を必要とすることもあり、NICU入院延患者数は昨年度の実績を下回った。また、新生児回復室であるGCUの入院患者数及び病床稼働率も前年度を下回った。 なお、必要に応じ新生児への低侵襲手術を実施している。 地域医療機関を対象とした研修会、検討会は、令和6年度4回開催している。 上記のとおり総合周産期母子医療センターとして、ハイリスク母体、胎児及び新生児に高度かつ一貫した医療提供を実施しており、その役割を着実に果たした。 なお、地域・小児夜間救急における地域病院群オンライン連携による365日対応を試行する「小児救急リモート指導医相談支援事業」について、関係者会議での報告・協議を行いつつ、実証試験を進めている。先行病院については令和5年12月に運用を開始し、後発病院については令和6年2月に運用を開始した。当院を含め6病院で運用し、累計26件のリモート指導を実施した。 さらには、早期発見・早期治療の効果が非常に高い疾患（診断技術と治療法の進歩により新たに対象となった疾患を含む）の新生児期における発見を目的に、こども病院が実施主体となって全県的な実施体制を整備し、静岡県において「拡大新生児スクリーニング検査」を令和5年10月に開始した。実施主体の当院、検査施設の県予防医学協会、分娩施設の3者契約により検査を実施し、41医療機関（分娩施設）が参加している。また、陽性者に迅速に対応し、正確な診断、適切な治療に遅滞なくつなげるため、こども病院、浜松医科大学小児科、聖隷浜松病院小児科の専門医で静岡希少疾患ネットワークを組織している。本事業を県全域に広げることを目標に、本県でも希少疾患の子ども達を症状発症前に発見し、診断・治療につなげ、命を救い、生活の質を格段に改善するために、引き続き取り組んでいく。
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																																																																																						
入院延患者数	5,810	4,461	4,823	3,642	4,003	4,347																																																																																																																																																						
MFICU入院延患者数※	1,907	1,517	1,433	1,240	1,273	1,520																																																																																																																																																						
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																																																																																						
研修会等回数	9	8	2	1	2	4																																																																																																																																																						
参加者数	377	255	155	45	55	80																																																																																																																																																						
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																																																																																						
入院延患者数	5,250	5,029	5,094	5,121	5,293	5,053																																																																																																																																																						
病床稼働率	79.7	76.5	77.5	77.9	80.3	76.9																																																																																																																																																						
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																																																																																						
入院延患者数	4,723	4,685	4,978	5,001	5,161	5,044																																																																																																																																																						
病床稼働率	71.7	71.3	75.8	76.1	78.3	76.8																																																																																																																																																						
体重(g)	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																																																																																						
500未満	8	4	6	2	1	4																																																																																																																																																						
500・1,000	41	19	22	23	13	19																																																																																																																																																						
1,000・1,500	25	28	15	24	18	15																																																																																																																																																						
1,500以上	139	168	248	180	212	213																																																																																																																																																						
合計	213	219	291	229	244	251																																																																																																																																																						
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																																																																																						
患者数	—	117	217	181	204	178																																																																																																																																																						
相談件数	—	—	—	—	8	26																																																																																																																																																						
		・本県における小児がんの拠点機能を有する病院として、高度な集学的治療に積極的に取り組む。	○小児がん拠点病院（厚生労働省指定）として、高度な集学的治療への積極的な取組 ①小児がんの集学的治療推進、セカンドオピニオンの受入れなど、がん診療の機能強化 ②院内がん登録の推進 ③県立静岡がんセンターとの連携強化 ④AYA世代がん診療の連携等を推進 ⑤がん公開講座や研修会等の開催	54	小児がん拠点病院として、整備した施設及び体制の活用により、小児がん診療の更なる充実を行う。 ①②静岡県小児がん拠点病院（厚生労働省指定）として血液腫瘍に対しては、骨髄・末梢血幹細胞・臍帯血移植などの治療法を利用して対応する。 ③県立静岡がんセンターとの共同カンファレンスを実施する。 ③小児がん連携病院を指定し、地域医療機関との連携を図り、拠点病院としての役割を果たす。 ④AYA世代がんに携わる医療従事者向け研修会を開催する。 ⑤がん公開講座や研修会（脳腫瘍関連）等を開催する。	血液腫瘍科延患者数実績（単位：人） <table><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th></tr><tr><td>入院</td><td>7,849</td><td>7,335</td><td>4,810</td><td>6,268</td><td>6,326</td><td>4,772</td></tr><tr><td>外来</td><td>3,430</td><td>3,079</td><td>3,276</td><td>3,204</td><td>2,772</td><td>2,834</td></tr></table> 造血幹細胞移植実績（単位：件） <table><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th></tr><tr><td>骨髄移植</td><td>2</td><td>8</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td><td>5</td></tr><tr><td>臍帯血</td><td>3</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>4</td></tr><tr><td>自家末梢血</td><td>4</td><td>1</td><td>1</td><td>4</td><td>2</td><td>6</td></tr><tr><td>同種末梢血</td><td>1</td><td>1</td><td>0</td><td>1</td><td>2</td><td>0</td></tr><tr><td>計</td><td>10</td><td>12</td><td>6</td><td>10</td><td>9</td><td>15</td></tr></table> 小児がん登録件数（単位：人） <table><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th><th>6年度目標</th></tr><tr><td>登録件数</td><td>56</td><td>55</td><td>53</td><td>42</td><td>45</td><td>41</td><td>45</td></tr></table> がんセンターとの共同カンファレンス回数（単位：回） <table><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th></tr><tr><td>回数</td><td>3</td><td>7</td><td>3</td><td>9</td><td>12</td><td>13</td></tr></table> AYA世代がん研修会実施回数（単位：回） <table><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th></tr><tr><td>回数</td><td>4</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>3</td><td>3</td></tr></table> がん公開講座件数（単位：回） <table><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th></tr><tr><td>件数</td><td>1</td><td>0</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr></table> 研修会（脳腫瘍関係）（単位：回） <table><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th></tr><tr><td>開催回数</td><td>—</td><td>—</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><td>参加人数</td><td>—</td><td>—</td><td>64</td><td>61</td><td>66</td><td>54</td></tr></table>	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	入院	7,849	7,335	4,810	6,268	6,326	4,772	外来	3,430	3,079	3,276	3,204	2,772	2,834	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	骨髄移植	2	8	3	3	3	5	臍帯血	3	2	2	2	2	4	自家末梢血	4	1	1	4	2	6	同種末梢血	1	1	0	1	2	0	計	10	12	6	10	9	15	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	6年度目標	登録件数	56	55	53	42	45	41	45	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	回数	3	7	3	9	12	13	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	回数	4	2	2	2	3	3	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	件数	1	0	1	1	1	1	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	開催回数	—	—	1	1	1	1	参加人数	—	—	64	61	66	54	こども	A	こども病院は、平成31年4月に全国で15施設しか選定されない厚生労働省指定の小児がん拠点病院に初めて指定され、指定期間の4年間において着実にその責務を果たした。このことにより、令和4年度に拠点病院としての指定を再度受け、令和5年4月から2期目の取組を開始している。 令和6年度の小児がん登録件数は41件であり、院内がん登録を推進しており、造血幹細胞移植を計15件実施し、各種治療法を利用して対応した。また、がんセンターとの共同カンファレンスは13回実施しており、最良の診療を提供するべく連携強化を図った。 がん相談支援センターを設置し、患児やその家族の抱える悩みや不安を受け止め、継続的に支援、対応をしている。 また、AYA世代がんに携わる医療従事者向け研修会を実施するとともに、専門医の育成にも取り組んでいる。 指定継続により、ドラッグラグの解消、難治性疾患の治療開発のための治験・臨床研究への参加が加速し、小児がん領域の医師主導治験2件、企業治験1件（国際共同治験で国内参加施設は5施設のみ）、国際共同特定臨床研究1件に参加している。治験参加施設は限られており、当院の小児がん患者が他施設では使用できない薬剤を使用する機会が増加するなど、治験参加のメリットは非常に大きい。更なる体制整備を進め、指定継続を確実なものにしている。 院内外科系診療科、内科系診療科との密な連携や、がん化学療法看護・緩和ケア認定看護師を含む看護スタッフ、薬剤師、チャイルド・ライフ・スペシャリスト等の多職種の専門職の協働により、高度な集学的治療に積極的に取り組んでおり、小児がん拠点病院としての役割を着実に果たしている。 さらには、以下取組を実施している。 ・小児がん拠点病院として臨床試験、治験に積極的に取り組み、症例のリクルートにあたって県内の小児がん連携病院と連携している。 ・小児がんに対するがんゲノム医療を実践し、臨床研究を通じてゲノム医療の開発を行っている。 ・遺伝染色体科と協同し、遺伝性腫瘍の診療を行っている。 ・神経線維腫症1型に伴う叢状神経線維腫に対し、分子標的薬MEK阻害剤の使用を開始し、適用実績を重ねている。 ・外科系診療科と共に血管腫・脈管奇形の診療、薬物治療に取り組んでいる。					
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																																																																																						
入院	7,849	7,335	4,810	6,268	6,326	4,772																																																																																																																																																						
外来	3,430	3,079	3,276	3,204	2,772	2,834																																																																																																																																																						
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																																																																																						
骨髄移植	2	8	3	3	3	5																																																																																																																																																						
臍帯血	3	2	2	2	2	4																																																																																																																																																						
自家末梢血	4	1	1	4	2	6																																																																																																																																																						
同種末梢血	1	1	0	1	2	0																																																																																																																																																						
計	10	12	6	10	9	15																																																																																																																																																						
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	6年度目標																																																																																																																																																					
登録件数	56	55	53	42	45	41	45																																																																																																																																																					
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																																																																																						
回数	3	7	3	9	12	13																																																																																																																																																						
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																																																																																						
回数	4	2	2	2	3	3																																																																																																																																																						
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																																																																																						
件数	1	0	1	1	1	1																																																																																																																																																						
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																																																																																						
開催回数	—	—	1	1	1	1																																																																																																																																																						
参加人数	—	—	64	61	66	54																																																																																																																																																						

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績（令6）	令和6年度実績 自己評価																																																																																																										
						本評価	説明																																																																																																									
		・重篤な小児救命救急患者を常時受入れ可能な体制を維持・強化し、救急医療全般にわたって地域の医療機関と連携して受け入れる体制を整備する。	55	こころ	小児救急センターの患者数（単位：人、％） <table><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th></tr><tr><td>入院延患者数</td><td>5,916</td><td>3,619</td><td>4,612</td><td>4,328</td><td>4,930</td><td>4,803</td></tr></table> PICUにおける救急患者受入数（単位：人、％） <table><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th></tr><tr><td>入院延患者数</td><td>2,416</td><td>2,083</td><td>2,949</td><td>3,752</td><td>3,915</td><td>3,772</td></tr><tr><td>病床稼働率</td><td>82.5</td><td>71.3</td><td>73.4</td><td>85.7</td><td>89.1</td><td>86.1</td></tr></table> ※令和3年6月に実施したICUの統合（PICUとCCUの統合）の結果、心臓重症患者の受入を開始したこと等により大幅に増加した。 ER診療実績（単位：人） <table><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th></tr><tr><td>入院患者数</td><td>1,695</td><td>1,254</td><td>1,504</td><td>1,269</td><td>1,550</td><td>1,458</td></tr><tr><td>外来患者数</td><td>4,221</td><td>2,365</td><td>3,108</td><td>3,059</td><td>3,380</td><td>3,345</td></tr></table> ドクターヘリ搬送実績（単位：回） <table><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th></tr><tr><td>回数</td><td>33</td><td>22</td><td>19</td><td>21</td><td>24</td><td>22</td></tr></table> ドクターカー（高規格救急車）出動実績（単位：回） <table><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th></tr><tr><td>回数</td><td>291</td><td>193</td><td>212</td><td>222</td><td>172</td><td>156</td></tr></table> PICU配置医師・看護師（年平均、人） <table><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th></tr><tr><td>医師（有期含む）</td><td>9</td><td>8</td><td>10</td><td>14</td><td>13</td><td>13</td></tr><tr><td>看護師</td><td>29</td><td>33</td><td>43</td><td>45</td><td>42</td><td>43</td></tr></table> ・患者家族宿泊施設の整備計画の検討状況 入札不調により整備が中断しているが、設計の見直しにより令和7年度の着工を目処に関係機関との調整を進めていく。	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	入院延患者数	5,916	3,619	4,612	4,328	4,930	4,803	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	入院延患者数	2,416	2,083	2,949	3,752	3,915	3,772	病床稼働率	82.5	71.3	73.4	85.7	89.1	86.1	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	入院患者数	1,695	1,254	1,504	1,269	1,550	1,458	外来患者数	4,221	2,365	3,108	3,059	3,380	3,345	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	回数	33	22	19	21	24	22	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	回数	291	193	212	222	172	156	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	医師（有期含む）	9	8	10	14	13	13	看護師	29	33	43	45	42	43	A	令和6年度のPICU入院延患者数はおおよそ前年度並みで推移している。病床稼働率は、西3病棟のうち西3BチームをPICUの後方病床とし集中治療系の病床運用を効率的に行っていることから、85％を上回っている。 また、ER患者数もおおむね前年度並で推移している。小児における静岡市病院群輪番制に参画するとともに、富士・富士宮、志太榛原等の地域の小児救急体制を補完している。 なお、令和6年度も、PICU病棟の医師確保に努め、専門スタッフを配置し、小児救急体制の充実を図っている。 メディカルコントロール体制への協力も引き続き実施しており、県メディカルコントロール推進作業部会に集中治療科医師、静岡地域メディカルコントロール協議会に小児救急科等の医師が参加している。 上記のとおりPICU・ERを運営し、24時間体制で重篤な小児患者に対する救急医療を提供しており、小児救命救急センターの役割を着実に果たしている。 患者家族宿泊施設の整備に関しては、人件費や建設物資の高騰により入札不調となっており、整備が中断しているが、設計の見直しにより令和7年度の着工を目処に関係機関との調整を進めていく。 さらには、地域・小児夜間救急における地域病院群オンライン連携による365日対応を試行する「小児救急リモート指導医相談支援事業」について、関係者会議での報告・協議を行いつつ、実証試験を進めている。先行病院については令和5年12月に運用を開始し、後発病院については令和6年2月に運用を開始した。当院を含め6病院で運用し、累計26件のリモート指導を実施した。
		区 分			元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																																						
		入院延患者数			5,916	3,619	4,612	4,328	4,930	4,803																																																																																																						
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																																										
入院延患者数	2,416	2,083	2,949	3,752	3,915	3,772																																																																																																										
病床稼働率	82.5	71.3	73.4	85.7	89.1	86.1																																																																																																										
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																																										
入院患者数	1,695	1,254	1,504	1,269	1,550	1,458																																																																																																										
外来患者数	4,221	2,365	3,108	3,059	3,380	3,345																																																																																																										
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																																										
回数	33	22	19	21	24	22																																																																																																										
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																																										
回数	291	193	212	222	172	156																																																																																																										
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																																										
医師（有期含む）	9	8	10	14	13	13																																																																																																										
看護師	29	33	43	45	42	43																																																																																																										
・精神疾患を持つ小児患者やその家族に対して、児童精神科分野における中核的機能の発揮に努める。	56	こころ	こころの診療科診療実績（単位：人） <table><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th></tr><tr><td>入院延患者数</td><td>9,445</td><td>7,890</td><td>10,353</td><td>11,258</td><td>10,698</td><td>10,952</td></tr><tr><td>入院新患者数</td><td>50</td><td>63</td><td>71</td><td>63</td><td>69</td><td>59</td></tr><tr><td>外来延患者数</td><td>11,592</td><td>11,383</td><td>13,180</td><td>12,459</td><td>11,814</td><td>11,911</td></tr><tr><td>外来初診患者数</td><td>514</td><td>579</td><td>617</td><td>542</td><td>543</td><td>602</td></tr></table> こころの診療科地域別実患者数実績（単位：人） <table><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th></tr><tr><td>東部</td><td>759</td><td>744</td><td>829</td><td>796</td><td>784</td><td>778</td></tr><tr><td>中部</td><td>1,227</td><td>1,329</td><td>1,423</td><td>1,424</td><td>1,477</td><td>1,574</td></tr><tr><td>西部</td><td>59</td><td>56</td><td>53</td><td>44</td><td>54</td><td>47</td></tr><tr><td>県外</td><td>14</td><td>13</td><td>13</td><td>9</td><td>9</td><td>9</td></tr><tr><td>合計</td><td>2,059</td><td>2,142</td><td>2,318</td><td>2,273</td><td>2,324</td><td>2,408</td></tr></table>	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	入院延患者数	9,445	7,890	10,353	11,258	10,698	10,952	入院新患者数	50	63	71	63	69	59	外来延患者数	11,592	11,383	13,180	12,459	11,814	11,911	外来初診患者数	514	579	617	542	543	602	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	東部	759	744	829	796	784	778	中部	1,227	1,329	1,423	1,424	1,477	1,574	西部	59	56	53	44	54	47	県外	14	13	13	9	9	9	合計	2,059	2,142	2,318	2,273	2,324	2,408	A	こころの診療科は、全国的にも少ない小児総合医療機関内に開放・閉鎖の2つのエリアを有する入院病棟を持ち、多くの入院患者を受入れている。コロナ禍から完全に回復し、令和6年度の入院患者数も前年度と同水準で推移した。また、外来患者数も入院と同様、前年度と同程度の実績となった。 県内の児童精神科医療の中核的機能を持つ病院として、中部地域はもちろんのこと、児童精神科の医療機関が少ない東部地域からも多くの患者を受け入れており、子どもの心に向き合う医療を行った。																														
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																																										
入院延患者数	9,445	7,890	10,353	11,258	10,698	10,952																																																																																																										
入院新患者数	50	63	71	63	69	59																																																																																																										
外来延患者数	11,592	11,383	13,180	12,459	11,814	11,911																																																																																																										
外来初診患者数	514	579	617	542	543	602																																																																																																										
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																																										
東部	759	744	829	796	784	778																																																																																																										
中部	1,227	1,329	1,423	1,424	1,477	1,574																																																																																																										
西部	59	56	53	44	54	47																																																																																																										
県外	14	13	13	9	9	9																																																																																																										
合計	2,059	2,142	2,318	2,273	2,324	2,408																																																																																																										
	57	こども	②厚生労働省の「子どもの心の診療ネットワーク事業」に静岡県の拠点病院として参加する。 事業を行っている全国19都府県1政令指定都市にある29の拠点病院の一つとして参加し、学校・地域との連携強化を図った。 (拠点病院を配置している都府県等) 岩手県、群馬県、千葉県、東京都、石川県、山梨県、長野県、静岡県、三重県、大阪府、兵庫県、鳥取県、島根県、岡山県、香川県、高知県、福岡県、佐賀県、熊本県、沖縄県、札幌市	A	こども病院は、厚生労働省の「子どもの心の診療ネットワーク事業」に静岡県の拠点病院として参加している。 令和6年度は児童養護施設の巡回事業は4施設12回実施し、複数の地域の要保護児童対策協議会に医師等が参加するなど、福祉、教育、保健など様々な領域と連携し、診療支援を行った。 また、診療関係者の研修・育成事業にも取り組み、研修医や学生を受入れるとともに、教員を対象とした児童思春期精神保健講座を5回実施した。																																																																																																											

中期目標		中期計画		年度計画		No	行動計画	業務の実績(令6)	令和6年度実績 自己評価																																																																																														
									本評価	説明																																																																																													
						58	③児童精神科医の育成に努める。	こども <table><tr><td colspan="6">有期職員医師採用実績</td><td>(単位：人)</td></tr><tr><td>区 分</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>6年度</td></tr><tr><td>採用人数</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr></table>	有期職員医師採用実績						(単位：人)	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	採用人数	1	1	1	1	1	1	A	有期職員医師を1名採用し、専門的な児童精神科医を育成している。 児童精神科臨床研修として有期職員医師を1名採用し、児童精神科医の育成を行った。																																																																								
有期職員医師採用実績						(単位：人)																																																																																																	
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																																	
採用人数	1	1	1	1	1	1																																																																																																	
						59	①言語聴覚業務における学校現場との連携、理学療法における退院後のフォロー、作業療法における急性期作業療法他の充実を図る。 ①医療的ケア児の在宅移行支援病棟の設置を検討する。 ①「短期入所サービス」事業の実施	こども <table><tr><td colspan="7">医療的ケア児に関する検討会開催実績</td><td>(単位：回)</td></tr><tr><td>区 分</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>6年度</td></tr><tr><td>回数</td><td>3</td><td>6</td><td>6</td><td>3</td><td>1</td><td>1</td></tr></table> <table><tr><td colspan="8">リハビリ実施実績</td><td>(単位：件)</td></tr><tr><td>区 分</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>6年度</td><td>毎年度目標</td></tr><tr><td>理学療法</td><td>22,829</td><td>22,985</td><td>24,683</td><td>25,770</td><td>26,886</td><td>34,097</td><td>20,000</td></tr><tr><td>作業療法</td><td>4,546</td><td>3,813</td><td>7,794</td><td>11,495</td><td>11,333</td><td>10,566</td><td>—</td></tr><tr><td>言語聴覚療法</td><td>9,744</td><td>10,162</td><td>10,045</td><td>9,555</td><td>10,332</td><td>11,053</td><td>—</td></tr><tr><td>計</td><td>37,119</td><td>36,960</td><td>42,522</td><td>46,820</td><td>48,551</td><td>55,716</td><td>—</td></tr></table> <table><tr><td colspan="7">短期入所利用者数</td><td>(単位：人)</td></tr><tr><td>区 分</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>6年度</td></tr><tr><td>利用者数</td><td>—</td><td>—</td><td>0</td><td>3</td><td>3</td><td>4</td></tr></table>	医療的ケア児に関する検討会開催実績							(単位：回)	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	回数	3	6	6	3	1	1	リハビリ実施実績								(単位：件)	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	毎年度目標	理学療法	22,829	22,985	24,683	25,770	26,886	34,097	20,000	作業療法	4,546	3,813	7,794	11,495	11,333	10,566	—	言語聴覚療法	9,744	10,162	10,045	9,555	10,332	11,053	—	計	37,119	36,960	42,522	46,820	48,551	55,716	—	短期入所利用者数							(単位：人)	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	利用者数	—	—	0	3	3	4	A	他院では対応困難な小児重症患者へのリハビリの拠点として、言語聴覚業務における学校現場との連携、理学療法における退院後のフォローなどを行っており、令和6年度のリハビリ実施件数は、年度目標を達成し過去最大件数であった令和5年度を大幅に上回った。 在宅移行の推進や在宅移行後の医療的ケア児への対応として、令和2年度に医療型短期入所(空床型)に係る障害福祉サービス事業者の指定を受け、サービスを提供している。 こども病院は小児の急性期高度専門医療を担っているが、慢性期医療・福祉の分野となる医療的ケア児について、在宅移行、在宅移行後の患児・家族へのフォローに関する検討を行っている。
医療的ケア児に関する検討会開催実績							(単位：回)																																																																																																
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																																	
回数	3	6	6	3	1	1																																																																																																	
リハビリ実施実績								(単位：件)																																																																																															
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	毎年度目標																																																																																																
理学療法	22,829	22,985	24,683	25,770	26,886	34,097	20,000																																																																																																
作業療法	4,546	3,813	7,794	11,495	11,333	10,566	—																																																																																																
言語聴覚療法	9,744	10,162	10,045	9,555	10,332	11,053	—																																																																																																
計	37,119	36,960	42,522	46,820	48,551	55,716	—																																																																																																
短期入所利用者数							(単位：人)																																																																																																
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																																	
利用者数	—	—	0	3	3	4																																																																																																	

令和6年度実績 自己評価					
本評価	説明				
A	令和6年度の病床稼働率は77.3%と目標を上回っている。平均在院日数が短縮する中で入院患者数は増加しており、効率的な医療提供の推進が図られていることが背景となっている。 こども病院は極めて広域性があり、遠方から来院する患者の負担を軽減しつつ安全で質の高い医療を提供するため、令和2年9月からオンラインによる外来診療体制を全国に先駆けて構築しており、令和6年度も継続的に実施している。また、令和5年12月から「小児救急リモート指導医相談支援事業」の運用も開始しており、遠隔医療を適切に推進している。 入退院支援センターを活用し、患者サービスの向上のための業務を推進している。具体的には、入院説明時に患者から得た情報を基にアセスメントをして入院前支援・療養支援計画書を立案し、入院前に入院病棟と情報共有している。令和6年度のセンター利用者数は過去最高をとった。 国際的な医療機能評価のJCI取得を見据え、まずは日本医療機能評価機構による病院機能評価の更新に対応した。令和5年度に「病院の質向上プロジェクト」を開始し、多岐に渡る継続的な活動を行い、令和6年6月に審査を受審した。また、国際ニュース週刊誌のニューズウィークが発表する「世界の優れた専門病院ランキング」の小児科部門に3年連続でランクインしており、安全で質の高い医療を提供していることが国際的にも評価されている。 療養環境整備の一環として、平成21年度に全国で初めてファシリティドッグを導入した。ファシリティドッグがいることで、子ども達のストレスが軽減され、治療に前向きになり、食欲やリハビリが促進されるなどの効果が報告されている。また、臨床経験のある医療者がハンドラーを務めることで医療スタッフと円滑にコミュニケーションがとれ、医療チームの一員として、単なる患者さんとの触れ合い活動にとどまらず、個々の患者さんのニーズに応じて積極的に治療に介入することができている。 病棟にプレイルームや自習室を備えて遊びや学習の場を提供している。また、図書室、病棟及び外来には「わくわく文庫」を設置し、療養中の子どもたちを支援している。 さらに、子どもたちの想像力向上、不安の緩和などを目的に、様々なホスピタルアートに取り組んでおり、「日本文化の四季」や「世界旅行」をテーマとした県内大学生による壁面装飾アートや、寄贈されたデズニー壁紙を院内に配置している。外来には子どもたちが描いた魚の絵がスクリーンに映し出される「紙アクアリウム」を設置・運用している。また、入院している子どもやその家族を対象に模擬店の出店などを行う「わくわくまつり」を8月に開催したり、県内チームに所属するスポーツ選手の訪問を定期的に受入れたりもしている。 こども病院に長期入院する児童生徒は県立中央特別支援学校に在籍し、病院内学級(きらら学級・そよかぜ学級)にて学習を継続している。その一方で、退院後に地域の学校へ戻っていくことを見据えて、児童生徒がオンラインで元在籍校とつながったり、教員間で学習状況の確認をしたりしている。また、地域医療連携室が診療情報等に関する窓口となるとともに、復学時には病棟プライマリー看護師が主体となってカンファレンスを実施し、患児を中心に、患児家族、医療者、教育関係者が連携して対応している。なお、令和4年度に県教育委員会と連携して実施した、高校生の小児がん患者への学習継続支援の結果、現在はオンラインでの授業参加により正式に履修修得可能となっている。				

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(令6)																																																																													
	・少子化の進行等に対応する効率的な病院運営体制と良好な療養環境を整備し、県民に安全で質の高い医療の提供を行うことにより、病床稼働率及び入院・外来患者満足度について各事業年度で高い水準を目指す。	○効率的な病院運営と良好な療養環境の整備による県民に安全で質の高い医療を提供 ①医療安全体制の徹底 ②入退院支援センターを活用した患者サービスの向上 ③心臓カテーテル治療数の増加 ④病床稼働率75%以上の維持 ⑤患者満足度(入院・外来)の向上 ⑥遠隔医療の適切な推進 ⑦良好な療養環境の提供、整備	60	①医療安全体制を徹底し、国際的な医療機能評価であるJCI取得を視野に入れた、院内機能強化を進める。 ②入退院支援センターの業務の推進。 ③No52 ④効率的な病院運営を行い、高い病床稼働率を維持する。 ⑤No8 ⑥遠隔による外来診療、セカンドオピニオンを実施する。 ⑥No53 ⑦ファシリティドッグやホスピタルアート等による療養環境の提供、整備のほか、中央特別支援学校との連携による学習支援の取組を進める。	<table><caption>JCIワーキングの設置と開催回数 (単位:回)</caption><tr><th>区 分</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th></tr><tr><td>開催回数</td><td>-</td><td>3</td><td>1</td><td>0</td><td>0</td></tr></table> <table><caption>病床稼働率 (単位:%)</caption><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th><th>毎年度目標</th></tr><tr><td>稼働率</td><td>76.4</td><td>66.4</td><td>76.7</td><td>75.9</td><td>75.9</td><td>77.3</td><td>75以上</td></tr></table> <table><caption>入退院支援センター利用者数 (単位:人)</caption><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th></tr><tr><td>利用者数</td><td>—</td><td>5,382</td><td>4,573</td><td>4,814</td><td>4,918</td><td>5,530</td></tr></table> <table><caption>遠隔外来患者数 (単位:人)</caption><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th></tr><tr><td>患者数</td><td>—</td><td>117</td><td>217</td><td>181</td><td>204</td><td>178</td></tr><tr><td>相談件数</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>8</td><td>26</td></tr></table> <table><caption>ファシリティドッグの活動実績 (単位:回)</caption><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th></tr><tr><td>回数</td><td>1,649</td><td>1,201</td><td>1,473</td><td>2,298</td><td>2,239</td><td>2,223</td></tr></table> ・ファシリティドッグの活動状況 ファシリティドッグは、専門的な研修を修了した臨床経験のある看護師のハンドラーとペアを組み、平日5日間、フルタイムで病院に勤務している。主な活動内容は、手術室への移動の付き添い、リハビリの応援、兄弟、家族のケア、採血・点滴確保の際の応援、ベットでの添い寝などである。 ・療養環境整備状況 医師、看護師を中心に構成された療養環境改善委員会にて、子どものための療養環境について検討している。また、小児医療施設に特有の保育士、チャイルド・ライフ・スペシャリスト(CLS)、ホスピタル・プレイ・スペシャリスト(HPS)、さらには病院ボランティアも加えた多職種で、子どもの生活そのものであり、有効なコミュニケーションツールである「遊び」の提供を含めた、将来を見据え成長を支える療養環境の整備を行っている。 ・中央特別支援学校との連携を含めた学習支援の取組 長期入院する児童生徒に対し、県立中央特別支援学校による病院内学級(きらら学級・そよかぜ学級)にて学習の場を提供している。一方で、退院後に地域の学校へ戻っていくことを見据え、オンラインも活用しながら、連携、復学支援、学習継続支援などを行っている。	区 分	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	開催回数	-	3	1	0	0	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	毎年度目標	稼働率	76.4	66.4	76.7	75.9	75.9	77.3	75以上	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	利用者数	—	5,382	4,573	4,814	4,918	5,530	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	患者数	—	117	217	181	204	178	相談件数	—	—	—	—	8	26	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	回数	1,649	1,201	1,473	2,298	2,239	2,223
区 分	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																													
開催回数	-	3	1	0	0																																																																													
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	毎年度目標																																																																											
稼働率	76.4	66.4	76.7	75.9	75.9	77.3	75以上																																																																											
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																												
利用者数	—	5,382	4,573	4,814	4,918	5,530																																																																												
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																												
患者数	—	117	217	181	204	178																																																																												
相談件数	—	—	—	—	8	26																																																																												
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																												
回数	1,649	1,201	1,473	2,298	2,239	2,223																																																																												

中期目標		中期計画		年度計画		No	行動計画		業務の実績(令6)		令和6年度実績 自己評価	
											本評価	説明
				【目標値】 ・心臓カテーテル治療実績(こども) ・病床稼働率(こども) ・患者満足度[入院・外来](こども)			【目標値】県立こども病院 ・心臓カテーテル治療実績(こども) ・病床稼働率(こども) ・患者満足度[入院・外来](こども) ・小児がん登録件数(こども) ・リハ実施件数(こども)	—			—	
2	医療従事者の確保及び質の向上 各病院及び地域の医療水準の維持・向上を図るため、医療従事者の確保・育成に努めること。また、優秀な人材を確保・育成するため、研究環境の充実や、院内研修、国内外との交流による研修機能の強化を図ること。さらに、医療従事者が働きやすい環境の整備に努めること。	2	医療従事者の確保及び質の向上 県立病院が提供する医療の質の向上を図り、最適な医療を安全に提供するため、医療従事者が専門業務に専念できる体制や働きやすい環境の整備に努めることにより、優秀な人材の確保・育成を行う。また、研究環境の充実や、教育研修機能の充実や国内外の医療機関との交流などを推進し、医療従事者の確保・育成に積極的に取り組む。	2	医療従事者の確保及び質の向上	—	—	—	—			—
					61	本部・各病院（総務）	・業務運営に必要な人材の確保に努める。		職員の確保状況(各年度4月1日現在) (単位:人)		B	令和6年度について、医師に関しては、派遣医局等への働きかけ等を行い、専門医確保に向けてホームページにプログラム説明動画を公開し、プログラムの魅力を伝えるなど、確保に努めている。 看護師の募集については、修学資金の貸与など確保対策を進めている。 また、病院説明会や養成校訪問、県内外の合同就職説明会への積極的な参加を行っており、令和6年9月末時点で3病院の必要数を確保できたが、内定辞退や国家試験に合格できなかったなどの理由により、最終的には採用予定人数120人に対して5人不足の115人の採用となった。
					62	各病院（総務）	・研修医の確保に努める。		初期臨床研修医数（総合病院） (単位：人)		A	初期臨床研修医確保活動として、対面式の合同説明会が開催され、東京・大阪・浜松でPR活動を行った。 後期臨床研修医確保活動として、当院に見学に来た医師を対象に申し込みの案内メールを複数回送付した。また昨年同様、遠方で見学に来るのが難しい研修医等をターゲットにオンライン会議システムを活用した面談を案内した。
									後期臨床研修医数 (単位：人)			

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績（令6）	令和6年度実績 自己評価																																																																																																																																																																																																																																							
						本評価	説明																																																																																																																																																																																																																																						
			63	・即時的で効果的な人材を確保するため、採用試験を適宜実施する。	看護師については、定時募集に加えて随時募集を実施し、切れ目のない採用試験を実施している。 正規職員の確保状況（各年度4月1日現在）（単位：人） <table><tr><th>区分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th><th>7年度</th></tr><tr><td rowspan="6">法人合計</td><td>医 師</td><td>283</td><td>289</td><td>293</td><td>307</td><td>322</td><td>341</td></tr><tr><td>歯科医師</td><td>5</td><td>7</td><td>7</td><td>8</td><td>7</td><td>7</td></tr><tr><td>看護 師</td><td>1,366</td><td>1,398</td><td>1,403</td><td>1,398</td><td>1,408</td><td>1,413</td></tr><tr><td>医療技術</td><td>333</td><td>347</td><td>362</td><td>369</td><td>373</td><td>377</td></tr><tr><td>研 究 員</td><td>2</td><td>2</td><td></td><td>1</td><td>1</td><td>0</td></tr><tr><td>事 務</td><td>123</td><td>131</td><td>136</td><td>140</td><td>139</td><td>140</td></tr><tr><td>計</td><td>2,112</td><td>2,174</td><td>2,201</td><td>2,223</td><td>2,250</td><td>2,278</td></tr><tr><td rowspan="4">本部</td><td>医 師</td><td></td><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td>1</td></tr><tr><td>看護 師</td><td>3</td><td>1</td><td>3</td><td>3</td><td>2</td><td>1</td></tr><tr><td>医療技術</td><td></td><td></td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>2</td></tr><tr><td>事 務</td><td>32</td><td>32</td><td>32</td><td>34</td><td>33</td><td>30</td></tr><tr><td>計</td><td>35</td><td>34</td><td>36</td><td>38</td><td>36</td><td>34</td></tr><tr><td rowspan="6">総合</td><td>医 師</td><td>179</td><td>184</td><td>188</td><td>195</td><td>202</td><td>206</td></tr><tr><td>歯科医師</td><td>4</td><td>6</td><td>5</td><td>6</td><td>5</td><td>5</td></tr><tr><td>看護 師</td><td>807</td><td>829</td><td>826</td><td>837</td><td>847</td><td>859</td></tr><tr><td>医療技術</td><td>226</td><td>237</td><td>249</td><td>255</td><td>260</td><td>261</td></tr><tr><td>研 究 員</td><td>2</td><td>2</td><td></td><td>1</td><td>1</td><td>0</td></tr><tr><td>事 務</td><td>53</td><td>59</td><td>63</td><td>65</td><td>65</td><td>69</td></tr><tr><td>計</td><td>1,271</td><td>1,317</td><td>1,331</td><td>1,359</td><td>1,380</td><td>1,431</td></tr><tr><td rowspan="5">こころ</td><td>医 師</td><td>14</td><td>13</td><td>13</td><td>13</td><td>14</td><td>15</td></tr><tr><td>看護 師</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>看護 師</td><td>120</td><td>124</td><td>122</td><td>122</td><td>127</td><td>130</td></tr><tr><td>医療技術</td><td>25</td><td>26</td><td>26</td><td>27</td><td>27</td><td>28</td></tr><tr><td>事 務</td><td>11</td><td>12</td><td>13</td><td>14</td><td>14</td><td>14</td></tr><tr><td>計</td><td>170</td><td>175</td><td>174</td><td>176</td><td>182</td><td>187</td></tr><tr><td rowspan="5">こども</td><td>医 師</td><td>90</td><td>91</td><td>92</td><td>99</td><td>106</td><td>119</td></tr><tr><td>看護 師</td><td>1</td><td>1</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td></tr><tr><td>看護 師</td><td>436</td><td>444</td><td>452</td><td>436</td><td>432</td><td>423</td></tr><tr><td>医療技術</td><td>82</td><td>84</td><td>86</td><td>86</td><td>85</td><td>86</td></tr><tr><td>事 務</td><td>27</td><td>28</td><td>28</td><td>27</td><td>27</td><td>26</td></tr><tr><td>計</td><td>636</td><td>648</td><td>660</td><td>650</td><td>652</td><td>657</td></tr></table>	区分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	法人合計	医 師	283	289	293	307	322	341	歯科医師	5	7	7	8	7	7	看護 師	1,366	1,398	1,403	1,398	1,408	1,413	医療技術	333	347	362	369	373	377	研 究 員	2	2		1	1	0	事 務	123	131	136	140	139	140	計	2,112	2,174	2,201	2,223	2,250	2,278	本部	医 師		1				1	看護 師	3	1	3	3	2	1	医療技術			1	1	1	2	事 務	32	32	32	34	33	30	計	35	34	36	38	36	34	総合	医 師	179	184	188	195	202	206	歯科医師	4	6	5	6	5	5	看護 師	807	829	826	837	847	859	医療技術	226	237	249	255	260	261	研 究 員	2	2		1	1	0	事 務	53	59	63	65	65	69	計	1,271	1,317	1,331	1,359	1,380	1,431	こころ	医 師	14	13	13	13	14	15	看護 師							看護 師	120	124	122	122	127	130	医療技術	25	26	26	27	27	28	事 務	11	12	13	14	14	14	計	170	175	174	176	182	187	こども	医 師	90	91	92	99	106	119	看護 師	1	1	2	2	2	2	看護 師	436	444	452	436	432	423	医療技術	82	84	86	86	85	86	事 務	27	28	28	27	27	26	計	636	648	660	650	652	657	A	医師については、専門医確保に向けてホームページにプログラム説明動画を公開し、プログラムの魅力を伝え、募集に努めている。 今後、新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら、医学生向け説明会への参加や病院見学の受入などを行い確保に努める。 令和6年度は、看護師募集について、定時募集を第1期は3病院、第2期と第3期は総合病院を対象に実施した。 また、経験者を対象とした月次募集を毎月実施することにより切れ目のない募集を実施している。なお、看護師確保のため、就職説明会への参加や各種広報、養成校訪問、病院説明会、3病院見学ツアーなど様々な確保対策を進め、採用数の増加に繋げている。 コメディカルは、必要な職種について適時、募集を実施し、薬剤師、栄養士、診療放射線技師、臨床検査技師、臨床工学技士、理学療法士、作業療法士、医療ソーシャルワーカー、言語聴覚士、胚培養士について公募試験を実施することで、優秀な人材の確保に努めた。 事務についても、正規職員の公募試験を実施し、優秀な人材の確保に努めた。
区分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度																																																																																																																																																																																																																																						
法人合計	医 師	283	289	293	307	322	341																																																																																																																																																																																																																																						
	歯科医師	5	7	7	8	7	7																																																																																																																																																																																																																																						
	看護 師	1,366	1,398	1,403	1,398	1,408	1,413																																																																																																																																																																																																																																						
	医療技術	333	347	362	369	373	377																																																																																																																																																																																																																																						
	研 究 員	2	2		1	1	0																																																																																																																																																																																																																																						
	事 務	123	131	136	140	139	140																																																																																																																																																																																																																																						
計	2,112	2,174	2,201	2,223	2,250	2,278																																																																																																																																																																																																																																							
本部	医 師		1				1																																																																																																																																																																																																																																						
	看護 師	3	1	3	3	2	1																																																																																																																																																																																																																																						
	医療技術			1	1	1	2																																																																																																																																																																																																																																						
	事 務	32	32	32	34	33	30																																																																																																																																																																																																																																						
計	35	34	36	38	36	34																																																																																																																																																																																																																																							
総合	医 師	179	184	188	195	202	206																																																																																																																																																																																																																																						
	歯科医師	4	6	5	6	5	5																																																																																																																																																																																																																																						
	看護 師	807	829	826	837	847	859																																																																																																																																																																																																																																						
	医療技術	226	237	249	255	260	261																																																																																																																																																																																																																																						
	研 究 員	2	2		1	1	0																																																																																																																																																																																																																																						
	事 務	53	59	63	65	65	69																																																																																																																																																																																																																																						
計	1,271	1,317	1,331	1,359	1,380	1,431																																																																																																																																																																																																																																							
こころ	医 師	14	13	13	13	14	15																																																																																																																																																																																																																																						
	看護 師																																																																																																																																																																																																																																												
	看護 師	120	124	122	122	127	130																																																																																																																																																																																																																																						
	医療技術	25	26	26	27	27	28																																																																																																																																																																																																																																						
	事 務	11	12	13	14	14	14																																																																																																																																																																																																																																						
計	170	175	174	176	182	187																																																																																																																																																																																																																																							
こども	医 師	90	91	92	99	106	119																																																																																																																																																																																																																																						
	看護 師	1	1	2	2	2	2																																																																																																																																																																																																																																						
	看護 師	436	444	452	436	432	423																																																																																																																																																																																																																																						
	医療技術	82	84	86	86	85	86																																																																																																																																																																																																																																						
	事 務	27	28	28	27	27	26																																																																																																																																																																																																																																						
計	636	648	660	650	652	657																																																																																																																																																																																																																																							
			64	・就職説明会への参加、多角的な広報の実施や養成校の訪問などにより、必要な職員の確保を目指す。	看護学生向け就職説明会（令和7年度時点）（単位：人） <table><tr><th rowspan="5">業者</th><th>区 分</th><th>来場者数</th><th>訪問者数</th></tr><tr><td>ナース専科（静岡）</td><td>-</td><td>88</td></tr><tr><td>ナースナビ（浜松）</td><td>236</td><td>55</td></tr><tr><td>マイナビ（静岡）</td><td>85</td><td>19</td></tr><tr><td>（沼津）</td><td>97</td><td>67</td></tr><tr><td>（静岡）夏開催</td><td>204</td><td>209</td></tr><tr><td rowspan="6">養成校</td><td>静岡県立大学</td><td>-</td><td>87</td></tr><tr><td>常葉大学</td><td>-</td><td>116</td></tr><tr><td>聖隷クリストファー大学</td><td>-</td><td>48</td></tr><tr><td>順天堂大学</td><td>-</td><td>-</td></tr><tr><td>静岡市立看護専門学校</td><td>-</td><td>53</td></tr><tr><td>静岡県立看護専門学校</td><td>-</td><td>53</td></tr></table> ※訪問者数は病院間の重複あり 看護学生向け就職説明会（単位：人） <table><tr><th></th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th></tr><tr><td rowspan="2">来場者数</td><td>業者</td><td>709</td><td>709</td><td>582</td><td>0</td><td>545</td></tr><tr><td>養成校</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td></tr><tr><td rowspan="2">訪問者数</td><td>業者</td><td>645</td><td>645</td><td>438</td><td>545</td><td>381</td></tr><tr><td>養成校</td><td>316</td><td>316</td><td>120</td><td>294</td><td>294</td></tr><tr><td rowspan="2">受験者数</td><td>業者</td><td>112</td><td>112</td><td>82</td><td>381</td><td>49</td></tr><tr><td>養成校</td><td>92</td><td>92</td><td>72</td><td>67</td><td>81</td></tr></table>	業者	区 分	来場者数	訪問者数	ナース専科（静岡）	-	88	ナースナビ（浜松）	236	55	マイナビ（静岡）	85	19	（沼津）	97	67	（静岡）夏開催	204	209	養成校	静岡県立大学	-	87	常葉大学	-	116	聖隷クリストファー大学	-	48	順天堂大学	-	-	静岡市立看護専門学校	-	53	静岡県立看護専門学校	-	53		元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	来場者数	業者	709	709	582	0	545	養成校	-	-	-	-	-	訪問者数	業者	645	645	438	545	381	養成校	316	316	120	294	294	受験者数	業者	112	112	82	381	49	養成校	92	92	72	67	81	A	学生の知りたい情報を提供するため、積極的に説明会に参加した。 総合病院の看護師不足が続いているため、県外の就職説明会にも参加した。 看護師確保対策の中でも企業・養成校主催の就職説明会は、看護学生が看護部長や先輩看護師等と直接話ができることから、病院の宣伝だけでなく、看護学生個人が知りたい情報を直接伝えることができる利点がある。 説明会での内容は内定者からのアンケート結果を参考に検討をし、病院内での様子が伝わるよう動画などを用いて説明を行っている。今後も昨年に引き続き企業・養成校主催の説明会へ参加し、現在の学生の動向等をつかむことで、看護師確保に努める。																																																																																																																																																		
業者	区 分	来場者数	訪問者数																																																																																																																																																																																																																																										
	ナース専科（静岡）	-	88																																																																																																																																																																																																																																										
	ナースナビ（浜松）	236	55																																																																																																																																																																																																																																										
	マイナビ（静岡）	85	19																																																																																																																																																																																																																																										
	（沼津）	97	67																																																																																																																																																																																																																																										
（静岡）夏開催	204	209																																																																																																																																																																																																																																											
養成校	静岡県立大学	-	87																																																																																																																																																																																																																																										
	常葉大学	-	116																																																																																																																																																																																																																																										
	聖隷クリストファー大学	-	48																																																																																																																																																																																																																																										
	順天堂大学	-	-																																																																																																																																																																																																																																										
	静岡市立看護専門学校	-	53																																																																																																																																																																																																																																										
	静岡県立看護専門学校	-	53																																																																																																																																																																																																																																										
	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																																																																																																																																																																							
来場者数	業者	709	709	582	0	545																																																																																																																																																																																																																																							
	養成校	-	-	-	-	-																																																																																																																																																																																																																																							
訪問者数	業者	645	645	438	545	381																																																																																																																																																																																																																																							
	養成校	316	316	120	294	294																																																																																																																																																																																																																																							
受験者数	業者	112	112	82	381	49																																																																																																																																																																																																																																							
	養成校	92	92	72	67	81																																																																																																																																																																																																																																							

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績（令6）	令和6年度実績 自己評価																																																																																																																																																																																																																															
						本評価	説明																																																																																																																																																																																																																														
(1) 医療従事者の確保・育成 各病院において、研究環境の整備及び物的・人的資源を活用した研修プログラムの充実により、臨床医学に真摯に取り組む研究意欲の高い医師や臨床研修医・専攻医の確保及び育成に努めるほか、県との協働により、本県の医師確保対策に取り組むこと。また、看護師及びその他の医療従事者の資質向上のため、所有施設を有効活用した研修の充実を図るとともに、看護師養成施設等からの実習生受入れなど、県内の看護師等の養成に協力すること。	(1) 医療従事者の確保・育成 県立病院において、研究環境及び医療技術向上と医師養成の特色のある取組による充実した研修体制を整備し、臨床医学に真摯に取り組む研究意欲の高い医師、臨床研修医や専攻医の確保及び技能や知識の向上に努めるほか、県との協働による本県の医師確保対策に取り組む。また、県立総合病院のメディカalsスキルアップセンターなどを活用して、医師、看護師及びその他の医療従事者の教育研修体制の充実・強化に努める。実習生の受入れや職員の派遣などを通じて国内外の医療機関と交流を進める。	(1) 医療従事者の確保・育成 ①研修医に選ばれる良質な臨床研修指定病院としての臨床研修機能の充実 ②地域医療連携推進法人の参画医療機関等との連携による医療従事者の確保 ③医師の技術・知識の向上のための一般研修及び海外研修の充実、海外医師の招聘による研修の充実 ④県立総合病院メディカalsスキルアップセンターなど病院機構の研修施設を活用した教育研修の充実、複数病院との共同利用で合同一次・二次救命処置トレーニングの実施 ⑤国際交流の推進 ⑥認定看護師等の資格取得への支援 ⑦看護学生等に対する魅力的な実習の提供 ⑧コメディカル・事務職員の研修	—	—	—		(総合) 毎月、基礎臨床講座を開催し、各指導医から研修医等へ講義を行っているほか、医療英語・海外学会発表研修など臨床研修機能の充実を図っている。 この他、医師の技術力向上を目指し海外研修を奨励している。 また、海外学会発表を積極的に行っており、技術力の高さを示している。 令和2年度及び3年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、海外での学会発表や研修の実績はなかったが、令和4年度から徐々に増加しており、令和6年度も前年度を上回る件数となった。 (こども) 令和6年度の海外での学会発表件数は25件であり、先進的高度医療に係る技術力の高さを示している。 また、海外研修を実施し更なる技術力向上に努めている。																																																																																																																																																																																																																														
			65	各病院（総務）	(総合) 海外研修の実績（6年度） (単位：人) <table><tr><th colspan="2">内 容</th><th>人数</th><th colspan="2">内 容</th><th>人数</th><th colspan="2">内 容</th><th>人数</th></tr><tr><td rowspan="23">元年度</td><td>11th CONGRESS OF THE VASCULAR ACCESS SOCIETY</td><td>2</td><td rowspan="3">3年度</td><td colspan="2">実績なし</td><td rowspan="7">5年度</td><td>Asiathian Pacific society of Rheumatism (APSRI)</td><td>1</td></tr><tr><td>AATS 99th Annual Meeting</td><td>2</td><td colspan="3">オーストラリア交換研修</td><td>Asiatic Society of Nephrology (ASISN) Annual Meeting 2023</td><td>1</td></tr><tr><td>米国胸部疾患学会2019国際会議</td><td>3</td><td colspan="3">28th European Congress of Pathology</td><td>The 27th Congress of the Asian Pacific Society of Nephrology</td><td>1</td></tr><tr><td>Jung Conference in Wroclaw 2019</td><td>1</td><td rowspan="9">4年度</td><td colspan="3">欧州呼吸器学会国際会議2022</td><td>Asian Association of Medical Education 2023 Annual Conference</td><td>1</td></tr><tr><td>24th World Congress of Dermatology Milan 2019</td><td>1</td><td colspan="3">ICS 2022 VIENNA</td><td>Asian Pacific Digestive Week 2023 BANGKOK</td><td>2</td></tr><tr><td>SSAI 2019</td><td>3</td><td colspan="3">World Allergy Congress2022</td><td>San Antonio Breast Cancer Symposium</td><td>1</td></tr><tr><td>第31回欧州病理学会</td><td>1</td><td colspan="3">Dialysis Access Synergy 2022</td><td>20th World Congress of Immunohistologists</td><td>1</td></tr><tr><td>欧州呼吸器学会国際会議2019</td><td>3</td><td colspan="2">American Society of Human Genetics2022</td><td rowspan="16">6年度</td><td>臨床研修医UCLA研修</td><td>16</td></tr><tr><td>9th Congress of the European Society of Endology</td><td>2</td><td colspan="3">APLAR2022</td><td>浙江省訪問団</td><td>13</td></tr><tr><td>第28回「マカ」皮膚科学・性病学会学術大会</td><td>1</td><td colspan="3">IRANCON2022</td><td>American Thoracic Society 2023 International Conference</td><td>5</td></tr><tr><td>マツダ 救急医学会</td><td>1</td><td colspan="3">2023年アムステルダム国際呼吸器学大会</td><td>ASIS (ASIS) CONGRESS (ASIS) Annual Meeting</td><td>3</td></tr><tr><td>第131年次会議2019</td><td>3</td><td colspan="3">19th Congress of the European society of medical imaging</td><td>The Shepherd Center</td><td>10</td></tr><tr><td>37th WORLD CONGRESS OF ENDOCRINOLOGY</td><td>2</td><td rowspan="11">5年度</td><td colspan="3">Respiratory Medicine and Genetics Global Research Conference</td><td>ALVAC-HAST 2024</td><td>1</td></tr><tr><td>American Pancreatic Association</td><td>3</td><td colspan="3">臨床研修医UCLA研修</td><td>European Respiratory Society International Congress 2023</td><td>3</td></tr><tr><td>ANS Kidney Week 2019</td><td>2</td><td colspan="3">American Thoracic Society 2023 International Conference</td><td>41st ESRA Annual Congress</td><td>1</td></tr><tr><td>アジア太平洋呼吸器学会国際会議2019</td><td>2</td><td colspan="3">アジア心臓血管外科年次総会 (ASCTS 2023)</td><td>21th ESSKA Congress</td><td>1</td></tr><tr><td>EuroEcho 2019</td><td>2</td><td colspan="3">International Society on Thrombosis and Haemostasis</td><td>2nd symposium on renal in cancer an international meet</td><td>1</td></tr><tr><td>ASCTVS2020</td><td>2</td><td colspan="3">The European Respiratory Society International Congress 2023</td><td>38th EACTS Annual Meeting</td><td>1</td></tr><tr><td>第109回 USCAP2020</td><td>1</td><td colspan="3">The 19th ESRB World Congress for Rheumatoid Disease</td><td>United European Gastroenterology Week 2024</td><td>1</td></tr><tr><td>臨床研修医UCLA研修</td><td>18</td><td colspan="3">臨床研修医UCLA研修</td><td>San Antonio Breast Cancer Symposium 2024</td><td>3</td></tr><tr><td>2年度</td><td>実績なし</td><td colspan="3">APMRC 2023 (アジア太平洋呼吸器学会学術)</td><td>アムステルダム国際呼吸器学大会特別コース</td><td>1</td></tr><tr><td></td><td></td><td colspan="3" rowspan="2"></td><td>中国浙江省研修</td><td>1</td></tr></table> 海外での学会発表実績 (単位：件) <table><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th></tr><tr><td>総合</td><td>65</td><td>0</td><td>0</td><td>11</td><td>13</td><td>19</td></tr><tr><td>こども</td><td>31</td><td>3</td><td>19</td><td>27</td><td>22</td><td>25</td></tr></table> 海外研修の主な実績 (単位：人) <table><tr><th>区 分</th><th colspan="2">内 容</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th></tr><tr><td rowspan="2">総合</td><td colspan="2">UCLA研修</td><td>12</td><td>11</td><td>16</td></tr><tr><td colspan="2">その他 海外学会</td><td>17</td><td>19</td><td>45</td></tr><tr><td>こころ</td><td colspan="2">—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td rowspan="3">こども</td><td colspan="2">World Summit for Pediatric and Congenital Heart Surgery 2024</td><td>0</td><td>0</td><td>1</td></tr><tr><td colspan="2" rowspan="2">その他海外学会</td><td>8</td><td>30</td><td>22</td></tr></table>	内 容		人数	内 容		人数	内 容		人数	元年度	11th CONGRESS OF THE VASCULAR ACCESS SOCIETY	2	3年度	実績なし		5年度	Asiathian Pacific society of Rheumatism (APSRI)	1	AATS 99th Annual Meeting	2	オーストラリア交換研修			Asiatic Society of Nephrology (ASISN) Annual Meeting 2023	1	米国胸部疾患学会2019国際会議	3	28th European Congress of Pathology			The 27th Congress of the Asian Pacific Society of Nephrology	1	Jung Conference in Wroclaw 2019	1	4年度	欧州呼吸器学会国際会議2022			Asian Association of Medical Education 2023 Annual Conference	1	24th World Congress of Dermatology Milan 2019	1	ICS 2022 VIENNA			Asian Pacific Digestive Week 2023 BANGKOK	2	SSAI 2019	3	World Allergy Congress2022			San Antonio Breast Cancer Symposium	1	第31回欧州病理学会	1	Dialysis Access Synergy 2022			20th World Congress of Immunohistologists	1	欧州呼吸器学会国際会議2019	3	American Society of Human Genetics2022		6年度	臨床研修医UCLA研修	16	9th Congress of the European Society of Endology	2	APLAR2022			浙江省訪問団	13	第28回「マカ」皮膚科学・性病学会学術大会	1	IRANCON2022			American Thoracic Society 2023 International Conference	5	マツダ 救急医学会	1	2023年アムステルダム国際呼吸器学大会			ASIS (ASIS) CONGRESS (ASIS) Annual Meeting	3	第131年次会議2019	3	19th Congress of the European society of medical imaging			The Shepherd Center	10	37th WORLD CONGRESS OF ENDOCRINOLOGY	2	5年度	Respiratory Medicine and Genetics Global Research Conference			ALVAC-HAST 2024	1	American Pancreatic Association	3	臨床研修医UCLA研修			European Respiratory Society International Congress 2023	3	ANS Kidney Week 2019	2	American Thoracic Society 2023 International Conference			41st ESRA Annual Congress	1	アジア太平洋呼吸器学会国際会議2019	2	アジア心臓血管外科年次総会 (ASCTS 2023)			21th ESSKA Congress	1	EuroEcho 2019	2	International Society on Thrombosis and Haemostasis			2nd symposium on renal in cancer an international meet	1	ASCTVS2020	2	The European Respiratory Society International Congress 2023			38th EACTS Annual Meeting	1	第109回 USCAP2020	1	The 19th ESRB World Congress for Rheumatoid Disease			United European Gastroenterology Week 2024	1	臨床研修医UCLA研修	18	臨床研修医UCLA研修			San Antonio Breast Cancer Symposium 2024	3	2年度	実績なし	APMRC 2023 (アジア太平洋呼吸器学会学術)			アムステルダム国際呼吸器学大会特別コース	1						中国浙江省研修	1	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	総合	65	0	0	11	13	19	こども	31	3	19	27	22	25	区 分	内 容		4年度	5年度	6年度	総合	UCLA研修		12	11	16	その他 海外学会		17	19	45	こころ	—		—	—	—	こども	World Summit for Pediatric and Congenital Heart Surgery 2024		0	0	1	その他海外学会		8	30	22	A	(総合) メディカalsスキルアップセンターでは、各種シミュレーターを導入し、研修医を始めとする医師や看護師等の医療従事者によるトレーニングや講習に活用している。外部利用については、医師会主催の研修会や高校生の見学ツアー時の診療体験などで活用されている。 令和6年度は、令和5年度と同水準で推移した。 今後も医師をはじめとする院内利用だけでなく、外部利用の拡大に努める。
内 容		人数	内 容		人数	内 容		人数																																																																																																																																																																																																																													
元年度	11th CONGRESS OF THE VASCULAR ACCESS SOCIETY	2	3年度	実績なし		5年度	Asiathian Pacific society of Rheumatism (APSRI)	1																																																																																																																																																																																																																													
	AATS 99th Annual Meeting	2		オーストラリア交換研修			Asiatic Society of Nephrology (ASISN) Annual Meeting 2023	1																																																																																																																																																																																																																													
	米国胸部疾患学会2019国際会議	3		28th European Congress of Pathology			The 27th Congress of the Asian Pacific Society of Nephrology	1																																																																																																																																																																																																																													
	Jung Conference in Wroclaw 2019	1	4年度	欧州呼吸器学会国際会議2022			Asian Association of Medical Education 2023 Annual Conference	1																																																																																																																																																																																																																													
	24th World Congress of Dermatology Milan 2019	1		ICS 2022 VIENNA			Asian Pacific Digestive Week 2023 BANGKOK	2																																																																																																																																																																																																																													
	SSAI 2019	3		World Allergy Congress2022			San Antonio Breast Cancer Symposium	1																																																																																																																																																																																																																													
	第31回欧州病理学会	1		Dialysis Access Synergy 2022			20th World Congress of Immunohistologists	1																																																																																																																																																																																																																													
	欧州呼吸器学会国際会議2019	3		American Society of Human Genetics2022		6年度	臨床研修医UCLA研修	16																																																																																																																																																																																																																													
	9th Congress of the European Society of Endology	2		APLAR2022			浙江省訪問団	13																																																																																																																																																																																																																													
	第28回「マカ」皮膚科学・性病学会学術大会	1		IRANCON2022			American Thoracic Society 2023 International Conference	5																																																																																																																																																																																																																													
	マツダ 救急医学会	1		2023年アムステルダム国際呼吸器学大会			ASIS (ASIS) CONGRESS (ASIS) Annual Meeting	3																																																																																																																																																																																																																													
	第131年次会議2019	3		19th Congress of the European society of medical imaging			The Shepherd Center	10																																																																																																																																																																																																																													
	37th WORLD CONGRESS OF ENDOCRINOLOGY	2	5年度	Respiratory Medicine and Genetics Global Research Conference			ALVAC-HAST 2024	1																																																																																																																																																																																																																													
	American Pancreatic Association	3		臨床研修医UCLA研修			European Respiratory Society International Congress 2023	3																																																																																																																																																																																																																													
	ANS Kidney Week 2019	2		American Thoracic Society 2023 International Conference			41st ESRA Annual Congress	1																																																																																																																																																																																																																													
	アジア太平洋呼吸器学会国際会議2019	2		アジア心臓血管外科年次総会 (ASCTS 2023)			21th ESSKA Congress	1																																																																																																																																																																																																																													
	EuroEcho 2019	2		International Society on Thrombosis and Haemostasis			2nd symposium on renal in cancer an international meet	1																																																																																																																																																																																																																													
	ASCTVS2020	2		The European Respiratory Society International Congress 2023			38th EACTS Annual Meeting	1																																																																																																																																																																																																																													
	第109回 USCAP2020	1		The 19th ESRB World Congress for Rheumatoid Disease			United European Gastroenterology Week 2024	1																																																																																																																																																																																																																													
	臨床研修医UCLA研修	18		臨床研修医UCLA研修			San Antonio Breast Cancer Symposium 2024	3																																																																																																																																																																																																																													
	2年度	実績なし		APMRC 2023 (アジア太平洋呼吸器学会学術)			アムステルダム国際呼吸器学大会特別コース	1																																																																																																																																																																																																																													
							中国浙江省研修	1																																																																																																																																																																																																																													
	区 分	元年度					2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																																																																																																																																																										
総合	65	0	0	11	13	19																																																																																																																																																																																																																															
こども	31	3	19	27	22	25																																																																																																																																																																																																																															
区 分	内 容		4年度	5年度	6年度																																																																																																																																																																																																																																
総合	UCLA研修		12	11	16																																																																																																																																																																																																																																
	その他 海外学会		17	19	45																																																																																																																																																																																																																																
こころ	—		—	—	—																																																																																																																																																																																																																																
こども	World Summit for Pediatric and Congenital Heart Surgery 2024		0	0	1																																																																																																																																																																																																																																
	その他海外学会		8	30	22																																																																																																																																																																																																																																
						66	総合・こども	(総合病院) メディカalsスキルアップセンター利用状況 (単位：回、人) <table><tr><th rowspan="2">区 分</th><th colspan="2">元年度</th><th colspan="2">2年度</th><th colspan="2">3年度</th><th colspan="2">4年度</th><th colspan="2">5年度</th><th colspan="2">6年度</th></tr><tr><th colspan="2">うち外部利用</th><th colspan="2">うち外部利用</th><th colspan="2">うち外部利用</th><th colspan="2">うち外部利用</th><th colspan="2">うち外部利用</th><th colspan="2">うち外部利用</th></tr><tr><td rowspan="2">医師</td><td>開催回数</td><td>775</td><td>42</td><td>1097</td><td>5</td><td>1,773</td><td>5</td><td>925</td><td>0</td><td>1379</td><td>0</td><td>2,034</td></tr><tr><td>参加人数</td><td>3,236</td><td>166</td><td>3,498</td><td>16</td><td>3,194</td><td>41</td><td>1,707</td><td>17</td><td>2,068</td><td>1</td><td>2,737</td></tr><tr><td rowspan="2">看護師</td><td>開催回数</td><td>288</td><td>39</td><td>275</td><td>7</td><td>175</td><td>4</td><td>95</td><td>0</td><td>84</td><td>0</td><td>52</td></tr><tr><td>参加人数</td><td>5,867</td><td>291</td><td>4,468</td><td>67</td><td>2,987</td><td>67</td><td>2,016</td><td>0</td><td>1,847</td><td>0</td><td>1,226</td></tr><tr><td rowspan="2">その他</td><td>開催回数</td><td>310</td><td>186</td><td>238</td><td>118</td><td>122</td><td>91</td><td>10</td><td>0</td><td>10</td><td>0</td><td>8</td></tr><tr><td>参加人数</td><td>2,671</td><td>1,122</td><td>1,863</td><td>736</td><td>503</td><td>215</td><td>392</td><td>146</td><td>287</td><td>258</td><td>175</td></tr><tr><td rowspan="2">計</td><td>開催回数</td><td>1,373</td><td>267</td><td>1,610</td><td>130</td><td>2,070</td><td>100</td><td>1,030</td><td>0</td><td>1,473</td><td>0</td><td>2,094</td></tr><tr><td>参加人数</td><td>11,774</td><td>1,579</td><td>9,819</td><td>819</td><td>6,684</td><td>323</td><td>4,115</td><td>163</td><td>4,202</td><td>259</td><td>4,213</td></tr></table> (こども病院) ラーニングセンター利用状況 (単位：件) <table><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th></tr><tr><td>利用件数</td><td>13</td><td>0</td><td>18</td><td>28</td><td>27</td><td>42</td></tr></table>	区 分	元年度		2年度		3年度		4年度		5年度		6年度		うち外部利用		うち外部利用		うち外部利用		うち外部利用		うち外部利用		うち外部利用		医師	開催回数	775	42	1097	5	1,773	5	925	0	1379	0	2,034	参加人数	3,236	166	3,498	16	3,194	41	1,707	17	2,068	1	2,737	看護師	開催回数	288	39	275	7	175	4	95	0	84	0	52	参加人数	5,867	291	4,468	67	2,987	67	2,016	0	1,847	0	1,226	その他	開催回数	310	186	238	118	122	91	10	0	10	0	8	参加人数	2,671	1,122	1,863	736	503	215	392	146	287	258	175	計	開催回数	1,373	267	1,610	130	2,070	100	1,030	0	1,473	0	2,094	参加人数	11,774	1,579	9,819	819	6,684	323	4,115	163	4,202	259	4,213	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	利用件数	13	0	18	28	27	42	A	(こども) 令和3年度からのワーキンググループでの検討結果を受けて、令和5年度にラーニングセンターに係る整備及び改修を実施した。その結果、会議室の改修を行うことで研修内容や受講人数に応じて、教室、中会議室、大会議室を研修会場として使い分けることが可能となった。また、会議室の1つにポータブル医ガス装置を整備し、実技研修を常時実施可能な環境としている。 このように研修機能を集約したラーニングセンターは、令和6年度、医療従事者による研修会場として22件利用されている。今後も更なる活用を推進していく。																																																																																
区 分	元年度		2年度		3年度		4年度			5年度		6年度																																																																																																																																																																																																																									
	うち外部利用		うち外部利用		うち外部利用		うち外部利用		うち外部利用		うち外部利用																																																																																																																																																																																																																										
医師	開催回数	775	42	1097	5	1,773	5	925	0	1379	0	2,034																																																																																																																																																																																																																									
	参加人数	3,236	166	3,498	16	3,194	41	1,707	17	2,068	1	2,737																																																																																																																																																																																																																									
看護師	開催回数	288	39	275	7	175	4	95	0	84	0	52																																																																																																																																																																																																																									
	参加人数	5,867	291	4,468	67	2,987	67	2,016	0	1,847	0	1,226																																																																																																																																																																																																																									
その他	開催回数	310	186	238	118	122	91	10	0	10	0	8																																																																																																																																																																																																																									
	参加人数	2,671	1,122	1,863	736	503	215	392	146	287	258	175																																																																																																																																																																																																																									
計	開催回数	1,373	267	1,610	130	2,070	100	1,030	0	1,473	0	2,094																																																																																																																																																																																																																									
	参加人数	11,774	1,579	9,819	819	6,684	323	4,115	163	4,202	259	4,213																																																																																																																																																																																																																									
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																																																																																																																																																															
利用件数	13	0	18	28	27	42																																																																																																																																																																																																																															
					※令和6年度から受講者数に応じて、教室、中会議室、大会議室を使い分けて使用し、その合計利用件数を記載 ※令和3～5年度は、ラーニングセンターが使用中止のため、代替施設(病室等)での研修回数を記載。																																																																																																																																																																																																																																

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績（令6）	令和6年度実績 自己評価																																																																																																																																																																																													
						本評価	説明																																																																																																																																																																																												
			67	⑤海外との視察者等の受け入れや派遣など、国際交流の推進を図る。 ⑤静岡社会健康医学大学院大学と連携し、海外大学等との交流を図る。	各病院（企画） <table><tr><td colspan="7">海外視察・講演等の派遣・受入</td><td>(単位：人)</td></tr><tr><td></td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>6年度</td><td></td></tr><tr><td>視察・講演等派遣</td><td>73</td><td>0</td><td>0</td><td>29</td><td>72</td><td>70</td><td></td></tr><tr><td>視察・研修等受入</td><td>35</td><td>0</td><td>0</td><td>3</td><td>29</td><td>26</td><td></td></tr></table> 総合病院では、平成23年度より中国浙江省からの研修受入を行っており、中国浙江省7医院と友好協力協定及び覚書を締結し、研修生を受け入れている。 令和4年度11月に機構と浙江省衛生健康委員会と友好協定を締結した。	海外視察・講演等の派遣・受入							(単位：人)		元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度		視察・講演等派遣	73	0	0	29	72	70		視察・研修等受入	35	0	0	3	29	26		A	新型コロナウイルス感染症の影響により、派遣研修及び相互訪問は中止していたが、令和4年度から徐々に再開し、令和5年6月には浙江省衛生健康委員会の孫副主任をはじめとする6名が来訪、令和6年4月、12月には、静岡県立病院機構職員が5年ぶりに浙江省を訪問するなどの交流を行った。また、令和6年度はタイ高等教育科学事務局訪問団10名の受け入れを行った。																																																																																																																																																												
			海外視察・講演等の派遣・受入							(単位：人)																																																																																																																																																																																									
	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																																																																																																																													
視察・講演等派遣	73	0	0	29	72	70																																																																																																																																																																																													
視察・研修等受入	35	0	0	3	29	26																																																																																																																																																																																													
			68	⑥看護師及びその他の医療従事者のスキルアップを図るため、認定看護師の育成のほか医療従事者等の研修等を推進する。 ⑥認定看護師等病院運営に寄与する資格について、取得支援制度を拡充することで、資格取得者の増員を図る。	本部（企画） <table><tr><td colspan="7">資格等取得助成制度利用者</td><td>(単位:人)</td></tr><tr><td rowspan="4">総合</td><td>看護師</td><td>0</td><td>9</td><td>10</td><td>13</td><td>12</td><td>15</td></tr><tr><td>コメディカル</td><td>0</td><td>1</td><td>1</td><td>9</td><td>5</td><td>5</td></tr><tr><td>事務</td><td>0</td><td>0</td><td>2</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>計</td><td>0</td><td>10</td><td>13</td><td>22</td><td>17</td><td>20</td></tr><tr><td rowspan="4">こころ</td><td>看護師</td><td>2</td><td>1</td><td>1</td><td>0</td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><td>コメディカル</td><td>5</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>事務</td><td>1</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>計</td><td>8</td><td>1</td><td>1</td><td>0</td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><td rowspan="4">こども</td><td>看護師</td><td>6</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>5</td><td>2</td></tr><tr><td>コメディカル</td><td>4</td><td>0</td><td>0</td><td>2</td><td>1</td><td>2</td></tr><tr><td>事務</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>1</td></tr><tr><td>計</td><td>10</td><td>2</td><td>2</td><td>4</td><td>6</td><td>5</td></tr><tr><td>本部</td><td>事務</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td rowspan="4">計</td><td>看護師</td><td>8</td><td>12</td><td>13</td><td>15</td><td>18</td><td>18</td></tr><tr><td>コメディカル</td><td>9</td><td>1</td><td>1</td><td>11</td><td>6</td><td>7</td></tr><tr><td>事務</td><td>1</td><td>0</td><td>2</td><td>0</td><td>0</td><td>1</td></tr><tr><td>計</td><td>18</td><td>13</td><td>16</td><td>26</td><td>24</td><td>26</td></tr></table> <table><tr><td colspan="3">主な医療職種の資格取得者数（R6末までの累計）</td></tr><tr><td>職種</td><td>人数</td><td>専門・認定領域</td></tr><tr><td>専門看護師</td><td>3</td><td>がん看護、急性・重症患者看護</td></tr><tr><td>認定看護師</td><td>17</td><td>救急看護、皮膚・排泄ケア、手術看護、乳がん看護、緩和ケア、集中ケア、がん薬物療法看護、感染管理、脳卒中看護、がん放射線療法</td></tr><tr><td>薬剤師</td><td>42</td><td>がん薬物療法認定、がん専門、がん指導、外来がん治療認定、外来がん治療専門病院薬学認定、研修認定、医療薬学専門、医療薬学指導、薬物療法専門、薬物療法指導、認定実務実習指導、認定CRC、周術期管理チーム、NST専門療法士、感染制御認定、抗菌化学療法認定、登録抗酸菌症エキスパート、精神科薬物療法認定、緩和薬物療法認定、緩和医療暫定指導、老年薬学認定、小児薬物療法認定、骨粗しょう症マネージャー、腎臓病療養指導士、心不全療養指導士、パーキンソン病療養指導士、公認スポーツファーマシスト</td></tr><tr><td>検査技師</td><td>35</td><td>緊急臨床検査士、認定病理、細胞検査士、超音波検査士、日本心エコー図学会認定専門技師、NST専門療法士、日本糖尿病療養指導士、がんゲノム医療コーディネーター、臨床実習指導者、肝炎医療コーディネーター、臨床検査士、遺伝子分析化学認定士、認定一般、臨床化学・免疫化学精度保証管理、医療技術部門管理資格認定、認定HLA検査技術者、国際細胞検査士、細胞治療認定管理者、認定臨床微生物、認定血液、心電図検定、JHRS認定心電図専門士、心血管インターベンション技師、登録抗酸菌エキスパート、日本睡眠学会認定検査技師</td></tr><tr><td>放射線技師</td><td>43</td><td>放射線治療専門、放射線治療品質管理、医学物理士、PET認定、救急撮影、第1種放射線取扱主任者、聴気共鳴専門技術者、X線CT認定技師、血管撮影(介入)専門技師、血管診療技師、デジタルマンモグラフィ撮影認定、超音波検査士</td></tr><tr><td>理学療法士 作業療法士</td><td>29</td><td>NSTコーディネーター、腎臓病療養指導士、静岡中部糖尿病療養指導士、認定療法士、3学会認定呼吸療法士、糖尿病療養指導士、心臓リハビリテーション指導士、ICLSインストラクター</td></tr><tr><td>栄養士</td><td>20</td><td>糖尿病療養指導士、病態栄養専門管理栄養士、がん病態栄養専門管理栄養士、がん病態栄養研修指導師、栄養サポートチーム専門療法士、がん専門療法士、NSTコーディネーター、腎臓病療養指導士、静岡中部糖尿病療養指導士</td></tr><tr><td>計</td><td>189</td><td></td></tr></table> <table><tr><td colspan="3">認定看護師取得者数（6年度）（単位：人）</td></tr><tr><td>区分</td><td>人数</td><td>専門・認定領域</td></tr><tr><td>専門看護師</td><td>0</td><td>精神看護（リエゾン領域）</td></tr><tr><td rowspan="2">認定看護師</td><td>5</td><td>精神科</td></tr><tr><td>0</td><td>感染管理</td></tr></table> <table><tr><td colspan="3">認定看護師取得者数（6年度）（単位：人）</td></tr><tr><td>区分</td><td>人数</td><td>専門・認定領域</td></tr><tr><td>専門看護師</td><td>1</td><td>小児看護</td></tr><tr><td rowspan="2">認定看護師</td><td>10</td><td>皮膚・排泄ケア1名、集中ケア1名、新生児集中ケア1名、がん化学療法1名、感染管理1名、小児救急看護2名、手術室看護1名、緩和ケア看護1名、認定看護管理者1名</td></tr></table>	資格等取得助成制度利用者							(単位:人)	総合	看護師	0	9	10	13	12	15	コメディカル	0	1	1	9	5	5	事務	0	0	2	0	0	0	計	0	10	13	22	17	20	こころ	看護師	2	1	1	0	1	1	コメディカル	5	0	0	0	0	0	事務	1	0	0	0	0	0	計	8	1	1	0	1	1	こども	看護師	6	2	2	2	5	2	コメディカル	4	0	0	2	1	2	事務	0	0	0	0	0	1	計	10	2	2	4	6	5	本部	事務	0	0	0	0	0	0	計	看護師	8	12	13	15	18	18	コメディカル	9	1	1	11	6	7	事務	1	0	2	0	0	1	計	18	13	16	26	24	26	主な医療職種の資格取得者数（R6末までの累計）			職種	人数	専門・認定領域	専門看護師	3	がん看護、急性・重症患者看護	認定看護師	17	救急看護、皮膚・排泄ケア、手術看護、乳がん看護、緩和ケア、集中ケア、がん薬物療法看護、感染管理、脳卒中看護、がん放射線療法	薬剤師	42	がん薬物療法認定、がん専門、がん指導、外来がん治療認定、外来がん治療専門病院薬学認定、研修認定、医療薬学専門、医療薬学指導、薬物療法専門、薬物療法指導、認定実務実習指導、認定CRC、周術期管理チーム、NST専門療法士、感染制御認定、抗菌化学療法認定、登録抗酸菌症エキスパート、精神科薬物療法認定、緩和薬物療法認定、緩和医療暫定指導、老年薬学認定、小児薬物療法認定、骨粗しょう症マネージャー、腎臓病療養指導士、心不全療養指導士、パーキンソン病療養指導士、公認スポーツファーマシスト	検査技師	35	緊急臨床検査士、認定病理、細胞検査士、超音波検査士、日本心エコー図学会認定専門技師、NST専門療法士、日本糖尿病療養指導士、がんゲノム医療コーディネーター、臨床実習指導者、肝炎医療コーディネーター、臨床検査士、遺伝子分析化学認定士、認定一般、臨床化学・免疫化学精度保証管理、医療技術部門管理資格認定、認定HLA検査技術者、国際細胞検査士、細胞治療認定管理者、認定臨床微生物、認定血液、心電図検定、JHRS認定心電図専門士、心血管インターベンション技師、登録抗酸菌エキスパート、日本睡眠学会認定検査技師	放射線技師	43	放射線治療専門、放射線治療品質管理、医学物理士、PET認定、救急撮影、第1種放射線取扱主任者、聴気共鳴専門技術者、X線CT認定技師、血管撮影(介入)専門技師、血管診療技師、デジタルマンモグラフィ撮影認定、超音波検査士	理学療法士 作業療法士	29	NSTコーディネーター、腎臓病療養指導士、静岡中部糖尿病療養指導士、認定療法士、3学会認定呼吸療法士、糖尿病療養指導士、心臓リハビリテーション指導士、ICLSインストラクター	栄養士	20	糖尿病療養指導士、病態栄養専門管理栄養士、がん病態栄養専門管理栄養士、がん病態栄養研修指導師、栄養サポートチーム専門療法士、がん専門療法士、NSTコーディネーター、腎臓病療養指導士、静岡中部糖尿病療養指導士	計	189		認定看護師取得者数（6年度）（単位：人）			区分	人数	専門・認定領域	専門看護師	0	精神看護（リエゾン領域）	認定看護師	5	精神科	0	感染管理	認定看護師取得者数（6年度）（単位：人）			区分	人数	専門・認定領域	専門看護師	1	小児看護	認定看護師	10	皮膚・排泄ケア1名、集中ケア1名、新生児集中ケア1名、がん化学療法1名、感染管理1名、小児救急看護2名、手術室看護1名、緩和ケア看護1名、認定看護管理者1名	A	感染管理、集中ケア等、病院全体の質の向上に資する分野の資格者を各病院に配置し、組織横断的に活動することができている。 また、認定看護師等の病院運営に寄与する資格については、資格等取得資金貸付要綱を改定し、取得支援制度を拡充するなど、資格取得者の増員を図った。
資格等取得助成制度利用者							(単位:人)																																																																																																																																																																																												
総合	看護師	0	9	10	13	12	15																																																																																																																																																																																												
	コメディカル	0	1	1	9	5	5																																																																																																																																																																																												
	事務	0	0	2	0	0	0																																																																																																																																																																																												
	計	0	10	13	22	17	20																																																																																																																																																																																												
こころ	看護師	2	1	1	0	1	1																																																																																																																																																																																												
	コメディカル	5	0	0	0	0	0																																																																																																																																																																																												
	事務	1	0	0	0	0	0																																																																																																																																																																																												
	計	8	1	1	0	1	1																																																																																																																																																																																												
こども	看護師	6	2	2	2	5	2																																																																																																																																																																																												
	コメディカル	4	0	0	2	1	2																																																																																																																																																																																												
	事務	0	0	0	0	0	1																																																																																																																																																																																												
	計	10	2	2	4	6	5																																																																																																																																																																																												
本部	事務	0	0	0	0	0	0																																																																																																																																																																																												
計	看護師	8	12	13	15	18	18																																																																																																																																																																																												
	コメディカル	9	1	1	11	6	7																																																																																																																																																																																												
	事務	1	0	2	0	0	1																																																																																																																																																																																												
	計	18	13	16	26	24	26																																																																																																																																																																																												
主な医療職種の資格取得者数（R6末までの累計）																																																																																																																																																																																																			
職種	人数	専門・認定領域																																																																																																																																																																																																	
専門看護師	3	がん看護、急性・重症患者看護																																																																																																																																																																																																	
認定看護師	17	救急看護、皮膚・排泄ケア、手術看護、乳がん看護、緩和ケア、集中ケア、がん薬物療法看護、感染管理、脳卒中看護、がん放射線療法																																																																																																																																																																																																	
薬剤師	42	がん薬物療法認定、がん専門、がん指導、外来がん治療認定、外来がん治療専門病院薬学認定、研修認定、医療薬学専門、医療薬学指導、薬物療法専門、薬物療法指導、認定実務実習指導、認定CRC、周術期管理チーム、NST専門療法士、感染制御認定、抗菌化学療法認定、登録抗酸菌症エキスパート、精神科薬物療法認定、緩和薬物療法認定、緩和医療暫定指導、老年薬学認定、小児薬物療法認定、骨粗しょう症マネージャー、腎臓病療養指導士、心不全療養指導士、パーキンソン病療養指導士、公認スポーツファーマシスト																																																																																																																																																																																																	
検査技師	35	緊急臨床検査士、認定病理、細胞検査士、超音波検査士、日本心エコー図学会認定専門技師、NST専門療法士、日本糖尿病療養指導士、がんゲノム医療コーディネーター、臨床実習指導者、肝炎医療コーディネーター、臨床検査士、遺伝子分析化学認定士、認定一般、臨床化学・免疫化学精度保証管理、医療技術部門管理資格認定、認定HLA検査技術者、国際細胞検査士、細胞治療認定管理者、認定臨床微生物、認定血液、心電図検定、JHRS認定心電図専門士、心血管インターベンション技師、登録抗酸菌エキスパート、日本睡眠学会認定検査技師																																																																																																																																																																																																	
放射線技師	43	放射線治療専門、放射線治療品質管理、医学物理士、PET認定、救急撮影、第1種放射線取扱主任者、聴気共鳴専門技術者、X線CT認定技師、血管撮影(介入)専門技師、血管診療技師、デジタルマンモグラフィ撮影認定、超音波検査士																																																																																																																																																																																																	
理学療法士 作業療法士	29	NSTコーディネーター、腎臓病療養指導士、静岡中部糖尿病療養指導士、認定療法士、3学会認定呼吸療法士、糖尿病療養指導士、心臓リハビリテーション指導士、ICLSインストラクター																																																																																																																																																																																																	
栄養士	20	糖尿病療養指導士、病態栄養専門管理栄養士、がん病態栄養専門管理栄養士、がん病態栄養研修指導師、栄養サポートチーム専門療法士、がん専門療法士、NSTコーディネーター、腎臓病療養指導士、静岡中部糖尿病療養指導士																																																																																																																																																																																																	
計	189																																																																																																																																																																																																		
認定看護師取得者数（6年度）（単位：人）																																																																																																																																																																																																			
区分	人数	専門・認定領域																																																																																																																																																																																																	
専門看護師	0	精神看護（リエゾン領域）																																																																																																																																																																																																	
認定看護師	5	精神科																																																																																																																																																																																																	
	0	感染管理																																																																																																																																																																																																	
認定看護師取得者数（6年度）（単位：人）																																																																																																																																																																																																			
区分	人数	専門・認定領域																																																																																																																																																																																																	
専門看護師	1	小児看護																																																																																																																																																																																																	
認定看護師	10	皮膚・排泄ケア1名、集中ケア1名、新生児集中ケア1名、がん化学療法1名、感染管理1名、小児救急看護2名、手術室看護1名、緩和ケア看護1名、認定看護管理者1名																																																																																																																																																																																																	

中期目標		中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績（令6）	令和6年度実績 自己評価																																																																													
							本評価	説明																																																																												
			69	⑦臨床現場に即した、より実践的な研修を提供する。	各病院	実習・アルバイト研修等の受入れ（単位：人） <table><tr><th rowspan="2">区 分</th><th colspan="5">6年度</th><th rowspan="2">計</th></tr><tr><th>医師</th><th>医学生</th><th>看護師</th><th>看護学生</th><th>コメディカル</th></tr><tr><td>総 合</td><td>73</td><td>357</td><td>0</td><td>430</td><td>194</td><td>1,054</td></tr><tr><td>こころ</td><td>41</td><td>2</td><td>1</td><td>414</td><td>370</td><td>828</td></tr><tr><td>こども</td><td>75</td><td>43</td><td>11</td><td>325</td><td>60</td><td>514</td></tr><tr><td>計</td><td>189</td><td>402</td><td>12</td><td>1,169</td><td>624</td><td>2,396</td></tr></table>	区 分	6年度					計	医師	医学生	看護師	看護学生	コメディカル	総 合	73	357	0	430	194	1,054	こころ	41	2	1	414	370	828	こども	75	43	11	325	60	514	計	189	402	12	1,169	624	2,396	A	各病院では、例年医師、医学生、看護師、看護学生等を積極的に受け入れ、メディカルスキルアップセンター等を活用した臨床現場に即した実践的な研修を提供している。																																				
				区 分		6年度					計																																																																									
医師	医学生	看護師	看護学生		コメディカル																																																																															
総 合	73	357	0	430	194	1,054																																																																														
こころ	41	2	1	414	370	828																																																																														
こども	75	43	11	325	60	514																																																																														
計	189	402	12	1,169	624	2,396																																																																														
		70	⑧研修体系プログラムの整備と研修内容の充実を図る。	本部・各病院（総務）	職員研修参加者数（単位：人） <table><tr><th></th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th></tr><tr><td>新規採用職員研修</td><td>139</td><td>160</td><td>130</td><td>147</td><td>149</td><td>139</td></tr><tr><td>新規役付職員研修</td><td>7</td><td>10</td><td>271</td><td>80</td><td>54</td><td>50</td></tr><tr><td>新規監督者研修</td><td>11</td><td>16</td><td>10</td><td>16</td><td>16</td><td>18</td></tr><tr><td>労務管理者研修</td><td>－</td><td>120</td><td>96</td><td>96</td><td>55</td><td>42</td></tr><tr><td>新任管理者・新任監督者研修</td><td>21</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>133</td><td>44</td></tr><tr><td>コミュニケーション・ティーチング講座</td><td>19</td><td>31</td><td>27</td><td>24</td><td>19</td><td>30</td></tr><tr><td>接遇・クレーム対応講座</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>17</td><td>33</td></tr><tr><td>ファシリテーション講座</td><td>25</td><td>29</td><td>30</td><td>26</td><td>19</td><td>25</td></tr><tr><td>コーチング講座</td><td>20</td><td>29</td><td>19</td><td>32</td><td>20</td><td>23</td></tr><tr><td>メンタルサポート講座</td><td>29</td><td>24</td><td>21</td><td>18</td><td>14</td><td>17</td></tr></table> ※ 令和3年度以降は職務級制度の改正により新規役付き職員研修の対象者が増加した。		元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	新規採用職員研修	139	160	130	147	149	139	新規役付職員研修	7	10	271	80	54	50	新規監督者研修	11	16	10	16	16	18	労務管理者研修	－	120	96	96	55	42	新任管理者・新任監督者研修	21	－	－	－	133	44	コミュニケーション・ティーチング講座	19	31	27	24	19	30	接遇・クレーム対応講座	－	－	－	－	17	33	ファシリテーション講座	25	29	30	26	19	25	コーチング講座	20	29	19	32	20	23	メンタルサポート講座	29	24	21	18	14	17	A	令和6年度についても、階層別、業務に必要なスキルを身につける専門研修や働き方改革関連法に対応するための労務管理者研修を実施している。
					元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																										
新規採用職員研修	139	160	130	147	149	139																																																																														
新規役付職員研修	7	10	271	80	54	50																																																																														
新規監督者研修	11	16	10	16	16	18																																																																														
労務管理者研修	－	120	96	96	55	42																																																																														
新任管理者・新任監督者研修	21	－	－	－	133	44																																																																														
コミュニケーション・ティーチング講座	19	31	27	24	19	30																																																																														
接遇・クレーム対応講座	－	－	－	－	17	33																																																																														
ファシリテーション講座	25	29	30	26	19	25																																																																														
コーチング講座	20	29	19	32	20	23																																																																														
メンタルサポート講座	29	24	21	18	14	17																																																																														
(2) 勤務環境の向上	(2) 勤務環境の向上	(2) 勤務環境の向上	－	－	－	－	－																																																																													
	優秀な医療従事者を確保するため、働きやすく、また、働きがいのある病院となるよう、適切な労務管理の推進、ICTの活用などにより医師をはじめとした医療従事者の時間外労働の縮減とワーク・ライフ・バランスの向上に取り組み、職員の精神面を含めた健康保持に配慮するほか、医療従事者の業務分担を行うなど、勤務環境の向上を図ること。	適切な労務管理の推進、ICTの活用、医師をはじめとした医療従事者の業務分担をはじめ、仕事と生活の調和に配慮した雇用形態や勤務時間の設定などによる時間外勤務の縮減及び職員の健康保持への配慮や院内保育所の活用など、職員が働きやすく、働きがいを実感できる勤務環境づくりを進める。	①柔軟な勤務条件の設定及び適切な労務管理の推進 ②医療従事者が本来業務に専念できる環境の整備 ③職員の意欲を高め、勤務実績が的確に反映される人事・給与制度の運用 ④職員が働きやすい施設等の環境整備 ⑤県立病院院内保育所の活用	①柔軟な職員採用及び適切な労務管理の推進や多様な雇用形態・勤務条件の設定を図る。	本部（総務）・各病院	看護師の2交代勤務については、総合病院で21部署、こころの医療センターで3部署、こども病院で10部署となっている。看護師の夜勤専従について、3病院で導入した。また、看護師アソシエイトを3名採用した。 また、総合病院は令和5年9月に、こども病院では令和6年3月に、静岡県から特定及び連携型特定地域医療提供機関の指定を受けたため、許可された医師の労働時間短縮計画等に基づき、医師の労働時間短縮の取組等を推進した。 医師1人あたりの平均時間外数（単位：時間） <table><tr><th>区分</th><th>5年度</th><th>6年度</th></tr><tr><td>総合</td><td>720</td><td>738</td></tr><tr><td>こころ</td><td>298</td><td>322</td></tr><tr><td>こども</td><td>351</td><td>476</td></tr></table> ※令和6年度から増加しているが、令和17年度末までの医師の労働時間の短縮に向けた目標達成を実現するため、様々な取組みを着実に実行している。 医師1人あたりの年次有給休暇取得日数（単位：日） <table><tr><th>区分</th><th>5年度</th><th>6年度</th></tr><tr><td>総合</td><td>10.3</td><td>10.7</td></tr><tr><td>こころ</td><td>13</td><td>12</td></tr><tr><td>こども</td><td>10</td><td>10</td></tr></table>	区分	5年度	6年度	総合	720	738	こころ	298	322	こども	351	476	区分	5年度	6年度	総合	10.3	10.7	こころ	13	12	こども	10	10	S	令和6年度については、効果的な職員採用に繋げるため、看護師のアソシエイト職員を採用し、優秀な人材確保を進めた。 看護師の2交代制や夜勤専従の取組など、雇用形態の多様化を図っている。 また、医師の年次有給休暇取得日数については、義務づけられている5日間以上を取得することができている。 令和6年度から義務化された医師の働き方改革への対応として、以下のような取り組みを各病院で行っている。 総合病院では、チーム制・複数主治医制の導入を進め、患者・家族等への時間外の説明などを原則禁止し、休暇の取得も推進した。また、現在継続している医師から看護・メディカルスタッフ・事務等への業務のタスクシフト(看護師特定行為の推進、持続皮下グルコース検査の推進他)を推進した。加えて、タスクシフトを行う、看護・メディカルスタッフ・事務等の労務環境の改善を推進した。 看護師の特定行為研修においては、総合病院では令和6年度は研修終了者9名が、腹腔ドレーン抜去や動脈ライン抜去等の特定行為を実施し、新たに4名が研修を受講した。また、「タスクシフト・看護師の特定行為研修」については日本病院学会で優良表彰を受けた。 医師の労働時間短縮計画に基づき、水準指定医師で勤務間インターバルが取得できなかった医師を毎月検証し、当該医師及び及び当該上司(診療科部長)に対し、代償休息の取得を依頼し、その実績について毎月検証した。 令和6年4月から月の法定外時間外労働＋休日労働時間数が100時間以上となることが見込まれる医師について、面接指導医師による面接指導を実施した。令和6年度計画について検証し、時点修正を行う等、PDCAサイクルを回していく。 こども病院では、医師の働き方改革をふまえ、看護師による病棟における採血業務の実施や薬剤師による服薬指導等、他職種へのタスクシフトを行っている。また、医師を含む医療スタッフと患者家族との面談時間を原則、勤務時間内(9時～16時30分まで)としており、医師の労働時間の短縮に努めている。また、看護師の特定行為について1名が活動しており、令和6年度より2名が新たに研修中である。																																																				
区分	5年度	6年度																																																																																		
総合	720	738																																																																																		
こころ	298	322																																																																																		
こども	351	476																																																																																		
区分	5年度	6年度																																																																																		
総合	10.3	10.7																																																																																		
こころ	13	12																																																																																		
こども	10	10																																																																																		

						令和6年度実績 自己評価																																																																																																																																					
中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(令6)	本評価	説明																																																																																																																																				
			72	②医療従事者の事務的業務の軽減を図り、本来業務に専念できる環境の整備や業務多忙を解消するために、医療秘書・助手等を効果的に配置する。	本部・各病院（総務） <table><tr><th colspan="4">補助職員の配置状況（各年度４月１日現在）</th><th colspan="4">(単位：人)</th></tr><tr><th colspan="2">区 分</th><th>２年度</th><th>３年度</th><th>４年度</th><th>５年度</th><th>６年度</th><th>７年度</th></tr><tr><td rowspan="4">総合</td><td>医師事務補助</td><td>76</td><td>72</td><td>72</td><td>70</td><td>82</td><td>79</td></tr><tr><td>看護助手</td><td>58</td><td>56</td><td>58</td><td>59</td><td>52</td><td>57</td></tr><tr><td>コメディカル助手</td><td>23</td><td>26</td><td>28</td><td>27</td><td>29</td><td>29</td></tr><tr><td>小計</td><td>157</td><td>154</td><td>158</td><td>156</td><td>163</td><td>165</td></tr><tr><td rowspan="4">こころ</td><td>医師事務補助</td><td>1</td><td>2</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>0</td></tr><tr><td>看護助手</td><td>9</td><td>9</td><td>9</td><td>7</td><td>8</td><td>8</td></tr><tr><td>コメディカル助手</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td></tr><tr><td>小計</td><td>12</td><td>13</td><td>12</td><td>10</td><td>11</td><td>10</td></tr><tr><td rowspan="4">こども</td><td>医師事務補助</td><td>19</td><td>20</td><td>18</td><td>18</td><td>23</td><td>20</td></tr><tr><td>看護助手</td><td>21</td><td>21</td><td>21</td><td>20</td><td>24</td><td>24</td></tr><tr><td>コメディカル助手</td><td>8</td><td>6</td><td>6</td><td>5</td><td>2</td><td>2</td></tr><tr><td>小計</td><td>48</td><td>47</td><td>45</td><td>43</td><td>49</td><td>46</td></tr><tr><td rowspan="4">計</td><td>医師事務補助</td><td>96</td><td>94</td><td>91</td><td>89</td><td>106</td><td>99</td></tr><tr><td>看護助手</td><td>88</td><td>86</td><td>88</td><td>86</td><td>84</td><td>89</td></tr><tr><td>コメディカル助手</td><td>33</td><td>34</td><td>36</td><td>34</td><td>33</td><td>33</td></tr><tr><td>小計</td><td>217</td><td>214</td><td>215</td><td>209</td><td>223</td><td>221</td></tr></table>	補助職員の配置状況（各年度４月１日現在）				(単位：人)				区 分		２年度	３年度	４年度	５年度	６年度	７年度	総合	医師事務補助	76	72	72	70	82	79	看護助手	58	56	58	59	52	57	コメディカル助手	23	26	28	27	29	29	小計	157	154	158	156	163	165	こころ	医師事務補助	1	2	1	1	1	0	看護助手	9	9	9	7	8	8	コメディカル助手	2	2	2	2	2	2	小計	12	13	12	10	11	10	こども	医師事務補助	19	20	18	18	23	20	看護助手	21	21	21	20	24	24	コメディカル助手	8	6	6	5	2	2	小計	48	47	45	43	49	46	計	医師事務補助	96	94	91	89	106	99	看護助手	88	86	88	86	84	89	コメディカル助手	33	34	36	34	33	33	小計	217	214	215	209	223	221	A	医師の事務補助を行う職員の配置については、電子カルテの入力業務等により、医師が診療に専念できる等、事務負担軽減の効果を確認されている。 総合病院では、医師の増加、外来診療枠の拡大に応じて、医療従事者が診療に専念できるように医師事務作業補助者を配置しており、令和5年度においても、診療報酬の施設基準上、最上位基準を維持している。 なお、令和4年度から派遣会社を活用した夜間看護補助者の配置を開始し、看護師の負担軽減および診療報酬上の加算も併せて取得することができている。 また、看護助手等の補助職員の配置により、医療従事者が国家資格所有者でなければできない業務に専念できている。
補助職員の配置状況（各年度４月１日現在）				(単位：人)																																																																																																																																							
区 分		２年度	３年度	４年度	５年度	６年度	７年度																																																																																																																																				
総合	医師事務補助	76	72	72	70	82	79																																																																																																																																				
	看護助手	58	56	58	59	52	57																																																																																																																																				
	コメディカル助手	23	26	28	27	29	29																																																																																																																																				
	小計	157	154	158	156	163	165																																																																																																																																				
こころ	医師事務補助	1	2	1	1	1	0																																																																																																																																				
	看護助手	9	9	9	7	8	8																																																																																																																																				
	コメディカル助手	2	2	2	2	2	2																																																																																																																																				
	小計	12	13	12	10	11	10																																																																																																																																				
こども	医師事務補助	19	20	18	18	23	20																																																																																																																																				
	看護助手	21	21	21	20	24	24																																																																																																																																				
	コメディカル助手	8	6	6	5	2	2																																																																																																																																				
	小計	48	47	45	43	49	46																																																																																																																																				
計	医師事務補助	96	94	91	89	106	99																																																																																																																																				
	看護助手	88	86	88	86	84	89																																																																																																																																				
	コメディカル助手	33	34	36	34	33	33																																																																																																																																				
	小計	217	214	215	209	223	221																																																																																																																																				
			73	③全職員を対象とした人事評価制度を円滑に実施する。	本部（総務）県準拠として職員組合と合意し、平成30年4月から試行を開始した人事評価制度については、令和2年度から給与(勤勉手当)に活用、令和3年度から昇給に活用し(令和4年度前期、後期の評価を令和6年1月1日昇給に活用)、全職員(有期雇用職員、再雇用職員、休職中の職員等を除く)を対象に実施している。	A	平成30年4月から試行を開始した人事評価制度については、令和2年度から給与(勤勉手当)に活用、令和3年度から昇給に活用し(令和4年度前期、後期の評価を令和6年1月1日昇給に活用)、全職員(有期雇用職員、再雇用職員、休職中の職員等を除く)を対象に実施している。																																																																																																																																				
			74	④就労環境の改善に向けた院内施設、子育て支援や相談など福利厚生充実を進める。	本部・各病院（総務・企画）【総合病院】 ・院内保育所については、保育所運営協議会において、事務局、委託先、利用者間の意見交換を行い、院内保育所入所者を対象にインフルエンザ予防接種を令和6年度も実施した。 【こころの医療センター】 ・老朽化した施設、機器の更新を順次進め、就労環境の改善に努めた。 【こども病院】 ・院内保育所の夜間保育の対応拡大(週2日から週3日へ) ・eラーニングツールを活用した職員研修の受講や受講管理の効率化	A	看護師等が離職することを防止するため、こころのケアだけでなく体力低下で看護業務へ支障を来さないよう日常生活相談を含め、心身に対するきめ細かい対応を行い、長期に渡り勤務できる環境を整える取組を行っている。 また、育児休業や育児短時間勤務による一時的な収入の減少を補い、就学前の子を養育するための資金を貸し付ける「就学前児童の養育資金貸付制度」を創設し、職員が安心して育児をしたり、育児短時間勤務等による職場復帰できるようにするための取組を行っている。 こころの医療センターでは、スポットエアコンの導入や監視カメラを増設し、職員の就労環境の改善、負担軽減を図った。 こども病院では、院内保育所の夜間保育を週2日から週3日へ対応出来るよう整備した。さらに令和6年度も引き続き、職員研修にeラーニングツールであるSafetyPlusを活用し、受講や受講管理の効率化を図っている。 引き続き、院内施設の充実や、就労環境の向上に取り組んでいく。																																																																																																																																				
			75	⑤院内保育の活用を図る。	総合・こども <table><tr><th colspan="2">保育所利用人数</th><th colspan="6">(単位：人)</th></tr><tr><th rowspan="2">区 分</th><th rowspan="2">定員</th><th colspan="6">平均利用人数</th></tr><tr><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th></tr><tr><td>総合「おひさま」</td><td>100</td><td>75</td><td>65</td><td>65</td><td>70</td><td>60</td><td>57</td></tr><tr><td>こども「ことり」</td><td>80</td><td>16</td><td>17</td><td>19</td><td>32</td><td>32</td><td>30</td></tr><tr><td>計</td><td>180</td><td>91</td><td>82</td><td>84</td><td>102</td><td>92</td><td>87</td></tr></table>	保育所利用人数		(単位：人)						区 分	定員	平均利用人数						元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	総合「おひさま」	100	75	65	65	70	60	57	こども「ことり」	80	16	17	19	32	32	30	計	180	91	82	84	102	92	87	A	各病院内の院内保育所では、育児をしながら勤務する医師や看護師の就労環境の向上のため、保育メニュー等の更なる充実に努めている。 総合病院では、二重保育や夜間保育、土日預かり等の多様なメニューを揃え、子育てしながら働きやすい環境を引き続き提供できている。 幼保無償化の影響により入所者数が減少しているため、有期コメディカル・正規事務の入所を開始した。また、院内保育所利用者を対象としたインフルエンザ予防接種も実施している。 こども病院では、令和6年度は45人を上限に運用し、二重保育や病後児保育等の保育サービスに対応している。また、院内保育所の夜間保育を週2日から週3日へ対応出来るよう整備した。																																																																																						
保育所利用人数		(単位：人)																																																																																																																																									
区 分	定員	平均利用人数																																																																																																																																									
		元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																																																																				
総合「おひさま」	100	75	65	65	70	60	57																																																																																																																																				
こども「ことり」	80	16	17	19	32	32	30																																																																																																																																				
計	180	91	82	84	102	92	87																																																																																																																																				

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(令6)	令和6年度実績 自己評価																																																																																																																																																																										
						本評価	説明																																																																																																																																																																									
3 医療に関する調査及び研究	3 医療に関する調査及び研究	3 医療に関する調査及び研究	—	—	—		—																																																																																																																																																																									
			—	—	—		—																																																																																																																																																																									
(1) 研究機能の強化	(1) 研究機能の強化	(1) 研究機能の強化	—	—	—		—																																																																																																																																																																									
			76	総合	臨床研究数 (単位：件、%) <table><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th><th>毎年度目標</th></tr><tr><td>研究数</td><td>376</td><td>399</td><td>329</td><td>409</td><td>449</td><td>474</td><td>350以上</td></tr><tr><td>支援研究数</td><td>50</td><td>57</td><td>68</td><td>67</td><td>71</td><td>91</td><td>—</td></tr><tr><td>支援率</td><td>13.3</td><td>14.3</td><td>20.7</td><td>16.4</td><td>15.8</td><td>19.2</td><td>—</td></tr></table> 客員研究員受入状況 (単位：人) <table><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th></tr><tr><td>静岡県立大学</td><td>15</td><td>15</td><td>15</td><td>13</td><td>13</td><td>13</td></tr><tr><td>外部</td><td>22</td><td>25</td><td>16</td><td>16</td><td>15</td><td>21</td></tr></table> 奨学寄附金受入件数・金額<table><tr><th>区分</th><th>寄附者</th><th>目的</th><th>金額(千円)</th></tr><tr><td rowspan="3">元年度</td><td>日本ペーリン&ーイング R&M株式会社</td><td>糖尿病治療に関する研究</td><td>200</td></tr><tr><td>日本ペーリン&ーイング R&M株式会社</td><td>呼吸器疾患における研究</td><td>200</td></tr><tr><td></td><td>合計</td><td>400</td></tr><tr><td rowspan="5">2年度</td><td>日本ペーリン&ーイング R&M株式会社</td><td>糖尿病治療に関する研究</td><td>200</td></tr><tr><td>日本ペーリン&ーイング R&M株式会社</td><td>呼吸器疾患における研究</td><td>200</td></tr><tr><td>アミカス・セラピューティクス株式会社</td><td>遺伝性疾患に関する研究支援</td><td>500</td></tr><tr><td>株式会社ジェン・ペン・ディッシュ・エンジニアリング</td><td>整形外科疾患における研究</td><td>1,000</td></tr><tr><td></td><td>合計</td><td>1,900</td></tr><tr><td rowspan="4">3年度</td><td>日本ペーリン&ーイング R&M株式会社</td><td>糖尿病治療に関する研究</td><td>200</td></tr><tr><td>日本ペーリン&ーイング R&M株式会社</td><td>呼吸器疾患における研究</td><td>200</td></tr><tr><td>大正製薬株式会社</td><td>糖尿病疾患の治療に関する研究</td><td>300</td></tr><tr><td></td><td>合計</td><td>700</td></tr><tr><td rowspan="5">4年度</td><td>日本ペーリン&ーイング R&M株式会社</td><td>糖尿病治療に関する研究</td><td>200</td></tr><tr><td>日本ペーリン&ーイング R&M株式会社</td><td>呼吸器疾患における研究</td><td>100</td></tr><tr><td>京セラ株式会社</td><td>変形関節症に関する研究</td><td>1,500</td></tr><tr><td>第10回日本婦人科ロボット手術学会</td><td>産婦人科の診断治療に関する研究</td><td>500</td></tr><tr><td></td><td>合計</td><td>2,300</td></tr><tr><td rowspan="5">5年度</td><td>日本ペーリン&ーイング R&M株式会社</td><td>糖尿病治療に関する研究</td><td>100</td></tr><tr><td>日本ペーリン&ーイング R&M株式会社</td><td>呼吸器疾患における研究</td><td>100</td></tr><tr><td>パイタル株式会社</td><td>心臓血管外科における研究</td><td>100</td></tr><tr><td>京セラ株式会社</td><td>変形関節症に関する研究</td><td>1,500</td></tr><tr><td></td><td>合計</td><td>1,800</td></tr><tr><td rowspan="4">6年度</td><td>静岡インクレチン研究会</td><td>糖尿病治療に関する研究</td><td>1,402</td></tr><tr><td>株式会社APEX</td><td>心臓血管外科領域における研究</td><td>400</td></tr><tr><td>石川 優樹</td><td>免疫研究部における研究</td><td>1,500</td></tr><tr><td></td><td>合計</td><td>3,302</td></tr></table> 新生児聴覚スクリーニング件数 (単位：件) <table><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th></tr><tr><td>スクリーニング件数</td><td>541</td><td>567</td><td>549</td><td>488</td><td>471</td><td>439</td></tr></table> 人工内耳埋込術件数 (単位：件) <table><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th></tr><tr><td>件数</td><td>13</td><td>9</td><td>13</td><td>24</td><td>25</td><td>17</td></tr></table>	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	毎年度目標	研究数	376	399	329	409	449	474	350以上	支援研究数	50	57	68	67	71	91	—	支援率	13.3	14.3	20.7	16.4	15.8	19.2	—	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	静岡県立大学	15	15	15	13	13	13	外部	22	25	16	16	15	21	区分	寄附者	目的	金額(千円)	元年度	日本ペーリン&ーイング R&M株式会社	糖尿病治療に関する研究	200	日本ペーリン&ーイング R&M株式会社	呼吸器疾患における研究	200		合計	400	2年度	日本ペーリン&ーイング R&M株式会社	糖尿病治療に関する研究	200	日本ペーリン&ーイング R&M株式会社	呼吸器疾患における研究	200	アミカス・セラピューティクス株式会社	遺伝性疾患に関する研究支援	500	株式会社ジェン・ペン・ディッシュ・エンジニアリング	整形外科疾患における研究	1,000		合計	1,900	3年度	日本ペーリン&ーイング R&M株式会社	糖尿病治療に関する研究	200	日本ペーリン&ーイング R&M株式会社	呼吸器疾患における研究	200	大正製薬株式会社	糖尿病疾患の治療に関する研究	300		合計	700	4年度	日本ペーリン&ーイング R&M株式会社	糖尿病治療に関する研究	200	日本ペーリン&ーイング R&M株式会社	呼吸器疾患における研究	100	京セラ株式会社	変形関節症に関する研究	1,500	第10回日本婦人科ロボット手術学会	産婦人科の診断治療に関する研究	500		合計	2,300	5年度	日本ペーリン&ーイング R&M株式会社	糖尿病治療に関する研究	100	日本ペーリン&ーイング R&M株式会社	呼吸器疾患における研究	100	パイタル株式会社	心臓血管外科における研究	100	京セラ株式会社	変形関節症に関する研究	1,500		合計	1,800	6年度	静岡インクレチン研究会	糖尿病治療に関する研究	1,402	株式会社APEX	心臓血管外科領域における研究	400	石川 優樹	免疫研究部における研究	1,500		合計	3,302	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	スクリーニング件数	541	567	549	488	471	439	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	件数	13	9	13	24	25	17		病院機構では、リサーチサポートセンターを活用した研究に取り組んでおり、文部科学省科学研究費についてはすべての診療部門が申請対象となっている。令和6年度における文部科学省科学研究費の応募状況は、応募件数5件で、総合病院採択分の過年度からの研究継続件数は4件、他施設分担研究の継続件数は3件、合計7件の研究を取り扱っている。 きこえことばのセンター（静岡県乳幼児聴覚支援センター）では、乳幼児期の難聴や人工内耳の装用による脳の発達のメカニズムに関する研究をNTTコミュニケーション科学基礎研究所と共同で実施している。並行して新生児聴覚スクリーニング検査をオンサイト入力することで、関係機関との情報共有を可能にし、難聴の早期発見、早期介入、その後の支援につなげるための一元化された情報管理システムを開発し、県下での導入を進めるなど、きこえことばのセンターの事業について積極的に取り組んでいる。 また、令和6年度から本格的に開始された聴覚障害児療育体制整備においては、令和6年11月に静岡県、病院機構、そして聴覚障害児の音声言語獲得に高い実績を持つシェパードセンターの3者で、令和9年度まで、お互いに協力して聴覚障害児療育施設を病院機構内に整備することを目的とした協定書を締結。オーストラリア政府からの支援も受けつつ、シェパードセンターの持つ聴覚障害児療育プログラムを病院機構内の施設で実施するために、言語聴覚士への研修、施設整備等をオーストラリアの現地スタッフと協力して進めてきた。
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	毎年度目標																																																																																																																																																																									
研究数	376	399	329	409	449	474	350以上																																																																																																																																																																									
支援研究数	50	57	68	67	71	91	—																																																																																																																																																																									
支援率	13.3	14.3	20.7	16.4	15.8	19.2	—																																																																																																																																																																									
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																																																																																																										
静岡県立大学	15	15	15	13	13	13																																																																																																																																																																										
外部	22	25	16	16	15	21																																																																																																																																																																										
区分	寄附者	目的	金額(千円)																																																																																																																																																																													
元年度	日本ペーリン&ーイング R&M株式会社	糖尿病治療に関する研究	200																																																																																																																																																																													
	日本ペーリン&ーイング R&M株式会社	呼吸器疾患における研究	200																																																																																																																																																																													
		合計	400																																																																																																																																																																													
2年度	日本ペーリン&ーイング R&M株式会社	糖尿病治療に関する研究	200																																																																																																																																																																													
	日本ペーリン&ーイング R&M株式会社	呼吸器疾患における研究	200																																																																																																																																																																													
	アミカス・セラピューティクス株式会社	遺伝性疾患に関する研究支援	500																																																																																																																																																																													
	株式会社ジェン・ペン・ディッシュ・エンジニアリング	整形外科疾患における研究	1,000																																																																																																																																																																													
		合計	1,900																																																																																																																																																																													
3年度	日本ペーリン&ーイング R&M株式会社	糖尿病治療に関する研究	200																																																																																																																																																																													
	日本ペーリン&ーイング R&M株式会社	呼吸器疾患における研究	200																																																																																																																																																																													
	大正製薬株式会社	糖尿病疾患の治療に関する研究	300																																																																																																																																																																													
		合計	700																																																																																																																																																																													
4年度	日本ペーリン&ーイング R&M株式会社	糖尿病治療に関する研究	200																																																																																																																																																																													
	日本ペーリン&ーイング R&M株式会社	呼吸器疾患における研究	100																																																																																																																																																																													
	京セラ株式会社	変形関節症に関する研究	1,500																																																																																																																																																																													
	第10回日本婦人科ロボット手術学会	産婦人科の診断治療に関する研究	500																																																																																																																																																																													
		合計	2,300																																																																																																																																																																													
5年度	日本ペーリン&ーイング R&M株式会社	糖尿病治療に関する研究	100																																																																																																																																																																													
	日本ペーリン&ーイング R&M株式会社	呼吸器疾患における研究	100																																																																																																																																																																													
	パイタル株式会社	心臓血管外科における研究	100																																																																																																																																																																													
	京セラ株式会社	変形関節症に関する研究	1,500																																																																																																																																																																													
		合計	1,800																																																																																																																																																																													
6年度	静岡インクレチン研究会	糖尿病治療に関する研究	1,402																																																																																																																																																																													
	株式会社APEX	心臓血管外科領域における研究	400																																																																																																																																																																													
	石川 優樹	免疫研究部における研究	1,500																																																																																																																																																																													
		合計	3,302																																																																																																																																																																													
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																																																																																																										
スクリーニング件数	541	567	549	488	471	439																																																																																																																																																																										
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																																																																																																										
件数	13	9	13	24	25	17																																																																																																																																																																										

中期目標		中期計画		年度計画		No		行動計画		業務の実績(令6)		令和6年度実績 自己評価																																																																		
												本評価	説明																																																																	
						77		⑤医療水準の向上と院内における医療の質の高度化に資するため、新薬開発や臨床研究などへ参画する。	各病院	<table><tr><td colspan="8">医薬品受託研究事業費・契約件数 (単位：千円、件)</td></tr><tr><td>区 分</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>6年度</td><td></td></tr><tr><td>総 合</td><td>件 数 17</td><td>17</td><td>23</td><td>25</td><td>27</td><td>24</td><td></td></tr><tr><td></td><td>契約額 42,504</td><td>27,994</td><td>58,794</td><td>91,214</td><td>57,272</td><td>45,461</td><td></td></tr><tr><td>こころ</td><td>件 数 0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td></td></tr><tr><td></td><td>契約額 0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td></td></tr><tr><td>こども</td><td>件 数 35</td><td>23</td><td>37</td><td>58</td><td>58</td><td>51</td><td></td></tr><tr><td></td><td>契約額 29,479</td><td>12,041</td><td>20,531</td><td>14,282</td><td>12,143</td><td>3,901</td><td></td></tr></table>		医薬品受託研究事業費・契約件数 (単位：千円、件)								区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度		総 合	件 数 17	17	23	25	27	24			契約額 42,504	27,994	58,794	91,214	57,272	45,461		こころ	件 数 0	0	0	0	0	0			契約額 0	0	0	0	0	0		こども	件 数 35	23	37	58	58	51			契約額 29,479	12,041	20,531	14,282	12,143	3,901		A	令和6年度も、製薬会社等からの依頼を受け、新薬開発に係る治験を行っている。 製造販売後調査を適正に実施し、安心安全な医療に寄与している。	
医薬品受託研究事業費・契約件数 (単位：千円、件)																																																																														
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																								
総 合	件 数 17	17	23	25	27	24																																																																								
	契約額 42,504	27,994	58,794	91,214	57,272	45,461																																																																								
こころ	件 数 0	0	0	0	0	0																																																																								
	契約額 0	0	0	0	0	0																																																																								
こども	件 数 35	23	37	58	58	51																																																																								
	契約額 29,479	12,041	20,531	14,282	12,143	3,901																																																																								
(2)	診療等の情報の活用	(2) 診療等の情報の活用	(2) 診療等の情報の活用	-	-	-	-	-	総合	-		A	DPCデータの分析結果を元に、医局会においてDPC入院期間Ⅱ以内の退院状況や副傷病名の付与率等を報告するとともに、DPCコーディング部会における議論等により平均在院日数の短縮やDPCコーディングの適正化に努めている。																																																																	
	診療等を通じて得られる情報を県立病院で提供する医療の質の向上のために活用するとともに、他の医療機関へ情報提供すること。	電子カルテシステムの統合等による管理機能の充実を図り、科学的根拠を集積・分析し、カンファレンス、臨床研修、臨床研究等において活用し、医療の質の向上を図る。また、学会、講習会、研究会等へ情報発信しやすい体制を整備する。	①診療情報等の分析のできるシステムの活用	78	①DPCの診療情報に基づく症例分析を行う。					D P C コーディング部会開催実績 (単位：回、人)																																																																				
				79	①DPCの診療情報を分析し、診療へフィードバックを行う。また、職員の分析にかかるスキルアップに努める。				こども	D P C データの分析結果を診療へ活かすとともに適切なコーディングを周知するため、D P C 部会兼コード検討委員会を開催した。		A	早期のデータ入力を継続して促し適切なコーディングを行うことで診療報酬を漏れなく請求している。																																																																	
										DPC部会兼コード検討委員会開催実績 (単位：回、人)																																																																				
4	医療に関する地域への支援	4 医療に関する地域への支援	4 医療に関する地域への支援	-	-	-	-	-	-	-			-																																																																	
	本県の地域医療の確保のため、県立病院がその支援に大きな役割を果たし、信頼され、必要とされる病院であり続けるよう努めること。	地域医療を確保するための支援の中心的機能を果たすため、県立病院が有する医療資源を積極的に活用するなど、積極的な支援を進める。	地域医療を確保するための支援の中心的機能を果たすため、県立病院が有する医療資源を積極的に活用するなど、積極的な支援を進める。	-	-	-	-	-	-	-			-																																																																	
(1)	地域の医療機関等との連携・支援	(1) 地域の医療機関等との連携・支援	(1) 地域の医療機関等との連携・支援	-	-	-	-	-	-	-			-																																																																	
	医師派遣の拠点病院として、県医師確保計画の推進に協力し、医師不足の公的医療機関に対し医師派遣を行うとともに、地域医療連携推進法人制度の活用等による病院の機能分化・連携強化を進め、地域における質の高い医療の提供の推進に取り組むこと。また、他の医療機関から紹介された患者の受入れ及び患者に適した医療機関の紹介を積極的に行うこと。さらに、高度医療機器の共同利用の促進、ICTを活用した他の医療機関等との医療情報の共有など、地域医療の確保への支援を一層推進すること。	県が策定する医師確保計画の推進に協力する。 県立病院の医師の増員及び育成を図り、地域医療連携推進法人制度の活用等による地域医療を支える県内医療機関への医師派遣の充実など、病院の機能分化・連携強化を進め、地域における質の高い医療の提供の推進に取り組む。また、ICTを活用した医療連携、遠隔診断のネットワークづくりや、高度医療機器などの共同利用を推進し、県立病院の施設、設備や機能について地域への開放を進める。	①県内の医師確保・偏在解消等を県、浜松医科大学、静岡社会健康医学大学院大学等と連携して実施 ②県の医師派遣事業及び常勤医師の派遣への協力 ③地域医療連携推進法人制度の活用等による本県の医師確保、医師の人材育成、地域医療構想推進の支援及び病院の機能分化・連携強化 ④静岡市清水区の桜ヶ丘病院へ医師派遣等を行い清水区の病院医療の充実を支援 ⑤県内病院への常勤幹部医師の配置 ⑥専門医制度への対応 ⑦医療機器の共同利用の推進 ⑧ICT技術を活用した地域医療機関等との連携及び支援	80	①②⑤⑥県内の医師確保、偏在解消等を県、浜松医科大学、静岡社会健康医学大学院大学等と連携して実施するほか、地域医療支援病院としての使命を果たすため医師を確保したうえで、医師不足が顕著な公的病院に医師を派遣する。 ③④⑦⑧地域医療連携推進法人制度を活用して、静岡市清水区の桜ヶ丘病院への医師派遣等を行い、県の地域医療構想を推進することにより、地域において質が高く効率的な医療提供体制を構築する。	本部（総務・経営） 総合・こども				医師定数（各年度4月1日現在） (単位：人)			県立病院としての役割を果たすため、継続的に医師確保に努めている一方、医師不足が顕著な公的病院等については医師派遣を行った。 県内初の地域医療連携推進法人「ふじのくに社会健康医療連合」は、令和7年3月末現在、静岡県立病院機構3病院、地域医療機能推進機構清水さくら病院、静岡社会健康医学大学院大学、国立病院機構静岡医療センターの4法人、5病院と1大学院大学の6施設が参画している。 令和6年度は、昨年度から引き続き、総合病院から清水さくら病院に対して医師派遣を行ったほか、地域医療に貢献する志を持った医師の確保・育成を推進するため、静岡県、静岡社会健康医学大学院大学と連携し、県医学修学資金貸与医師の配置調整業務を実施した。																																																																	
										(総合)		A	(総合) 医療機関等に対しては、清水さくら病院、島田市立総合医療センター、富士宮市立病院、伊豆赤十字病院、佐久間病院、川根本町いやしの里診療所、つばさ静岡の計7箇所に医師派遣を行った。																																																																	
										(こども) 静岡市立静岡病院、焼津市立総合病院、藤枝市立総合病院、島田市立総合医療センター、中東遠総合医療センター、県中西部発達障害者支援センター、静岡赤十字病院に医師を派遣している。また、県の要請に基づき、重症心身障害児施設つばさ静岡にも医師を派遣している。			(こども) 令和6年度、県内の8医療機関等に医師を派遣し、県内各地の地域医療を支援している。また、公的病院だけでなく、県の要請に基づき、重症心身障害児施設にも医師を派遣し、地域貢献を果たしている。小児科医が不足する医療機関からの派遣要請には可能な限り対応していく必要があり、働き方改革への対応とのバランスをとりながらも要請には全て応えている。																																																																	
										医師派遣実績（公的病院等） (単位：機関、科、人)																																																																				

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(令6)	令和6年度実績 自己評価																																													
						本評価	説明																																												
			81	②小児1次救急医療への応援を行う。	静岡市急病センター、志太榛原地域救急医療センターへ継続的に医師を派遣している。 医師派遣実績（急病センター）（単位：機関、科、人）<table><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th></tr><tr><td>医療機関</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td></tr><tr><td>診療科</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td></tr><tr><td>延人員数</td><td>214</td><td>197</td><td>165</td><td>194</td><td>240</td><td>181</td></tr></table> 【参考】医師派遣実績計<table><tr><th>区 分</th><th>医療機関</th><th>診療科</th><th>延人員数</th></tr><tr><td>公的病院</td><td>8</td><td>3</td><td>348</td></tr><tr><td>急病センター</td><td>2</td><td>2</td><td>181</td></tr><tr><td></td><td>10</td><td>※4</td><td>529</td></tr></table>※重複のため計が一致しない	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	医療機関	2	2	2	2	2	2	診療科	2	2	2	2	2	2	延人員数	214	197	165	194	240	181	区 分	医療機関	診療科	延人員数	公的病院	8	3	348	急病センター	2	2	181		10	※4	529	A	令和6年度は、静岡市急病センター及び志太榛原地域救急医療センターへ継続的に医師を派遣し、地域の小児1次救急医療を支援している。小児1次救急医療の成立のため、派遣要請には可能な限り対応していく方針であり、働き方改革への対応とのバランスをとりながらも要請には全て応えている。
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																													
医療機関	2	2	2	2	2	2																																													
診療科	2	2	2	2	2	2																																													
延人員数	214	197	165	194	240	181																																													
区 分	医療機関	診療科	延人員数																																																
公的病院	8	3	348																																																
急病センター	2	2	181																																																
	10	※4	529																																																
			82	④静岡社会健康大学院大学と連携して、医師の配置調整など「ふじのくに地域医療支援センター」業務を支援する。	『ふじのくに地域医療支援センター』の機能の一部業務である「県内での勤務を希望する医師および研修医の就業・キャリア形成等の相談」、「静岡県医学修学研修資金貸与者の勤務先病院の決定支援」の業務を受託し、県内医師確保のための役割の一部を担っている。 配置調整医師数及び県内勤務開始者数（単位：名）<table><tr><th>勤務開始年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th></tr><tr><td>配置調整医師数</td><td>76</td><td>108</td><td>125</td><td>160</td><td>163</td><td>181</td></tr><tr><td>うち県内勤務医師数</td><td>47</td><td>71</td><td>83</td><td>107</td><td>108</td><td>110</td></tr></table>※配置調整は各前年度となる。	勤務開始年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	配置調整医師数	76	108	125	160	163	181	うち県内勤務医師数	47	71	83	107	108	110	A	静岡社会健康大学院大学と連携して、県の医師確保施策に寄与できるよう努めた。																							
勤務開始年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																													
配置調整医師数	76	108	125	160	163	181																																													
うち県内勤務医師数	47	71	83	107	108	110																																													
			83	⑥専攻医を受け入れる体制を整備し、専攻医の募集を行う。	(総合) 全19領域中12領域においてプログラムを実施し、令和6年度は21名、令和7年度は20名が当院の専門研修プログラムに所属し研修を開始した。 当院ホームページにプログラム説明動画を公開のうえ専門研修プログラムの魅力を発信した。また、オンライン会議システムを利用し、面談を行うなど専攻医確保に努めた。 (こころ) 病院見学の受入を積極的に行い、専攻医の確保に努めている。 (こども) 平成29年度から新制度に準じて実施された小児科専門医制度の基幹研修施設として、新制度に則った研修を実施しており、令和6年度は10名が本研修に取り組んでいる。	A	(総合) 19領域中12領域の専攻医確保に向けてホームページにプログラム説明動画を公開し、プログラムの魅力が伝わるような募集を行った。また、オンライン会議システムを利用し、面談を行うなど専攻医確保に努めた。 (こころ) 令和6年度は10名の専攻医を受け入れ、病院見学は6名を受け入れた。 (こども) 小児科専攻医研修の基幹研修施設として、県中東部の連携施設10病院と作成した日本小児科学会の承認を受けたプログラムをもとに指導を行い、令和6年度は10名が本研修に取り組んでいる。																																												
			84	⑦地域の医療機関向けにCT・MRIの地域支援検査枠を増設し、共同利用件数の向上を図る。	地域における医療機器の効率的な活用のため、CT・MRIの共同利用に取り組んでおり、地域医療の支援に貢献している。市内他施設における機器整備が進められており、共同利用件数も令和2年度を底に持ち直している。 C T、MR I 共同利用（単位：件）<table><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th></tr><tr><td>C T</td><td>881</td><td>659</td><td>722</td><td>733</td><td>617</td><td>516</td></tr><tr><td>MR I</td><td>595</td><td>472</td><td>517</td><td>522</td><td>516</td><td>541</td></tr><tr><td>CT(撮影のみ)</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>MRI(撮影のみ)</td><td>1</td><td>0</td><td>0</td><td>18</td><td>0</td><td>0</td></tr></table>	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	C T	881	659	722	733	617	516	MR I	595	472	517	522	516	541	CT(撮影のみ)	0	0	0	0	0	0	MRI(撮影のみ)	1	0	0	18	0	0	A	CT・MRI共同利用件数については、年間100件以上依頼のあった診療所にてCTの導入と新規医師採用があったため減少しているが、それ以外の施設からは例年通りの件数依頼を受けており、地域医療に貢献している。									
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																													
C T	881	659	722	733	617	516																																													
MR I	595	472	517	522	516	541																																													
CT(撮影のみ)	0	0	0	0	0	0																																													
MRI(撮影のみ)	1	0	0	18	0	0																																													

中期目標		中期計画		年度計画		No	行動計画	業務の実績(令6)	令和6年度実績 自己評価																																																																																								
									本評価	説明																																																																																							
				85	⑧ふじのくにねっとを活用し、地域の病院・診療所・調剤薬局・訪問看護ステーションとの連携を強化する。 ・ふじのくにバーチャル・メガ・ホスピタル協議会の運営を維持する。	総合	・令和2年3月からは、地域医療情報連携ネットワークにおける同意取得方法に関する厚生労働省通知を受け、患者への参加同意取得手続等の運用の見直しを進めるなど、ふじのくにねっと参加施設の利便性に貢献した。 令和4年度以降は協議会の会長を中東遠総合医療センターから選出して運営を継続している。 ・令和5年度以降、ふじのくにねっと参加施設数が減少しているため、令和6年度には、県医師会経由で県東部の病院に開示施設用説明資料を送付するなど、ふじのくにねっと協議会への参加に向けた広報に力を入れている。	A	ネットワーク全体で病病・病診連携における積極開示をルール化することを理事会で方針として採択し、先進事例の共有等の取組を推進している。 令和6年度には、参照施設として参加した病院が2施設、診療所が1施設あった。また、開示施設としての参加を検討している病院が1施設ある。令和7年度には、システム更新を予定している開示施設が2施設あり、ふじのくにねっとの継続的な利用が推進されている。																																																																																								
					86		⑧国内外の医療機関との映像情報システムを用い、カンファレンス等を実施する。		こども	小児医療ネットワークを通じて、浜松医科大学等との合同カンファレンスやマレーシア国立循環器病センター（IJN）との接続試験を兼ねた症例検討会を実施している。また、他医療機関（4施設）と連携し、心エコー画像遠隔診断を実施している。 <table><tr><td colspan="7">心エコー画像遠隔診断実績</td><td>(単位：件)</td></tr><tr><td>区 分</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>6年度</td><td></td></tr><tr><td>症例数</td><td>3</td><td>0</td><td>2</td><td>5</td><td>7</td><td>4</td><td></td></tr></table>	心エコー画像遠隔診断実績							(単位：件)	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度		症例数	3	0	2	5	7	4		A	小児循環器科専門医研修施設として、浜松医科大学等との映像情報を通じたカンファレンスを実施している。また、マレーシア国立循環器病センターともカンファレンスを実施している。 令和6年度は、連携医療機関との心エコー画像遠隔診断を4件実施し、医療機関からの相談について映像情報を活用して対応した。																																																													
					心エコー画像遠隔診断実績							(単位：件)																																																																																					
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																											
症例数	3	0	2	5	7	4																																																																																											
(2)	社会的な要請への協力及び知識や技術の普及	(2)	社会的な要請への協力及び知識や技術の普及	—	—	—	—	—	—																																																																																								
	鑑定、調査、講師派遣など社会的な要請に対し、県立病院が有する人材や知見を積極的に提供し、県内の医療従事者の養成に貢献すること。	公的機関からの医療に係る鑑定や調査、講師派遣等の社会的な要請に対し、引き続き柔軟に対応していくほか、医療従事者が他の機関・団体における研修や研究等の活動に参画しやすい体制づくりに取り組む。また、院内研修等の教育研修を県内の医療従事者へ積極的に開放していく。	(2) 社会的な要請への協力及び知識や技術の普及	87	①公的機関からの医療に係る鑑定や調査、講師派遣等の社会的な要請への対応 ②学会や研修会等へ積極的に参加できる仕組みづくり ③認定看護師等の資格保有者の活用 ④県内の医療従事者への教育研修機能の開放 ⑤県児童虐待早期発見医療体制整備事業を推進	総合	①院内外の研修会等を定期的に開催し、地域の医療機関へ情報提供する。	A	拡大がんセンターボード実績 <table><tr><td>区分</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>6年度</td></tr><tr><td>回数（回）</td><td>5</td><td>3</td><td>2</td><td>4</td><td>4</td><td>4</td></tr><tr><td rowspan="3">参加人数（人）</td><td>院内</td><td>178</td><td>73</td><td>78</td><td>101</td><td>106</td></tr><tr><td>院外</td><td>108</td><td>49</td><td>36</td><td>49</td><td>25</td></tr><tr><td>合計</td><td>286</td><td>122</td><td>114</td><td>150</td><td>131</td></tr></table>	区分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	回数（回）	5	3	2	4	4	4	参加人数（人）	院内	178	73	78	101	106	院外	108	49	36	49	25	合計	286	122	114	150	131	がん診療部主催の拡大がんセンターボード(多職種カンファレンス)では、がん症例の診断や治療方法等について、院内外の多職種による包括的な議論が行われている。 令和6年度も、前年度と同程度開催した。																																																						
				区分	元年度		2年度		3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																					
				回数（回）	5		3		2	4	4	4																																																																																					
				参加人数（人）	院内		178		73	78	101	106																																																																																					
					院外		108		49	36	49	25																																																																																					
合計	286	122	114		150	131																																																																																											
88	①他団体の講師派遣依頼に協力する。	総合	講師派遣実績 <table><tr><td>区 分</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>6年度</td></tr><tr><td>医師</td><td>56</td><td>58</td><td>43</td><td>51</td><td>63</td><td>81</td></tr><tr><td>その他</td><td>38</td><td>34</td><td>21</td><td>41</td><td>44</td><td>43</td></tr><tr><td>計</td><td>94</td><td>92</td><td>64</td><td>92</td><td>107</td><td>124</td></tr></table>	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	医師	56	58	43	51	63	81	その他	38	34	21	41	44	43	計	94	92	64	92	107	124	A	他団体等が主催する講演会の講師として、医師や認定看護師を派遣しており、令和6年度も、令和5年度に引き続き、積極的に実施している。																																																																
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																											
医師	56	58	43	51	63	81																																																																																											
その他	38	34	21	41	44	43																																																																																											
計	94	92	64	92	107	124																																																																																											
89	①②他団体等が主催する講習会、研究会、学会への講師派遣を推進する。	こころ	院外講演会講師派遣状況(医師) <table><tr><td>区 分</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>6年度</td></tr><tr><td>派遣回数</td><td>22</td><td>4</td><td>9</td><td>23</td><td>21</td><td>6</td></tr></table> 院外講演会講師派遣状況(看護師) <table><tr><td>区 分</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>6年度</td></tr><tr><td>派遣回数</td><td>33</td><td>17</td><td>30</td><td>37</td><td>25</td><td>17</td></tr></table>	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	派遣回数	22	4	9	23	21	6	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	派遣回数	33	17	30	37	25	17	A	他団体等が主催する講演会の講師やアドバイザーとして医師や看護師を派遣する等、積極的な地域支援を行っている。派遣実績は前年度並みとなっている。																																																																
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																											
派遣回数	22	4	9	23	21	6																																																																																											
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																											
派遣回数	33	17	30	37	25	17																																																																																											
90	①医療にかかる鑑定等の要請への協力など積極的に対応する。	こころ	①医療にかかる鑑定等の要請への協力など積極的に対応する。	医療観察法の鑑定医として協力するなど、積極的な対応を図っている。 医療観察法による鑑定入院受入実績 <table><tr><td>区 分</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>6年度</td></tr><tr><td>こころ</td><td>5</td><td>10</td><td>8</td><td>5</td><td>7</td><td>5</td></tr></table>	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	こころ	5	10	8	5	7	5	A	医療観察法に係る鑑定入院の受入について、積極的に協力し令和6年度は5件の実績となった。																																																																													
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																											
こころ	5	10	8	5	7	5																																																																																											
91	①特別支援学校や児童相談所など教育機関や福祉機関との連携を強化するため、講座や相談会などを継続的に開催する。	こども	①特別支援学校や児童相談所など教育機関や福祉機関との連携を強化するため、講座や相談会などを継続的に開催する。	精神保健講座等開催実績 <table><tr><td rowspan="2">区分</td><td colspan="2">元年度</td><td colspan="2">2年度</td><td colspan="2">3年度</td><td colspan="2">4年度</td><td colspan="2">5年度</td><td colspan="2">6年度</td></tr><tr><td>精神保健講座</td><td>児童養護施設巡回相談</td><td>精神保健講座</td><td>児童養護施設巡回相談</td><td>精神保健講座</td><td>児童養護施設巡回相談</td><td>精神保健講座</td><td>児童養護施設巡回相談</td><td>精神保健講座</td><td>児童養護施設巡回相談</td><td>精神保健講座</td><td>児童養護施設巡回相談</td></tr><tr><td rowspan="2">対象</td><td>県内小中学校教諭</td><td>こども・家族</td><td>県内小中学校教諭</td><td>こども・家族</td><td>県内小中学校教諭</td><td>こども・家族</td><td>県内小中学校教諭</td><td>こども・家族</td><td>県内小中学校教諭</td><td>こども・家族</td><td>県内小中学校教諭</td><td>こども・家族</td></tr><tr><td>5回</td><td>11回</td><td>2回</td><td>11回</td><td>4回</td><td>10回</td><td>3回</td><td>11回</td><td>5回</td><td>10回</td><td>5回</td><td>12回</td></tr><tr><td>参加者数等</td><td>96人</td><td>11施設</td><td>49人</td><td>11施設</td><td>140人</td><td>10施設</td><td>75人</td><td>11施設</td><td>131人</td><td>10施設</td><td>122人</td><td>4施設</td></tr></table> 医療機関に対する相談・助言件数 <table><tr><td>区 分</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>6年度</td></tr><tr><td>件 数</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>82</td><td>61</td><td>70</td></tr></table> 教育研修の実施回数 <table><tr><td>区 分</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>6年度</td></tr><tr><td>実施回数</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>5</td><td>8</td><td>7</td></tr></table>	区分	元年度		2年度		3年度		4年度		5年度		6年度		精神保健講座	児童養護施設巡回相談	精神保健講座	児童養護施設巡回相談	精神保健講座	児童養護施設巡回相談	精神保健講座	児童養護施設巡回相談	精神保健講座	児童養護施設巡回相談	精神保健講座	児童養護施設巡回相談	対象	県内小中学校教諭	こども・家族	県内小中学校教諭	こども・家族	県内小中学校教諭	こども・家族	県内小中学校教諭	こども・家族	県内小中学校教諭	こども・家族	県内小中学校教諭	こども・家族	5回	11回	2回	11回	4回	10回	3回	11回	5回	10回	5回	12回	参加者数等	96人	11施設	49人	11施設	140人	10施設	75人	11施設	131人	10施設	122人	4施設	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	件 数	—	—	—	82	61	70	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	実施回数	—	—	—	5	8	7	A	厚生労働省の「子どもの心の診療ネットワーク事業」に静岡県の拠点病院として参加している。こころの診療科では教師を対象とした精神保健講座や児童養護施設の巡回相談を定期的に行い、教育機関や福祉機関との連携を強化している。 令和4年度から受託している静岡県の児童虐待早期発見医療体制整備事業について、育児環境支援室を中心に、令和6年度も責務を果たすべく取り組んだ。医療機関向け窓口への相談に対応したり、児童虐待が疑われる事例に対する緊急子育て支援対策委員会を開催し、必要と判断した場合には児童相談所への通告を行ったりすることを通して、体制整備を推進している。また、令和6年度も子ども虐待対応研修を実施しており、県内総合病院を訪問しての医療従事者向けの研修、MSWを対象にした研修などを行った。
区分	元年度		2年度			3年度		4年度		5年度		6年度																																																																																					
	精神保健講座	児童養護施設巡回相談	精神保健講座	児童養護施設巡回相談	精神保健講座	児童養護施設巡回相談	精神保健講座	児童養護施設巡回相談	精神保健講座	児童養護施設巡回相談	精神保健講座	児童養護施設巡回相談																																																																																					
対象	県内小中学校教諭	こども・家族	県内小中学校教諭	こども・家族	県内小中学校教諭	こども・家族	県内小中学校教諭	こども・家族	県内小中学校教諭	こども・家族	県内小中学校教諭	こども・家族																																																																																					
	5回	11回	2回	11回	4回	10回	3回	11回	5回	10回	5回	12回																																																																																					
参加者数等	96人	11施設	49人	11施設	140人	10施設	75人	11施設	131人	10施設	122人	4施設																																																																																					
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																											
件 数	—	—	—	82	61	70																																																																																											
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																											
実施回数	—	—	—	5	8	7																																																																																											

中期目標		中期計画		年度計画		No	行動計画	業務の実績(令6)	令和6年度実績 自己評価																																																																																																																																																																																																																													
									本評価	説明																																																																																																																																																																																																																												
						92	①小児慢性特定疾患治療研究事業や障害者総合支援法、児童福祉法、精神保健福祉法等の公費負担医療を実施する。	こども	<table><tr><th colspan="7">公費負担患者状況 (単位：人)</th></tr><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th></tr><tr><td>小児慢性</td><td>1,771</td><td>1,691</td><td>1,674</td><td>1,571</td><td>1,565</td><td>1,530</td></tr><tr><td>育成医療</td><td>55</td><td>36</td><td>20</td><td>10</td><td>6</td><td>3</td></tr><tr><td>養育医療</td><td>182</td><td>190</td><td>195</td><td>165</td><td>169</td><td>171</td></tr><tr><td>特定疾患</td><td>7</td><td>6</td><td>9</td><td>10</td><td>11</td><td>12</td></tr><tr><td>特定疾病</td><td>100</td><td>92</td><td>115</td><td>124</td><td>147</td><td>169</td></tr><tr><td>生活保護</td><td>182</td><td>181</td><td>188</td><td>185</td><td>193</td><td>183</td></tr><tr><td>精神保健</td><td>69</td><td>52</td><td>50</td><td>32</td><td>29</td><td>35</td></tr><tr><td>その他</td><td>146</td><td>204</td><td>751</td><td>1,207</td><td>245</td><td>140</td></tr><tr><td>計</td><td>2,512</td><td>2,452</td><td>3,002</td><td>3,002</td><td>3,304</td><td>2,243</td></tr></table>	公費負担患者状況 (単位：人)							区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	小児慢性	1,771	1,691	1,674	1,571	1,565	1,530	育成医療	55	36	20	10	6	3	養育医療	182	190	195	165	169	171	特定疾患	7	6	9	10	11	12	特定疾病	100	92	115	124	147	169	生活保護	182	181	188	185	193	183	精神保健	69	52	50	32	29	35	その他	146	204	751	1,207	245	140	計	2,512	2,452	3,002	3,002	3,304	2,243	A	公費負担医療を提供するためには、本人による申請が必要となることから、証明書・診断書の発行など公費適用患者の利便性を重視して対応している。																																																																																																																																														
公費負担患者状況 (単位：人)																																																																																																																																																																																																																																						
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																																																																																																																																																																
小児慢性	1,771	1,691	1,674	1,571	1,565	1,530																																																																																																																																																																																																																																
育成医療	55	36	20	10	6	3																																																																																																																																																																																																																																
養育医療	182	190	195	165	169	171																																																																																																																																																																																																																																
特定疾患	7	6	9	10	11	12																																																																																																																																																																																																																																
特定疾病	100	92	115	124	147	169																																																																																																																																																																																																																																
生活保護	182	181	188	185	193	183																																																																																																																																																																																																																																
精神保健	69	52	50	32	29	35																																																																																																																																																																																																																																
その他	146	204	751	1,207	245	140																																																																																																																																																																																																																																
計	2,512	2,452	3,002	3,002	3,304	2,243																																																																																																																																																																																																																																
						93	①研究雑費や研究旅費等の予算化等により学会や研修会等への参加がしやすい体制を維持する。	各病院	<table><tr><th colspan="7">(総合) 海外研修の実績 (6年度) (単位：人)</th></tr><tr><th colspan="2">内 容</th><th>人数</th><th colspan="2">内 容</th><th>人数</th><th colspan="2">内 容</th><th>人数</th></tr><tr><td rowspan="20">元年度</td><td>11th CONGRESS OF THE VASCULAR ACCESS SOCIETY</td><td>2</td><td rowspan="2">3年度</td><td colspan="2">実績なし</td><td rowspan="14">5年度</td><td>EUROPEAN PACIFIC SOCIETY OF HYPERTENSION (EPSH)</td><td>1</td></tr><tr><td>AATS 99th Annual Meeting</td><td>2</td><td colspan="2">オーストラリア交換研修</td><td>American Society of Hematology Annual Meeting 2023</td><td>1</td></tr><tr><td>米国胸部疾患学会2019国際会議</td><td>3</td><td rowspan="12">4年度</td><td colspan="2">18th European Congress of Pathology</td><td>18th Congress of the Asian Pacific Society of Hematology</td><td>1</td></tr><tr><td>Jung Conference in Wroclaw 2019</td><td>1</td><td colspan="2">欧州呼吸器学会国際会議2022</td><td>Asian Association of Endocrine Surgeons 2023 Annual Conference</td><td>1</td></tr><tr><td>16th World Congress of Dermatology Milan 2019</td><td>1</td><td colspan="2">ICS 2022 VIENNA</td><td>Asian Pacific Digestive Week 2023 BANGKOK</td><td>2</td></tr><tr><td>SSAI 2019</td><td>3</td><td colspan="2">World Allergy Congress2022</td><td>San Antonio Breast Cancer Symposium</td><td>1</td></tr><tr><td>第31回欧州病理学会</td><td>1</td><td colspan="2">Dialysis Access Synergy 2022</td><td>18th World Congress of Anesthesiologists</td><td>1</td></tr><tr><td>欧州呼吸器学会国際会議2019</td><td>3</td><td colspan="2">American Society of Human Genetics2022</td><td>臨床研修医UCLA研修</td><td>16</td></tr><tr><td>16th Congress of the European Society of Hospital Radiology</td><td>2</td><td colspan="2">APLAR2022</td><td>浙江省訪問団</td><td>13</td></tr><tr><td>第28回J-マタ 皮膚科学・性病学会学術大会</td><td>1</td><td colspan="2">TRANCON2022</td><td>American Thoracic Society 2024 International Conference</td><td>5</td></tr><tr><td>ヨーロッパ 救急医学会</td><td>1</td><td colspan="2">2023米国アレルギー・喘息免疫アカデミー学術大会</td><td>AATS ABHTC SYMPOSIUM 104th Annual Meeting</td><td>3</td></tr><tr><td>フィリピン学術大会2019</td><td>3</td><td colspan="2">10th congress of the European society of empirical medicine</td><td>The Shepherd Center</td><td>10</td></tr><tr><td>37th WORLD CONGRESS OF ENDOCRINOLOGY</td><td>2</td><td colspan="2">American Society of Human Genetics</td><td>KLVAC+DASY 2024</td><td>1</td></tr><tr><td>American Pancreatic Association</td><td>3</td><td rowspan="6">5年度</td><td colspan="2">臨床研修医UCLA研修</td><td>European Respiratory Society International Congress 2023</td><td>3</td></tr><tr><td>ANS Kidney Week 2019</td><td>2</td><td colspan="2">American Thoracic Society 2023 International Conference</td><td>41st ESRA Annual Congress</td><td>1</td></tr><tr><td>アジア太平洋呼吸器学会国際会議2019</td><td>2</td><td colspan="2">アジア心臓血管外科学会総会 (ASVS 2023)</td><td>21th ESSKA Congress</td><td>1</td></tr><tr><td>EuroEcho 2019</td><td>2</td><td colspan="2">International Society on Thrombosis and Haemostasis</td><td>Asian Association of Endocrine Surgeons 2023 Annual Conference</td><td>1</td></tr><tr><td>ASCT2020</td><td>2</td><td colspan="2">The European Respiratory Society International Congress 2023</td><td>38th EACTS Annual Meeting</td><td>1</td></tr><tr><td>第109回 USCAP2020</td><td>1</td><td colspan="2">The 10th ISAR World Congress for Endometrial Research</td><td>United European Gastroenterology Week 2024</td><td>1</td></tr><tr><td>臨床研修医UCLA研修</td><td>18</td><td colspan="2">臨床研修医UCLA研修</td><td>San Antonio Breast Cancer Symposium 2024</td><td>3</td></tr><tr><td>2年度</td><td>実績なし</td><td colspan="2">APNET 2023 (アジア太平洋呼吸器学会)</td><td>グローバルオトロジー国際音韻療法教育コース</td><td>1</td></tr><tr><td colspan="2"></td><td colspan="2"></td><td colspan="2"></td><td colspan="2">中国浙江省研修</td><td>1</td></tr></table> <table><tr><th colspan="7">学会発表実績 (国内外) (単位：人)</th></tr><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th></tr><tr><td>件 数</td><td>547</td><td>51</td><td>102</td><td>352</td><td>463</td><td>468</td></tr></table> <table><tr><th colspan="7">こころ 学会発表実績 (単位：件)</th></tr><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th></tr><tr><td>件数</td><td>12</td><td>4</td><td>6</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td></tr></table> <table><tr><th colspan="7">こども 学会発表実績 (単位：件)</th></tr><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th></tr><tr><td>件数</td><td>448</td><td>141</td><td>245</td><td>316</td><td>330</td><td>365</td></tr></table>	(総合) 海外研修の実績 (6年度) (単位：人)							内 容		人数	内 容		人数	内 容		人数	元年度	11th CONGRESS OF THE VASCULAR ACCESS SOCIETY	2	3年度	実績なし		5年度	EUROPEAN PACIFIC SOCIETY OF HYPERTENSION (EPSH)	1	AATS 99th Annual Meeting	2	オーストラリア交換研修		American Society of Hematology Annual Meeting 2023	1	米国胸部疾患学会2019国際会議	3	4年度	18th European Congress of Pathology		18th Congress of the Asian Pacific Society of Hematology	1	Jung Conference in Wroclaw 2019	1	欧州呼吸器学会国際会議2022		Asian Association of Endocrine Surgeons 2023 Annual Conference	1	16th World Congress of Dermatology Milan 2019	1	ICS 2022 VIENNA		Asian Pacific Digestive Week 2023 BANGKOK	2	SSAI 2019	3	World Allergy Congress2022		San Antonio Breast Cancer Symposium	1	第31回欧州病理学会	1	Dialysis Access Synergy 2022		18th World Congress of Anesthesiologists	1	欧州呼吸器学会国際会議2019	3	American Society of Human Genetics2022		臨床研修医UCLA研修	16	16th Congress of the European Society of Hospital Radiology	2	APLAR2022		浙江省訪問団	13	第28回J-マタ 皮膚科学・性病学会学術大会	1	TRANCON2022		American Thoracic Society 2024 International Conference	5	ヨーロッパ 救急医学会	1	2023米国アレルギー・喘息免疫アカデミー学術大会		AATS ABHTC SYMPOSIUM 104th Annual Meeting	3	フィリピン学術大会2019	3	10th congress of the European society of empirical medicine		The Shepherd Center	10	37th WORLD CONGRESS OF ENDOCRINOLOGY	2	American Society of Human Genetics		KLVAC+DASY 2024	1	American Pancreatic Association	3	5年度	臨床研修医UCLA研修		European Respiratory Society International Congress 2023	3	ANS Kidney Week 2019	2	American Thoracic Society 2023 International Conference		41st ESRA Annual Congress	1	アジア太平洋呼吸器学会国際会議2019	2	アジア心臓血管外科学会総会 (ASVS 2023)		21th ESSKA Congress	1	EuroEcho 2019	2	International Society on Thrombosis and Haemostasis		Asian Association of Endocrine Surgeons 2023 Annual Conference	1	ASCT2020	2	The European Respiratory Society International Congress 2023		38th EACTS Annual Meeting	1	第109回 USCAP2020	1	The 10th ISAR World Congress for Endometrial Research		United European Gastroenterology Week 2024	1	臨床研修医UCLA研修	18	臨床研修医UCLA研修		San Antonio Breast Cancer Symposium 2024	3	2年度	実績なし	APNET 2023 (アジア太平洋呼吸器学会)		グローバルオトロジー国際音韻療法教育コース	1							中国浙江省研修		1	学会発表実績 (国内外) (単位：人)							区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	件 数	547	51	102	352	463	468	こころ 学会発表実績 (単位：件)							区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	件数	12	4	6	6	7	8	こども 学会発表実績 (単位：件)							区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	件数	448	141	245	316	330	365	A	医師や研修医をはじめとする医療スタッフが研究旅費等の予算化等により国内外の学会や研修会等へ参加できる体制を確保している。令和6年度の学会発表実績は、昨年度と同水準で維持している。医師や研修医などの医療スタッフが国内外の学会や研修会等へ参加できる体制を引き続き確保していく。
(総合) 海外研修の実績 (6年度) (単位：人)																																																																																																																																																																																																																																						
内 容		人数	内 容		人数	内 容		人数																																																																																																																																																																																																																														
元年度	11th CONGRESS OF THE VASCULAR ACCESS SOCIETY	2	3年度	実績なし		5年度	EUROPEAN PACIFIC SOCIETY OF HYPERTENSION (EPSH)	1																																																																																																																																																																																																																														
	AATS 99th Annual Meeting	2		オーストラリア交換研修			American Society of Hematology Annual Meeting 2023	1																																																																																																																																																																																																																														
	米国胸部疾患学会2019国際会議	3	4年度	18th European Congress of Pathology			18th Congress of the Asian Pacific Society of Hematology	1																																																																																																																																																																																																																														
	Jung Conference in Wroclaw 2019	1		欧州呼吸器学会国際会議2022			Asian Association of Endocrine Surgeons 2023 Annual Conference	1																																																																																																																																																																																																																														
	16th World Congress of Dermatology Milan 2019	1		ICS 2022 VIENNA			Asian Pacific Digestive Week 2023 BANGKOK	2																																																																																																																																																																																																																														
	SSAI 2019	3		World Allergy Congress2022			San Antonio Breast Cancer Symposium	1																																																																																																																																																																																																																														
	第31回欧州病理学会	1		Dialysis Access Synergy 2022			18th World Congress of Anesthesiologists	1																																																																																																																																																																																																																														
	欧州呼吸器学会国際会議2019	3		American Society of Human Genetics2022			臨床研修医UCLA研修	16																																																																																																																																																																																																																														
	16th Congress of the European Society of Hospital Radiology	2		APLAR2022			浙江省訪問団	13																																																																																																																																																																																																																														
	第28回J-マタ 皮膚科学・性病学会学術大会	1		TRANCON2022			American Thoracic Society 2024 International Conference	5																																																																																																																																																																																																																														
	ヨーロッパ 救急医学会	1		2023米国アレルギー・喘息免疫アカデミー学術大会			AATS ABHTC SYMPOSIUM 104th Annual Meeting	3																																																																																																																																																																																																																														
	フィリピン学術大会2019	3		10th congress of the European society of empirical medicine			The Shepherd Center	10																																																																																																																																																																																																																														
	37th WORLD CONGRESS OF ENDOCRINOLOGY	2		American Society of Human Genetics			KLVAC+DASY 2024	1																																																																																																																																																																																																																														
	American Pancreatic Association	3		5年度	臨床研修医UCLA研修		European Respiratory Society International Congress 2023	3																																																																																																																																																																																																																														
	ANS Kidney Week 2019	2	American Thoracic Society 2023 International Conference		41st ESRA Annual Congress	1																																																																																																																																																																																																																																
	アジア太平洋呼吸器学会国際会議2019	2	アジア心臓血管外科学会総会 (ASVS 2023)		21th ESSKA Congress	1																																																																																																																																																																																																																																
	EuroEcho 2019	2	International Society on Thrombosis and Haemostasis		Asian Association of Endocrine Surgeons 2023 Annual Conference	1																																																																																																																																																																																																																																
	ASCT2020	2	The European Respiratory Society International Congress 2023		38th EACTS Annual Meeting	1																																																																																																																																																																																																																																
	第109回 USCAP2020	1	The 10th ISAR World Congress for Endometrial Research		United European Gastroenterology Week 2024	1																																																																																																																																																																																																																																
	臨床研修医UCLA研修	18	臨床研修医UCLA研修		San Antonio Breast Cancer Symposium 2024	3																																																																																																																																																																																																																																
2年度	実績なし	APNET 2023 (アジア太平洋呼吸器学会)		グローバルオトロジー国際音韻療法教育コース	1																																																																																																																																																																																																																																	
						中国浙江省研修		1																																																																																																																																																																																																																														
学会発表実績 (国内外) (単位：人)																																																																																																																																																																																																																																						
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																																																																																																																																																																
件 数	547	51	102	352	463	468																																																																																																																																																																																																																																
こころ 学会発表実績 (単位：件)																																																																																																																																																																																																																																						
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																																																																																																																																																																
件数	12	4	6	6	7	8																																																																																																																																																																																																																																
こども 学会発表実績 (単位：件)																																																																																																																																																																																																																																						
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																																																																																																																																																																
件数	448	141	245	316	330	365																																																																																																																																																																																																																																
						94	③院内における資格取得を支援し、活用を促進する。 ④No.66 ⑤【子】県から受託している児童虐待早期発見医療体制整備事業を推進するため、相談窓口の設置や教育研修など地域の医療機関を支援する。	本部（総務）	<table><tr><th colspan="7">資格等取得助成制度利用者 (単位:人)</th></tr><tr><th rowspan="5">総合</th><th>看護師</th><td>0</td><td>9</td><td>10</td><td>13</td><td>12</td><td>15</td></tr><tr><th>コメディカル</th><td>0</td><td>1</td><td>1</td><td>9</td><td>5</td><td>5</td></tr><tr><th>事務</th><td>0</td><td>0</td><td>2</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><th>計</th><td>0</td><td>10</td><td>13</td><td>22</td><td>17</td><td>20</td></tr><tr><th></th><td>2</td><td>1</td><td>1</td><td>0</td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><th rowspan="5">こころ</th><th>看護師</th><td>2</td><td>1</td><td>1</td><td>0</td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><th>コメディカル</th><td>5</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><th>事務</th><td>1</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><th>計</th><td>8</td><td>1</td><td>1</td><td>0</td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><th></th><td>6</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>5</td><td>2</td></tr><tr><th rowspan="5">こども</th><th>看護師</th><td>6</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>5</td><td>2</td></tr><tr><th>コメディカル</th><td>4</td><td>0</td><td>0</td><td>2</td><td>1</td><td>2</td></tr><tr><th>事務</th><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>1</td></tr><tr><th>計</th><td>10</td><td>2</td><td>2</td><td>4</td><td>6</td><td>5</td></tr><tr><th></th><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><th rowspan="3">本部</th><th>事務</th><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><th>看護師</th><td>8</td><td>12</td><td>13</td><td>15</td><td>18</td><td>18</td></tr><tr><th>コメディカル</th><td>9</td><td>1</td><td>1</td><td>11</td><td>6</td><td>7</td></tr><tr><th rowspan="3">計</th><th>事務</th><td>1</td><td>0</td><td>2</td><td>0</td><td>0</td><td>1</td></tr><tr><th></th><td>18</td><td>13</td><td>16</td><td>26</td><td>24</td><td>26</td></tr></table>	資格等取得助成制度利用者 (単位:人)							総合	看護師	0	9	10	13	12	15	コメディカル	0	1	1	9	5	5	事務	0	0	2	0	0	0	計	0	10	13	22	17	20		2	1	1	0	1	1	こころ	看護師	2	1	1	0	1	1	コメディカル	5	0	0	0	0	0	事務	1	0	0	0	0	0	計	8	1	1	0	1	1		6	2	2	2	5	2	こども	看護師	6	2	2	2	5	2	コメディカル	4	0	0	2	1	2	事務	0	0	0	0	0	1	計	10	2	2	4	6	5		0	0	0	0	0	0	本部	事務	0	0	0	0	0	0	看護師	8	12	13	15	18	18	コメディカル	9	1	1	11	6	7	計	事務	1	0	2	0	0	1		18	13	16	26	24	26	A	平成24年度以降、資格等取得助成制度により資格取得を支援している。これまで、毎年度一定数の利用者がおり、令和6年度については認定一般検査技師等で26人が利用した。意欲ある職員の資質向上に資することが出来ている。																																																																			
資格等取得助成制度利用者 (単位:人)																																																																																																																																																																																																																																						
総合	看護師	0	9	10	13	12	15																																																																																																																																																																																																																															
	コメディカル	0	1	1	9	5	5																																																																																																																																																																																																																															
	事務	0	0	2	0	0	0																																																																																																																																																																																																																															
	計	0	10	13	22	17	20																																																																																																																																																																																																																															
		2	1	1	0	1	1																																																																																																																																																																																																																															
こころ	看護師	2	1	1	0	1	1																																																																																																																																																																																																																															
	コメディカル	5	0	0	0	0	0																																																																																																																																																																																																																															
	事務	1	0	0	0	0	0																																																																																																																																																																																																																															
	計	8	1	1	0	1	1																																																																																																																																																																																																																															
		6	2	2	2	5	2																																																																																																																																																																																																																															
こども	看護師	6	2	2	2	5	2																																																																																																																																																																																																																															
	コメディカル	4	0	0	2	1	2																																																																																																																																																																																																																															
	事務	0	0	0	0	0	1																																																																																																																																																																																																																															
	計	10	2	2	4	6	5																																																																																																																																																																																																																															
		0	0	0	0	0	0																																																																																																																																																																																																																															
本部	事務	0	0	0	0	0	0																																																																																																																																																																																																																															
	看護師	8	12	13	15	18	18																																																																																																																																																																																																																															
	コメディカル	9	1	1	11	6	7																																																																																																																																																																																																																															
計	事務	1	0	2	0	0	1																																																																																																																																																																																																																															
		18	13	16	26	24	26																																																																																																																																																																																																																															

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績（令6）	令和6年度実績 自己評価																																																							
						本評価	説明																																																						
(3) 県民への情報提供の充実 公開講座や医療相談の開催、ホームページの活用などを通じて県民へ情報発信し、県民の健康意識の高揚に努めること。	(3) 県民への情報提供の充実 定期的に公開講座、医療相談会等を開催し、ホームページ等で健康管理・増進などについての情報を提供するなど、様々な方法で県民への情報提供を進め県民の健康意識の高揚や健康に関する知識の充実に努める。	(3) 県民への情報提供の充実 ①定期的な公開講座、医療相談会等の開催 ②ホームページ等による健康管理・増進などについての情報提供 ③報道機関等への情報発信	—	—	—	A	総合病院では、外部向け講座としてがん医療公開講座を開催している。また、きこえとことばのセンターでは難聴児の早期発見、早期介入を目的に、地域の医療従事者や行政担当者による研修会等を実施している。 こころの医療センターでは、県民向けとして、初開催となるオープンスピタルにおいて医師の講演会を実施した。また、医療従事者向けとして、包括的暴力防止プログラム(CVPPP)研修会を実施した。 こども病院では、医療従事者向けとして、先進的な医療に関する情報提供を目的としたオープンセミナーや、予防接種Web講演会等を実施した。また、県民向けとして、食物アレルギーやアトピー性皮膚炎に関するアレルギー教室等を実施した。																																																						
	【目標値】 ・公開講座件数(総合、こころ、こども)	【目標値】 ・公開講座件数(総合、こころ、こども)	①【総/子】・県民向けイベントの開催や参加に努める。	(総合) <table><tr><th colspan="7">オープンホスピタル来場者数</th><th>(単位：人)</th></tr><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th><th></th></tr><tr><td>来場者数</td><td>1,200</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>1,400</td><td>1,400</td><td></td></tr></table> (こころ) 令和6年度に地域住民を対象とした初となるオープンホスピタルを開催し、103名の来場者が訪れた。 (こども) 令和6年度も「I Loveしずおか協議会」主催の「青葉シンボルロードイルミネーション企画」に参加し、「いのりの木」を設置した。入院患者や医療従事者へのメッセージを現地で投函できる仕組みであるが、こども病院ホームページからもメッセージが投稿可能となっている。	オープンホスピタル来場者数							(単位：人)	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度		来場者数	1,200	—	—	—	1,400	1,400		A	オープンホスピタルの開催などにより、県民の健康意識の高揚や健康に関する知識の充実につなげている。																															
	オープンホスピタル来場者数							(単位：人)																																																					
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																							
来場者数	1,200	—	—	—	1,400	1,400																																																							
		②県民及び他の医療機関従事者に、県立病院機構の有する医療情報を積極的に提供するため、機構ホームページを適時、的確に更新する。	各病院（企画） <table><tr><th colspan="7">セクション別アクセス件数</th><th>(単位：件)</th></tr><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度 ※</th><th>6年度</th><th></th></tr><tr><td>本部</td><td>232,673</td><td>246,234</td><td>234,744</td><td>214,098</td><td>131,077</td><td>192,699</td><td></td></tr><tr><td>総合</td><td>2,902,755</td><td>2,751,715</td><td>2,542,438</td><td>2,297,492</td><td>697,708</td><td>1,402,901</td><td></td></tr><tr><td>こころ</td><td>662,762</td><td>659,939</td><td>674,386</td><td>689,495</td><td>203,172</td><td>523,745</td><td></td></tr><tr><td>こども</td><td>1,772,069</td><td>1,800,380</td><td>1,810,951</td><td>1,545,737</td><td>433,318</td><td>929,291</td><td></td></tr><tr><td>合計</td><td>5,570,259</td><td>5,458,268</td><td>5,262,519</td><td>4,746,822</td><td>1,465,275</td><td>3,048,636</td><td></td></tr></table> ※サイト側で集計方法変更があったため、令和4年度以前と比較ができない（集計は、7月～3月分）	セクション別アクセス件数							(単位：件)	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度 ※	6年度		本部	232,673	246,234	234,744	214,098	131,077	192,699		総合	2,902,755	2,751,715	2,542,438	2,297,492	697,708	1,402,901		こころ	662,762	659,939	674,386	689,495	203,172	523,745		こども	1,772,069	1,800,380	1,810,951	1,545,737	433,318	929,291		合計	5,570,259	5,458,268	5,262,519	4,746,822	1,465,275	3,048,636		A	機構全体のトピックスやプレスリリース等をホームページに掲載し積極的に情報発信を行っている。 各病院において、診療内容やイベント開催等の基本的な情報を掲載し業務活動の広報に努めているほか、感染症に係る情報等の突発的な情報についても丁寧かつ迅速に伝えるため、ホームページを積極的に活用している。
セクション別アクセス件数							(単位：件)																																																						
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度 ※	6年度																																																							
本部	232,673	246,234	234,744	214,098	131,077	192,699																																																							
総合	2,902,755	2,751,715	2,542,438	2,297,492	697,708	1,402,901																																																							
こころ	662,762	659,939	674,386	689,495	203,172	523,745																																																							
こども	1,772,069	1,800,380	1,810,951	1,545,737	433,318	929,291																																																							
合計	5,570,259	5,458,268	5,262,519	4,746,822	1,465,275	3,048,636																																																							
		③県民に病院の運営にかかる情報を戦略的に広報するため、報道機関向けの情報発信の推進を図る。	各病院（企画） <table><tr><th colspan="7">記者情報提供件数</th><th>(単位：件)</th></tr><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th><th></th></tr><tr><td>提供件数</td><td>36</td><td>19</td><td>29</td><td>21</td><td>42</td><td>36</td><td></td></tr><tr><td>掲載件数</td><td>24</td><td>13</td><td>20</td><td>14</td><td>25</td><td>21</td><td></td></tr></table> ※提供件数1件に対し、掲載件数が複数あった場合も掲載件数1件とカウントする	記者情報提供件数							(単位：件)	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度		提供件数	36	19	29	21	42	36		掲載件数	24	13	20	14	25	21		A	新型コロナウイルス感染症が5類になったことにより、イベントに関する情報等がコロナ禍に比べ増加している。 引き続き、適切な時期に情報発信することを継続して取組を実施していく。																								
記者情報提供件数							(単位：件)																																																						
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																							
提供件数	36	19	29	21	42	36																																																							
掲載件数	24	13	20	14	25	21																																																							
5 災害等における医療救護 県民の安心・安全を守るため、医療救護活動の拠点機能を担い、災害医療チームを派遣するなど医療救護に取り組むこと。	5 災害等における医療救護 地震などによる大規模災害の発生が危惧される静岡県の県立病院として、災害等への日頃からの備えを進め、発生時には静岡県医療救護計画等に基づき、医療救護活動に従事する。	5 災害等における医療救護 県立病院として、県内外の災害等の発生に対し十分な備えをするとともに、医療救護活動の拠点としての役割を果たす。	—	—	—		—																																																						
			—	—	—		—																																																						

						令和6年度実績 自己評価																																																																																																																																									
中期目標		中期計画		年度計画		No	行動計画		業務の実績（令6）		本評価		説明																																																																																																																																		
(1) 医療救護活動の拠点機能		(1) 医療救護活動の拠点機能		(1) 医療救護活動の拠点機能		-	-		-		A		-																																																																																																																																		
災害等における本県の医療救護活動の拠点機能を担うこと。特に、県立総合病院は基幹災害拠点病院として、県立こころの医療センターは基幹災害拠点精神科病院として、県内の災害時医療の中心的役割を果たすことができるよう機能強化を図ること。あわせて、国の原子力災害対策指針に基づく新たな原子力災害医療体制の整備に努めること。また、県立こども病院は災害時における小児医療分野の中心的役割を果たすよう、日頃から備えること。		県立総合病院は基幹災害拠点病院及び原子力災害拠点病院として、県立こころの医療センターは基幹災害拠点精神科病院としての体制を整備し、日頃から実戦的な災害医療訓練を定期的に開催するなど、医療救護活動の拠点となる病院としての機能を維持向上し、災害等の発生時には重篤患者の受入れ、県内外のDMAT(災害派遣医療チーム)・DPAT(災害派遣精神医療チーム)との連携など求められる機能を発揮する。県立こども病院は小児医療分野で中心的役割を果たすことができるよう体制整備に取り組む。		①基幹災害拠点病院(小児分野を含む)等として、災害時の医療救護活動の拠点機能を担う ②災害時における精神医療分野の基幹災害拠点病院として、中心的な役割を担う		-	①災害医療訓練を実施する。 ①災害対応マニュアル等の整備、見直しを行い発災時に迅速な対応ができるようにする。 ①【心】・災害等に対する日頃の備えに努め、大規模災害等における本県の精神分野の災害時医療に対応する。 ①【子】・災害時における小児医療の拠点としての院内体制の整備に努める。 ②【心】・一時避難所機能等災害時における精神医療分野の拠点病院としての役割を担うための訓練を実施する。		-		年度別実績 <table><tr><td rowspan="5">元年度</td><td>令元.6.20</td><td>静岡県DMAT通信訓練の情報伝達訓練に参加</td><td rowspan="5">5年度</td><td>令5.6.18</td><td>第1回静岡DMAT看護師研修（西部）を開催（受講者17名）</td></tr><tr><td>令元.7.3</td><td>院内セミナー等により、県内医療等の関係者を対象に県内訓練及び避難訓練を実施（約300人参加）</td><td>令5.7.7・13</td><td>新規採用者及び転入者を対象に県内訓練及び避難訓練を実施（約300人参加）</td></tr><tr><td>令元.7.11</td><td>静岡県健康福祉部防災訓練の情報伝達訓練に参加</td><td>令5.9.30</td><td>大規模地震時医療活動訓練（政府訓練）に参加（県内県）（DMAT隊員2名）</td></tr><tr><td>令元.11.2～3</td><td>静岡県DMAT-L隊員養成研修を県立総合病院にて実施</td><td>令5.10.28～29</td><td>静岡県DMAT-L隊員養成研修を県立総合病院にて実施</td></tr><tr><td>令元.12.1</td><td>県立総合病院防災訓練</td><td>令5.12.17</td><td>第2回静岡DMAT看護師研修（東部）を開催（受講者16名）</td></tr><tr><td rowspan="3">2年度</td><td>令2.1.26</td><td>静岡DMATロジスティクス研修を県立総合病院にて実施</td><td rowspan="19">6年度</td><td>令6.3.2</td><td>第3回静岡DMAT看護師研修（中部）を開催（受講者25名）</td></tr><tr><td>令2.7.10</td><td>院内セミナー等により、県内医療等の関係者を対象に県内訓練及び避難訓練を実施（約300人参加）</td><td>令6.7.2・10</td><td>新規採用者及び転入者を対象に県内訓練及び避難訓練を実施（約300人参加）</td></tr><tr><td>令2.7.16</td><td>静岡県健康福祉部防災訓練の情報伝達訓練に参加</td><td>令6.7.13</td><td>第1回静岡DMAT看護師研修（東部）を開催（受講者27名）</td></tr><tr><td rowspan="5">3年度</td><td>令2.9.17</td><td>静岡県DMAT通信訓練の情報伝達訓練を企画・実施</td><td>令6.9.28</td><td>大規模地震時医療活動訓練（政府訓練）に参加（DMAT隊員6名）</td></tr><tr><td>令3.7.7</td><td>院内セミナー等により、県内医療等の関係者を対象に県内訓練及び避難訓練を実施（約300人参加）</td><td>令6.10.17</td><td>静岡県DMAT衛星通信訓練を企画・実施</td></tr><tr><td>令3.10.30</td><td>大規模地震時医療活動訓練（政府訓練）に参加（宮城県）（DMAT隊員1名）</td><td>令6.10.26</td><td>静岡県DMAT-L隊員養成研修を県立総合病院にて開催（受講者56名）</td></tr><tr><td>令3.11.27</td><td>静岡DMAT看護師研修を県立総合病院で実施</td><td>令6.11.10</td><td>第2回静岡DMAT看護師研修（中部）を開催（受講者16名）</td></tr><tr><td>令3.12.5</td><td>院内防災訓練実施（参加者46名）</td><td>令6.12.1</td><td>県立総合病院院内防災訓練（約130名参加）</td></tr><tr><td rowspan="11">4年度</td><td>令4.3.18</td><td>静岡DMAT衛星通信訓練を企画・実施</td><td>令7.1.16</td><td>静岡DMAT衛星通信訓練を企画・実施</td></tr><tr><td>令4.7.7・13</td><td>新規採用者及び転入者を対象に県内訓練及び避難訓練を実施（約300人参加）</td><td>令7.2.3</td><td>静岡県原子力災害医療訓練に参加（13名）</td></tr><tr><td>令4.7.13</td><td>静岡県健康福祉部防災訓練の情報伝達訓練に参加</td><td>令7.2.16</td><td>静岡DMATロジスティクス研修を県立総合病院にて開催（受講者19名）</td></tr><tr><td>令4.7.30</td><td>第1回静岡DMAT看護師研修をオンライン開催（受講者17名）</td><td>令7.3.11</td><td>夜間想定避難訓練（約60名参加）</td></tr><tr><td>令4.9.30・10.1</td><td>大規模地震時医療活動訓練（政府訓練）に参加（DMAT隊員：26名、他職員15名）</td><td>令7.3.2</td><td>第3回静岡DMAT看護師研修（西部）を開催（受講者12名）</td></tr><tr><td>令4.12.4</td><td>院内防災訓練実施（参加者61名）</td><td></td><td></td></tr><tr><td>令4.12.10・11</td><td>静岡DMAT-L隊員養成研修を県立総合病院にて開催（受講者45名）</td><td></td><td></td></tr><tr><td>令4.12.15</td><td>第3回静岡DMAT看護師研修を三島市民文化会館にて開催（受講者15名）</td><td></td><td></td></tr><tr><td>令5.2.4</td><td>静岡県原子力災害医療訓練に参加（10名）</td><td></td><td></td></tr><tr><td>令5.2.19</td><td>静岡DMATロジスティクス研修を県立総合病院にて開催（受講者21名）</td><td></td><td></td></tr><tr><td>令5.2.23</td><td>第3回静岡DMAT看護師研修を磐田市立総合病院にて開催（受講者17名）</td><td></td><td></td></tr></table>		元年度	令元.6.20	静岡県DMAT通信訓練の情報伝達訓練に参加	5年度	令5.6.18	第1回静岡DMAT看護師研修（西部）を開催（受講者17名）	令元.7.3	院内セミナー等により、県内医療等の関係者を対象に県内訓練及び避難訓練を実施（約300人参加）	令5.7.7・13	新規採用者及び転入者を対象に県内訓練及び避難訓練を実施（約300人参加）	令元.7.11	静岡県健康福祉部防災訓練の情報伝達訓練に参加	令5.9.30	大規模地震時医療活動訓練（政府訓練）に参加（県内県）（DMAT隊員2名）	令元.11.2～3	静岡県DMAT-L隊員養成研修を県立総合病院にて実施	令5.10.28～29	静岡県DMAT-L隊員養成研修を県立総合病院にて実施	令元.12.1	県立総合病院防災訓練	令5.12.17	第2回静岡DMAT看護師研修（東部）を開催（受講者16名）	2年度	令2.1.26	静岡DMATロジスティクス研修を県立総合病院にて実施	6年度	令6.3.2	第3回静岡DMAT看護師研修（中部）を開催（受講者25名）	令2.7.10	院内セミナー等により、県内医療等の関係者を対象に県内訓練及び避難訓練を実施（約300人参加）	令6.7.2・10	新規採用者及び転入者を対象に県内訓練及び避難訓練を実施（約300人参加）	令2.7.16	静岡県健康福祉部防災訓練の情報伝達訓練に参加	令6.7.13	第1回静岡DMAT看護師研修（東部）を開催（受講者27名）	3年度	令2.9.17	静岡県DMAT通信訓練の情報伝達訓練を企画・実施	令6.9.28	大規模地震時医療活動訓練（政府訓練）に参加（DMAT隊員6名）	令3.7.7	院内セミナー等により、県内医療等の関係者を対象に県内訓練及び避難訓練を実施（約300人参加）	令6.10.17	静岡県DMAT衛星通信訓練を企画・実施	令3.10.30	大規模地震時医療活動訓練（政府訓練）に参加（宮城県）（DMAT隊員1名）	令6.10.26	静岡県DMAT-L隊員養成研修を県立総合病院にて開催（受講者56名）	令3.11.27	静岡DMAT看護師研修を県立総合病院で実施	令6.11.10	第2回静岡DMAT看護師研修（中部）を開催（受講者16名）	令3.12.5	院内防災訓練実施（参加者46名）	令6.12.1	県立総合病院院内防災訓練（約130名参加）	4年度	令4.3.18	静岡DMAT衛星通信訓練を企画・実施	令7.1.16	静岡DMAT衛星通信訓練を企画・実施	令4.7.7・13	新規採用者及び転入者を対象に県内訓練及び避難訓練を実施（約300人参加）	令7.2.3	静岡県原子力災害医療訓練に参加（13名）	令4.7.13	静岡県健康福祉部防災訓練の情報伝達訓練に参加	令7.2.16	静岡DMATロジスティクス研修を県立総合病院にて開催（受講者19名）	令4.7.30	第1回静岡DMAT看護師研修をオンライン開催（受講者17名）	令7.3.11	夜間想定避難訓練（約60名参加）	令4.9.30・10.1	大規模地震時医療活動訓練（政府訓練）に参加（DMAT隊員：26名、他職員15名）	令7.3.2	第3回静岡DMAT看護師研修（西部）を開催（受講者12名）	令4.12.4	院内防災訓練実施（参加者61名）			令4.12.10・11	静岡DMAT-L隊員養成研修を県立総合病院にて開催（受講者45名）			令4.12.15	第3回静岡DMAT看護師研修を三島市民文化会館にて開催（受講者15名）			令5.2.4	静岡県原子力災害医療訓練に参加（10名）			令5.2.19	静岡DMATロジスティクス研修を県立総合病院にて開催（受講者21名）			令5.2.23	第3回静岡DMAT看護師研修を磐田市立総合病院にて開催（受講者17名）			主な活動実績 <table><tr><td>3年度</td><td>令3.4～</td><td>新型コロナウイルス感染症に伴う静岡DMAT隊員派遣（県対策本部・保健所等）（DMAT隊員2名）</td></tr><tr><td></td><td>令3.7～</td><td>熱海伊豆山土砂災害派遣へのDMAT派遣（県対策本部・熱海被災地）（DMAT隊員19名）</td></tr><tr><td>4年度</td><td>令4.4～</td><td>新型コロナウイルス感染症に伴うDMAT隊員派遣（宿泊療養施設・保健所）（DMAT隊員2名）</td></tr><tr><td>5年度</td><td>令6.1～</td><td>能登半島地震へのDMAT派遣（県対策本部・被災地）（DMAT隊員被災地12名、本部延べ38名）</td></tr><tr><td>6年度</td><td>令6.4～</td><td>日米DMAT大規模地震時医療活動連携訓練（DMAT隊員9名）</td></tr></table>		3年度	令3.4～	新型コロナウイルス感染症に伴う静岡DMAT隊員派遣（県対策本部・保健所等）（DMAT隊員2名）		令3.7～	熱海伊豆山土砂災害派遣へのDMAT派遣（県対策本部・熱海被災地）（DMAT隊員19名）	4年度	令4.4～	新型コロナウイルス感染症に伴うDMAT隊員派遣（宿泊療養施設・保健所）（DMAT隊員2名）	5年度	令6.1～	能登半島地震へのDMAT派遣（県対策本部・被災地）（DMAT隊員被災地12名、本部延べ38名）	6年度	令6.4～	日米DMAT大規模地震時医療活動連携訓練（DMAT隊員9名）	災害マニュアルの整備状況 <table><tr><th colspan="2">マニュアル名</th><th>令和6年度 見直し状況</th></tr><tr><td>●南海トラフ地震事業継続計画（BCP）</td><td></td><td>令和7年3月24日に実施した令和6年度防災管理委員会にて、修正内容について承認</td></tr></table>		マニュアル名		令和6年度 見直し状況	●南海トラフ地震事業継続計画（BCP）		令和7年3月24日に実施した令和6年度防災管理委員会にて、修正内容について承認	令和3年2月に県内初となる災害拠点精神科病院の指定を受けている。大規模災害等における本県の精神分野における中核的拠点として災害時医療に対応できるよう、各種訓練を実施したほか、災害発生時には要請に応じてDPAT隊を派遣できる体制を維持している。		総合防災訓練や内閣府による大規模地震時医療活動訓練等に参加し、発災時においてスムーズなDPAT活動が実施できるよう、県や市町等との連携を確認した。 能登半島地震の経験を活かえ、ロジスティック要因を充実させるため事務職員2名をDPAT隊員養成研修に参加させ、先遣隊だけでなく病院全体で災害医療に対応できる体制の強化を図った。 また、地震防災マニュアルやBCPの見直しを行った。 全国各地で大雨による被害が増加しているため、院内で防災訓練・洪水避難訓練を実施した。	
元年度	令元.6.20	静岡県DMAT通信訓練の情報伝達訓練に参加	5年度	令5.6.18	第1回静岡DMAT看護師研修（西部）を開催（受講者17名）																																																																																																																																										
	令元.7.3	院内セミナー等により、県内医療等の関係者を対象に県内訓練及び避難訓練を実施（約300人参加）		令5.7.7・13	新規採用者及び転入者を対象に県内訓練及び避難訓練を実施（約300人参加）																																																																																																																																										
	令元.7.11	静岡県健康福祉部防災訓練の情報伝達訓練に参加		令5.9.30	大規模地震時医療活動訓練（政府訓練）に参加（県内県）（DMAT隊員2名）																																																																																																																																										
	令元.11.2～3	静岡県DMAT-L隊員養成研修を県立総合病院にて実施		令5.10.28～29	静岡県DMAT-L隊員養成研修を県立総合病院にて実施																																																																																																																																										
	令元.12.1	県立総合病院防災訓練		令5.12.17	第2回静岡DMAT看護師研修（東部）を開催（受講者16名）																																																																																																																																										
2年度	令2.1.26	静岡DMATロジスティクス研修を県立総合病院にて実施	6年度	令6.3.2	第3回静岡DMAT看護師研修（中部）を開催（受講者25名）																																																																																																																																										
	令2.7.10	院内セミナー等により、県内医療等の関係者を対象に県内訓練及び避難訓練を実施（約300人参加）		令6.7.2・10	新規採用者及び転入者を対象に県内訓練及び避難訓練を実施（約300人参加）																																																																																																																																										
	令2.7.16	静岡県健康福祉部防災訓練の情報伝達訓練に参加		令6.7.13	第1回静岡DMAT看護師研修（東部）を開催（受講者27名）																																																																																																																																										
3年度	令2.9.17	静岡県DMAT通信訓練の情報伝達訓練を企画・実施		令6.9.28	大規模地震時医療活動訓練（政府訓練）に参加（DMAT隊員6名）																																																																																																																																										
	令3.7.7	院内セミナー等により、県内医療等の関係者を対象に県内訓練及び避難訓練を実施（約300人参加）		令6.10.17	静岡県DMAT衛星通信訓練を企画・実施																																																																																																																																										
	令3.10.30	大規模地震時医療活動訓練（政府訓練）に参加（宮城県）（DMAT隊員1名）		令6.10.26	静岡県DMAT-L隊員養成研修を県立総合病院にて開催（受講者56名）																																																																																																																																										
	令3.11.27	静岡DMAT看護師研修を県立総合病院で実施		令6.11.10	第2回静岡DMAT看護師研修（中部）を開催（受講者16名）																																																																																																																																										
	令3.12.5	院内防災訓練実施（参加者46名）		令6.12.1	県立総合病院院内防災訓練（約130名参加）																																																																																																																																										
4年度	令4.3.18	静岡DMAT衛星通信訓練を企画・実施		令7.1.16	静岡DMAT衛星通信訓練を企画・実施																																																																																																																																										
	令4.7.7・13	新規採用者及び転入者を対象に県内訓練及び避難訓練を実施（約300人参加）		令7.2.3	静岡県原子力災害医療訓練に参加（13名）																																																																																																																																										
	令4.7.13	静岡県健康福祉部防災訓練の情報伝達訓練に参加		令7.2.16	静岡DMATロジスティクス研修を県立総合病院にて開催（受講者19名）																																																																																																																																										
	令4.7.30	第1回静岡DMAT看護師研修をオンライン開催（受講者17名）		令7.3.11	夜間想定避難訓練（約60名参加）																																																																																																																																										
	令4.9.30・10.1	大規模地震時医療活動訓練（政府訓練）に参加（DMAT隊員：26名、他職員15名）		令7.3.2	第3回静岡DMAT看護師研修（西部）を開催（受講者12名）																																																																																																																																										
	令4.12.4	院内防災訓練実施（参加者61名）																																																																																																																																													
	令4.12.10・11	静岡DMAT-L隊員養成研修を県立総合病院にて開催（受講者45名）																																																																																																																																													
	令4.12.15	第3回静岡DMAT看護師研修を三島市民文化会館にて開催（受講者15名）																																																																																																																																													
	令5.2.4	静岡県原子力災害医療訓練に参加（10名）																																																																																																																																													
	令5.2.19	静岡DMATロジスティクス研修を県立総合病院にて開催（受講者21名）																																																																																																																																													
	令5.2.23	第3回静岡DMAT看護師研修を磐田市立総合病院にて開催（受講者17名）																																																																																																																																													
3年度	令3.4～	新型コロナウイルス感染症に伴う静岡DMAT隊員派遣（県対策本部・保健所等）（DMAT隊員2名）																																																																																																																																													
	令3.7～	熱海伊豆山土砂災害派遣へのDMAT派遣（県対策本部・熱海被災地）（DMAT隊員19名）																																																																																																																																													
4年度	令4.4～	新型コロナウイルス感染症に伴うDMAT隊員派遣（宿泊療養施設・保健所）（DMAT隊員2名）																																																																																																																																													
5年度	令6.1～	能登半島地震へのDMAT派遣（県対策本部・被災地）（DMAT隊員被災地12名、本部延べ38名）																																																																																																																																													
6年度	令6.4～	日米DMAT大規模地震時医療活動連携訓練（DMAT隊員9名）																																																																																																																																													
マニュアル名		令和6年度 見直し状況																																																																																																																																													
●南海トラフ地震事業継続計画（BCP）		令和7年3月24日に実施した令和6年度防災管理委員会にて、修正内容について承認																																																																																																																																													
		99～101		A		A		A		A																																																																																																																																					

中期目標		中期計画		年度計画		No		行動計画		業務の実績（令6）		令和6年度実績 自己評価																																																																																																																																								
												本評価	説明																																																																																																																																							
(2)	他県等の医療救護への協力 他県等の大規模災害等においても、災害医療チームを派遣するなど、積極的に医療救護に協力すること。	(2)	他県等の医療救護への協力 災害時医療救護派遣マニュアルに基づき、速やかに医療チームを派遣できるよう定期的な要員訓練や、マニュアルの点検を行う。	(2)	他県等の医療救護への協力 ①災害発生初期におけるDMAT(災害派遣医療チーム)・DPAT(災害派遣精神医療チーム)の派遣及び県からの要請に基づく支援等の実施 ②日本小児総合医療施設協議会の広域災害時相互支援協定に基づく災害時情報共有サイトの活用	-	102	-	-	-	年度別実績 <table><tr><td rowspan="3">元年度</td><td>令和. 8. 23</td><td>静岡県総合防災訓練（本部運営訓練）にDMAT隊員5人が参加した。</td><td rowspan="3">5年度</td><td>令和5. 7. 20</td><td>静岡県DMAT衛星通信訓練（中部地区）を実施（3病院参加）</td></tr><tr><td>令和. 9. 1</td><td>静岡県総合防災訓練（実働訓練）にDMAT隊員14人が参加した。</td><td>令和5. 8. 29</td><td>静岡県総合防災訓練（本部運営訓練）に参加（DMAT隊員6名）</td></tr><tr><td>令和. 8. 25</td><td>大規模地震時災害対応訓練（政府訓練）にDMAT隊員6人が参加した。</td><td>令和5. 9. 3</td><td>静岡県総合防災訓練（実働訓練）に参加（DMAT隊員6名）</td></tr><tr><td rowspan="3">2年度</td><td>令和. 12. 18</td><td>国民保護共同演習訓練（実働）にDMAT隊員10人が参加した。</td><td rowspan="3">6年度</td><td>令和5. 9. 26</td><td>富士山静岡空港航空機事故対応訓練（DMAT隊員4名）</td></tr><tr><td>令和. 1. 17</td><td>熊鷹対策オペレーション2020（大規模地上訓練）にDMAT隊員5人が参加した。</td><td>令和5. 10. 30</td><td>大規模地震時災害対応訓練（政府訓練）に参加（香川県）（DMAT隊員3名）</td></tr><tr><td>令和. 9. 17</td><td>静岡県DMAT通信訓練情報伝達訓練の企画・実施（3月までに合計3回）</td><td>令和5. 10. 14・15</td><td>中部ブロックDMAT実働訓練（山梨県）に参加（DMAT隊員6名）</td></tr><tr><td rowspan="3">3年度</td><td>令和. 10. 7</td><td>富士山静岡空港航空機事故対応訓練（DMAT隊員5名）</td><td rowspan="3">6年度</td><td>令和5. 10. 19</td><td>静岡県DMAT衛星通信訓練（中部地区）を実施（4病院参加）</td></tr><tr><td>令和. 4～3</td><td>静岡県DMAT衛星通信訓練（中部地区）を実施（4病院参加）</td><td>令和5. 1. 18</td><td>静岡県DMAT衛星通信訓練（中部地区）を実施（4病院参加）</td></tr><tr><td>令和3. 10. 30</td><td>大規模地震時災害対応訓練（政府訓練）に参加（宮城県）（DMAT隊員1名）</td><td>令和6. 7. 18</td><td>静岡県DMAT衛星通信訓練（中部地区）を実施（4病院参加）</td></tr><tr><td rowspan="3">4年度</td><td>令和4. 3. 18</td><td>静岡県DMAT衛星通信訓練を企画・実施</td><td rowspan="3">6年度</td><td>令和6. 8. 22</td><td>静岡県DMAT衛星通信訓練（中部地区）に参加（DMAT隊員4名）</td></tr><tr><td>令和4. 7. 21</td><td>静岡県DMAT衛星通信訓練（中部地区）を実施（5病院参加）</td><td>令和6. 9. 28</td><td>大規模地震時災害対応訓練（政府訓練）に参加（DMAT隊員4名）</td></tr><tr><td>令和4. 8. 30</td><td>静岡県総合防災訓練（本部運営訓練）に参加（DMAT隊員4名）</td><td>令和6. 10. 30</td><td>富士山静岡空港航空機事故対応訓練を実施（DMAT隊員4名）</td></tr><tr><td rowspan="3">4年度</td><td>令和4. 9. 4</td><td>静岡県総合防災訓練（実働訓練）に参加（DMAT隊員7名）</td><td rowspan="3">6年度</td><td>令和6. 11. 13・14</td><td>熊鷹対策オペレーション2024（大規模地上訓練）（参加）に参加（DMAT隊員4名）</td></tr><tr><td>令和4. 10. 20</td><td>静岡県DMAT衛星通信訓練（中部地区）を実施（4病院参加）</td><td>令和7. 1. 17</td><td>熊鷹対策オペレーション2024（大規模地上訓練）（DMAT隊員8名）</td></tr><tr><td>令和4. 11. 13</td><td>緊急消防援助隊全国合同訓練（実働）に参加（DMAT隊員7名）</td><td>令和7. 2. 1</td><td>中部ブロックDMAT実働訓練（DMAT隊員6名）</td></tr><tr><td rowspan="3">4年度</td><td>令和4. 11. 26・27</td><td>中部ブロックDMAT実働訓練（石川県）に参加（DMAT隊員7名）</td><td rowspan="3">6年度</td><td>令和7. 2. 26・27</td><td>DMAT大規模地震時国際医療活動連携訓練（DMAT隊員9名）</td></tr><tr><td>令和5. 1. 17</td><td>熊鷹対策オペレーション2024（大規模地上訓練）に参加（DMAT隊員4名）</td><td></td><td></td></tr><tr><td>令和5. 1. 19</td><td>静岡県DMAT衛星通信訓練（中部地区）を実施（5病院参加）</td><td></td><td></td></tr></table> <table><tr><td colspan="7">DMAT訓練回数（単位：回）</td></tr><tr><td>区分</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>6年度</td></tr><tr><td>訓練</td><td>8</td><td>1</td><td>4</td><td>9</td><td>8</td><td>10</td></tr></table> <table><tr><td colspan="7">DPAT派遣実績</td></tr><tr><td rowspan="2">元年度</td><td>令和元. 9. 10～12</td><td>お風呂等で搬送した予備隊に派遣。泣いて苦悶する、呼吸器が故障。</td><td rowspan="2">4年度</td><td rowspan="2">活動実績なし</td></tr><tr><td>令和元. 10. 13</td><td>お風呂1号への対応に係る観覧看護訓練対策本部実施。</td></tr><tr><td rowspan="2">2年度</td><td>令和2. 2. 3～5</td><td>熊鷹対策チームの対応に係る観覧看護訓練対策本部実施。</td><td rowspan="2">5年度</td><td rowspan="2">令和6. 1. 4～8 能登半島地震に伴う派遣（静岡県医療圏内活動拠点本部）</td></tr><tr><td>令和2. 2. 10～15</td><td>熊鷹対策チームの対応に係る観覧看護訓練対策本部実施。</td></tr><tr><td rowspan="3">3年度</td><td>令和2. 12. 9</td><td>熊鷹対策チームの対応に係る観覧看護訓練対策本部実施。</td><td rowspan="3">6年度</td><td rowspan="3">派遣実績なし</td></tr><tr><td>令和3. 7. 3</td><td>熊鷹対策チームの対応に係る観覧看護訓練対策本部実施。</td></tr><tr><td>令和4. 1. 27</td><td>熊鷹対策チームの対応に係る観覧看護訓練対策本部実施。</td></tr></table> ・小児医療総合施設協議会における情報共有サイトの活用状況 情報共有サイトは令和5年度末に開設、令和6年度から各施設の情報入力が始まりました。	元年度	令和. 8. 23	静岡県総合防災訓練（本部運営訓練）にDMAT隊員5人が参加した。	5年度	令和5. 7. 20	静岡県DMAT衛星通信訓練（中部地区）を実施（3病院参加）	令和. 9. 1	静岡県総合防災訓練（実働訓練）にDMAT隊員14人が参加した。	令和5. 8. 29	静岡県総合防災訓練（本部運営訓練）に参加（DMAT隊員6名）	令和. 8. 25	大規模地震時災害対応訓練（政府訓練）にDMAT隊員6人が参加した。	令和5. 9. 3	静岡県総合防災訓練（実働訓練）に参加（DMAT隊員6名）	2年度	令和. 12. 18	国民保護共同演習訓練（実働）にDMAT隊員10人が参加した。	6年度	令和5. 9. 26	富士山静岡空港航空機事故対応訓練（DMAT隊員4名）	令和. 1. 17	熊鷹対策オペレーション2020（大規模地上訓練）にDMAT隊員5人が参加した。	令和5. 10. 30	大規模地震時災害対応訓練（政府訓練）に参加（香川県）（DMAT隊員3名）	令和. 9. 17	静岡県DMAT通信訓練情報伝達訓練の企画・実施（3月までに合計3回）	令和5. 10. 14・15	中部ブロックDMAT実働訓練（山梨県）に参加（DMAT隊員6名）	3年度	令和. 10. 7	富士山静岡空港航空機事故対応訓練（DMAT隊員5名）	6年度	令和5. 10. 19	静岡県DMAT衛星通信訓練（中部地区）を実施（4病院参加）	令和. 4～3	静岡県DMAT衛星通信訓練（中部地区）を実施（4病院参加）	令和5. 1. 18	静岡県DMAT衛星通信訓練（中部地区）を実施（4病院参加）	令和3. 10. 30	大規模地震時災害対応訓練（政府訓練）に参加（宮城県）（DMAT隊員1名）	令和6. 7. 18	静岡県DMAT衛星通信訓練（中部地区）を実施（4病院参加）	4年度	令和4. 3. 18	静岡県DMAT衛星通信訓練を企画・実施	6年度	令和6. 8. 22	静岡県DMAT衛星通信訓練（中部地区）に参加（DMAT隊員4名）	令和4. 7. 21	静岡県DMAT衛星通信訓練（中部地区）を実施（5病院参加）	令和6. 9. 28	大規模地震時災害対応訓練（政府訓練）に参加（DMAT隊員4名）	令和4. 8. 30	静岡県総合防災訓練（本部運営訓練）に参加（DMAT隊員4名）	令和6. 10. 30	富士山静岡空港航空機事故対応訓練を実施（DMAT隊員4名）	4年度	令和4. 9. 4	静岡県総合防災訓練（実働訓練）に参加（DMAT隊員7名）	6年度	令和6. 11. 13・14	熊鷹対策オペレーション2024（大規模地上訓練）（参加）に参加（DMAT隊員4名）	令和4. 10. 20	静岡県DMAT衛星通信訓練（中部地区）を実施（4病院参加）	令和7. 1. 17	熊鷹対策オペレーション2024（大規模地上訓練）（DMAT隊員8名）	令和4. 11. 13	緊急消防援助隊全国合同訓練（実働）に参加（DMAT隊員7名）	令和7. 2. 1	中部ブロックDMAT実働訓練（DMAT隊員6名）	4年度	令和4. 11. 26・27	中部ブロックDMAT実働訓練（石川県）に参加（DMAT隊員7名）	6年度	令和7. 2. 26・27	DMAT大規模地震時国際医療活動連携訓練（DMAT隊員9名）	令和5. 1. 17	熊鷹対策オペレーション2024（大規模地上訓練）に参加（DMAT隊員4名）			令和5. 1. 19	静岡県DMAT衛星通信訓練（中部地区）を実施（5病院参加）			DMAT訓練回数（単位：回）							区分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	訓練	8	1	4	9	8	10	DPAT派遣実績							元年度	令和元. 9. 10～12	お風呂等で搬送した予備隊に派遣。泣いて苦悶する、呼吸器が故障。	4年度	活動実績なし	令和元. 10. 13	お風呂1号への対応に係る観覧看護訓練対策本部実施。	2年度	令和2. 2. 3～5	熊鷹対策チームの対応に係る観覧看護訓練対策本部実施。	5年度	令和6. 1. 4～8 能登半島地震に伴う派遣（静岡県医療圏内活動拠点本部）	令和2. 2. 10～15	熊鷹対策チームの対応に係る観覧看護訓練対策本部実施。	3年度	令和2. 12. 9	熊鷹対策チームの対応に係る観覧看護訓練対策本部実施。	6年度	派遣実績なし	令和3. 7. 3	熊鷹対策チームの対応に係る観覧看護訓練対策本部実施。	令和4. 1. 27	熊鷹対策チームの対応に係る観覧看護訓練対策本部実施。	A	(総合) 令和6年度は、総合防災訓練や各ブロック訓練に通常開催され、DMAT隊員が参加している。富士山静岡空港の訓練や緊急消防援助隊の合同訓練にも参加した。 また、県総合防災訓練では、能登半島地震の課題を踏まえて、静岡医療圏活動拠点本部を静岡県立総合病院に設置して訓練を行った。 首都圏で実施された大規模地震時医療活動訓練（政府訓練）では、6名のDMAT隊員が参加した。 厚生労働省と米国保健省との申し合せに基づく「日米DMAT大規模地震時医療活動連携訓練」が全国で初めて静岡県で実施され、令和7年2月26日、27日の2日間、富士山静岡空港において米国DMATとの連携訓練に参加した。 (こころ) 令和6年度の派遣実績は無いが、政府訓練や県総合防災訓練にDPAT隊員が参加した。 (こども) 小児医療総合施設協議会における情報共有サイトは令和5年度末に開設され、現在、全国の39小児医療施設が参加している。令和6年度から登録が始まり、現在各施設が詳細情報を入力中である。今後、各会員施設が災害発生時に、速やかに当サイトにより情報共有のための災害情報を入力し、会員施設間で患児のバックトランスファーを実施する等、可能な範囲で相互に支援し合う予定である。
元年度	令和. 8. 23	静岡県総合防災訓練（本部運営訓練）にDMAT隊員5人が参加した。	5年度	令和5. 7. 20	静岡県DMAT衛星通信訓練（中部地区）を実施（3病院参加）																																																																																																																																															
	令和. 9. 1	静岡県総合防災訓練（実働訓練）にDMAT隊員14人が参加した。		令和5. 8. 29	静岡県総合防災訓練（本部運営訓練）に参加（DMAT隊員6名）																																																																																																																																															
	令和. 8. 25	大規模地震時災害対応訓練（政府訓練）にDMAT隊員6人が参加した。		令和5. 9. 3	静岡県総合防災訓練（実働訓練）に参加（DMAT隊員6名）																																																																																																																																															
2年度	令和. 12. 18	国民保護共同演習訓練（実働）にDMAT隊員10人が参加した。	6年度	令和5. 9. 26	富士山静岡空港航空機事故対応訓練（DMAT隊員4名）																																																																																																																																															
	令和. 1. 17	熊鷹対策オペレーション2020（大規模地上訓練）にDMAT隊員5人が参加した。		令和5. 10. 30	大規模地震時災害対応訓練（政府訓練）に参加（香川県）（DMAT隊員3名）																																																																																																																																															
	令和. 9. 17	静岡県DMAT通信訓練情報伝達訓練の企画・実施（3月までに合計3回）		令和5. 10. 14・15	中部ブロックDMAT実働訓練（山梨県）に参加（DMAT隊員6名）																																																																																																																																															
3年度	令和. 10. 7	富士山静岡空港航空機事故対応訓練（DMAT隊員5名）	6年度	令和5. 10. 19	静岡県DMAT衛星通信訓練（中部地区）を実施（4病院参加）																																																																																																																																															
	令和. 4～3	静岡県DMAT衛星通信訓練（中部地区）を実施（4病院参加）		令和5. 1. 18	静岡県DMAT衛星通信訓練（中部地区）を実施（4病院参加）																																																																																																																																															
	令和3. 10. 30	大規模地震時災害対応訓練（政府訓練）に参加（宮城県）（DMAT隊員1名）		令和6. 7. 18	静岡県DMAT衛星通信訓練（中部地区）を実施（4病院参加）																																																																																																																																															
4年度	令和4. 3. 18	静岡県DMAT衛星通信訓練を企画・実施	6年度	令和6. 8. 22	静岡県DMAT衛星通信訓練（中部地区）に参加（DMAT隊員4名）																																																																																																																																															
	令和4. 7. 21	静岡県DMAT衛星通信訓練（中部地区）を実施（5病院参加）		令和6. 9. 28	大規模地震時災害対応訓練（政府訓練）に参加（DMAT隊員4名）																																																																																																																																															
	令和4. 8. 30	静岡県総合防災訓練（本部運営訓練）に参加（DMAT隊員4名）		令和6. 10. 30	富士山静岡空港航空機事故対応訓練を実施（DMAT隊員4名）																																																																																																																																															
4年度	令和4. 9. 4	静岡県総合防災訓練（実働訓練）に参加（DMAT隊員7名）	6年度	令和6. 11. 13・14	熊鷹対策オペレーション2024（大規模地上訓練）（参加）に参加（DMAT隊員4名）																																																																																																																																															
	令和4. 10. 20	静岡県DMAT衛星通信訓練（中部地区）を実施（4病院参加）		令和7. 1. 17	熊鷹対策オペレーション2024（大規模地上訓練）（DMAT隊員8名）																																																																																																																																															
	令和4. 11. 13	緊急消防援助隊全国合同訓練（実働）に参加（DMAT隊員7名）		令和7. 2. 1	中部ブロックDMAT実働訓練（DMAT隊員6名）																																																																																																																																															
4年度	令和4. 11. 26・27	中部ブロックDMAT実働訓練（石川県）に参加（DMAT隊員7名）	6年度	令和7. 2. 26・27	DMAT大規模地震時国際医療活動連携訓練（DMAT隊員9名）																																																																																																																																															
	令和5. 1. 17	熊鷹対策オペレーション2024（大規模地上訓練）に参加（DMAT隊員4名）																																																																																																																																																		
	令和5. 1. 19	静岡県DMAT衛星通信訓練（中部地区）を実施（5病院参加）																																																																																																																																																		
DMAT訓練回数（単位：回）																																																																																																																																																				
区分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																																																																														
訓練	8	1	4	9	8	10																																																																																																																																														
DPAT派遣実績																																																																																																																																																				
元年度	令和元. 9. 10～12	お風呂等で搬送した予備隊に派遣。泣いて苦悶する、呼吸器が故障。	4年度	活動実績なし																																																																																																																																																
	令和元. 10. 13	お風呂1号への対応に係る観覧看護訓練対策本部実施。																																																																																																																																																		
2年度	令和2. 2. 3～5	熊鷹対策チームの対応に係る観覧看護訓練対策本部実施。	5年度	令和6. 1. 4～8 能登半島地震に伴う派遣（静岡県医療圏内活動拠点本部）																																																																																																																																																
	令和2. 2. 10～15	熊鷹対策チームの対応に係る観覧看護訓練対策本部実施。																																																																																																																																																		
3年度	令和2. 12. 9	熊鷹対策チームの対応に係る観覧看護訓練対策本部実施。	6年度	派遣実績なし																																																																																																																																																
	令和3. 7. 3	熊鷹対策チームの対応に係る観覧看護訓練対策本部実施。																																																																																																																																																		
	令和4. 1. 27	熊鷹対策チームの対応に係る観覧看護訓練対策本部実施。																																																																																																																																																		
第3 業務運営の改善及び効率化に関する事項	第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置	第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-																																																																																																																																							
医療の質の向上を目指して、地方独立行政法人制度の特徴を最大限に活かし、一層効果的・効率的な業務運営に努め、生産性の向上を図ること。	業務運営に関しては、医療の質の向上のため、適切な職員配置や組織づくりに努めるほか、業務改善への職員の意欲を高め、効果的で効率的な業務運営の実現を図る。	業務運営に関しては、医療の質の向上のため、適切な職員配置や組織づくりに努めるとともに、業務改善への職員の意欲を高め、効率的な業務運営の実現を図る。	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-																																																																																																																																							
1 効率的な業務運営体制の強化	1 効率的な業務運営体制の強化	1 効率的な業務運営体制の強化	-	-	-	-	-	-	-	-	-	A	-																																																																																																																																							
医療を取り巻く環境の変化とそのスピードに迅速かつ的確に対応するため、医療資源の有効活用や業務の見直し、職員参加型の業務改善等を推進し、業務運営体制の強化を図ること。特に、非稼働病床については、将来の医療需要等を見据え、その活用方法について検討すること。	物価高騰をはじめとする経済状況や医療環境の変化、また、県民の医療需要に的確に対応し最適な医療を提供するため、弾力的な人的資源の配置や医療資源の活用など効果的、効率的な病院運営に努める。 経営状況の把握や経営情報の共有及び的確な予算措置を行うなど、職員の経営意識の醸成を図る。 県立病院の病床については、非稼働病床を含め、将来の社会経済情勢や地域医療の状況を見据えた最適な方法での配置や活用を図る。 業務の改善改革への取組を奨励し、その活動を積極的に評価し、職員の意見が反映されやすい風通しの良い組織運営を進めるなど、職員の意欲が高い活気に溢れた病院づくりに取り組む。	①物価高騰をはじめとする経済状況や医療環境の変化などに対応するため、意思決定の迅速化・情報の共有化等を行い、機動的に法人を運営 ②医療ニーズや業務量の適切な把握と組織体制への反映 ③病院の運営方針・状況に応じた効率的な施設運用を行うための施設設置・修繕計画の策定・実施 ④小児医療を取り巻く環境の変化等を踏まえ、県立こども病院の今後の在り方について検討 ⑤公平・公正な人事評価制度の実施 ⑥柔軟な採用試験の実施等、業務の質と量に応じた効率的な人材の適時採用 ⑦看護師確保のため、看護師修学資金の活用推進や広報活動など多様かつ多角的な確保対策の実施 ⑧経営情報を把握及び適時適切な措置を講じられる体制整備 ⑨経営情報を職員が共有するなど、職員全員の経営意識の向上 ⑩業務の改善の取組等を通じた職員の意識向上及び病院運営の活性化	103	①②組織の効率化、各種権限の病院長への委任により事務のスピード化を図る。 ①②理事会、運営会議、総務・経営担当課長会議を毎月開催（8月を除く）し、法人の運営情報の共有化を図るとともに、予算の補正等の緊急な課題に対する即時的な対応を行う。 ③劣化改修工事により、病院機能の強化を図るとともに、基幹災害拠点病院としてふさわしい耐震性能を確保する。 ④【子】県を含め、周産期医療をはじめとする今後のこども病院のあり方を検討するほか、病棟再編検討会（WG）を実施し、具体的な計画を立てる。	理事会、運営会議、総務・経営担当課長会議を8月を除く原則毎月開催し、意思決定の迅速化に努めた。 人事評価制度については、全職員（有期雇用職員、再雇用職員、休職中の職員等を除く）を対象に令和2年度から給与（勤勉手当）への活用を開始しており、令和3年度の評価から昇給へ活用が開始されている。 （総合）劣化改修工事、大規模修繕工事の実施計画及び進捗状況 年度別実績 <table><tr><td rowspan="2">元年度</td><td>年度末における第1期リニューアル工事進捗率 91.8%</td><td rowspan="2">4年度</td><td>令和5年2月</td><td>精神科病棟改修工事完了</td></tr><tr><td>令和2年2月 第2期リニューアル工事の入札実施、業者決定</td><td>令和5年3月</td><td>本館非常用発電機更新工事着工</td></tr><tr><td rowspan="2">2年度</td><td>令和3年7月 第1期リニューアル工事完了、8月より第2期リニューアル工事着工</td><td rowspan="2">5年度</td><td>令和6年3月</td><td>劣化改修工事設計完了</td></tr><tr><td>年度末における第2期リニューアル工事進捗率 38.7%</td><td>令和6年3月</td><td>5号劣化改修工事（緊急分）完了</td></tr><tr><td rowspan="3">3年度</td><td>令和3年11月 内視鏡室改修完了</td><td rowspan="3">6年度</td><td>令和6年6月</td><td>結核モデル病棟等改修工事設計業務委託着工</td></tr><tr><td>令和4年2月 産科地下駐車工事完了</td><td>令和6年8月</td><td>R6劣化改修工事（建築、機械設備）着工</td></tr><tr><td>令和4年2月 第2期リニューアル工事完了</td><td>令和7年3月</td><td>本館非常用発電機更新工事完了</td></tr></table> 病棟再編検討会（WG）開催数（こども病院）（単位：回） <table><tr><td>区 分</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>6年度</td></tr><tr><td>開催件数</td><td>—</td><td>—</td><td>11</td><td>5</td><td>4</td><td>1</td></tr></table> ※令和4年度、病棟運営WGに改称 ・今後のこども病院体制のあり方についての検討状況 県周産期・小児医療協議会内に「小児医療のあり方に関する専門委員会」を設け、本県の小児医療の現状分析、課題整理に必要な調査を実施した上で報告をまとめることになっている。 現在は同委員会の委員について県において調整中であり、委員が決まり次第、第1回の専門委員会を開催する予定である。	元年度	年度末における第1期リニューアル工事進捗率 91.8%	4年度	令和5年2月	精神科病棟改修工事完了	令和2年2月 第2期リニューアル工事の入札実施、業者決定	令和5年3月	本館非常用発電機更新工事着工	2年度	令和3年7月 第1期リニューアル工事完了、8月より第2期リニューアル工事着工	5年度	令和6年3月	劣化改修工事設計完了	年度末における第2期リニューアル工事進捗率 38.7%	令和6年3月	5号劣化改修工事（緊急分）完了	3年度	令和3年11月 内視鏡室改修完了	6年度	令和6年6月	結核モデル病棟等改修工事設計業務委託着工	令和4年2月 産科地下駐車工事完了	令和6年8月	R6劣化改修工事（建築、機械設備）着工	令和4年2月 第2期リニューアル工事完了	令和7年3月	本館非常用発電機更新工事完了	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	開催件数	—	—	11	5	4	1	令和5年度については、理事会、運営会議、総務・経営担当課長会議を原則毎月開催し、機構内での情報の共有化、緊急案件についての対応が問題なく行われた。 医師確保を図るため、令和3年4月に職務に応じた適切な給与制度を構築（級別標準職務表の見直し）した。これにより、医師の確保だけでなく、「職務の級」が役職による職責に応じて適用されることで、能力や意欲の高い職員が上位の職位に登用されることとなり、職員の能力や意欲の向上につながっている。また、平成30年4月から試行を開始した人事評価制度については、全職員（有期雇用職員、再雇用職員、休職中の職員等を除く）を対象に令和2年度から給与（勤勉手当）に活用、令和3年度の評価から昇給に活用を開始した。（令和4年度前期、後期の評価を令和6年1月1日昇給に活用） 総合病院では、令和5年度から劣化度が高いものから順に劣化改修工事を実施している。令和6年度は、外壁防水改修、医療ガス施設更新、空調改修、排水メイン配管改修及び病棟ナースコール設置工事に着手しており、令和7年度に完成予定。 また、円滑な病院運営を目指し、医師の確保や定着に貢献する目的で設置されている安東医師公舎について、屋根及び外壁の改修工事を令和7年3月に着工しており、6月末に完成予定。																																																																																																					
元年度	年度末における第1期リニューアル工事進捗率 91.8%	4年度	令和5年2月	精神科病棟改修工事完了																																																																																																																																																
	令和2年2月 第2期リニューアル工事の入札実施、業者決定		令和5年3月	本館非常用発電機更新工事着工																																																																																																																																																
2年度	令和3年7月 第1期リニューアル工事完了、8月より第2期リニューアル工事着工	5年度	令和6年3月	劣化改修工事設計完了																																																																																																																																																
	年度末における第2期リニューアル工事進捗率 38.7%		令和6年3月	5号劣化改修工事（緊急分）完了																																																																																																																																																
3年度	令和3年11月 内視鏡室改修完了	6年度	令和6年6月	結核モデル病棟等改修工事設計業務委託着工																																																																																																																																																
	令和4年2月 産科地下駐車工事完了		令和6年8月	R6劣化改修工事（建築、機械設備）着工																																																																																																																																																
	令和4年2月 第2期リニューアル工事完了		令和7年3月	本館非常用発電機更新工事完了																																																																																																																																																
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																																																																														
開催件数	—	—	11	5	4	1																																																																																																																																														

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(令6)	令和6年度実績 自己評価																																																																																																																																																																																											
						本評価	説明																																																																																																																																																																																										
			104	⑤全職員を対象とした人事評価制度を円滑に実施する。 ⑥優秀な職員を確保する仕組みを設け、効果的な採用を実施する。 ・職員の採用に対し、広報等様々な取組みを行うことで、必要な職員数の確保に努める。 ⑥柔軟な採用試験の実施により、必要な人材の確保に努める。 ⑦パンフレット作成、ホームページへの情報掲載、就職セミナー等での周知を行う。 ・看護師修学資金制度の活用推進により、更なる看護師確保を目指す。 本部・各病院（総務・企画・経営）	アソシエイト採用実績（単位：人） <table><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2 年度</th><th>3 年度</th><th>4 年度</th><th>5 年度</th><th>6 年度</th></tr><tr><td>看護師</td><td>3</td><td>－</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>3</td></tr><tr><td>事務</td><td>10</td><td>3</td><td>8</td><td>1</td><td>2</td><td>－</td></tr><tr><td>コメディカル</td><td>3</td><td>1</td><td>5</td><td>1</td><td>1</td><td>－</td></tr><tr><td>計</td><td>16</td><td>4</td><td>14</td><td>3</td><td>4</td><td>3</td></tr></table> 正規職員数の状況(各年度4月1日現在)（単位：人） <table><tr><th>区 分</th><th>2 年度</th><th>3 年度</th><th>4 年度</th><th>5 年度</th><th>6 年度</th><th>7 年度</th></tr><tr><td>本部</td><td>34</td><td>36</td><td>38</td><td>36</td><td>34</td><td>34</td></tr><tr><td>総合</td><td>1,317</td><td>1,331</td><td>1,359</td><td>1,380</td><td>1,400</td><td>1,431</td></tr><tr><td>こころ</td><td>175</td><td>174</td><td>176</td><td>182</td><td>187</td><td>184</td></tr><tr><td>こども</td><td>648</td><td>660</td><td>650</td><td>652</td><td>657</td><td>632</td></tr><tr><td>合計</td><td>2,174</td><td>2,201</td><td>2,223</td><td>2,250</td><td>2,278</td><td>2,281</td></tr></table> 看護師修学資金の状況（単位：人） <table><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2 年度</th><th>3 年度</th><th>4 年度</th><th>5 年度</th><th>6 年度</th></tr><tr><td>広域</td><td>50</td><td>56</td><td>40</td><td>53</td><td>43</td><td>53</td></tr><tr><td>麻酔</td><td>147</td><td>128</td><td>104</td><td>89</td><td>89</td><td>103</td></tr><tr><td>救済</td><td>▲7</td><td>▲4</td><td>▲5</td><td>▲3</td><td>▲4</td><td>▲1</td></tr><tr><td>貸与計</td><td>190</td><td>160</td><td>139</td><td>138</td><td>133</td><td>145</td></tr><tr><td>採用</td><td>51</td><td>46</td><td>44</td><td>44</td><td>29</td><td>39</td></tr></table> 看護師募集における広報等の実施状況 ・人材広告業者の求人情報ウェブサイト、雑誌への求人情報掲載 ・県民だより求人情報掲載 ・養成校への看護師募集ポスター掲示 看護学生向け就職説明会（令和7年度時点）（単位：人） <table><tr><th rowspan="2">業者</th><th>区 分</th><th>来場者数</th><th>訪問者数</th></tr><tr><td>ナース専科（静岡）</td><td>－</td><td>88</td></tr><tr><td rowspan="5"></td><td>ナースナビ（浜松）</td><td>236</td><td>55</td></tr><tr><td>マイナビ（静岡）</td><td>85</td><td>19</td></tr><tr><td>（沼津）</td><td>97</td><td>67</td></tr><tr><td>（静岡）夏開催</td><td>204</td><td>209</td></tr><tr><td>静岡県立大学</td><td>－</td><td>87</td></tr><tr><td rowspan="5">養成校</td><td>常葉大学</td><td>－</td><td>116</td></tr><tr><td>聖隷クリストファー大学</td><td>－</td><td>48</td></tr><tr><td>順天堂大学</td><td>－</td><td>－</td></tr><tr><td>静岡市立看護専門学校</td><td>－</td><td>53</td></tr><tr><td>静岡県立看護専門学校</td><td>－</td><td>53</td></tr></table> ※訪問者数は病院間の重複あり ホームページアクセス数 <table><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2 年度</th><th>3 年度</th><th>4 年度</th><th>5 年度※</th><th>6 年度</th></tr><tr><td>アクセス数</td><td>年間</td><td>104,100</td><td>107,956</td><td>96,782</td><td>91,367</td><td>54,104</td></tr></table> ※サイト側で集計方法変更があったため、令和4年度以前と比較ができない（集計は、7月～3月分） 柔軟な採用試験の実施状況（単位：件） <table><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2 年度</th><th>3 年度</th><th>4 年度</th><th>5 年度</th><th>6 年度</th></tr><tr><td>件数</td><td>7</td><td>9</td><td>6</td><td>9</td><td>12</td><td>8</td></tr></table>	区 分	元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	看護師	3	－	1	1	1	3	事務	10	3	8	1	2	－	コメディカル	3	1	5	1	1	－	計	16	4	14	3	4	3	区 分	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	本部	34	36	38	36	34	34	総合	1,317	1,331	1,359	1,380	1,400	1,431	こころ	175	174	176	182	187	184	こども	648	660	650	652	657	632	合計	2,174	2,201	2,223	2,250	2,278	2,281	区 分	元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	広域	50	56	40	53	43	53	麻酔	147	128	104	89	89	103	救済	▲7	▲4	▲5	▲3	▲4	▲1	貸与計	190	160	139	138	133	145	採用	51	46	44	44	29	39	業者	区 分	来場者数	訪問者数	ナース専科（静岡）	－	88		ナースナビ（浜松）	236	55	マイナビ（静岡）	85	19	（沼津）	97	67	（静岡）夏開催	204	209	静岡県立大学	－	87	養成校	常葉大学	－	116	聖隷クリストファー大学	－	48	順天堂大学	－	－	静岡市立看護専門学校	－	53	静岡県立看護専門学校	－	53	区 分	元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度※	6 年度	アクセス数	年間	104,100	107,956	96,782	91,367	54,104	区 分	元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	件数	7	9	6	9	12	8	A	令和6年度については、効果的な職員採用に繋げるため、看護師のアソシエイト職員を採用し、優秀な人材確保を進めた。 また、看護師確保のため、就職説明会への参加や各種広報、修学資金貸与制度、養成校訪問に加えて、病院説明会、3病院見学ツアーなど様々な確保対策を進めた。 今後も職員確保に向けた取組みを継続していく。
区 分	元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度																																																																																																																																																																																											
看護師	3	－	1	1	1	3																																																																																																																																																																																											
事務	10	3	8	1	2	－																																																																																																																																																																																											
コメディカル	3	1	5	1	1	－																																																																																																																																																																																											
計	16	4	14	3	4	3																																																																																																																																																																																											
区 分	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度																																																																																																																																																																																											
本部	34	36	38	36	34	34																																																																																																																																																																																											
総合	1,317	1,331	1,359	1,380	1,400	1,431																																																																																																																																																																																											
こころ	175	174	176	182	187	184																																																																																																																																																																																											
こども	648	660	650	652	657	632																																																																																																																																																																																											
合計	2,174	2,201	2,223	2,250	2,278	2,281																																																																																																																																																																																											
区 分	元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度																																																																																																																																																																																											
広域	50	56	40	53	43	53																																																																																																																																																																																											
麻酔	147	128	104	89	89	103																																																																																																																																																																																											
救済	▲7	▲4	▲5	▲3	▲4	▲1																																																																																																																																																																																											
貸与計	190	160	139	138	133	145																																																																																																																																																																																											
採用	51	46	44	44	29	39																																																																																																																																																																																											
業者	区 分	来場者数	訪問者数																																																																																																																																																																																														
	ナース専科（静岡）	－	88																																																																																																																																																																																														
	ナースナビ（浜松）	236	55																																																																																																																																																																																														
	マイナビ（静岡）	85	19																																																																																																																																																																																														
	（沼津）	97	67																																																																																																																																																																																														
	（静岡）夏開催	204	209																																																																																																																																																																																														
	静岡県立大学	－	87																																																																																																																																																																																														
養成校	常葉大学	－	116																																																																																																																																																																																														
	聖隷クリストファー大学	－	48																																																																																																																																																																																														
	順天堂大学	－	－																																																																																																																																																																																														
	静岡市立看護専門学校	－	53																																																																																																																																																																																														
	静岡県立看護専門学校	－	53																																																																																																																																																																																														
区 分	元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度※	6 年度																																																																																																																																																																																											
アクセス数	年間	104,100	107,956	96,782	91,367	54,104																																																																																																																																																																																											
区 分	元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度																																																																																																																																																																																											
件数	7	9	6	9	12	8																																																																																																																																																																																											
			105	⑧月次決算の集計等により、病院の経営状況の早期把握を図る。 本部（経営）	理事会等における月次決算の報告回数（単位：回） <table><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2 年度</th><th>3 年度</th><th>4 年度</th><th>5 年度</th><th>6 年度</th></tr><tr><td>回数</td><td>6</td><td>10</td><td>10</td><td>10</td><td>8</td><td>6</td></tr></table>	区 分	元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	回数	6	10	10	10	8	6	A	理事会開催の度に月次決算の報告を実施し、病院の経営状況の早期把握及び機構内の情報共有を円滑に行うことができた。																																																																																																																																																																												
区 分	元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度																																																																																																																																																																																											
回数	6	10	10	10	8	6																																																																																																																																																																																											
			106	⑧⑨毎月の理事会や病院幹部会議において、経営状況を報告・分析するとともに、それらの経営状況の職員への周知を図る。 ⑧機構の直近の経営状況を職員（特に病院の幹部職員、県からの新しい派遣職員や新規採用職員）に認識させるため、会議や研修、広報誌等を通じて周知徹底する。 各病院（企画・経営）	理事会や運営会議において、毎月の月次決算により経営状況を分析し、報告を行っている。 また、3病院合同幹部会議において各病院の幹部職員に定期的に報告し、周知を図っている。 職員研修などにおいて、病院経営や効率的な業務運営に関する取組等の科目を設け、意識の醸成を図っている。 院内コミュニケーションシステムや職員報（トライアングル等）を通じて、理事会資料等の経営情報を全職員に向け提供し、意識醸成を図っている。 上記取組みを継続して行い、経営情報の把握や適時適切な措置を講じられる体制整備を図っている。	A	月次決算等により、経営状況の報告・分析を着実に進めている。 また、会議や職員報を通じた経営分析結果の職員への周知、理事長、副理事長自らによる研修等により、職員の経営に対する意識啓発を図っている。																																																																																																																																																																																										
			－	－	－	－	－	－																																																																																																																																																																																									

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績（令6）	令和6年度実績 自己評価																																																																																											
						本評価	説明																																																																																										
	【目標値】 ・業務改善運動推進制度実績件数（総合、こころ、こども、本部）	【目標値】 ・業務改善運動推進制度実績件数（総合、こころ、こども、本部）	107	⑩院内コミュニケーションシステムを活用するなどして、職員が経営・業務改善を常時提案できる体制を整備する。	各病院（企画） 業務改善について、院内コミュニケーションシステム等を利用して、誰もが経営・業務改善を常時提案できる体制の整備に努めた。また、他職員の改善提案を確認できるよう仕組みを整備している。 業務改善運動推進制度実績件数（単位：件） <table><tr><th>区分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th><th>毎年度目標</th></tr><tr><td>総合</td><td>113</td><td>27</td><td>164</td><td>95</td><td>98</td><td>115</td><td>95件以上</td></tr><tr><td>こころ</td><td>32</td><td>4</td><td>53</td><td>36</td><td>37</td><td>35</td><td>35件以上</td></tr><tr><td>こども</td><td>50</td><td>29</td><td>38</td><td>75</td><td>72</td><td>79</td><td>65件以上</td></tr><tr><td>本部</td><td>8</td><td>8</td><td>21</td><td>20</td><td>20</td><td>17</td><td>15件以上</td></tr><tr><td>計</td><td>203</td><td>68</td><td>276</td><td>226</td><td>227</td><td>246</td><td>—</td></tr></table>	区分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	毎年度目標	総合	113	27	164	95	98	115	95件以上	こころ	32	4	53	36	37	35	35件以上	こども	50	29	38	75	72	79	65件以上	本部	8	8	21	20	20	17	15件以上	計	203	68	276	226	227	246	—	A	令和6年度については、各病院・所属で取組を実施しており、優れた取組については、ホームページやマスコミを活用し、他の医療機関に広く周知を図っている。																																										
区分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	毎年度目標																																																																																										
総合	113	27	164	95	98	115	95件以上																																																																																										
こころ	32	4	53	36	37	35	35件以上																																																																																										
こども	50	29	38	75	72	79	65件以上																																																																																										
本部	8	8	21	20	20	17	15件以上																																																																																										
計	203	68	276	226	227	246	—																																																																																										
2 事務部門の専門性の向上	2 事務部門の専門性の向上	2 事務部門の専門性の向上	—	—	—		—																																																																																										
事務部門において、病院特有の事務に精通した職員を確保及び育成することにより、専門性の向上を図ること。	経営管理機能を強化するため、引き続き法人固有の事務職員を採用して業務量に応じた柔軟な職員配置に努め、専門性を十分に発揮できるよう体制を整備する。また、急速な経営環境の変化にも迅速に対応できるように病院運営や医療事務等に精通した人材の確保にも努める。	①階層や職務に応じた効果的な研修の実施、学会発表等への事務職員の参加など ②異動方針の弾力的運用及び各部署におけるOJT（on-the-job training）をはじめとする人材の育成・研修の推進 ③診療情報管理機能の強化	108	①階層や職務に応じた各種研修を実施する。 ・また、事務職員の機構外研修への積極的な参加を促す。 ②職員の適性等を考慮した弾力的な人事異動を行う。	本部（総務） 事務職員に対する研修状況 <table><tr><th>受講時期</th><th>研修名</th><th>開催状況</th></tr><tr><td>新採年度</td><td>新規採用職員研修</td><td>5月・6月 2日間</td></tr><tr><td>係長級昇任時</td><td>新規役付職員研修</td><td>5月 3時間</td></tr><tr><td></td><td>新任監督者研修</td><td>5月 1日間</td></tr><tr><td>管理者</td><td>労務管理者研修</td><td>5月 1.5時間</td></tr><tr><td></td><td>コーチング講座</td><td>12月 1日間</td></tr><tr><td rowspan="7">希望により任意参加</td><td>コミュニケーション・ティーチング講座</td><td>9月 1日間</td></tr><tr><td>ファシリテーション講座</td><td>9月 1日間</td></tr><tr><td>メンタルサポート講座</td><td>11月 4時間</td></tr><tr><td>接遇・クレーム応対講座</td><td>8月 4時間</td></tr><tr><td>事務職員基礎研修</td><td>4月 0.5時間</td></tr><tr><td>内部統制講座（会計実務編）</td><td>4月 2時間</td></tr><tr><td>内部統制講座（簿記・財務諸表編）</td><td>10月 3時間</td></tr><tr><td></td><td>医療保険制度・診療報酬基礎講座</td><td>8月 3時間</td></tr></table>	受講時期	研修名	開催状況	新採年度	新規採用職員研修	5月・6月 2日間	係長級昇任時	新規役付職員研修	5月 3時間		新任監督者研修	5月 1日間	管理者	労務管理者研修	5月 1.5時間		コーチング講座	12月 1日間	希望により任意参加	コミュニケーション・ティーチング講座	9月 1日間	ファシリテーション講座	9月 1日間	メンタルサポート講座	11月 4時間	接遇・クレーム応対講座	8月 4時間	事務職員基礎研修	4月 0.5時間	内部統制講座（会計実務編）	4月 2時間	内部統制講座（簿記・財務諸表編）	10月 3時間		医療保険制度・診療報酬基礎講座	8月 3時間	A	階層別、業務に必要なスキルを身につける専門研修を実施している。																																																						
受講時期	研修名	開催状況																																																																																															
新採年度	新規採用職員研修	5月・6月 2日間																																																																																															
係長級昇任時	新規役付職員研修	5月 3時間																																																																																															
	新任監督者研修	5月 1日間																																																																																															
管理者	労務管理者研修	5月 1.5時間																																																																																															
	コーチング講座	12月 1日間																																																																																															
希望により任意参加	コミュニケーション・ティーチング講座	9月 1日間																																																																																															
	ファシリテーション講座	9月 1日間																																																																																															
	メンタルサポート講座	11月 4時間																																																																																															
	接遇・クレーム応対講座	8月 4時間																																																																																															
	事務職員基礎研修	4月 0.5時間																																																																																															
	内部統制講座（会計実務編）	4月 2時間																																																																																															
	内部統制講座（簿記・財務諸表編）	10月 3時間																																																																																															
	医療保険制度・診療報酬基礎講座	8月 3時間																																																																																															
			109	③診療情報管理業務に専門的に携わることができる知識・技能を有する職員を育成する。	本部・各病院（総務） 診療情報管理士資格取得状況（単位：人） <table><tr><th rowspan="2">区分</th><th colspan="2">元年度</th><th colspan="2">2年度</th><th colspan="2">3年度</th><th colspan="2">4年度</th><th colspan="2">5年度</th><th colspan="2">6年度</th></tr><tr><th>資格取得者</th><th>専門課程修了者</th><th>資格取得者</th><th>専門課程修了者</th><th>資格取得者</th><th>専門課程修了者</th><th>資格取得者</th><th>専門課程修了者</th><th>資格取得者</th><th>専門課程修了者</th><th>資格取得者</th><th>専門課程修了者</th></tr><tr><td>総合</td><td>7</td><td>9</td><td>9</td><td>9</td><td>9</td><td>9</td><td>9</td><td>9</td><td>7</td><td>7</td><td>7</td><td>7</td></tr><tr><td>こころ</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><td>こども</td><td>3</td><td>3</td><td>5</td><td>5</td><td>5</td><td>5</td><td>5</td><td>5</td><td>7</td><td>7</td><td>6</td><td>6</td></tr><tr><td>本部</td><td>1</td><td>0</td><td>1</td><td>1</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td></tr><tr><td>計</td><td>13</td><td>14</td><td>17</td><td>17</td><td>17</td><td>17</td><td>17</td><td>17</td><td>17</td><td>17</td><td>16</td><td>16</td></tr></table> ※ 専門課程修了者：資格試験受験資格を有する者	区分	元年度		2年度		3年度		4年度		5年度		6年度		資格取得者	専門課程修了者	資格取得者	専門課程修了者	資格取得者	専門課程修了者	資格取得者	専門課程修了者	資格取得者	専門課程修了者	資格取得者	専門課程修了者	総合	7	9	9	9	9	9	9	9	7	7	7	7	こころ	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	こども	3	3	5	5	5	5	5	5	7	7	6	6	本部	1	0	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	計	13	14	17	17	17	17	17	17	17	17	16	16	A	令和6年度については、診療情報管理機能の強化をするため、引き続き診療情報管理士資格の取得支援制度を活用するなど、必要な資格者を育成するとともに、適切な人員配置を行った。
区分	元年度		2年度		3年度		4年度		5年度		6年度																																																																																						
	資格取得者	専門課程修了者	資格取得者	専門課程修了者	資格取得者	専門課程修了者	資格取得者	専門課程修了者	資格取得者	専門課程修了者	資格取得者	専門課程修了者																																																																																					
総合	7	9	9	9	9	9	9	9	7	7	7	7																																																																																					
こころ	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1																																																																																					
こども	3	3	5	5	5	5	5	5	7	7	6	6																																																																																					
本部	1	0	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2																																																																																					
計	13	14	17	17	17	17	17	17	17	17	16	16																																																																																					
3 収益の確保と費用の節減	3 収益の確保と費用の節減	3 収益の確保と費用の節減	—	—	—		—																																																																																										
新たな診療報酬の取得可能性やDPCの係数向上等について積極的に検討を行うほか、診療報酬制度の改定に迅速に対応し、収益の確保を図ること。また、診療報酬請求漏れの防止や未収金の発生防止及び早期回収に努めること。 費用面においては、診療材料・医薬品等の適切な管理によるコスト削減に努めるほか、経営状況の分析を随時行い、費用対効果の改善に向けた進捗管理に取り組むこと。	診療報酬制度の改定に迅速に対応し、収益の確保を図る。また、様々な診療報酬の取得可能性やDPCの係数向上等について積極的な検討を行うほか、診療報酬請求漏れの防止、未収金の発生防止や早期回収に努める。 費用面においては、診療材料・医薬品等の適切な管理によるコスト削減に努めるほか、経営状況の分析を随時行い、費用対効果の改善に向けた進捗管理に取り組む。	①平均在院日数の短縮に向けた取り組み ②医薬品、診療材料の適正かつ計画的な購入 ③診療報酬など収入の適正な確保 ④業務の質を担保しつつ、多様な契約手法の活用や事務の効率化などによるコスト削減 ⑤未収金対策の実施	110	①平均在院日数の短縮に向け、DPC入院期間Ⅱ以内での退院を促進する。 【こころ】①長期入院患者の退院促進に取り組む。	各病院（医事） DPC入院期間Ⅱ以内の退院割合（単位：％） <table><tr><th>区分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th></tr><tr><td>総合</td><td>68.8</td><td>68.9</td><td>71.8</td><td>68.8</td><td>68.2</td><td>67.6</td></tr><tr><td>こども</td><td>67.8</td><td>67.6</td><td>68.1</td><td>74.2</td><td>70.5</td><td>71.9</td></tr></table> 長期入院患者率（単位：％） <table><tr><th>区分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th></tr><tr><td>こころ</td><td>37.5</td><td>43.1</td><td>44.0</td><td>42.0</td><td>41.7</td><td>36.1</td></tr></table>	区分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	総合	68.8	68.9	71.8	68.8	68.2	67.6	こども	67.8	67.6	68.1	74.2	70.5	71.9	区分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	こころ	37.5	43.1	44.0	42.0	41.7	36.1	A	（総合） DPC入院期間Ⅱ以内の退院割合を高めるため、定例医局会で月次報告を行い、入院期間Ⅱ以内の退院について協力を求めるとともに、クリニカルパス見直し等の取組を行っている。 （こころ） 患者の早期入院・早期退院に努めており、長期入院患者率が前年度を下回った。 （こども） DPC部会を開催し、状況確認や課題の解決について取り組んでいる。																																																							
区分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																											
総合	68.8	68.9	71.8	68.8	68.2	67.6																																																																																											
こども	67.8	67.6	68.1	74.2	70.5	71.9																																																																																											
区分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																											
こころ	37.5	43.1	44.0	42.0	41.7	36.1																																																																																											
			111	②診療材料、薬品の廃棄状況を要因別・部門別に明らかにし、破棄・破損について、削減のための対策を講じる。	各病院 破棄・破損額（単位：千円） <table><tr><th colspan="3">令和5年度</th><th colspan="3">令和6年度</th></tr><tr><th>区分</th><th>診療材料費</th><th>薬品費</th><th>合計</th><th>診療材料費</th><th>薬品費</th><th>合計</th></tr><tr><td>総合</td><td>5,446</td><td>1,945</td><td>7,391</td><td>5,621</td><td>2,925</td><td>8,546</td></tr><tr><td>こころ</td><td>321</td><td>119</td><td>440</td><td>115</td><td>130</td><td>245</td></tr><tr><td>こども</td><td>2,930</td><td>3,290</td><td>6,220</td><td>2,467</td><td>3,818</td><td>6,285</td></tr><tr><td>合計</td><td>8,697</td><td>5,354</td><td>14,051</td><td>8,203</td><td>6,873</td><td>15,076</td></tr></table>	令和5年度			令和6年度			区分	診療材料費	薬品費	合計	診療材料費	薬品費	合計	総合	5,446	1,945	7,391	5,621	2,925	8,546	こころ	321	119	440	115	130	245	こども	2,930	3,290	6,220	2,467	3,818	6,285	合計	8,697	5,354	14,051	8,203	6,873	15,076	A	（総合） 破棄・破損については、部署、原因、金額等の記録を徹底し、特に高額なものはインシデントレポートの提出を義務化している。また、委員会や診療科代表者会議において事象報告を行い、対応策を議論することにより、破棄・破損の削減に努めている。しかしながら、高額な診療材料や薬剤の破棄・破損があり前年同期に比べ1,155千円増加している。 （こころ） 薬品類については、前年度までの取組に引き続き、破棄・破損額の抑制のため、3病院間での薬品の譲受譲渡を推進し、不動在庫の軽減に繋げた。 診療材料については、病棟内における在庫の適正化をすすめ、病棟内の在庫を減らし必要時に度発注することとして、前年度までの取組を継続して、期限切れによる廃棄の削減に努めた。 （こども） 各部署と金額等の情報共有を徹底するとともに、委員会等で破棄・破損額の情報共有、適切な在庫管理の周知を行い、破棄・破損の削減に努めている。																																																	
令和5年度			令和6年度																																																																																														
区分	診療材料費	薬品費	合計	診療材料費	薬品費	合計																																																																																											
総合	5,446	1,945	7,391	5,621	2,925	8,546																																																																																											
こころ	321	119	440	115	130	245																																																																																											
こども	2,930	3,290	6,220	2,467	3,818	6,285																																																																																											
合計	8,697	5,354	14,051	8,203	6,873	15,076																																																																																											

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績（令6）	令和6年度実績 自己評価	
						本評価	説明
			112	③積極的に施設基準を取得する。 ・診療報酬の適正請求にかかる研修会等を実施する。	（総合） 6月の診療報酬改定により施設基準の要件が変更となり、超急性期脳卒中加算、感染対策向上加算1、入院退院支援加算、外来腫瘍化学療法診療料1、経皮的冠動脈形成術（特殊カテーテルによるもの）の再度の届出を行った。また、新設された項目について、人員要件、実績要件、施設要件、他施設との連携など調整を行い、診療録管理体制加算1、歯科外来診療医療安全対策加算2、歯科外来診療感染対策加算4、慢性腎臓病透析予防指導管理料、外来腫瘍化学療法診療料の注9に規定するがん薬物療法体制充実加算、ウイルス・細菌核酸多項目同時検出（髄液）、経頭静脈的肝生検、ボジトロン断層撮影（アミロイドPETイメージング剤を用いた場合に限る。）、ボジトロン断層・コンピュータ断層複合撮影（アミロイドPETイメージング剤を用いた場合に限る。）、ストーマ合併症加算、緊急穿頭血腫除去術、乳腺悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法、肺悪性腫瘍及び胸腔内軟部腫瘍ラジオ波焼灼療法、骨盤内悪性腫瘍及び腹腔内軟部腫瘍ラジオ波焼灼療法、腹腔鏡下膵中央切除術、腎悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法、尿道狭窄グラフト再建術、精巣温存手術、女子外性器悪性腫瘍手術センチネルリンパ節生検加算、再製造単回使用医療機器使用加算、手術の通則の19に掲げる手術（遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する乳房切除術に限る。）、外来・在宅ベースアップ評価料（Ⅰ）、歯科外来・在宅ベースアップ評価料（Ⅰ）、入院ベースアップ評価料87の届出を行った。7月から患者の特定健診情報等を診療に活用できる体制等の基準を満たしたため医療DX推進体制整備加算を届出、人員及び機器等の要件を満たしたため画像誘導密封小線源治療加算（密封小線源治療）の届出を行った。9月からメディカルコントロール協議会と協議を行い救急患者連携搬送料の基準を満たしたため届出を行った。診療報酬改定の経過措置項目について、10月以降診療報酬の請求が出来るよう急性期一般入院料1等必要な項目の届出も随時行った。また、結核病棟入院基本料の基準を満たせる月においては10対1から7対1にランクアップ、看護補助者の増員等により基準を満たせる月においては、急性期看護補助体制加算を50対1から25対1にランクアップするなど状況に応じて変更の届出を行い、麻酔管理料1,2の登録医師の入退職に伴う届出、MRI機器の入れ替えに伴いCT撮影及びMRI撮影の変更、がん治療連携計画策定料の連携病院の変更の届出も随時行った。診療報酬改定にて急性期一般入院基本料の点数が改定されたことに伴い180日を超える入院の選定療養費の変更の届出を行った。令和7年1月から急性期充実体制加算（小児・周産期・精神科充実体制加算含む）の届出を行い、さらに人員体制を整備し特定集中治療室管理料（注6重症患者対応体制強化加算）の届出を行った。また、術者として経験を有する医師の配置、手術件数の基準を満たすことから腹腔鏡下肝切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）も届出を行った。令和7年2月から個室使用料について価格改定を行い特別の療養環境の提供について変更の届出を行った。研修の実施については、外部のコンサルタント等に研修会の講師を依頼することで、適切かつ最新の情報で研修会を開催出来ている。またこの研修会を行うことで、臨床研修病院の施設基準の要件も維持することが出来ている。 （こども） ●施設基準の新規取得 ・診療録管理体制加算3 ・データ提出加算1・3 ・ベースアップ評価料関連 各病院 ●施設基準の変更申請 ・感染対策向上加算3→2 （こども） ●施設基準の新規取得 人員要件、診療実績、他施設との連携構築、院内施設整備、運用構築等含めたマニュアルの整備を実施。 ・ベースアップ評価料の申請 ・診療録管理体制加算1 ・保育士2名加算の届出（西3、西6病棟） ・急性期看護補助体制加算・看護補助体制充実加算の届出（西2病棟） ・療養環境加算（西2病棟） ・小児緩和ケア診療加算 ・看護職員夜間配置加算（西2病棟） ・小児補助人工心臓の申請 ・抗菌薬適正使用体制加算 ・児童思春期支援指導加算 ・ウイルス・細菌核酸多項目同時検出（髄液） ●施設基準の変更申請 診療実績、人員要件を都度確認し、診療実態に合わせて、随時施設基準の変更申請を実施 ・病棟統合の届出（西2、西3病棟） ・MFICU基準取り下げ ・救急搬送看護体制加算1→2へ ・麻酔管理料1、2 ・入院ベースアップ評価料 ●研修会等の実施 ・東海北陸厚生局主催のWEB開催での集団指導に参加 ・令和6年6月の診療報酬改定に向けてWGを開催し、改定内容の説明及び新規取得項目の検討を実施。 ・令和7年1月の共同指導に向けて院内研修会を実施	S	各病院において、施設基準の新規及び変更の届出を積極的に行い、診療単価の向上に寄与している。 また、研修会等を通じて、病院全体として適正請求に関する意識を高めるよう努めている。 総合病院では、年度後半には、「急性期充実体制加算」の算定が可能となるほか、人員を確保し、休床していた6A病棟を31床開床させることで増収につなげるなど施設の機能を高め、経営改善に努めている。

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(令6)	令和6年度実績 自己評価																																																																																																																																		
						本評価	説明																																																																																																																																	
			113	④SPD導入により、薬品・診療材料の期限切れ、病棟の在庫額減少に努める。	総合 <table><tr><td colspan="7">薬品、診療材料期限切れ廃棄額 (単位: 千円)</td></tr><tr><td>区 分</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>6年度</td></tr><tr><td>薬品</td><td>2,279</td><td>2,553</td><td>2,638</td><td>2,031</td><td>3,526</td><td>2,968</td></tr><tr><td>診療材料</td><td>973</td><td>627</td><td>1,631</td><td>979</td><td>668</td><td>1,790</td></tr></table> <table><tr><td colspan="7">薬品・診療材料在庫額 (単位: 千円)</td></tr><tr><td>区分</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>6年度</td></tr><tr><td>薬品</td><td>136,694</td><td>153,688</td><td>160,916</td><td>168,436</td><td>188,840</td><td>253,519</td></tr><tr><td>診療材料</td><td>221,511</td><td>227,708</td><td>239,545</td><td>251,101</td><td>263,420</td><td>275,672</td></tr></table>	薬品、診療材料期限切れ廃棄額 (単位: 千円)							区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	薬品	2,279	2,553	2,638	2,031	3,526	2,968	診療材料	973	627	1,631	979	668	1,790	薬品・診療材料在庫額 (単位: 千円)							区分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	薬品	136,694	153,688	160,916	168,436	188,840	253,519	診療材料	221,511	227,708	239,545	251,101	263,420	275,672	A	薬品及び診療材料については、使用期限を確認し、期限切迫品の表示や使用頻度の高い部署へ移管を行うことにより、ロスを防ぐなどSPD業務の改善を図っている。しかしながら、稀な症例に使用する物品(ただし緊急時になければ困るもの)が期限切れになっており、今後も管理方法について検討を行っていく。 薬品は、SPDによる在庫管理に加え、3病院間における移管や担当職員の関与により、期限切れ廃棄額の削減と在庫減少に努めている。 診療材料は、手術室において期限切迫品カートを設置し、使用を促している。医療の高度化により高額材料が増加したが、ビッキングリストの見直し提案等、在庫の削減に努めている。 また、原材料価格の上昇による値上げ物品の増加に伴い在庫額が増えている。																																																																									
			薬品、診療材料期限切れ廃棄額 (単位: 千円)																																																																																																																																					
			区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																																																															
薬品	2,279	2,553	2,638	2,031	3,526	2,968																																																																																																																																		
診療材料	973	627	1,631	979	668	1,790																																																																																																																																		
薬品・診療材料在庫額 (単位: 千円)																																																																																																																																								
区分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																																																																		
薬品	136,694	153,688	160,916	168,436	188,840	253,519																																																																																																																																		
診療材料	221,511	227,708	239,545	251,101	263,420	275,672																																																																																																																																		
114	④材料費等の節減のための対策を実施する。	各病院(企画) <table><tr><td colspan="7">薬品 後発品採用率 (6年度3月末) (単位: %)</td></tr><tr><td>区 分</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>6年度</td></tr><tr><td>総合</td><td>27.3</td><td>27.1</td><td>28.0</td><td>29.5</td><td>29.7</td><td>30.9</td></tr><tr><td>こころ</td><td>36.9</td><td>38.7</td><td>40.0</td><td>41.2</td><td>37.8</td><td>39.8</td></tr><tr><td>こども</td><td>22.4</td><td>22.1</td><td>25.5</td><td>22.8</td><td>20.0</td><td>19.9</td></tr></table> <table><tr><td colspan="7">診療材料コスト縮減実績 (単位: 千円)</td></tr><tr><td>区 分</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>6年度</td></tr><tr><td>総合</td><td>82,971</td><td>71,680</td><td>132,620</td><td>81,872</td><td>116,931</td><td>120,978</td></tr><tr><td>こころ</td><td>13</td><td>3</td><td>105</td><td>99</td><td>38</td><td>32</td></tr><tr><td>こども</td><td>16,734</td><td>12,229</td><td>22,956</td><td>24,366</td><td>21,529</td><td>29,226</td></tr><tr><td>合計</td><td>99,718</td><td>83,912</td><td>155,681</td><td>106,337</td><td>138,498</td><td>150,236</td></tr></table> <table><tr><td colspan="8">令和6年度 新規導入・廃止した診療材料・薬品 品目数の実績 (単位: 件)</td></tr><tr><td rowspan="2">区 分</td><td colspan="4">診療材料品目数</td><td colspan="3">薬品品目数</td></tr><tr><td>6年度当初契約数(a)</td><td>新規採用数(b)</td><td>廃止数(c)</td><td>契約数(a+b-c)</td><td>6年度当初契約数(a)</td><td>新規採用数(b)</td><td>廃止数(c)</td></tr><tr><td>総合</td><td>17,665</td><td>843</td><td>449</td><td>18,059</td><td>2,982</td><td>62</td><td>32</td></tr><tr><td>こころ</td><td>397</td><td>7</td><td>24</td><td>380</td><td>640</td><td>64</td><td>76</td></tr><tr><td>こども</td><td>3,530</td><td>46</td><td>6</td><td>3,570</td><td>1,359</td><td>90</td><td>54</td></tr><tr><td>合計</td><td>21,592</td><td>896</td><td>479</td><td>22,009</td><td>4,981</td><td>216</td><td>162</td></tr></table>	薬品 後発品採用率 (6年度3月末) (単位: %)							区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	総合	27.3	27.1	28.0	29.5	29.7	30.9	こころ	36.9	38.7	40.0	41.2	37.8	39.8	こども	22.4	22.1	25.5	22.8	20.0	19.9	診療材料コスト縮減実績 (単位: 千円)							区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	総合	82,971	71,680	132,620	81,872	116,931	120,978	こころ	13	3	105	99	38	32	こども	16,734	12,229	22,956	24,366	21,529	29,226	合計	99,718	83,912	155,681	106,337	138,498	150,236	令和6年度 新規導入・廃止した診療材料・薬品 品目数の実績 (単位: 件)								区 分	診療材料品目数				薬品品目数			6年度当初契約数(a)	新規採用数(b)	廃止数(c)	契約数(a+b-c)	6年度当初契約数(a)	新規採用数(b)	廃止数(c)	総合	17,665	843	449	18,059	2,982	62	32	こころ	397	7	24	380	640	64	76	こども	3,530	46	6	3,570	1,359	90	54	合計	21,592	896	479	22,009	4,981	216	162	A	診療材料は共同購入の取組を継続しており、一層の価格削減を進めているほか、令和4年度以降、燃料費の高騰を受け、電気料金が上昇していることから、3病院に空調・照明をはじめとした節電対策への呼びかけを行い、電気使用量について継続的に情報共有を図るなど、経費の削減に努めている。 (総合) 診療材料の値上げ物品の増加に伴いなかなか価格交渉ができない中、共同購入では、切替活動を積極的に行った。その結果、過去最高の還元額となった。 また、後発医薬品への切り替えについては、昨年同期と比較すると、1.2%微増している。 (こころ) 診療材料、薬品とも適正な在庫管理とコスト縮減に努めている。 (こども) 後発医薬品への切り替えに当たっては、小児病院の特性から、先発品との同等性を十分に確認することが必要であるため、安全性・使用性・生物学的同等性の視点を重視し、他の小児専門病院の採用状況を参考にしながら切替え候補品目を選定している。
薬品 後発品採用率 (6年度3月末) (単位: %)																																																																																																																																								
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																																																																		
総合	27.3	27.1	28.0	29.5	29.7	30.9																																																																																																																																		
こころ	36.9	38.7	40.0	41.2	37.8	39.8																																																																																																																																		
こども	22.4	22.1	25.5	22.8	20.0	19.9																																																																																																																																		
診療材料コスト縮減実績 (単位: 千円)																																																																																																																																								
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																																																																		
総合	82,971	71,680	132,620	81,872	116,931	120,978																																																																																																																																		
こころ	13	3	105	99	38	32																																																																																																																																		
こども	16,734	12,229	22,956	24,366	21,529	29,226																																																																																																																																		
合計	99,718	83,912	155,681	106,337	138,498	150,236																																																																																																																																		
令和6年度 新規導入・廃止した診療材料・薬品 品目数の実績 (単位: 件)																																																																																																																																								
区 分	診療材料品目数				薬品品目数																																																																																																																																			
	6年度当初契約数(a)	新規採用数(b)	廃止数(c)	契約数(a+b-c)	6年度当初契約数(a)	新規採用数(b)	廃止数(c)																																																																																																																																	
総合	17,665	843	449	18,059	2,982	62	32																																																																																																																																	
こころ	397	7	24	380	640	64	76																																																																																																																																	
こども	3,530	46	6	3,570	1,359	90	54																																																																																																																																	
合計	21,592	896	479	22,009	4,981	216	162																																																																																																																																	
115	④効率的な医療機器購入及び管理のための対策を実施する。	各病院(企画) 各病院において、徹底した価格交渉や価格調査を行い、入札・見積合わせ等により競争性を確保することなどにより、効率的な購入及び管理に努めている。 価格交渉では事務と連携して医師等自らも業者と交渉するほか、スケールメリットを生かした複数台購入も行っている。 価格調査では、他病院実績の調査や関係団体への照会、ベンチマーク調査により目安となる金額の把握を徹底し、適正な金額設計に生かしている。 医療機器保守委託では、3病院一括の契約を結ぶなど、機器に応じた契約や不要になった保守機器の随時の見直しを行いコスト低減を図っている。	A	3病院一括での契約については、保守の必要性が低下した機器につき、随時必要性の見直しを行い変更契約している。引き続き各病院と連携し、コスト低減を図っていく。																																																																																																																																				
116	④複数年契約や集約化等による契約方法の見直しを継続的に実施する。	各病院(企画) 委託費の節減を図るため、契約更新時に引き続き一括化・複数年化を行うか適するか検討している。 コスト削減による業務水準の低下を防ぐため、一部の委託については、定期的にモニタリング(委託業者の業務を評価)を行い、質の維持・向上を図っている。 <table><tr><td colspan="6">6年度 委託契約等の見直し状況 (単年度ベース・令和6年度)</td></tr><tr><td>業務名(連携)</td><td>連携</td><td>年数</td><td>期間</td><td>種類</td><td>令和6決算額</td></tr><tr><td>感染性産業廃棄物処理業務委託</td><td>3病院</td><td>3年</td><td>令5.4～令8.3</td><td>単価</td><td>64,241</td></tr><tr><td>寝具類貸貸借</td><td>3病院</td><td>3年</td><td>令5.4～令8.3</td><td>単価</td><td>109,128</td></tr><tr><td>消防設備点検業務委託</td><td>3病院</td><td>3年</td><td>令5.4～令8.3</td><td>定額</td><td>10,647</td></tr><tr><td>庭園管理業務委託</td><td>心・子</td><td>3年</td><td>令5.4～令8.3</td><td>定額</td><td>9,863</td></tr><tr><td>医療機器等保守点検業務委託</td><td>3病院</td><td>1年</td><td>令6.4～令7.3</td><td>定額</td><td>307,565</td></tr><tr><td>放射線機器保守管理等業務委託</td><td>3病院</td><td>1年</td><td>令6.4～令7.3</td><td>定額</td><td>339,580</td></tr><tr><td>シーメンス社製医療機器保守業務委託</td><td>総・子</td><td>1年</td><td>令6.4～令7.3</td><td>定額</td><td>95,710</td></tr><tr><td>建築基準法の定期報告業務委託</td><td>3病院</td><td>1年</td><td>令6.6～令7.3</td><td>定額</td><td>47,916</td></tr><tr><td colspan="5">合 計</td><td>984,650</td></tr></table> <table><tr><td colspan="5">6年度 委託モニタリング評価結果 (令和6年度)</td></tr><tr><td>区 分</td><td>第1期</td><td>第2期</td><td>第3期</td><td></td></tr><tr><td>給食</td><td>可</td><td>可</td><td>可</td><td></td></tr><tr><td>区 分</td><td>第1四半期</td><td>第2四半期</td><td>第3四半期</td><td>第4四半期</td></tr><tr><td>清掃</td><td>可</td><td>可</td><td>可</td><td>可</td></tr><tr><td>警備(心・子)</td><td>可</td><td>可</td><td>可</td><td>可</td></tr><tr><td>医事(総・心)</td><td>可</td><td>可</td><td>可</td><td>可</td></tr></table> ※業務に関するアンケートや業務提案の有無などにより業務内容进行评估。 ※○％: 業務実績が不良だったため、契約に基づき委託料を一部減額したものと	6年度 委託契約等の見直し状況 (単年度ベース・令和6年度)						業務名(連携)	連携	年数	期間	種類	令和6決算額	感染性産業廃棄物処理業務委託	3病院	3年	令5.4～令8.3	単価	64,241	寝具類貸貸借	3病院	3年	令5.4～令8.3	単価	109,128	消防設備点検業務委託	3病院	3年	令5.4～令8.3	定額	10,647	庭園管理業務委託	心・子	3年	令5.4～令8.3	定額	9,863	医療機器等保守点検業務委託	3病院	1年	令6.4～令7.3	定額	307,565	放射線機器保守管理等業務委託	3病院	1年	令6.4～令7.3	定額	339,580	シーメンス社製医療機器保守業務委託	総・子	1年	令6.4～令7.3	定額	95,710	建築基準法の定期報告業務委託	3病院	1年	令6.6～令7.3	定額	47,916	合 計					984,650	6年度 委託モニタリング評価結果 (令和6年度)					区 分	第1期	第2期	第3期		給食	可	可	可		区 分	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	清掃	可	可	可	可	警備(心・子)	可	可	可	可	医事(総・心)	可	可	可	可	A	複数病院で集約化した委託費等の契約は20件、うち複数年化を行ったものは、16件に上っており、一括化・複数年化による費用削減及び事務の簡素化につながっている。 医事や警備を始めとした一部の委託については、定期的にモニタリング(委託業者の業務を評価)を行い、質の維持・向上が図られている。																															
6年度 委託契約等の見直し状況 (単年度ベース・令和6年度)																																																																																																																																								
業務名(連携)	連携	年数	期間	種類	令和6決算額																																																																																																																																			
感染性産業廃棄物処理業務委託	3病院	3年	令5.4～令8.3	単価	64,241																																																																																																																																			
寝具類貸貸借	3病院	3年	令5.4～令8.3	単価	109,128																																																																																																																																			
消防設備点検業務委託	3病院	3年	令5.4～令8.3	定額	10,647																																																																																																																																			
庭園管理業務委託	心・子	3年	令5.4～令8.3	定額	9,863																																																																																																																																			
医療機器等保守点検業務委託	3病院	1年	令6.4～令7.3	定額	307,565																																																																																																																																			
放射線機器保守管理等業務委託	3病院	1年	令6.4～令7.3	定額	339,580																																																																																																																																			
シーメンス社製医療機器保守業務委託	総・子	1年	令6.4～令7.3	定額	95,710																																																																																																																																			
建築基準法の定期報告業務委託	3病院	1年	令6.6～令7.3	定額	47,916																																																																																																																																			
合 計					984,650																																																																																																																																			
6年度 委託モニタリング評価結果 (令和6年度)																																																																																																																																								
区 分	第1期	第2期	第3期																																																																																																																																					
給食	可	可	可																																																																																																																																					
区 分	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期																																																																																																																																				
清掃	可	可	可	可																																																																																																																																				
警備(心・子)	可	可	可	可																																																																																																																																				
医事(総・心)	可	可	可	可																																																																																																																																				

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(令6)	令和6年度実績 自己評価																																																																																	
						本評価	説明																																																																																
			117	⑤弁護士事務所への未収金回収業務委託を活用し、未収金の縮減、効率的な回収を実施する。 ⑤未収金に関する研修や、弁護士事務所への相談等により、事務担当者のレベルアップを図る。	平成24年度から弁護士法人へ委託先を変更。 未収金回収実績（弁護士事務所委託分） 単位：百万円 <table><tr><th>年度</th><th>新規 委任金額</th><th>回収額</th><th>累計回収率</th></tr><tr><td>元年度</td><td>26</td><td>20</td><td>76.9%</td></tr><tr><td>2年度</td><td>30</td><td>16</td><td>64.3%</td></tr><tr><td>3年度</td><td>24</td><td>12</td><td>60.0%</td></tr><tr><td>4年度</td><td>32</td><td>17</td><td>58.0%</td></tr><tr><td>5年度</td><td>24</td><td>13</td><td>57.4%</td></tr><tr><td>6年度</td><td>65</td><td>15</td><td>46.3%</td></tr></table>	年度	新規 委任金額	回収額	累計回収率	元年度	26	20	76.9%	2年度	30	16	64.3%	3年度	24	12	60.0%	4年度	32	17	58.0%	5年度	24	13	57.4%	6年度	65	15	46.3%	A	累計回収率については、令和元年度以降45%を超えており、令和6年末時点で46.3%となった。 平成23年度以前に委託していたサービスの回収率が20.4%であったのに対して、高い回収率を維持している。																																																				
年度	新規 委任金額	回収額	累計回収率																																																																																				
元年度	26	20	76.9%																																																																																				
2年度	30	16	64.3%																																																																																				
3年度	24	12	60.0%																																																																																				
4年度	32	17	58.0%																																																																																				
5年度	24	13	57.4%																																																																																				
6年度	65	15	46.3%																																																																																				
第4 財務内容の改善に関する事項	第4 予算、収支計画及び資金計画	第3 予算、収支計画、資金計画及び収支予算等	—	—	—		—																																																																																
地域の医療提供体制を確保し、良質な医療を提供していくため、業務運営の改善及び効率化を進めるなどして、第4期中期目標期間を累計した損益計算において、経常収支比率を100%以上とし、持続可能な経営に努めること。 業務運営に当たっては、日頃から経営状況を的確に把握するとともに、社会保障制度の見直しや診療報酬制度の改定など、病院経営に大きく関わる環境変化に対しても適切な対応を図ること。これらの取組を通じて、中長期的な病院運営の健全化や経営基盤の強化を図ること。	「第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置」で定めた計画を確実に実施することにより、業務運営の改善及び効率化を進めるなどして、第4期中期目標期間を累計した損益計算において、経常収支比率を100%以上とすることを目指す。 業務運営に当たっては、日頃から経営状況を的確に把握し、社会保障制度の見直しや診療報酬制度の改定など、病院経営に大きく関わる環境変化に対しても適切な対応を図り、経営情報を職員が共有するなど、職員全員の経営意識の向上に努める。これら取組を通じて、中長期的な病院運営の健全化や経営基盤の強化を図る。		118	新規施設基準取得などによる増収への取組みと業務見直しによる支出節減への取組みを効率的に進めることにより、各病院が各年度における黒字化を目指す。	各病院（経営） 経常収支の状況 （単位：％） <table><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th><th>6目標*</th></tr><tr><td>総 合</td><td>100.6</td><td>100.6</td><td>102.4</td><td>100.9</td><td>98.4</td><td>97.5</td><td>－</td></tr><tr><td>こころ</td><td>103.1</td><td>108.6</td><td>106.8</td><td>103.9</td><td>98.2</td><td>95.9</td><td>－</td></tr><tr><td>こども</td><td>101.4</td><td>102.3</td><td>102.9</td><td>100.6</td><td>93.3</td><td>93.7</td><td>－</td></tr><tr><td>機構全体</td><td>100.9</td><td>101.5</td><td>102.7</td><td>101.0</td><td>97.1</td><td>96.5</td><td>100.0</td></tr></table> 目標：第4期目標期間を累計した損益計算において経常収支100%以上 修正医業収支の状況 （単位：％） <table><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th><th>6目標*</th></tr><tr><td>総 合</td><td>91.5</td><td>87.9</td><td>91.1</td><td>88.0</td><td>88.8</td><td>88.3</td><td>－</td></tr><tr><td>こころ</td><td>64.0</td><td>63.3</td><td>63.3</td><td>62.0</td><td>60.2</td><td>60.1</td><td>－</td></tr><tr><td>こども</td><td>75.6</td><td>70.7</td><td>71.0</td><td>71.4</td><td>68.4</td><td>69.3</td><td>－</td></tr><tr><td>機構全体</td><td>85.9</td><td>82.2</td><td>84.6</td><td>82.5</td><td>82.2</td><td>82.0</td><td>85.0</td></tr></table> 目標：第4期目標期間を累計した損益計算において修正医業収支85%以上	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	6目標*	総 合	100.6	100.6	102.4	100.9	98.4	97.5	－	こころ	103.1	108.6	106.8	103.9	98.2	95.9	－	こども	101.4	102.3	102.9	100.6	93.3	93.7	－	機構全体	100.9	101.5	102.7	101.0	97.1	96.5	100.0	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	6目標*	総 合	91.5	87.9	91.1	88.0	88.8	88.3	－	こころ	64.0	63.3	63.3	62.0	60.2	60.1	－	こども	75.6	70.7	71.0	71.4	68.4	69.3	－	機構全体	85.9	82.2	84.6	82.5	82.2	82.0	85.0	C	第4期中期計画(令和6年度～令和10年度)の初年度となる令和6年度は、令和5年度に引き続き、物価高騰に伴う材料費や経費の増加などの影響により、修正医業収支比率は82.0%、経常収支比率は96.5%、経常損失は19億7,100万円となった。 全国の自治体病院が総じて厳しい状況に置かれている中、病院機構では各病院の医業活動における経営状況を判断する指標として修正医業収支比率を新たに目標に設定した。各病院では様々な経営改善の取組を行い患者数も回復傾向にあるものの、目標とする修正医業収支比率には至っていないことから、一層の経営改善に努めることとする。
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	6目標*																																																																																
総 合	100.6	100.6	102.4	100.9	98.4	97.5	－																																																																																
こころ	103.1	108.6	106.8	103.9	98.2	95.9	－																																																																																
こども	101.4	102.3	102.9	100.6	93.3	93.7	－																																																																																
機構全体	100.9	101.5	102.7	101.0	97.1	96.5	100.0																																																																																
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	6目標*																																																																																
総 合	91.5	87.9	91.1	88.0	88.8	88.3	－																																																																																
こころ	64.0	63.3	63.3	62.0	60.2	60.1	－																																																																																
こども	75.6	70.7	71.0	71.4	68.4	69.3	－																																																																																
機構全体	85.9	82.2	84.6	82.5	82.2	82.0	85.0																																																																																

用語 (50音順)	解 説
A C T	A C Tとは、Assertive Community Treatment(包括型地域生活支援プログラム)の略で、重い精神障害を持つ人たちに対して、住み慣れた地域で支援する、集中型・包括型ケースマネジメントプログラム。
C C U	C C Uとは、Coronary Care Unitの略で、冠疾患集中治療室と呼ばれ、主に心筋梗塞などの冠状動脈疾患の急性危機状態の患者を収容し、専門の医師・看護師により、厳重な監視モニター下で持続的・集中的に管理・治療する部門。
D M A T	D M A Tとは、Disaster Medical Assistance Teamの略で、医師、看護師、業務調整員(医師・看護師以外の医療職及び事務職員)で構成され、大規模災害や多傷病者が発生した事故などの現場に、急性期(おおむね48時間以内)に活動できる機動性を持ち、専門的な訓練を受けた医療チーム(D M A T:ディーマツト)
D P A T	D P A Tとは、disaster psychiatric assistance teamの略で、大規模災害発生後、被災地域に入り、精神科医療及び精神保健活動の支援を行う災害派遣精神医療チーム(D P A T:ディーパツト)
D P C	D P Cとは、Diagnosis Procedure Combinationの略で、診断群分類のこと。これに基づく診断群分類包括評価(しんだんぐんぶんるいほうかつひょうか)により、日本の急性期入院医療費の定額支払制度が平成18年から(試行は平成15年から)運用されている。(総合:H20.7導入、こども:H21.7導入)
E C M O	E C M Oとは、ExtraCorporeal Membrane Oxygenationの略で、最重症の呼吸循環不全に対して用いられる手技で、膜型人工肺を組み込んだ体外循環を用いて呼吸や循環を補助する。
E S C O	E S C Oとは、Energy Service Companyの略で、1970年代アメリカで始まり、1990年代後半に日本に導入された省エネ化を目指す事業で、省エネルギーに関わる一連の業務を一括して請け負うことや、計画した省エネ効果が出なかった場合、省エネ相当分を顧客に補償する義務を負うことなどが特徴。
H C U	H C Uとは、High Care Unitの略で、集中治療室に準ずる機能を持つ高度な治療室。看護配置数は集中治療室の1/2であるが、一般の病棟よりはるかに多いため両者の中間に位置する病室。集中治療室から一般病棟への転室は落差が大き過ぎ、移行が難しいため、一般病棟への移行を円滑に行うために設置される。手術後の患者や集中治療を脱した重症患者の経過観察を受け持つことが多い。
I C U	I C Uとは、Intensive Care Unitの略で、集中治療室と呼ばれ、内科系・外科系を問わず呼吸、循環、代謝そのほかの重篤な急性機能不全の患者を収容し、強力かつ集中的に治療看護を行う部門。
I M R T	I M R Tとは、Intensity Modulated Radiation Therapyの略で、強度変調放射線治療を言い、コンピュータの助けを借りて正常組織への照射線量を抑えつつ、腫瘍部分に放射線を集中して照射することができる放射線治療である。
m-E C T	m-E C Tとは、修正型電気けいれん療法で麻酔科医による全身麻酔の下、筋弛緩剤の投与により体幹のけいれんを起こさせないもので、うつ病、躁うつ病、統合失調症などの治療に用いられており、従来の有けいれん療法に比べ、安全で有効な治療法とされている。
M F I C U	M F I C Uとは、Maternal Fetal Intensive Care Unitの略で、重い妊娠中毒症、前置胎盤、合併症妊娠、切迫早産や胎児異常など、ハイリスク出産の危険度が高い母体・胎児に対応するための設備と医療スタッフを備えた集中治療室

用語（50音順）	解 説
M i t r a C l i p	M i t r a C l i p（マイトラクリップ）とは、手術リスクの高い僧帽弁閉鎖不全症患者に対して行う経カテーテル僧帽弁クリップ術である。2003年にヨーロッパで始まり、欧米を中心に6万人以上の治療実績を有する。日本では2017年10月に認可があり、全国12施設で約300症例に対して治療が行われている。
M S W	M S Wとは、Medical Social Workerの略で、疾病を有する患者が、病気になることで生じる生活上の様々な困難に対して、自立した生活を送ることができるように、社会福祉の立場から、患者の生活全体を支援していく専門家のこと。
N I C U	N I C Uとは、Neonatal Intensive Care Unitの略で、未熟児をはじめとするハイリスク新生児は専門的な医療機関で集中治療・管理する必要があり、このような医療を展開する場所全体を一般的に広義の新生児集中治療室と呼んでいる。
P C I	血管に刺入する管（カテーテルという）を用いて冠動脈疾患に様々な治療を行うことを総称して（経皮的）冠動脈インターベンション（PCI）と呼ぶ。 風船療法（カテーテルの先端の風船（バルーン）で狭窄した冠動脈を拡げる）や経皮的冠動脈ステント留置術（拡げた冠動脈にステントという金属のコイルを内側に張り付けて血管を支え再狭窄を防ぐ）やD C A（カッターで狭窄病変部位を削り取り拡げる治療法）やローターブレードというドリルのような先端を回転させて病変を削り取るなどの治療法がある。
P E T	P E Tとは、Positron Emission Tomography（ポジトロン・エミッション・トモグラフィ）の略で、PET検査とは、陽電子（ポジトロン）を放出する放射性核種（ポジトロン核種）で標識した薬剤を静脈から注射して、細胞の活動状態を画像化する診断技術である。 がん等の診断、治療効果・治療後の経過観察に有用な最先端の検査法で、同様にがんの早期発見にも有用である。
P I C U	P I C Uとは、Pediatric Intensive Care Unitの略で、小児集中治療室と呼ばれ、専属の専門医が配置され独立病棟として24時間小児重症患者を受け入れている。
P S W	P S Wとは、Psychiatric Social Workerの略で、精神保健福祉士と言い、社会福祉学を学問的基盤として、精神障害者の抱える生活問題や社会的問題の解決のための援助や、社会参加に向けての支援活動を通じて、患者を支援していく専門家のこと。
S P D	S P Dとは、Supply Processing Distributionの略で、物品・物流の包括的管理業務のことを指す。物品の発注、検収、入庫、払出、搬送、格納、出庫、在庫確認、棚卸を一元管理すること。
T A V I	T A V I（タビ）とは、Transcatheter Aortic Valve Implantationの略で、「経カテーテル大動脈弁置換術」と言い、重症の大動脈弁狭窄症に対する手術療法である。T A V Iは、胸を開かずに、心臓が動いている状態で、カテーテルを用いて人工弁を患者の心臓に装着する治療法である。
医療観察制度	心神喪失又は心神耗弱の状態で重大な他害行為を行った人を対象として、国の責任による手厚い専門的な医療と、退院後の継続的な医療を確保するための仕組み等によって、その円滑な社会復帰を促進することを目的とした制度であり、こころの医療センターにおいては、平成21年3月24日付で指定入院医療機関指定書（東海北陸厚生局長指定、第0004号）により指定入院医療機関として指定された。
医療ビッグデータ	医療ビッグデータとは、人の健康、病気、治療等に関するビッグデータを言い、レセプトデータ、電子カルテ等に記録された診療データ、特定の疾患に関する臨床データ、薬局における調剤データ、健康診断データ等があげられる。
がんゲノム医療	がんゲノム医療とは、がんの組織を用いて多数の遺伝子を同時に調べ（がん遺伝子パネル検査）、遺伝子変異を明らかにすることにより、一人一人の体質や病状に合わせて治療等を行う医療である。

用語（50音順）	解 説
看護師修学資金制度	当機構への就職を希望する看護学生に対して、資質の向上に資することを目的に修学資金（月5万円）を貸与する制度のこと。なお、当機構に看護師として就職した期間に相当する額の返還が免除される。 また、既に静岡県外の病院等から貸与を受けている同種の修学資金に対して、借り換えをするための資金（返還資金）を貸与するメニューも用意している。
緩和ケア	主に治癒を目的とする治療ではなく、全人的なケアで、痛み、その他の症状コントロール、心理面、社会面、精神面のケアを行うもの。
がんサポート	がんの症例について、手術・化学療法・放射線治療・緩和医療、画像診断、病理診断等、院内のがん診療・診断に携わる医師をはじめ、看護師、薬剤師等関連する専門職が、診療科や職種の垣根を越えて一堂に集まって、さらに連携する地域の医療者（医師会の医師、看護師、薬剤師、訪問看護師、介護関係職等）にも参加してもらい、それぞれの専門的な知識・技能を集約して、がん患者の症状・状態や治療法・治療方針等の情報を共有して意見交換し、最適な治療方針を協議・決定する場のことを言う。
クリニカルパス	クリニカルパスとは、ある病気の治療や検査に対して、標準化された患者様のスケジュールを表にまとめたもので、1つの治療や検査ごとに1つずつ作られている。 クリニカルパスには、病院用、患者様用と2つ準備されており、患者用クリニカルパスには、「入院診療計画書」として、患者が入院してからの食事や処置、検査・治療、そのための準備、退院後の説明等が日ごとに詳しく説明されている。
クロザピン	クロザピンは抗精神病薬で、H21.4月に製造承認され、7月より発売開始となった。クロザピンの使用にあたっては、高い治療効果の反面、重篤な副作用（白血球の減少）が報告されていることから、安全管理体制の整備が義務付けられている。
ゲノムコホート研究	コホート研究とは、ある特定の集団を一定期間にわたり追跡し、生活習慣等の環境因子や遺伝的要因と疾病発症との関係を解析するための研究である。ゲノムコホート研究は、遺伝子型と疾病発症との関係を解析する研究である。
コーディング	疾病や手術、検査などをコード化する仕事。 最近、病院では診療情報を活用するために、あるいはDPCやがん登録などの国の制度の義務付けにより、標準化されたコードへのコーディングとそのシステムへの登録が必要となり、そのためコーディングする人の需要が、増えている。正しいコーディングのためには、コード体系の知識とともに医学知識やカルテを読み解く能力が要求される。 疾病のコーディング：膝の関節炎⇒M13.96（Mは骨・筋肉などを示す。13は関節炎を示す。9は詳細不明を示す。6は膝を示す）
コメディカル	薬剤師・診療放射線技師・臨床検査技師・歯科衛生士・理学療法士・作業療法士などの、医師・看護師以外の医療従事者の総称のこと。
紹介率（紹介割合）・逆紹介率（逆紹介割合）	・紹介率／紹介割合 初診患者のうち、他の医療機関から紹介状により紹介された患者の数が占める割合のことである。 $\text{紹介率} = (\text{初診患者のうち紹介患者数}) \div \text{初診患者数} \times 100$ $\text{紹介割合}(\%) = (\text{紹介患者数} + \text{救急患者数}) \div \text{初診患者数} \times 100$ ・逆紹介率とは、地域医療支援病院の全患者のうちから他の医療機関に紹介した者で、診療情報提供料を算定したもの数（同一人に複数回又は複数紹介先算定の場合あり）と、初診患者の総数との比較のことである。 $\text{逆紹介率} = \text{逆紹介患者数} \div \text{初診患者数} \times 100$ ・逆紹介割合とは、地域医療支援病院の全患者のうちから他の医療機関に紹介した患者の数が占める割合のことである。 $\text{逆紹介率}(\%) = \text{逆紹介患者数} \div (\text{初診患者数} + \text{再診の患者数}) \times 1,000$

用語（50音順）	解 説
初期臨床研修医 後期臨床研修医	免許取得の後に、臨床研修の名で上級医の指導の下に臨床経験を積む卒業後教育が制度化された。病院独自に「前期・後期研修医」の名称を使用することがあるが、研修医（広義、1-5年目程度）＝研修医（狭義、＝前期研修医、1-2年目）＋後期研修医（3-5年目程度）としていることが一般的である。 一般に「研修医」の語を使う場合、「前期研修医」を指す。後期研修医とほぼ同義の語として、専修医、修練医、などがあるが、各々の病院独自のものである。
新専門医制度	新専門医制度とは、平成29年度以降に専門研修を開始する医師を主な対象として開始を予定していた制度で、今まで各学会が独自に定めた基準により認定をしていた専門医資格を、中立的第三者機関である日本専門医機構が統一的に専門研修プログラムの審査・承認を行い、承認を受けたプログラムに基づいて専門研修施設群がカリキュラムの修了を判定。その判定をもとに日本専門医機構が専門医の認定を行うものとされていたものである。 ただし、医師の地域偏在への懸念が解消されなかったことから1年の延期が決定された。（小児科学会（小児科専門医）はH29より先行実施）
心理教育・家族教室	心理教育とは、精神障害やエイズなど受容しにくい問題を持つ人たちに、病気に関する必要な基礎知識を提供するとともに、療養生活を営む自信と地域で暮らしていく力量を身につけ、医療機関で提供される各種リハビリテーションプログラムや、地域の援助プログラムを主体的に利用することを促すことによって、医療機関における治療や援助から、精神障害者を日常的に支える地域リハビリテーションへの連続的な移行を目指して行う支援法のこと。 患者の家族だけを対象に行う支援を家族教室と言う。
心理・社会的治療	精神科における薬物療法と電気けいれん療法以外の心理療法的プログラムの総称で、多職種チーム医療が原則である。 デイケア、作業療法、認知行動療法、心理教育・家族教室、ACTなどの各種治療法を含む。
診療情報管理士	診療情報管理士とは、四病院団体協議会（日本病院会、全日本病院協会、日本医療法人協会、日本精神科病院協会）及び医療研修推進財団が付与する民間資格のこと。 主な業務内容として、診療録の物理的な管理や内容の精査を行う「物の管理」、診療情報をコーディングするなどしてデータベースを構築する「情報の管理」、構築されたデータベースから必要な情報を抽出・加工・分析する「情報の活用」がある。
ステントグラフト内挿術	ステントグラフト内挿術とは、大動脈瘤に対する手術療法で、胸部、腹部を切開することなく足の付け根の血管から人工血管（ステントグラフト）を大動脈瘤内に誘導して蓋をする治療法である。
精神科リエゾンチーム	リエゾンとはフランス語で連携、連絡を意味する言葉である。精神科リエゾンチームとは、身体疾患に伴うさまざまな精神症状を有する患者に対して、身体科及び精神科の医師、看護師、公認心理師、精神保健福祉士等の連携による専門チームが高度な精神科治療を提供するものである。
ダ・ヴィンチ	3D画像を確認しながら、離れた場所からロボットアームを操作して内視鏡下手術を行うもので、皮膚切開を最小限にすることで、患者の負担をできるだけ抑えることが可能（術中の出血量が少ない、術後の疼痛が少ない）。
地域医療支援病院	1997年（平成9年）4月の医療法の第3次改正で制度化された医療機関の機能別区分のひとつ。 目的としては、地域の病院、診療所などを後方支援するという形で医療機関の役割分担と連携を目的に創設された。都道府県知事によって承認される。 （承認要件） ・病院の規模は原則として病床数が200床以上の病院であること。 ・紹介率及び逆紹介率が基準を満たしていること。 ・他の医療機関に対して高額な医療機器や病床を提供し共同利用すること。 ・地域の医療従事者の向上のための生涯教育等の研修を実施していること。 ・救急医療を提供する能力を有すること。

用語（50音順）	解 説
地域医療連携推進法人	地域医療連携推進法人とは、地域において良質かつ適切な医療を効率的に提供するため、病院等に係る業務の連携を推進するための方針（医療連携推進方針）を定め、医療連携推進業務を行う一般社団法人を都道府県知事が認定（医療連携推進認定）する制度である。
地域連携クリニカルパス	病院の医師と診療所の医師、疾患によってはリハビリ施設など地域の医療提供施設が役割分担して連携して患者を診る仕組みの中で、疾患別に、以降の診療予定をスケジュール表の形式で表わしたもの。患者は診療所にいつ受診し、病院にいつ受診し、あるいはリハビリ施設にいつ受診し、どういう治療を受けるのかが分かり、医療施設は患者の診療の進捗管理をし、施設間で情報を共有するために使われる。診療報酬点数表上では、疾患が限られているが、「地域連携計画書」といい、計画管理料や退院時指導料等が算定できる。
チャイルド・ライフ・スペシャリスト（CL S）	医療環境にある子どもや家族に、心理社会的支援を提供する専門職。子どもにとって受け身になりがちな医療の場において、子どもが自分らしく主体的な存在であり続けられるように、遊びや様々な活動を通して、自己表現や感情表出を促したり、医療体験への心の準備を支援したりしている。 県立こども病院では、現在2名の認定CL Sが活動している。
頭部冷却装置（PAXMAN）	がん薬物療法に伴う脱毛抑制を目的とした頭部冷却装置 頭皮冷却を継続的に実施すると頭皮血管が収縮し、毛包への抗がん剤量の到達を減少させることが可能になる
ドクターカー	平成20年4月25日に道路交通法施行令の一部が改正され緊急自動車の指定対象に追加された乗用車型のドクターカー（患者搬送のための特別な構造又は装置を有しない医師派遣用自動車）。静岡市消防局の要請により「ドクターカー」に当院の救命救急センターのスタッフが搭乗し、災害や事故の現場に急行したり、搬送途中の救急車とドッキングして治療を開始する。
認知行動療法	認知行動療法とは、人間の気分や行動が認知のあり方（ものの考え方や受け取り方）の影響を受けることから認知の偏りを修正し、問題解決を手助けすることによって精神疾患を治療することを目的とした精神療法であり、2010年から、一部保険点数化がされた。
認定看護師	認定看護師とは、日本看護協会及び日本精神科看護協会の認定看護師認定審査に合格し、ある特定の看護分野において、熟練した看護技術と知識を有することを認められた者をいい、水準の高い看護実践を通して看護師に対する指導・相談活動を行う者をいう。
ハイブリッド手術室	据置型血管撮影装置（アンギオ）を設置した手術室であり、カテーテル血管内治療と外科的手術の双方に対応が可能。 ・合併症などの緊急時の対応が可能。（カテーテル治療から外科的手術への移行） ・手術のみでは到達困難な部位に対する治療が可能。 ・カテーテルのみでは治療できない緊急時の病変に対しても外科的手術を同時に行うことで対応が可能。 ・鮮明な透視画像により治療精度が向上
バンコマイシン耐性腸球菌（VRE）	バンコマイシンに対する薬剤耐性を獲得した腸球菌（VRE）
ホスピタル・プレイ・スペシャリスト（HP S）	遊び（ホスピタル・プレイ）を用いて、医学的治療を受ける子どもや障害を持つ子どもを支援する専門職。その子ども達にとって必要不可欠な遊び、医学と関わる経験を肯定的なものとして受け止められるよう、子どもの人格を守り、安心感や信頼感を作り出す遊びなどであるホスピタル・プレイを提供する。 県立こども病院では、現在8名（保育士4名、看護師4名）が養成講座を受講し、HP Sとして活動している。

用語（50音順）	解 説
リニアック	リニアックとは、日本語では「直線加速器」といわれるもので、荷電粒子を一直線上で加速させて発生した放射線を当てることで、がんなどの治療をする機器です。 多方向からピンポイントで放射線を当てることにより、正常組織への放射線の照射量を低減し、腫瘍部分の放射線量が高くなり細胞を死滅させる治療方法。
レスパイト	レスパイト(レスパイトケア)とは、患者や要介護者等を在宅で日常的にケアしている家族を、他の者がケアを代替することで一時的にケアから解放させ、休息させる家族介護者支援のこと。
レジデント	初期臨床研修医はジュニアレジデント、初期レジデント、スーパーローテーターなどと呼ばれ、それ以降に専門科での研修を行うものを単にレジデントと呼んだり、後期研修医、後期レジデント、シニアレジデント、専攻医などと呼ばれている。